

リアホナ

総大会特集号





複写は禁じられています。

「ヤイロの娘の蘇生」 ジェフリー・ハイン画

救い主はヤイロの娘についてこう言われた。『〔彼女〕は死んだのではない。眠っているだけである。』……〔主は〕子供の手を取って、
『タリタ、クミ』と言われた。それは、『少女よ、さあ、起きなさい』という意味である。
すると、少女はすぐに起き上がって、歩き出した。……彼らはたちまち非常な驚きに打たれた。』（マルコ5:39, 41-42）

リアホナ

2 第174回年次総大会大会概要

●土曜午前の部会

- 4 強さを増す教会
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
- 6 高きに満ちたる知恵と愛よ
十二使徒定員会 デビッド・B・ヘイト
- 7 再臨への備え
十二使徒定員会 ダリン・H・オークス
- 11 あなたが改心したときには
七十人会長会 D・トッド・クリストファーソン
- 14 完結した物語
中央初等協会第二副会長
ゲール・M・クレッグ
- 16 主の力を受けて
十二使徒定員会 ヘンリー・B・アイリング
- 20 個人の影響力
第一副管長 トーマス・S・モンソン

●土曜午後の部会

- 24 教会役員への支持
第一副管長 トーマス・S・モンソン
- 25 2003年度教会監査部報告
教会監査部実務運営ディレクター
ウェスリー・L・ジョーンズ
- 26 2003年度統計報告
大管長秘書 F・マイケル・ワトソン
- 27 根と枝
十二使徒定員会 ラッセル・M・ネルソン
- 30 「わたしにつながっていないさい」
十二使徒定員会 ジェフリー・R・ホランド
- 33 主イエスを思うとき
管理監督会第二副監督
キース・B・マクマリン
- 36 キリストの御言葉——
わたしたちの霊のリアホナ
七十人 W・ロルフ・カー
- 38 分かりやすくして簡単な福音の原則を
家庭で応用する
七十人 フランシスコ・J・ビーナス
- 40 この世の負債と天の負債
十二使徒定員会 ジョセフ・B・ワースリン

●神権部会

- 44 「主が……どれほど憐れみをかけて
こられたかを思い起こし」なさい
十二使徒定員会 ニール・A・マックスウェル
- 46 兄弟たちを強めなさい
七十人 マービン・B・アーノルド
- 49 若人の強さのために
七十人会長会 アール・C・ティンギー

- 51 選択
第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト

- 54 勇気が求められる
第一副管長 トーマス・S・モンソン

- 58 「あなたがたは、わたしが空腹のときに
食べさせ……てくれた」
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー

●日曜午前の部会

- 61 正しいメッセージを受け取りましたか
第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト
- 69 父親、永遠の召し
十二使徒定員会 L・トム・ベリー
- 73 たとえそうでなくても……
七十人 デニス・E・シモンズ
- 75 「母の心」
中央若い女性第一副会長
ジュリー・B・ベック

- 77 「恐れてはならない」
十二使徒定員会会長代理
ボイド・K・パッカー

- 81 明るい夜明けだ
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー

●日曜午後の部会

- 84 贖罪しよくびと一人の価値
十二使徒定員会 M・ラッセル・バラード
- 88 「優しい親の情を込めて」
家族への希望のメッセージ
十二使徒定員会 ロバート・D・ヘイルズ
- 92 染みのない状態で主の御前に立つ
七十人 クレート・W・マスク・ジュニア
- 94 結婚と家族——
わたしたちの神聖な責任
七十人 W・ダグラス・シャムウェー
- 97 贖あがない——すべてを受けるために
すべてをささげる
七十人
ブルース・C・ヘーフェン
- 100 邪悪がはびこる世界で
正しい生活を送る方法
十二使徒定員会
リチャード・G・スコット
- 103 結びの言葉
大管長 ゴードン・
B・ヒンクレー

●中央若い女性集会

- 104 万事があなたがたの益となるように
ともに働くであろう
中央若い女性会長 スーザン・W・タナー
- 107 わたしは聖文に喜びを感じる
中央若い女性第一副会長
ジュリー・B・ベック
- 110 信じましょう!
中央若い女性第二副会長
イレイン・S・ダルトン
- 112 気高い道にとどまる
大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
- 64 末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部
- 116 指導者の言葉
- 118 指導用資料
- 122 中央補助組織
会長会
- 123 チャーチ・
ニュース



第174回年次総大会大会概要

2004年4月3日土曜日午前、一般部会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——ジェームズ・E・ファウスト副管長。開会の祈り——ロナルド・A・ラズバンド長老。閉会の祈り——ウェイン・S・ピーターソン長老。音楽——モルモンタバナクル合唱団；指揮——クレグ・ジェソップ、マック・ウィルバーク；オルガニスト——クレア・クリスチャンセン。「Press Forward, Saints」(『賛美歌』[英文]81番)；「地は麗しく」(『賛美歌』50)；「天のお父様の愛」(『子供の歌集』16-17)；「いざ救いの日を楽しまん」(『賛美歌』5番)；「日々によき種と」(『賛美歌』133番)編曲——ウィルバーク，未発行；「恐れず来たれ，聖徒」(『賛美歌』17番)編曲——ウィルバーク，未発行

2004年4月3日土曜日午後、一般部会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——ジェームズ・E・ファウスト副管長。開会の祈り——L・ホイットニー・クレイトン長老。閉会の祈り——スティーブン・E・スノー長老。音楽——ソルトレーク合同ステーク扶助協会聖歌隊；指揮——バンヤ・Y・ワトキンス；オルガニスト——ボニー・グッドリッフェ。「Dearest Children, God Is Near You」(『賛美歌』[英文]96番)編曲——ワトキンス，未発行；「主はわが飼い手」(『賛美歌』63番)編曲——ヨーガソン，未発行；「神のみ業に進みて」(『賛美歌』149番)；「来たれ，主の子女」(『賛美歌』31番)；「信仰もて行け」(『賛美歌』168番)

2004年4月3日土曜日夜、神権部会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——ジェームズ・E・ファウスト副管長。開会の祈り——クリストフェル・ゴールドデン・ジュニア長老。閉会の祈り——クレグ・C・クリステンセン長老。音楽——オレム・ソルトレーク合同インスティテュート神権者聖歌隊；指揮——ダグラス・ブレンチリー，ドン・キートン，ライ

アン・イゲット；オルガニスト——ジョン・ロングハースト，クレア・クリスチャンセン。「たたえよ神を」(『賛美歌』38番)編曲——ビービ，発行——Larice；“Beautiful Savior”(『子供の歌集』[英文]62-63)；「たたえよ，主の召したまいし」(『賛美歌』16番)；「イスラエルの救い主」(『賛美歌』4番)編曲——ウィルバーク，未発行

2004年4月4日土曜日午前、一般部会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——トーマス・S・モンソン副管長。開会の祈り——ウォルター・F・ゴンサレス長老。閉会の祈り——ジェームズ・M・ダン長老。音楽——モルモンタバナクル合唱団；指揮——クレグ・ジェソップ，マック・ウィルバーク；オルガニスト——リチャード・エリオット。「主のみ言葉は」(『賛美歌』46番)；「心に光あり」(『賛美歌』139番)編曲——ウィルバーク，未発行；“How Lovely Are the Messengers”メンデルズゾーン，発行——Jackman；「導きたまえよ」(『賛美歌』41番)；「主は生けりと知る」(『賛美歌』75番)編曲——ウィルバーク，未発行(独唱——リリエル・ドミシアノ)；「信じ進まん」デイリー，発行——Jackman

2004年4月4日土曜日夜、一般部会

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——トーマス・S・モンソン副管長。開会の祈り——ロバート・F・オートン長老。閉会の祈り——ダリル・H・ガーン長老。音楽——モルモンタバナクル合唱団；指揮——クレグ・ジェソップ，マック・ウィルバーク；オルガニスト——リンダ・マーゲッツ，ボニー・グッドリッフェ。「Let Zion in Her Beauty Rise」(『賛美歌』[英文]41番)編曲——ウィルバーク，未発行；「われら天にまた会うとき」(『賛美歌』179番)編曲——ウィルバーク，発行——Deseret Book(フルート奏者——ジャナイン・ゴカリッツ，ティファニー・マクレアリー，ジェニファー・グ

レミリオン，リサ・スミス。ハーブ奏者——タマラ・オズワルド)；「感謝を神に捧げん」(『賛美歌』11番)；「われ主を愛して」(『賛美歌』134番)；「神よ，また逢うまで」(『賛美歌』85番)

2004年3月27日土曜日夜、中央若い女性集會

管理——ゴードン・B・ヒンクレー大管長。司会——スーザン・W・タナー。開会の祈り——セル・フォツ。閉会の祈り——カーリー・ルーニア。音楽——ユタ州サンディ地域の各ステークの若い女性による聖歌隊；指揮——マリ・モンソン；オルガニスト——ボニー・グッドリッフェ。「神の光受け」(『賛美歌』191番)；「子供のいのり」(『子供の歌集』6-7)編曲——ペリー，発行——Jackman；「麗しき朝よ」(『賛美歌』18番)編曲——カーセン，未発行；「シオンの若者，真理を守り」(『賛美歌』163番)編曲——バスタアン，未発行

総大会の収録物の入手

総大会の各部会を収録したテープ類は，通常，教会管理本部配送センターから大会後2か月以内に多くの言語で入手できるようになっています。

インターネット上での大会説教

インターネットにより，多くの言語で総大会説教にアクセスすることができます。アドレスは次のとおりです。—— www.lds.org 右記のホームページの右上にある世界地図をクリックし，言語を選択してください。

ホームティーチングおよび家庭訪問

ホームティーチングまたは家庭訪問用のメッセージとしては，訪問する会員の必要性に最も適した総大会説教を一つ選んでください。

表紙の説明

表紙——「最後の晩餐」^{ほんさん}サイモン・デュイイ画。ユタ州アメリカンフォークにあるアルタス・ファイン・アート社の厚意により掲載。複写は禁じられています。

大会の写真

ソルトレーク・シティーで行われた総大会の模様の写真撮影者は以下のとおりです。——クレグ・ダイヤモンド，ウェルデン・C・アンダーセン，ジョン・ルーク，マシュー・ライアー，ケリー・ラーセン，クリスティーナ・スミス，タムラ・H・ラティエタ，タマラ・ラマンティア，レス・ニルソン，マーク・ヘディングレン，ローレンス・ポーター，ロイス・ベアー，ウラジミール・エゴロフ(ロシア)，岡田琢治，関口 治(日本)，マイケル・カークパトリック，マージド・カークパトリック(ガーナ)，マーク・マッケンジー(ドイツ)



リアホナ 2004年5月号

第6巻第5号(24985 300)

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)

大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー, トーマス・S・モンソン, ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会:ボイド・K・バックナー, L・トム・ペリー, デビッド・B・ヘイト, ニール・A・マックスウェル, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード, ジョセフ・B・ワースリン, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, ヘンリー・B・アイリング

編集長:デニス・B・ノイエンシュワンダー

顧問:モンティ・J・ブラフ, J・ケント・ジョリー, W・ロルフ・カー, スティーブン・A・ウェスト

実務運営ディレクター:デビッド・L・フリッシュニク

編集ディレクター:ビクター・D・ケーブ

グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボーグ

編集主幹:リチャード・M・ロムニー

編集主幹補佐:マービン・K・ガードナー, ビビアン・ポールセン, ドン・L・サール

編集スタッフ:コレット・ネベカー, オース, スーザン・バレット, シャナ・バトラー, ライアン・カー, リンダ・ステール・クーパー, ラリオン・ポーター・ガント, ジェニファー・L・グリーンウッド, R・バル・ジョンソン, キャリー・カステン, メルビン・リービット, サリー・J・オデカーク, アダム・C・オーソン, シュティス・M・バーラー, ビビアン・ポールセン, ドン・L・サール, ジョナサン・H・スティープンソン, レベッカ・M・テラー, ロジャー・テリー, ジャネット・トーマス, ボール・バンデンバーク, ジュリー・ワーデル, キンバリー・ウェブ, モニカ・ウィークス

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:J・スコット・クヌーセン, スコット・バン・カンペン

制作主幹:ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ:ケリー・アレンプラット, ハワード・ブラウン, トーマス・S・チャイルド, レジナルド・J・クリステンセン, キャスリーン・ハワード, デニス・カービー, タッド・R・ビーターソン, ランドール・J・ピクストン, カリ・A・トッド, クラウディア・E・ワーナー

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

印刷ディレクター:クレグ・K・セジウィック

配送ディレクター:クリス・T・クリステンセン

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約 2,400円(送料共)

半年予約 1,200円(送料共)

普通号/大会号 200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。

Room 2420, 50 East North Temple Street,

Salt Lake City, UT 84150-3220, USA

電子メール:cur-liahona-imag@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。

アイスランド語, アルバニア語, アルメニア語, イタリア語, インドネシア語, ウクライナ語, 英語, エストニア語, オランダ語, 韓国語, カンボジア語, キリバス語, クロアチア語, サモア語, シンハラ語, スウェーデン語, スペイン語, スロベニア語, セブア語, タイ語, タガログ語, タヒチ語, タミル語, 中国語, チェコ語, デンマーク語, ドイツ語, トンガ語, 日本語, ノルウェー語, ハイチ語, ハンガリー語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, ガルシア語, ベトナム語, ポーランド語, ポルトガル語, マーシャル語, マダガスカル語, モンゴル語, ラトビア語, リトアニア語, ルーマニア語, ロシア語。(発行頻度は言語により異なります)

©2004 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷:日本

「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において臨時に、また非営利目的に使用する場合は複写することができます。視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている場合に複写できないことがあります。ご質問は、Church Copyrights and Permissions Office, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電話—1-801-240-3959, 電子メール—cor.copyright@ldschurch.org にご連絡ください。

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月

原語—International Magazines May 2004.

Japanese. 24985 300

「リアホナ」は、教会のホームページwww.lds.org(英語)に様々な言語で掲載されています。「Gospel Library」(福音図書館)をクリックしてください。

For Readers in the United States and Canada:

May 2004 no. 5 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$16.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.



話者リスト(50音順)

アイリング, ヘンリー・B16
アーノルド, マービン・B46
オークス, ダリン・H7
カー, W・ロルフ36
クリストファーソン, D・トッド 11
クレグ, ゲール・M14
シモンズ, デニス・E73
シャムウェー, W・ダグラス 94
スコット, リチャード・G100
タナー, スーザン・W104
ダルトン, イレイン・S110
ティンギー, アール・C49
ネルソン, ラッセル・M27
バックナー, ボイド・K77
バラード, M・ラッセル84
ビーナス, フランシスコ・J38
ヒンクレー, ゴードン・B94
.....4, 58, 81, 103, 112
ファウスト, ジェームズ・E51, 61
ヘイト, デビッド・B6
ヘイルズ, ロバート・D88
ヘーフエン, ブルース・C97
ベック, ジュリー・B75, 107
ペリー, L・トム69
ホランド, ジェフリー・R30
マクマリン, キース・B33
マスク, クレイト・W92
マックスウェル, ニール・A44
モンソン, トーマス・S20, 24, 54
ワースリン, ジョセフ・B40

テーマ別索引

あ 愛46, 92, 94, 104
あかし 証6, 33, 75
あがな 贖い33, 38, 84, 92, 97

あわ 憐れみ44
イエス・キリスト6, 20, 33, 36, 84, 92
祈り6, 11, 16, 33, 38, 51, 103, 110, 112
受け継ぎ27
影響力20
永代教育基金58
教え88
親の務め88, 94
か 改宗, 改心11, 27, 30
改宗者の定着30
回復81, 84
家族27, 38, 69, 77, 88, 94
活発化20, 46
家庭20, 38, 103
家庭の夕べ94
犠牲30, 97
希望81
義務54
逆境16, 54, 97
教育4
教会の発展4
悔い改め7, 11, 38, 51, 92, 97, 100, 103, 112
結婚, 結婚生活69, 94
個人の価値84
子供たち75, 77, 88
さ 財政管理40
再臨7
自信73, 104, 110
指導性69
従順44
じぶん 什分の40
準備7
正直40, 61
女性75

神権46
信仰6, 33, 38, 73, 77, 88, 10
信仰箇条27
親切81
神殿61
人道支援58
信頼73
青少年4, 49
聖文研究11, 16, 33, 36, 88, 107, 110
聖約7, 75
聖霊61, 77
責任20, 46, 51, 81
選択の自由51, 73, 100
た 知識107, 112
父親の務め44, 69
伝道活動30
道徳4, 112
な 忍耐14, 16, 27, 30, 44, 49, 104, 110
粘り強さ14, 44
は 母親の務め75
標準49
夫婦宣教師30, 58
福祉58
負債40
復活84
奉仕4, 16, 44, 46, 100, 104
ま モルモン書36
や 勇気54, 104
誘惑100, 112
ゆる 赦し112
預言者36, 61
ら 靈感61

●土曜午前の部会
2004年4月3日

強さを増す教会

大管長
ゴードン・B・ヒンクレー

なすべきことはまだありますが、これまで達成してきた事柄は、まさに驚嘆に値します。



愛する兄弟姉妹、教会の世界大会に皆さんを心から歓迎します。わたしたちは今、様々な国に住み、様々な言語を話す国際色豊かな大家族になっています。世界中の皆さんが、わたしたちを見ながら話を聞けるというのは、わたしにしてみれば驚くような、すばらしいことです。

中央幹部として過ごしてきた年月を振り返ると、ソルトレークのタバナクルから話す言葉が、ラジオを通じてユタ州全土に放送されることに驚きを感じた時代もありました。それが今や、わたしたちはこの壮大なカンファレンスセンターに集い、その画像や言葉を教会の95パーセントの会員が視聴しています。

教会がさらに大きくなり、強さを増すにつれて、新しい技術が導入されてきま

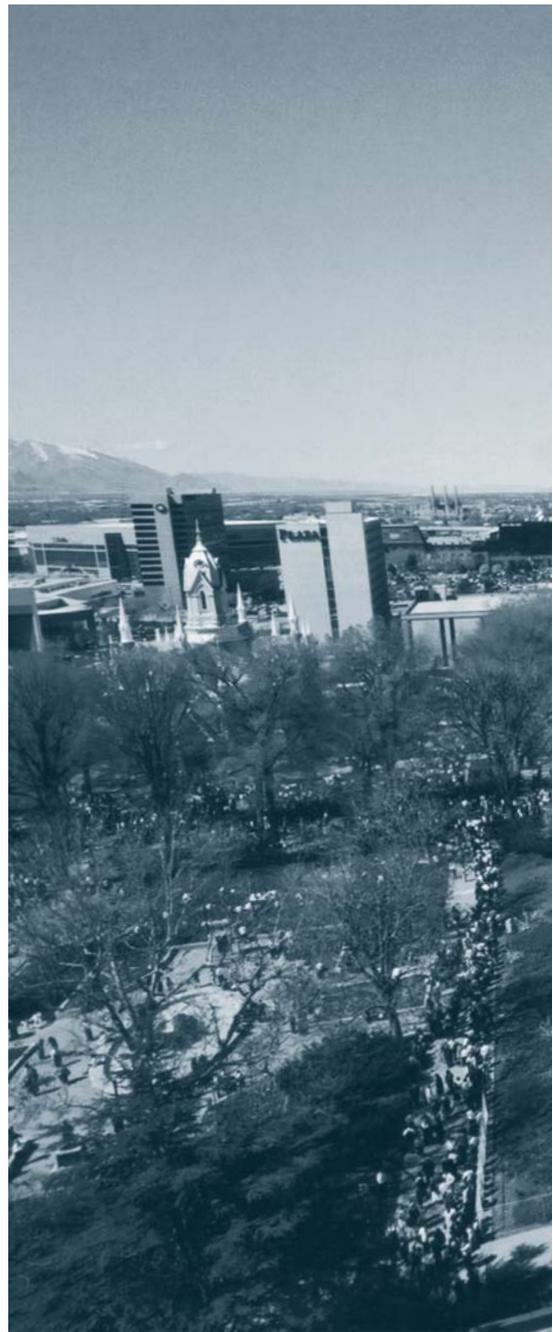
した。会員数は1,200万人に達する勢いです。そして北アメリカに住む会員よりも、それ以外の地域に住む会員の方が多くなっています。かつてはユタ州の教会と認識されていました。しかし現在では、国際色豊かな大きな教会として見られています。

教会が世界中に広がるには長い年月がかかりました。なすべきことはまだありますが、これまで達成してきた事柄は、まさに驚嘆に値します。

人々を失っていることも事実です。実に多くの人々が去って行きます。わたしの知るかぎり、どここの組織も人々を失っています。しかし、わたしの知っているほかのどの主要な教会と比べても、会員の定着率と活発率が高いことにわたしは満足しています。

どこにおいても活発な会員がいて、熱意を感じます。世界中にしっかりとした優秀な指導者がいて、この業を推し進めるために時間や財産をささげています。

若い人たちの信仰や忠実さを見ると、とても力づけられます。彼らは地上に悪がはびこる時代に生活しています。至る所に罪悪が見受けられます。古い標準は捨てられ、徳や誠実という原則は押しつけられています。しかし文字どおり何十万人もの若人が、福音の高い標準に添って生活しているのです。彼らは同じ信仰を持つ人々と交わることで、互いを高め合いながら喜びを感じています。また教育を受けることで知性を磨き、訓練を受



けることで技術を伸ばしています。彼らの良い影響力は、さらに広範囲に及んでいます。

兄弟姉妹、喜ばしいことに教会は良い状態にあります。これからも引き続き神殿を建設し、礼拝の家を建て、建築や改築などの多くの計画を進めていきます。これらはすべて、聖徒たちの信仰によって可能となっています。

また、地上の恵まれない人々や自然災害の被災者のために、大規模な人道支援活動を行っていきます。



うれしいことに、今年の4月1日には、イリノイ州下院議会で、1846年に聖徒をノーブーから強制退去させたことに遺憾の意を表明することが満場一致で可決されました。この気高い行為は、ミズーリ州のクリストファー・S・ボンズ元知事が取った行動と類似します。ボンズ知事は、リルバーン・W・ボグズ知事が1838年に出した残酷で憲法に反した撲滅令を、1976年に撤回した人です。

これらやそのほかの進歩は、末日聖徒に対する態度が最も著しく変化したこと

を象徴しています。

皆さん一人一人の献身的で熱心な奉仕に深く感謝しています。また、行く先々で親切にしてくださることに感謝します。わたしは皆さんのしもべであり、自分の力で、どのような方法でも皆さんの力になりたいと願っています。

愛する友人の皆さん、神が祝福してくださいますように。皆さんを心から愛しています。皆さんのために祈っています。皆さんに感謝しています。

天のほほえみが注がれますように。愛

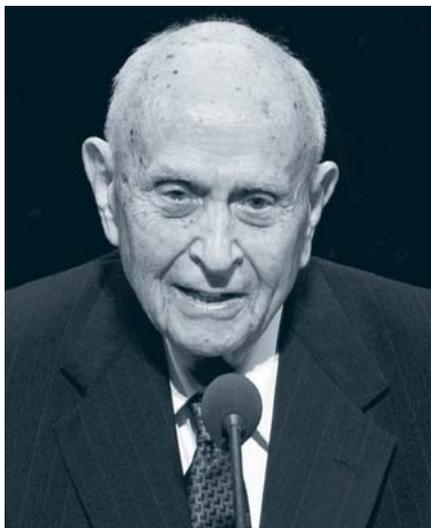
と一致、平安と善良さが皆さんの家庭にありますように。皆さんが害悪から守られ、御父の「偉大な幸福の計画」が生活の標準となりますように(アルマ42:8)。イエス・キリストの聖なる御名により、へりくだり、感謝の気持ちで、願い求めます。アーメン。

これから、愛する友人である、十二使徒定員会のデビッド・B・ヘイト長老が話します。ヘイト長老は今97歳です。ヘイト長老、ここに来て、大勢の友人の皆さんに話してください。

高きに満ちたる 知恵と愛よ

十二使徒定員会
デビッド・B・ヘイト

福音は真実です。確かに真実です。わたしはその証人です。



りくだる思いでこの場に立っています。わたしの心はこの業と、この場に集い耳を傾けている皆さんへの愛であふれています。6か月前の大会で、わたしはゴードン・B・ヒンクレー大管長の隣に立ち、大管長から会衆に手を振るよう励まされました。そのときは手を振るだけで精いっぱいでした。中には、もうお別れだと思った人もいたようです。けれども、今日わたしは皆さんに、また戻って来たことを伝えるに参りました。だれかが腕を動かしているわけではありません。

わたしは祈りと信仰、献身の力を知っています。また、天使が天から降って来ることもしっています。ですから、今日わたしはここに立ち、皆さんに証を述べ、あいさつをしたいと思います。次の大会

までには完治して、求められたことを果たしたいと願っています。

神は生きておられます。神はわたしたちの御父、すなわち天の御父であります。

エライザ・R・スノーは、わたしたちのよく知っている賛美歌を書きました。おもに聖餐式で歌われる賛美歌です。彼女は次のように書いています。

高きに満ちたる
知恵と愛よ

この言葉についてしばらく思い巡らしてみてください。わたしたちは以前、その高き所にいたのですから。

高きに満ちたる
知恵と愛よ
苦しみ死にたもう
主をたまいぬ
〔高きに満ちたる〕『賛美歌』112番)

わたしたちはこの世に来ることを選びました。そしてともに語り、証を述べることができるこの壮大なホールに集っています。わたしも時々あるのですが、すべての問題の解決を試み、果たさなければならない事柄に対する決意を新たにしようとするとき、人は眠れない夜を過ごします。しかしそのような夜、この天への思いがわたしを確かに高めてくれました。天の御父である神はわたしたちを愛しておられ、わたしたちも御父を愛さなければなりません。御父はイエス・キリストの福音を世にもたらすために御子を選んで地上に送られました。この教会はその御名を冠しており、わたしたちはキリストについて証します。今日ここに立ち、教会の基について証し、わたしたちを導くヒンクレー大管長への愛について証できることをうれしく思います。

福音は真実です。確かに真実です。わたしはその証人です。主であり救い主であるイエス・キリストの御名によって、アーメン。

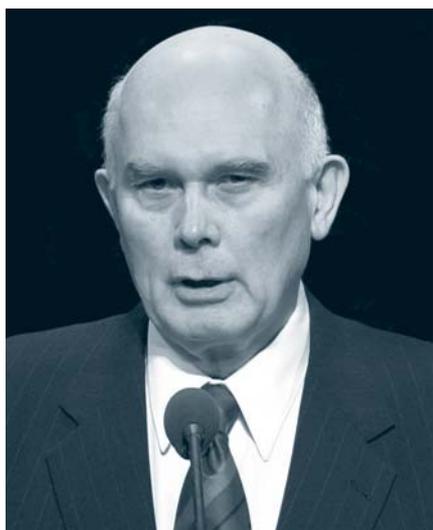


再臨への備え

十二使徒定員会

ダリン・H・オークス

再臨のときに起こると預言されている事柄に対して……霊的な備えをする必要があります。



近代の啓示では、備えていれば恐れることはない（教義と聖約38：30参照）と約束されています。この原則を知ってから、昨年の夏で60年の歳月が流れました。少年のころボーイスカウトに入り、「備えよ常に」というスカウトのモットーを学んだのです。今日わたしは、一人一人にとってきわめて重要な意味を持つ将来の事柄、すなわち主の再臨に備えることについて話すよう促されました。

聖典には、再臨についての記述が至る所に記されています。再臨は義にかなった人々が切に待ち望み、悪人が恐れ、否定する事柄です。あらゆる時代の忠実な人々が、この史上最も重要な分岐点の前後に起こると預言された多くのことの順序と意味について思い巡らしてきました。

末日聖徒にとって、4つの明白なことがあります。(1) 救い主は力と偉大な栄

光のうちにこの地上に戻って来られ、正義と平和の満ちる福千年の間、自ら統治される。(2) 主の来られるときに、悪人は滅び、義人は復活する。(3) 主の来られる時を知る者はいないが、(4) 忠実な人々は再臨のしるしを学び、備えるよう教えられます。わたしはこれらの偉大な事実の4番目について、すなわち再臨のしるしと再臨に備える方法について話したいと思います。

I.

主はこう宣言されました。「わたしを畏れる者は、主の大いなる日が来るのを、すなわち人の子の来臨のしるしを待ち望むであろう。」そのしるしは「上は天に、下は地に」（教義と聖約45：39-40）示されます。

主はいちじくの木のとえを用いてそのことを教えられました。柔らかに新しい枝は夏の訪れを知らせます。「そのように、」選民は主の来臨のしるしを見たならば「人の子が戸口まで近づいていることが分かるであろう。」（ジョセフ・スミス—マタイ1：38-39。マタイ24：32-33；教義と聖約45：37-38も参照）

聖典と近代の預言から、再臨についての様々なしるしを学ぶことができます。

1. 完全な福音が回復され、すべての民への証として全世界に宣べ伝えられる。
2. 偽キリストや偽預言者が多くのの人々を惑わす。
3. 戦争と戦争のうわさが流れ、民が民に敵対して立ち上がる。
4. あちこちに地震が起こる。

5. 飢饉と疫病が起こる。
6. 懲らしめがあふれ、荒廃をもたらす病気が地を覆う。
7. 不法がはびこる。
8. 全地が混乱する。そして、
9. 人々が気落ちする。

（マタイ24：5-15；ジョセフ・スミス—マタイ1：22, 28-32；教義と聖約45：26-33参照）

主は別の啓示で、これらのしるしの幾つかは民に悔い改めを叫ぶ御自身の声であると宣言しておられます。

「聴きなさい、おお、地のもろもろの国民よ。あなたがたを造った神の言葉を聞きなさい。……

わたしの僕たちの口により、また天使たちの働きにより、またわたし自身の声により、また雷の声により、また稲妻の声により、また暴風雨の声により、また地震と雹を伴う大嵐の声により、また飢饉とあらゆる疫病の声により、……わたしはあなたがたを幾度呼び、永遠の救いをもってあなたがたを幾度救おうとしてきたことか。しかし、あなたがたは応じようとしなかった。」（教義と聖約43：23, 25）

再臨のしるしは周囲の至る所に見られ、その頻度と激しさは増しているように思われます。例えば、『2004年度世界年鑑』（*The World Almanac and Book of Facts* [2004年]）の大地震リストによると、1980年代と90年代における地震の回数は、1960年代と70年代の2倍になっています（pp.189-190）。今世紀最初の数年間では、この傾向にさらに拍車がかかっています。ここ最近、世界各地を襲った注目すべき洪水や津波、ハリケーン、台風、猛吹雪のリストを見ても、同じような増加が見られます（pp.188-189）。報告基準の変化により50年前との比較は除外してよいとしても、過去数十年間における自然災害の増加傾向は恐ろしい前触れと言えます。

II.

もう一つの時のしるしは忠実な人々の集合です（教義と聖約133：4参照）。この最後の神権時代の初期には、カートラン

ド、ミズーリ、ノーブー、山々の頂など、合衆国の様々な場所でシオンの集合が行われました。これらの集合は、すべて将来建てられる神殿を目指していました。多くの教会員がいるほとんどの国においてステーキが誕生し、神殿が建設されている今、わたしたちは一つの場所に集合するのではなく、自国のステーキに集合するよう命じられています。忠実な人々はそこで、主の宮における完全な永遠の祝福にあずかることができます。自分の国で主の命令に従い、主の民の占める範囲を広げ、シオンのステーキを強めるのです（教義と聖約101：21；133：9，14参照）。このようにして、シオンのステーキは「防衛のためとなり、また嵐と激しい怒りが全地にありのままに注がれるときに、その避け所となる[。]」（教義と聖約115：6）

III.

わたしたちは再臨の事実を変えることも、その正確な時を知ることもできません。しかし、自らの備えを進め、周りの人々が備えるうえで影響を与えることはできます。

10人のおとめのたとえには、再臨に關する大切で意義深い教えが含まれています。このたとえについて主はこうおっしゃいました。「わたしが栄光のうちに来るその日に、わたしが十人のおとめについて語ったたとえは成就するであろう。」（教義と聖約45：56）

マタイ25章に記されたこのたとえは、5人の思慮の浅いおとめと5人の思慮深いおとめの置かれた状況を対照的に物語っています。10人は皆、婚宴に招待されましたが、花婿が来たときに明かりの油を準備していたのは5人だけでした。備えのできていた5人は婚宴の部屋に入り、戸は閉められました。備えを怠った5人は婚宴の席に遅れました。戸はすでに閉まっており、主人はこの5人を部屋に入れず、こう言いました。「わたしはあなたがたを知らない。」（12節）救い主は次のように話を結ばれました。「だから、目をさまさない。その日その時が、あなたがたには



わからないからである。」（13節）

このたとえが示す教えには身も凍るような思いがします。10人のおとめは明らかにキリストの教会の会員を指します。なぜなら皆婚宴に招待され、花婿が来たときに部屋に入れてもらうための条件を知っていたからです。しかし、実際に備えができていたのは半分だけでした。

近代の啓示の中にも同じ教えが記されています。主は教会の初期の指導者にこう語られました。

「また、あなたがたの証の^{あかし}後に、激しい怒りと憤りが人々に及ぶ。

あなたがたの証の後に、地の中でうなりを起す地震の証が来る。……

また、雷の声と、稲妻の声と、暴風雨の声と、その境を越えて打ち上げる海の波の声の証も来る。

また、すべての物事が混乱する。そして、必ず人々は気落ちする。恐れがすべての人に及ぶからである。

また、天使たちが天のただ中を飛び、大声で叫び、神のラッパを吹き鳴らして言う。『おお、地に住む者よ、備えなさい、備えなさい。わたしたちの神の裁き

が来たからである。見よ、見よ、花婿は来られる。あなたがたは花婿を迎えに出なさい。』（教義と聖約88：88-92）

IV.

兄弟姉妹の皆さん、モルモン書が教えているように、「現世は人が神にお会いする用意をする時期である。まことに、現世の生涯は、人が各自の務めを果たす時期である。」（アルマ34：32）わたしたちは備えているでしょうか。

主は近代の啓示のはしがきでこう宣言されました。「あなたがたは備えなさい。来るべきことのために備えなさい。主は近いからである。」（教義と聖約1：12）

また、次のようにも警告しておられます。「まことに、あなたがたの叫びをすべての人の中に出て行かせなさい。『目を覚まし、立ち上がり、花婿を迎えに出なさい。見よ、見よ、花婿は来る。あなたがたは花婿を迎えに出なさい。主の大いなる日のために自らを備えなさい。……』」（教義と聖約133：10。教義と聖約34：6も参照）

主の来臨の日時を知ることはできないと絶えず警告されています。マタイ24章でイエスはこうお教えになりました。

「だから、目をさまさない。いつの日にあなたがたの主がこられるのか、あなたがたには、分からないからである。

このことをわきまえているがよい。家の主人は、盗賊がいつごろ来るかわかっているなら、目をさまして、自分の家に押し入ることを許さないであろう。」（マタイ24：42-43）「〔そして〕用意をしていたであろう。」（ジョセフ・スミス—マタイ1：47）

「だから、あなたがたも用意をしていなさい。思いがけない時に人の子が来るからである。」（マタイ24：44；教義と聖約51：20も参照）

もし主が明日来られるとしたらどうでしょうか。早すぎる死や予期せぬ主の来臨によって、明日主にお会いすることが分かったなら、わたしたちは今日何をしようか。何を告白するでしょうか。どのような習慣を断ち、どのような問題を解決し、どのような^{ゆる}救いの手を差し伸べるでしょ



うか。また、どのような証をするでしょうか。

主の来臨のときにそうするのであれば、なぜ今しないのでしょうか。得られるときに平安を求めないのはなぜでしょうか。備えのランプが消えかかっていたら、すぐに油を補充しましょう。

再臨のときに起こると預言されている事柄に対して物質的および霊的な備えをする必要があります。最も怠りがちな備えは、目に見えにくく、より難しい霊的な備えです。緊急物資を集めた72時間キットは、この世的な問題に対して価値があるでしょう。しかし、思慮の浅いおとめたちが悲しみのうちに学んだように、霊的に備えるための24時間キットには、はるかに大きく永続的な価値があります。

V.

わたしたちは「平和が地から取り去られ」（教義と聖約1：35）、「すべての物事が混乱〔し〕……人々は気落ちする」（教義と聖約88：91）と預言された時代に住んでいます。戦争や自然災害など世の混乱の原因は様々ですが、現代に見ら

れる「混乱」のはるかに大きな原因は霊的なものです。

周囲の出来事を信仰のレンズと永遠の見地から眺めるならば、「悪魔が自分の領域を支配する力を持つ」（教義と聖約1：35）という預言があらゆる所で成就しているのを見るでしょう。賛美歌でも「敵の群れは罪の集まり」（「シオンのつわもの」『賛美歌』159番）と歌われていますが、まさしくそのとおりなのです。

かつては特定の場所に限定され、はれもののように覆いをかけられていた悪が、今や合法化され大手を振って歩いていきます。文明の最も基本的な土台や砦が、問題視され、攻撃を受けています。多くの国々で信仰の遺産が捨てられ、結婚や家族の責任は、利己的な満足^{とりで}を妨げるものとして軽視されています。映画や雑誌、テレビは、人の態度に影響を与えるものですが、そこには神の子供を残酷な野獣として、あるいは個人的な快樂を追い求めるだけの取るに足りない存在として描く物語や映像が満ちています。そしてあまりにも多くの人がこれらを娯楽として容認しているのです。

過去に、大きな犠牲を払って邪悪な政府と戦った人々がいました。彼らを導いた価値観は現代の教育から姿を消そうとしています。不実、無関心、価値のない個人の衝動が、善行や真実、美しさに取って代わろうとしているのです。驚くまでもなく、若人と大人の多くが、ポルノグラフィ、体の様々な部位へのピアス、自己中心的な快樂の追求、不正直な振る舞い、慎みのない服装、そして恥ずべき性的放縦のとりことなっています。

ますます多くのオピニオンリーダーとその追従者たちが、アブラハム、イサク、ヤコブの神の存在を否定し、世俗的な神々だけをあがめています。権力と影響力を持つ多くの人々は、神が定められた善悪の定義を否定し、善と悪の存在を信じていると公言する人々の中にすら、「悪を呼んで善といい、善を呼んで悪とい〔う〕」（イザヤ5：20；2ニーファイ15：20）人がいるのです。大勢の人が個人の責任を否定し、他人に依存しています。思慮の浅いおとめたちのように、借り物の物質や借り物の光で生きているのです。

これはすべて天の御父にとって嘆かわ



しいことです。御父は神のすべての子供たちを愛し、みもとに帰る妨げとなるあらゆる行いを禁じておられるからです。

わたしたちは永遠の命を得るためどのような備えをしているのでしょうか。神の民はいつの時代も聖約を交わしました。バプテスマの水をくぐるとき、聖なる神権を受けるとき、神殿に参入するときに交わす聖約に、どれほど従っているのでしょうか。約束をしても守らない民、信じてても実行しない民となっていないのでしょうか。

主の命令に従っているのでしょうか。「主の日が来るまで、あなたがたは聖なる場所に立ち、動かされないようにしなさい。見よ、その日はすぐに来る……。」(教義と聖約87:8) この「聖なる場所」とは何を指すのでしょうか。神殿とそこで交わす聖約を忠実に守ることはもちろん含まれるでしょう。また、子供を大切に育て、両親を敬う家庭もそうです。伝道の召し、あるいは支部、ワード、ステー

クで忠実に果たされる召しなど、神権の権能によって与えられる召しも、聖なる場所に含まれます。

救い主が再臨の預言の中で教えられたように、主が来られたときに、自分の義務を果たしている「忠実な思慮深い僕」は幸いです(マタイ24:45-46参照)。預言者ニーファイもその日についてこう教えました。「義人は恐れるには及ばない。」(1ニーファイ22:17; 1ニーファイ14:14; 教義と聖約133:44も参照) また近代の啓示にも「主〔は〕聖徒たちを支配する力を持つ〔つ〕」(教義と聖約1:36)と約束されています。

わたしたちは様々な問題に取り巻かれています(2コリント4:8-9参照)。しかし、神への信仰があれば、戒めを守る者に約束された祝福を信じることができます。わたしたちは未来を信じています。そして未来に向かって備えているのです。身近なスポーツの世界の比喩を用いるなら、この試合はいつ終わるのかも、最終

的な得点は何点かも分かりません。しかしはっきりと言えることは、試合が終わったときに、チームは必ず勝つということです。「神の目的が成し遂げられ、大いなるエホバは、御業は成ったと告げられる」まで(*History of the Church*, 第4巻, 540), わたしたちはたゆまず前進し続けます。

主はこうおっしゃいました。「忠実であり、常に祈り、あなたがたのランプの芯を切りそろえて火をともし、油を備えるようにしなさい。見よ、まことに、まことに、あなたがたに言う。わたしはすぐに来る。まことにそのとおりである。」(教義と聖約33:17-18)

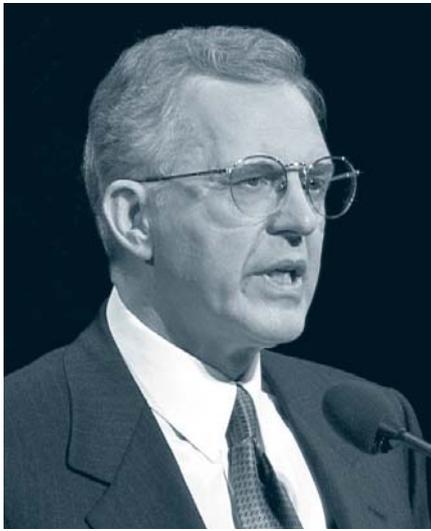
イエス・キリストについて証します。主は約束されたように必ず来られます。主にお会いする備えができるよう、イエス・キリストの御名により祈ります。アーメン。

あなたが 改心したときには

七十人会長会

D・トッド・クリストファソン

福音を思いに記して理解を得、心に記して進んで御心を行えるように、キリストの御名によって神に嘆願してください。



この話は特に若い人々に向けたものですが、すべての人に役立てば幸いです。

何年も前、ステーキ会長をしていたときに、ある男性が教会の教えに背いたことを告白しにきました。わたしは驚きました。彼が長年活発な教会員だったからです。彼ほど経験のある人が、どうしてこのような罪を犯したのだらうと感じました。少し考えてから、彼は真の改心をしていなかったのではないかと思います。教会には活発でも、福音が心にしみ込んでいなかったのです。彼にとって福音は表面的なものだったのでしょう。健全な場所では戒めを守れても、別の場所ではほかの力に行動を支配されていたのかもしれない。

どうすれば改心できるのでしょうか。イエス・キリストの福音を、単なる影響力ではなく自分をコントロールする影響力、つまり自分の人格の本質的な部分とするには、どうすればよいのでしょうか。古代の預言者エレミヤは、神の律法、福音を心に書き記すことについて語りました。エレミヤは末の日の民にかかわる主の御言葉を引用しています。「わたしは、わたしの律法を彼らのうちに置き、その心にしるす。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる……。」¹

皆さんはこのような改心がしたいですか。もしも本気でそう願うのであれば、その方法を教えましょう。心を開かなければ、福音を心に記すことはできません。聖餐会やクラス、教会の活動に参加しても、わたしが今日教えることを行ったとしても、心から願わなければ、さほど変化はないでしょう。しかし子供のように心を開き、²熱心に行くというのであれば、改心する方法をお教えしましょう。

第1ステップとして、今日の世の中にはびこっている高慢を完全に捨てなければなりません。高慢とは人の生活を治めておられる神の権威を拒絶する態度です。主はジョセフ・スミスに高慢について説明されました。「彼らは主の義を打ち立てるために主を求めようとせず、すべての人が自分の道を、自分の神の像を求めて歩む。」³現代風に言い換えるとこうなります。「好きなようにやれよ。」「善悪は気

分次第で決まるのさ。」このような態度は神への反抗であり、前世におけるルシフェルとまさに同じです。ルシフェルは、真理を宣言し律法を確立される神の権利を拒絶しました。⁴サタンは過去も現在も、善悪を勝手気ままに宣言する力を望んでいます。愛する創造主は、御自身の権威を強引に認めさせようとはなさいませんが、進んでその権威に従うことが改心の第1ステップです。

さらに、福音が「心にしる〔される〕」ためには、福音が何かを知り、深く理解する必要があります。それは福音を学ぶということです。⁵「学ぶ」とは、読むこと以上の行為です。メッセージの全体像をつかむために、時々、聖典1冊を目標期間内に読むのは良いことです。しかし改心したければ、時間内に読む量よりも、聖文にどれだけ時間を割くかに心向けする必要があります。時には、数節読み、深く考え、同じ節を注意深く読み返し、意味を考え、理解を求めて祈り、心に問いかけ、霊的な考えが浮かんでくるまで待ち、覚えたりさらに学んだりするために感じたことや理解したことを書き留める、そのような読み方をしている皆さんの姿が目に見えます。このような方法で学ぶとき、30分かけても多くは読めないでしょうが、心に神の御言葉を受け入れる場所を設け、神が語りかけてくださるのです。その感覚をアルマは次のように表現しています。「これはわたしの心を広げ、わたしの理解力に光を注ぎ、まことに、それはわたしに良い気持ちを与え始めている。」⁶古今の主の預言者の言葉から心に良い気持ちを感じるにつれて、福音が皆さんの心に記され、心が改まっていることが実感できるでしょう。

聖文を学び理解するために祈りますが、ほかの目的でも祈る必要があります。モルモン書の中でアミュレクは、生活のあらゆることについて祈るよう勧めました。「自分の部屋でも、人目に触れない場所でも、荒野でも、あなたがたの心を〔神に〕注ぎ出さなければならない。」⁷天の御父は、望みや恐れ、友人や家族、学校や仕事、そして周りの人々の必要について祈



るように望んでおられます。とりわけ、キリストの愛で満たされるように祈るべきです。この愛は、イエス・キリストに真に従い、熱意を込めて祈り求める人に授けられます。⁸ この愛は命の木の実です。⁹ 命の木の実を味わうことは改心の真髄です。たとえ少しでも自分に対する救い主の愛を知った人は、平安を得、心に主と御父への愛がはぐくまれるからです。御二方の御心を心から行いたいと思うようになります。自分の部屋、人目に触れない場所、荒野にしばしば行って祈ってください。祝福に感謝し、助けを求め、キリストの純粋な愛が注がれるよう祈ってください。時には断食が役立ちます。

祈りについて話した後、アミュレクは改心のもう一つ大切な要素、奉仕について話し、奉仕しなければ「あなたがたの祈りはむなしく、何の役にも立たない」¹⁰と述べています。つまり改心するには、心を開いて福音の知識や神の愛を受けるだけでなく、福音の律法を行う必要があるのです。実際に生活で応用するまでは、十分に理解し、その価値を知ることはできません。イエスは仕えるために来たのであり、仕えられるために来たのではないと言われました。¹¹ 皆さんもそのはずです。周囲を見て心を配るのです。情け深

く、親しみやすく、分かち合い、小さな助けをたくさん与える人になりましょう。そうするうちに、イエス・キリストの福音が人格の一部となるのです。

もう一つの点について話しましょう。昔の民は、主を礼拝し、祝福を求めるときに、しばしば贈り物を持って来ました。例えば神殿に行くときには、祭壇に供えるささげ物を持って来ました。贖いと復活の後、救い主は、今後は動物の燔祭は受け入れないと言われました。現在主が受け入れられる贈り物や犠牲は「打ち砕かれた心と悔いる霊」¹²です。改心の祝福を求めるならば、打ち砕かれた悔い改めの心、そして悔いて従順な霊を贈り物としてささげることができます。つまりその贈り物とは自分自身、今の自分と将来の自分です。

皆さんには清くない思いやふさわしくない思いがありますか。もしもそれを捨てるなら、救い主への贈り物になります。良い習慣または性質が欠けていますか。それを取り入れ、人格の一部とするなら、主への贈り物になります。¹³ 難しいときもあるでしょうが、悔い改めと従順の贈り物が簡単だとしたら、贈り物に値するのでしょうか。¹⁴ 努力を恐れなくてください。独りではないことを忘れないでくだ

さい。ふさわしい贈り物となれるよう、主が助けてくださいます。主の恵みにより清く、聖なる者になれます。ついには主のようになり「キリストによって完全に」¹⁵なるのです。

改心に伴い、皆さんは防護用の武具「神の武具」¹⁶を身に着けます。聖なる御霊から与えられるキリストの御言葉は、なすべきことをすべて告げてくれます。¹⁷

1992年のある晩、クロアチアのザグレブで働く二人の姉妹宣教師がアパートに帰ろうとしていました。最後の訪問先は遠い所で、外は暗くなりかけていました。路面電車には口汚い人たちがいて、危険な雰囲気でした。姉妹たちは恐ろしくなり、次の停車駅で、だれもついて来れないよう、ドアが閉まる直前に下車しました。しかし一難去ってまた一難、二人とも自分たちがどこにいるのか分かりませんでした。辺りを見回すと、一人の女性が目に入りました。宣教師たちは道に迷ったことを説明し、道を教えてもらえないかと頼みました。彼女はアパートに帰る路面電車を知っていて、案内すると言ってくれました。途中、酒場のそばを通るとき、常連客風の男たちが暗い歩道に座っていました。やはり怖い感じの人たちです。しかしこの二人の若い姉妹は、彼らには自分たちが見えないと強く感じました。実際に通り過ぎて、この恐ろしい男たちには見えていないようでした。姉妹宣教師と親切な女性が停車駅に着くと、ちょうど路面電車が来たところでした。振り返って感謝しようとしたのですが、その女性はもうどこにもいませんでした。¹⁸

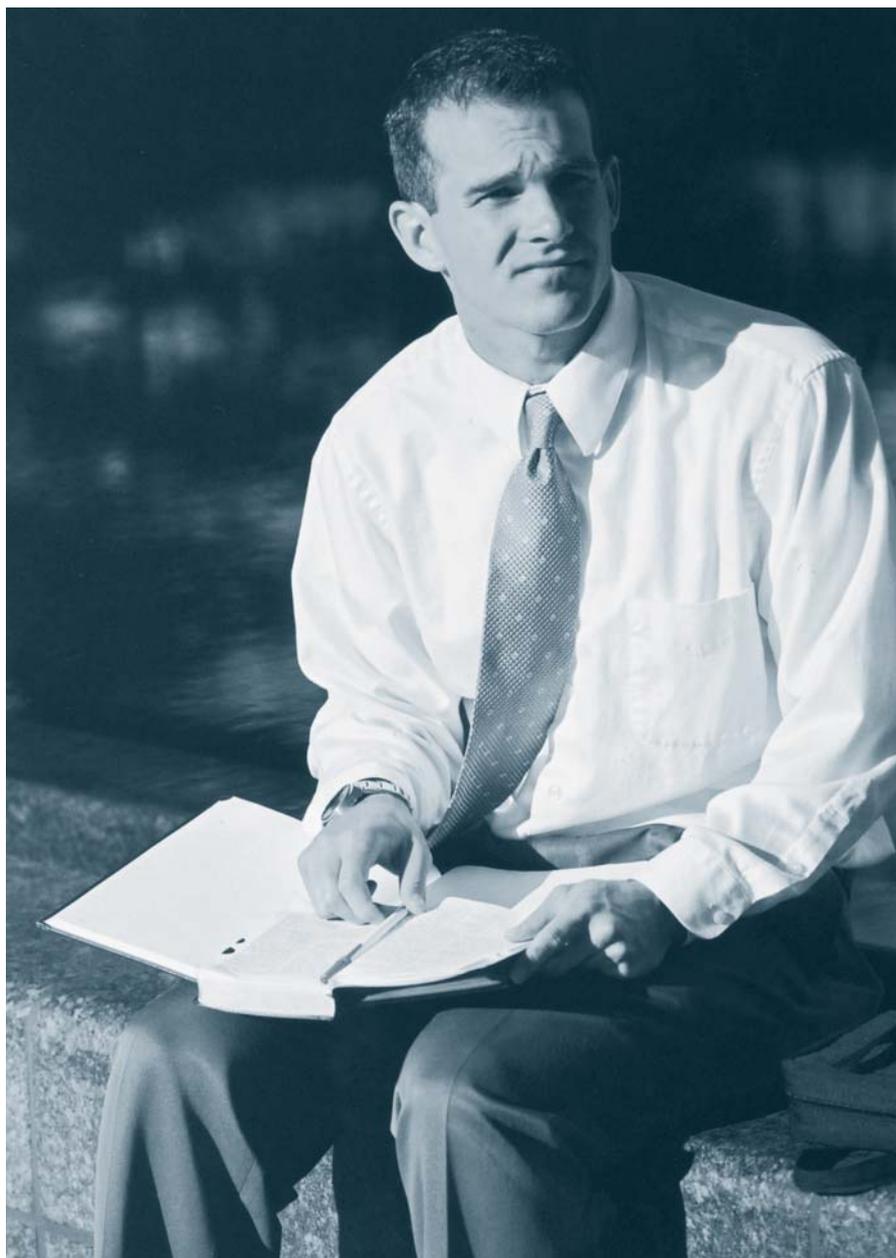
この宣教師たちは危害から守られるために、道案内とその他の恵みを受けました。改心するにつれ、誘惑を避け、悪から逃れるために、同じような守りを受けることでしょう。¹⁹ 悪の目から皆さんが隠されることもあります。皆さんの目から悪が隠されることで、守られることもあります。悪が目の前に現れたとしても、恐れずに、信仰をもって立ち向かうことができます。

これまで、望み、神への服従、学習、祈り、奉仕、悔い改め、従順について話しま

した。これらに加えて、教会での礼拝と活動を行うなら、証と改心がもたらされるでしょう。福音は単なる影響力ではなく、皆さんの人格となるでしょう。福音を思いに記して理解を得、心に記して進んで御心を行えるように、キリストの御名によって神に嘆願してください。²⁰ この祝福を地道に忍耐強く求めるならば与えられます。神は「恵みあり、あわれみあり、……いつくしみが豊か」²¹ な御方だからです。イエス・キリストの御名により証します。アーメン。

注

1. エレミヤ31：33。エゼキエルは、改心とは主が人から「石の心」を取り去り、代わりに御自身と御自身の福音を愛する心をお与えになるようなものであると語った（エゼキエル11：19-20参照）。これはまさにベニヤミン王の民が経験したことである。彼らは自分たちの心が変わりたと語り、二度と悪を行いたいとは思わず「絶えず善を行う望みを持つ」た（モーサヤ5：2）。
2. マタイ18：3-4参照
3. 教義と聖約1：16。ヒラマン12：6も参照
4. 教義と聖約76：25-29参照
5. 記録された神の御言葉を非常に多く所有しているわたしたちは、大変幸運である。過去の時代においては、聖文を所有したのはごく限られた人々だけであった。当時の人々は説教の中で聖文が読み上げられると、できるだけ記憶しようと努力しなければならなかった。自分の聖典を持ち、好きなときに読めるということは、たくいない祝福である。アダムの時代から現代に至るまでの改心した人々の人生の中で、福音がどのような役割を演じていたのか、見ることができるのである。
6. アルマ32：28
7. アルマ34：26
8. モロナイ7：47-48参照
9. 1ニーファイ11：21-23参照
10. アルマ34：28
11. マルコ10：45参照。キリストはベテロに、あなたが改心したら、あなたの兄弟



12. 3ニーファイ9：20
13. 聖文のほかにも『若人の強さのために』のパンフレットからも導きを得られる。
14. ダビデ王が主に犠牲をささげる備えをしたとき、従者の一人が王に場所と動物と薪を提供すると申し出た。しかしダビデはその申し出を断って言った。「代価を支払ってそれをあなたから買い取りませぬ。わたしは費用をかけずに燔祭をわたしの神、主にささげることはしません。」（サムエル下24：24）
15. モロナイ10：32-33参照
16. エペソ6：13-17参照
17. 2ニーファイ32：3
18. ニコル・クリストファーソン・ミラー姉妹の体験談
19. マタイ6：13
20. ヘブル8：10；10：16参照
21. ヨエル2：13。「すなわち、わたしに近づきなさい。そうすれば、わたしはあなたがたに近づこう。熱心にわたしを求めなさい。そうすれば、あなたがたはわたしを見いだすであろう。求めなさい。そうすれば、与えられるであろう。たたきなさい。そうすれば、開かれるであろう。」（教義と聖約88：63）

完結した物語

中央初等協会第二副会長
ゲール・M・クレッグ

物語が完結するまで、書き続け、歩き、仕え続け、新たなチャレンジを受け入れなくてはなりません。



しばらく前、郵便受けに大きな白い封筒が入っていました。中身は、当時6年生だった昔の教え子が書いた一つの物語でした。わたしはその生徒のことで、何か月もクラスで取り組んだ課題のことを思い出しました。彼は文章を書くのが好きで、いつも座って思いを巡らしていたものです。一言か二言しか書けないこともありました。時には休み時間にも書きましたが、提出日が来ても、まだ仕上がりがありません。そのまま出すように言いましたが、ジミーは全部書き終えてから提出したかったのです。終業式の日、夏休みに仕上げてよいかと尋ねられました。「そのままでもいいのよ」と言いましたが、もう少し待ってくれるよう頼まれました。結局、ジミーの決意を褒め、「きっとすばらしい物語ができるわね」と伝え、汚れてしわになった原稿を返して、帰宅させました。

その夏はジミーのことが気になっていましたが、数年たって、ポストに課題を見るまでは、すっかり忘れていました。ジミーはなぜそうまでして物語を完成させたかったのか、驚くとともに、不思議でもありました。どのようなビジョンを持ち、どのような決意と努力が必要だったのでしょうか。わたしたちはなぜ、だからからも強いられてもいないときに、困難な仕事を成し遂げるのでしょうか。

夫の曾祖父ヘンリー・クレッグ・ジュニアも、最後までやり遂げる人でした。彼は、末日聖徒の宣教師が初めてイギリスのプレストンに来たときに教会員になりました。ヘンリーは、妻ハンナと幼い息子二人を連れてユタに移住する決意をしました。年老いた両親にはこの長く過酷な旅には耐えられないと思い、二度と会えない覚悟で別れを告げたのです。

大平原を横断中、ハンナはコレラに感染し、亡くなりました。その遺体は墓標もない平原に埋葬されました。一行は旅を続けましたが、同じ日の夕方6時に次男も亡くなりました。ヘンリーはハンナの墓に戻り、息子を妻の腕の中に置き、再び土に埋めました。それから、8キロ先に行く隊のもとに引き返しました。目的地まであと1,600キロもある所で彼自身もコレラに苦しみ、「死の手前にいた」と記しています。驚くことに、ヘンリーは一步一步、前進し続けました。愛するハンナと息子を亡くしてから数週間は、日記を書くことさえできませんでした。わたしは日記が再開されたときの最初の言葉に衝撃を受けました。「まだ前

進している」と記してあったのです。

聖徒の集合地によやくたどり着いたヘンリーは、新しい家族を持ちました。信仰を保ち、自分の物語を続けました。愛する妻と息子を埋葬したという大きな心の痛みを乗り越え、前進し、成し遂げるという家族の遺産を生んだヘンリーには、ただ驚くばかりです。

ヘンリー・クレッグのような開拓者の話を聞くと「自分にはできるのだろうか」と考えてしまいます。開拓者の遺産が今もなお生き続けているので、そう自問するのが怖いこともあります。最近西アフリカを訪問し、前進する今日の開拓者を目にしました。前進し、新しい教会に入り、古いしきたりから離れ、ヘンリーのように家族や友達さえも後にした人々です。彼らに対する尊敬と愛は、自分の先祖に対する思いに匹敵します。

人の試練は、自分の試練よりも大変そうに見えますか。大きな責任がある人を見て「わたしにはできない」と思うことはよくあります。逆に、わたしたちを見て、同じように感じる人もいるかもしれません。問題は責任の大きさではなく、責任を果たす過程でどう感じているかなのです。子供のたくさんいる若い母親は、昼も夜もその世話に追われ、まるで、これから先1,600キロの道のりが待っているように感じるかもしれません。また、扶助協会で、年代の違う人や、自分より経験豊かで教育のある人にレッスンするとき、難しく思うこともあります。自分には理解し難く、実践し難いテーマの場合はなおのことです。10人の元気な6歳児を教えるのも不安なことです。特に、自分の子供もそこにおいて、その子にでさえどう教えていいかわからない場合はなおさらです。

わたしたちは、それぞれ試練を抱えています。幼いジミーや、初期の開拓者、世界中に広がる今日の開拓者から何を学べるのでしょうか。ジミーは締め切りもないのに、独りで何年も書き続け、ヘンリー・クレッグは日記が書けないほどつらくとも独りで歩き続け、アフリカの聖徒は、自国に神殿が建つ日を想像すらでき



ないときから、神殿参入にふさわしくあるよう生活しました。進み続け、忠実さを保ち、成し遂げることで自分が報いだったのです。

何年も前、娘の一人から一緒にボール遊びをしようと誘われました。娘はわたしを座らせ、ひもの付いたボールを打ちながら、柱に巻きついていくのを見るようにと言いました。その様子を何回か見てから、「お母さんは何をすればいいの」と聞くと、娘は「うまく巻きつけられたら『よくできた』って褒めて!」と言いました。

「よくできた」と言われると、続けられる気がします。それは、初等協会の6歳児を教える教師が、クラスの子供の母親から電話で、「あなたのレッスンのおかげで、息子が進んで妹が車に乗るのを助けてくれるようになったのよ」と言われることかもしれませんし、妻が若い女性のレッスン

の部屋を準備する間、夫が子供を託児や初等協会に連れて行ってくれることかもしれません。また、ほほえみかけたり、抱き締めたり、友人や夫、あるいは子供との問題を解決するための散歩といったような簡単なことかもしれません。

わたしたち一人一人が物語を見つけ、書き終えなくてはなりません。激励を受け、目的を果たしたときには評価され、祝福してもらえらるなら、旅の長さに関係なく、どんなにか楽しい物語になることでしょう。

最も偉大な教師であり弁護士である御方はこうおっしゃいました。「わたしはあなたが先に先立って行こう。わたしはあなたがたの右におり、また左にいる。わたしの御霊はあなたがたの心の中にある。また、わたしの天使たちはあなたがたの周囲にいて、あなたがたを支えるであろう。」(教義と聖約84:88)この平安な

しに旅を続けられる人がいるのでしょうか。

ヘンリー・クレグは、忠実な聖徒と住み、場所を得、義にかなった家族を築き、隣人に仕えるために、前進しました。悲しいときにも、その理想を持ち続けました。ガーナの初等協会の子供は「毎日正義を選ぶとはどういうことですか」という問いに、「毎日救い主に従い、難しいときでも全力を尽くすことです」と答えました。この時代の開拓者であるこの少年は、「毎日戒めを守る」というヒンクレイ大管長の勧告を知っていました。毎日一歩ずつ前へ進むことで、自分の物語が展開していくことを理解していたのです。

昨年秋、スペイン語のみによる初等協会の訓練ビデオを作成しその中で教えるという、すばらしいと同時に困難でもある機会を得ました。スペイン語を話した時期もありましたが、最近はポルトガル語を使っていたので、学び直す必要があ

りました。難しい問題に取り組むときに皆さんがすることは、わたしもすべて行いました。スペイン語を話す、有能で献身的な姉妹たちに助けてもらい、ともに学び、祈り、断食し、何時間も練習しました。そしてついに、主から命じられたことを行って行く日が来ました。恐れと同時に、不十分だという気もしてきました。本番直前まで準備し、できることはすべて行いましたが、最初からやり直せたらどんなにいいかと思いました。

わたしたちはそれぞれの夫から神権の祝福を受け、平安と落ち着きを取り戻しました。優しい夫は録音中、30分置きにアラームをセットして、何度も祈ってくれました。カメラマンは「よくできたよ」と目で合図を送ってくれました。彼らは天使のように思えました。そのおかげで、初等協会の指導者たちは御霊の働きを信頼しながら、メッセージを伝えることができました。ついに、スペイン語圏の指導者に役立つビデオが完成しました。この企画に参加した人は皆、その出来栄に驚き、すべてに心から感謝しました。わたしたちは最善を尽くして歩みました。そして荷車をわきにほうり出しそうになったときには、天使たちが後ろから押してくれました。

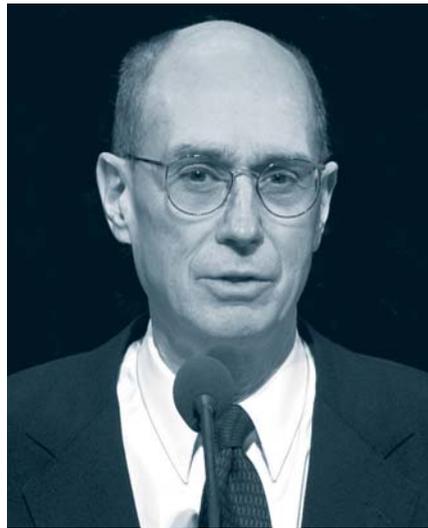
わたしたちはこの経験から何を学んだのでしょうか。ヘンリー・クレッグ・ジュニアやジミー、忠実な現代の開拓者と同じことを学んだのです。神には、おできにならないことは何もありませんが（ルカ1：37参照）、人は自分の物語を完成させなくてはなりません。主は御霊を送られ、人は励まし合います。しかし物語が完結するまで、書き続け、歩き、仕え続け、新たなチャレンジを受け入れなくてはなりません。「歩き続ける」ことは人生の旅に欠かせません。主はわたしたちが最後までやり遂げ、みもとに戻って来ることを望んでおられます。皆さんの物語が、信仰の創始者であり完成者である天の御父とその御子、救い主イエス・キリストの御前で完結するようお祈りします。イエス・キリストの御名により、アーメン。

主の力を受けて

十二使徒定員会

ヘンリー・B・アイリング

どのような生活環境に置かれていても、戒めを守るには自分の力以上の力が必要です。



青年時代のある時期、わたしはすばらしい地方部長の副部長として奉仕しました。彼は様々なことを教えてくれました。その中で一つ理解に苦しむ助言を受けたことを覚えています。それは、「だれか人に会ったら、その人が重大な問題を抱えていると考えて接してください。……50パーセント以上はそれで正しいでしょうから」というものでした。

そのとき、随分と悲観的な人だ、と思ったものでした。それから40年以上が過ぎた今、彼は世の中や人生を実によく理解している人だったことが分かります。時がたつにつれて、世界はますます多くの問題を抱えるようになっていきます。しかも人の体力は年齢を重ねるごとにゆっくりと落ちてきます。人の力以上の力が必要になるということがよく分かってきます。詩篇の作者はそれに気づいていました。

「正しい人の救は主から出る。主は彼らの悩みの時の避け所〔訳注——欽定訳でこの部分は「力」の意の“strength”となっている〕である。」¹

回復されたイエス・キリストの福音は、逆境に直面したときに主の力を受けるにふさわしくするにはどうしたらよいかを教えてください。福音はまた、どうして人生には試練が付き物なのかを説明しています。さらに大切なことに、主から守りと助けを受ける方法を明らかにしています。

試練に遭うのは、天の御父に愛されているからです。人が御父と御子イエス・キリストの御前で、栄光を受け、家族と一緒に永遠に住むという祝福を受ける資格を得られるように助けること、それが御父の目指しておられることです。そのような祝福を受けるには死すべき体を受けなければなりません。死すべき体を受けることで誘惑と苦難により試されることを、わたしたちは理解していました。

回復された福音は、なぜ試練を受けなければならないかを教えているだけでなく、試練とは何かを明らかにしています。預言者ジョセフ・スミスは一つの説明を与えています。ジョセフは啓示により、世界が創造されたときに語られた御言葉（みことば）を記録することができました。それはわたしたち、すなわちこの世に来ることになっていた天の御父の霊の子供たちに関する事柄です。これがその御言葉です。

「そして、わたしたちはこれによって彼らを試し、何であろうと、主なる彼らの神が命じられるすべてのことを彼らがなすかどうかを見よう。」²

この言葉は、人はなぜこの世で試練を受けるのかを理解する助けとなります。試練は、神に忠実であることを証明する機会を与えてくれているのです。人生には実に様々な苦難が降りかかってくるため、自分の力ではとうてい堪え忍べないと感じることがあるかもしれません。聖典には「最後まで堪え忍ば〔なければならぬ〕」と記されています。³ わたしが初めてこの聖句を読んだときも「自分は堪え忍べるだろうか」と感じました。とても厳しい要求だという印象を受けたのです。たとえて言うなら、だれかに歯を引き抜かれている間、いすに座り、ひじかけにしがみついてじっとしているようなことでした。

それは穀物の収穫を当てにしている家族にとって、雨が降らずに困っている日々にとえることができます。「いつまで耐えたらよいのだろうか」と思うことでしょうか。墮落と誘惑という洪水にさらされている青少年にとえることもできます。妻子を養うために苦勞しながら職業訓練を受けている青年にとえることもできます。また、会社が次々に閉鎖されて仕事が見つからない人や失業した人にもたとえることができます。さらに、自分自身か愛する人々が若くして、あるいは年老いてから健康を害した場合や体力の減退に苦しんでいる場合にとえることもできます。

しかし愛にあふれる神が与えておられる試練は、苦難に耐えられるかどうかを試すものではなく、苦難に耐えながらも、義にかなった生活をするかどうかを試すものなのです。わたしたちは神を覚え、神から与えられた戒めを守ると証明することによって試練を乗り越えるのです。立派に堪え忍ぶには、どのような反対に遭っても、どのような誘惑を受けても、どのような問題に取り囲まれても、神の戒めを守らなければなりません。わたしたちがこのように明確な理解を持っているのは、回復された福音が幸福の計画を非常に分かりやすく説明しているからです。

この明確な説明から、わたしたちにはどのような助けが必要かが分かります。どの



ような生活環境に置かれていても、戒めを守るには自分の力以上の力が必要です。ある人は貧しい環境に、ある人は豊かな環境に置かれているかもしれません。年齢から来る衰えを感じている人もいれば、若さゆえに物事に熱中しすぎてしまう傾向にある人もいます。試練とそれが続く期間は、天の御父の子供たちそれぞれに違います。一つとして同じ試練はありません。けれども、人生を通じて常にまたあらゆる人が試しを受けるという点においては同じです。わたしたちは主なる神の命じられることを何でも行うという気持ちを抱いているでしょうか。

なぜ試しを受けるのか、そして試しとは何かを知ると、助けを受けるにはどうしたらよいか分かってきます。神の御前に行かなければなりません。神は戒めを与えておられます。戒めを守るためにわたしたちは自分の力以上の力を必要とします。

回復された福音はまた、わたしたちが行う必要のあるのは単純な事柄であることを明らかにしています。そして、危機が訪れるずっと前からそうしたことを確実に実行しているならば、必要な助けが必ず与えられることを約束しています。

まず最初に、そして途中で、さらに最後に行うべきことは祈りです。救い主はその方法を教えてくださいました。最も分かりやすい指示の一つが第三ニーマイにあります。

「見よ、まことに、まことに、あなたがたに言う。あなたがたは誘惑に陥らないように、常に目を覚ましていて祈らな

ければならない。サタンはあなたがたを小麦のようにふるいにかけることを願っているからである。

だからあなたがたは、わたしの名によって常に父に祈らなければならない。

与えられると信じて、わたしの名によって父に求めるものは、正当であれば、見よ、何でもあなたがたに与えられる。

あなたがたの妻子が祝福を受けるように、あなたがたの家族の中で、わたしの名によって常に父に祈りなさい。⁴ このように、わたしたちは常に祈らなければならないのです。

神から力を頂くために行うもう一つの簡単なことは、神の御言葉をよく味わうことです。つまり、教会の標準聖典と生ける預言者の言葉を読み、深く考えることです。毎日それを実行するならば、神の助けを受けると約束されています。聖文を熱心に研究することによって、聖霊の訪れを受けます。この約束は、モルモン書に記されています。この約束は神が与えてこられた命の言葉、また預言者を通して今後与えられるあらゆる命の言葉に当てはまるものです。

「見よ、わたしはあなたがたに勧めたい。あなたがたにとってこの記録を読むことが、神の知恵にかなうようであれば、あなたがたはこれを読むときに、アダムが造られてからあなたがたがこれを受けるときまで、主が人の子らにどれほど隣れみをかけてこられたかを思い起こし、それを心の中で深く考えてほしい。

また、この記録を受けるとき、これが真実かどうかキリストの名によって永遠



ロシア・サンクトペテルブルクの会員、ネボムニャツツイー家族。

の父なる神に問うように、あなたがたに勧めたい。もしキリストを信じながら、誠心誠意問うならば、神はこれが真実であることを、聖霊の力によってあなたがたに明らかにしてくださる。

そして聖霊の力によって、あなたがたはすべてのことの真理を知るであろう。』

この約束が一度だけでなく何度も、またモルモン書だけでなくすべての聖文について果たされるよう願う必要がある。この約束は確かに果たされます。聖霊の力は現実に存在します。繰り返し与えられるものです。そして聖霊が常に証してくださる最も大切な真理は、イエスがキリストであられることです。

その証によって、救い主に近づき、この世の過酷な試練を受けているすべての人に主がお与えになる助けを得ることができます。救い主は幾度となく、めんどりが羽の下にひなを集めるように、わたしたちを集めようと言われました。主はまた、柔和な心と主への信仰をもって主の御前に行き、「十分に固い決意をもって」⁶悔い改めなければならない、とおっしゃっています。

そのように行う一つの方法は、主の教会で聖徒たちとともに集まることです。たとえ難しいと感じても、集会に出席してください。そう決意していれば、主は実行する力を得られるよう助けてくださいます。

イギリスに住むある会員から、手紙を受け取りました。彼女は監督から、早朝セミナーの教師の召しを受けてほしいと言われ、引き受ける前に祈るように勧められました。彼女はそのとおりに実行し、召しを受けました。初めて親たちの前に立ったとき、監督は彼女とともにいました。彼女は、セミナーは週に5日行わなければならないと考えていると言いました。何人かの親は戸惑った様子でした。ある人は言いました。「子供たちは来ないでしょうね。出席するかどうかで彼らの気持ちが分かるでしょう。」

その意見は半分当たっていました。生徒は文字どおり出欠状況で気持ちを示しました。しかし現在、朝のまだ寒く暗い時間に開かれているそのクラスの出席率は、90パーセントを超えています。もし出席し始めたら、生徒たちは自分の力以上の力によって励ましを受けることを教師と監督は信じていました。その力が与えられたのです。自分たち以外に末日聖徒がいない場所へ行くことがあっても、彼らはその力によって守られることでしょう。彼らは孤独でもなく、無力でもないので。決して易しいことでもなく、聖徒たちとともに集まるという呼びかけに応じたからです。

この力は年配の人にも若い人にも同様に与えられます。わたしは夫を亡くし90歳

を超えたある女性を知っています。彼女は車いすの生活を送っています。皆さんと同じように祈り、自分の力では解決できない問題を解決する力を願う求めています。答えを心で感じています。そして「見よ、あなたがたはしばしばともに集いなさい」⁷という戒めを守ろうとする思いが強まりました。やがて集会に出席する方法を見つけました。そこに集う人々はこのように話してくれました。「彼女が来てくれることをほんとうに喜んでいます。すばらしいスピリットをもたらしてくれまます。」

彼女は聖餐を受け、聖約を新たにしています。救い主を覚え、戒めを守るために努力しています。こうして常に主の御霊を受けているのです。抱えている問題は解決しないかもしれませんが。ほとんどの問題は他人の選択の結果として降りかかってきたものです。天の御父は祈りに耳を傾け、愛してくださいますが、ほかの人たちに善を選ぶよう強制することはなさいません。けれども天の御父は、救い主の守りを与え、御霊を授けるといふ約束を果たすことはおできになります。聖徒たちとしばしば集まるという戒めを守っているのです。彼女は主の力を受けて、直面する試練を乗り越えられることを、わたしは確信しています。教会に集っていることは、彼女が立派に堪え忍んでいることの証拠であり、行く手に立ちだかる試練を乗り越える力の源となっています。

もう一つ、なすべき簡単なことがあります。この教会は回復された主の教会なので、教会で奉仕する召しは、主に仕える召しを意味します。先ほどのイギリスの監督はとても賢明な人でした。監督はその姉妹に自分の召しについて祈ってみるように言いました。彼女がどのような答えを受けるかを知っていました。それは御父とその愛される御子からの招きとなるでしょう。監督は主からの召しにこたえることによって彼女が何を学ぶかを知っていました。全力を尽くして召しを果たす人に、聖霊は伴侶となって訪れてくださいます。彼女は親たちの前に立ったとき、

そして生徒たちがセミナーに出席することで自分たちの気持ちを示したときに、きっとそれを感じたことでしょう。難しいと思われたこと、自分の力ではほとんど不可能だと思われたことが、主の力を受けて喜びへと変わったのです。

彼女は聖文を読み、深く考え、レッスンを準備するために祈るとき、救い主が聖霊を遣わしてくださるよう御父をお願いしてくださったことを知っています。それは主が最後の晩餐の席で弟子たちに約束されたことでもありました。主は弟子たちを試練が待ち受けていること、しかも彼らを後に残していかなければならないことを御存じでした。主は弟子たちを慰める者のいないまま放置するようなことはされませんでした。主は、弟子たちに与えた聖霊を遣わすという約束を、主の業に働くわたしたちにもお与えになっています。ですから、奉仕する機会が与えられたら、受け入れてください。そうすれば、召しによって出遭う試しよりもはるかに大きな試練をも克服する力が得られるでしょう。

すべての人が教会の正式な召しを受けるわけではありません。けれども、すべての弟子は証を述べることによって、また人に親切にすることによって主に仕えます。わたしたちは皆そうすることを、バプテスマの水に入るときに約束しました。そして神への献身を続けるならば、すべての人が御霊を伴侶とすることができるでしょう。

主に奉仕することによって皆さんは主を知り、主を愛するようになります。祈りと奉仕を忠実に続けるならば、聖霊がともにおられることに気づくようになります。わたしたちの多くはそのような奉仕を行った時期があり、そのとき聖霊が伴侶となってくださっていると感じたことでしょう。当時のことを振り返ってみるならば、皆さん自身の中で変化が起きたことを思い出すでしょう。邪悪な行いへの誘惑が弱まったと感じたことでしょう。善を行う望みが高められたことでしょう。皆さんを愛し、よく知る人々はこう言ったことでしょう。「以前にも増し



ロシア・サンクトペテルブルクのピリベンコ家族。友人のミハイル・コトフとともに家庭で大会の模様を視聴している。

て親切で、忍耐強くなりましたね。まるで別人のようです。」

イエス・キリストの贖いの効力が実際に及んだため、皆さんはすっかり変わったのです。わたしたちが新しい、変化を遂げた、より善い人になることができるという約束は真実です。人生の試練に立ち向かえるようもっと強くなれます。そして、主の力をもって働くのです。それは主の奉仕の業にあって培われる力です。主と一緒に歩んでくださいます。そしていつの日かわたしたちは、試しを乗り越えた、力ある弟子となるのです。

そして皆さんは自分の祈りに変化が起きていることに気づくでしょう。以前よりも熱意を込めて、しばしば祈るようになります。祈りの中で語る言葉は以前とは別の意味を持つようになります。わたしたちはイエス・キリストの御名によって常に御父に祈るようにとの戒めを受けています。御父に祈るときに、自分が信頼されている、正真正銘のイエス・キリストの弟子として、御父の御前へ通じる道歩んでいるという確信が深まるでしょう。また、御父はこの世でいっそう大きな平安と力を与えてくださいます。さらに、この試しの生涯を終えるときに次のような言葉をかけていただけるという喜ばしい期待をも与えてくださるでしょう。「良い忠実な僕よ、よくやった。」⁸

わたしは父なる神が生きておられることを知っています。神はあらゆる祈りを聞き、そしてこたえてくださることを証します。御子イエス・キリストはわたしたちのすべての罪の代価を支払われたこと、みもとに来るよう望んでおられることを知っています。御父と御子はわたしたちに人生の試練を乗り越えるよう望んでおられることを知っています。御二方はわたしたちのために道を備えておられることを証します。終わりの時に福音が回復されたことにより、道がはっきりと示され、わたしたちは主の戒めを知ることができました。イエス・キリストのまことの教会にいるわたしたちは、聖霊を伴侶とするという約束がかなえられるよう求めることができます。それによって、苦難に耐えながらも、義にかなった生活をする事ができるのです。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. 詩篇37:39
2. アブラハム3:25
3. 2ニーファイ31:20
4. 3ニーファイ18:18-21
5. モロナイ10:3-5
6. 3ニーファイ10:6
7. 3ニーファイ18:22
8. マタイ25:21

個人の影響力

第一副管長

トーマス・S・モンソン

ガリラヤの人すなわち主イエス・キリストに従うならば、わたしたちはどこにいても、どのような召しにあっても個人として良い影響を及ぼすことができます。



この会場に来ている兄弟姉妹また世界各地の会場に集まっている兄弟姉妹、皆さんの祈りと信仰によって、この話の責任と特権がよくこたえられるよう願っています。

40年以上前に、デビッド・O・マッケイ大管長から十二使徒定員会の一員として召されたとき、大管長は心からの笑みをたたえ、愛情の込めた抱擁でわたしを温かく歓迎してくれました。マッケイ大管長がくれた尊い勧告の一つに、次のような言葉がありました。「だれも回避することのできない責任があります。それは個人の影響力を人に及ぼすという責任です。」

古代の使徒たちの召しには、主の影響力が反映していました。主は信仰篤い人を探し求めるときに、会堂の中で普通に見られた大勢の独善的な人々の中から選ぶようなことをされませんでした。カバ

ナウムの漁師の中から選ばれたのです。ペテロ、アンデレ、ヤコブ、ヨハネが受けた召しの言葉は次のようなものでした。「わたしについてきなさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。」¹ 彼らはその召しに従いました。疑い深い人だったシモンは、信仰篤い使徒ペテロとなったのです。

救い主は熱意と力にあふれる宣教師を選ぶときに、御自分の支持者ではなく敵対者の中から探されました。迫害者であったタルソのサウロは伝道者パウロとなりました。贖い主は不完全な人々を選んで、完成への道を教える人とされました。そして、現在もそのようにしておられます。

主は皆さんやわたしをこの地上で主に仕えるよう召して、果たすべき務めを与えておられます。それは絶対的な信頼です。疑念が生じる余地はまったくありません。

そのガリラヤの人すなわち主イエス・キリストに従うならば、わたしたちはどこにいても、どのような召しにあっても個人として良い影響を及ぼすことができます。

与えられた務めはあまり大切でなく、不必要で、人の目に留まらないように思えるかもしれません。自分の召しに対してついに疑いを抱いてしまう人もいることでしょう。

「天の御父よ、今日はどこで働けばよいのでしょうか。」
わたしの心は温かく、
愛で満ちていました。
すると、天の御父は
小さな場所を指して言われました。
「わたしに代わって

あそこへ行っておくれ。」
わたしはすぐさま答えました。
「いいえ、あそこは嫌です。
どんなによく働いても、
だれも見えてはくれないでしょうから。
あの小さな場所はやめてください。」
すると
天の御父の言葉が聞こえてきました。
厳しい調子ではありません。……
「あなたが働くのは、人のためか、
それともわたしのためか。
ナザレは小さな場所であった。
そしてガリラヤも。」²

教育の理想の場は家庭です。家庭は学習の場でもあります。家庭の夕べを通して、家族一人一人が霊的に成長することができます。

「家庭は義にかなった生活の基であり、ほかのどのような手段も、家庭に代わり得ないし、大切な役割を果たしてはくれません。」³ 多くの大管長はこのような真理を教えてきました。

父親と母親は家庭の中で子供に賢明な生活について教えることができます。家事を分担し、互いに助け合うことは、子供たちがやがて成長し、結婚し、家を離れて将来家族を築くときのための規範となります。家庭で学ぶ教訓はいつまでも心に残ります。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は不必要な負債を避けること、収入以上の生活をするものの誤り、欲求を必要に置き換えようとする誘惑について繰り返し強調しています。

使徒パウロは愛するテモテに「言葉にも、行状にも、愛にも、信仰にも、純潔にも、信者の模範になりなさい」⁴ と勧告しました。この勧告に従うことによって、わたしたちは個人の影響力を、接する人々の心の奥底にまで及ぼすことができます。

わたしが子供のころ、家族はパイオニアステークの第6・第7ワードに所属していました。ワードの会員の出入りが割合頻繁だったため、日曜学校の教師も頻繁に替わりました。教師と親しくなると、そのすばらしさに気づくころになると、日曜学校の会長がクラスを訪れて、新しい教師を紹介す



るという繰り返しでした。わたしたちはがっかりして、それとともにクラスの規律も失われていきました。

後任の教師をするよう打診された人たちは、クラスの悪評を耳にしていたため、やんわりと辞退するか、生徒の扱いやすいほかのクラスを担当したいと願ひ出ました。わたしたちは新たに獲得したステータスに誇りを感じ、教師から恐れられるクラスの生徒として恥じないように振る舞おうと決意していました。

ある日曜日の朝、若くて美しい女性が会長に伴われて教室に入って来ました。そして、彼女は自ら志願してわたしたちのクラスの教師に召されたことを知らされました。やがてわたしたちは、彼女が帰還宣教師で、青少年たちを愛していることを知りました。彼女はルーシー・ガーシュといいました。美しく、また穏やかな口調で話す人でした。わたしたちに関心を持っていました。生徒一人一人に自己紹介をさせると、それぞれの背景を理解するために幾つかの質問をしまし

た。彼女自身はユタ州のミッドウェーで少女時代を過ごしたことを話してくれました。美しい峡谷で過ごした楽しい日々について語る彼女の話の聞いているうちに、わたしたちはその美しい情景を心に描き、彼女の愛する緑の野原に行ってみたいと思いました。

ルーシーは聖文について実にいきいきと教えてくれました。そのおかげで、サムエルやダビデ、ヤコブ、ニューファイ、ジョセフ・スミス、主イエス・キリストに親近感を覚えるようになりました。福音の知識が増し加えられました。行儀もよくなりました。そしてルーシー・ガーシュ姉妹に対する愛が無限に深まってきました。

あるとき、わたしたちはクリスマスに盛大なパーティーを開くために小銭をためる活動をしました。ガーシュ姉妹はそのたまり具合を注意深く記録し、食欲旺盛おうせいだったわたしたち男子は、これだけお金がたまれば、ケーキやクッキー、パイ、アイスクリームがこれだけ買えると胸算用

をしていました。盛大な催しになるはずでした。それまで、このような社交活動を提案した教師はいませんでした。

夏が終わって秋になり、秋が過ぎて冬になりました。パーティーの目標額はすでに達成していました。生徒たちも霊的に成長し、クラスはすばらしい雰囲気きふきに包まれていました。

そんなとき、忘れられない悲しい朝が訪れました。愛する教師からクラスの友達の母親が亡くなったことを知らされたのです。わたしたちは自分の母親に思いをはせて、母親がどれほど大きな存在かをかみしめました。大切な人を失ったビリー・デーベンポートに心から同情しました。

その日曜日のレッスンでは使徒行伝第20章35節を学びました。「『受けるよりは与える方が、さいわいである』と言われた主イエスの言葉を記憶し[なさい]』というテーマでした。よく準備されたレッスンの最後に、ルーシー・ガーシュ姉妹はビリーの家の経済状態について話しました。当時は大恐慌のさなかで、だれもがお金に不

自由していました。ルーシーは期待を込めた表情を見せながら、こう尋ねました。「主のこの教えを実行したいと思いませんか。わたしたちの愛のしるしとして、パーティーの資金をデーベンポート家の人々に差し上げてはどうでしょう。」全員一致で決まりました。わたしたちは小銭を一枚一枚数えてから、全額を大きな袋の中に入れました。美しいカードを買って、そこに皆の名前を記しました。

このささやかな思いやりの行為がわたしたちの心を一つにしました。こうしてわたしたちは、受けるよりも与えることの方がもっと大きな祝福であることを自らの経験によって知ったのです。

それから多くの歳月が流れました。古い礼拝堂は町の発展の犠牲となって、姿を消しました。その靈感あふれる真理の教師のもとで学び、笑い、成長した少年少女は、彼女の愛や教えを決して忘れていません。善に向かわせる彼女の個人の影響力は人から人へと広がりました。

個人の影響力を遠く、広く及ぼした中央幹部の一人に故スペンサー・W・キンボール大管長がいます。彼は数え切れないほど多くの人の生活に変化をもたらしました。

わたしが監督を務めていたある日、電話が鳴りました。電話の主はスペンサー・W・キンボール長老で、こう言いました。「モンソン監督、あなたのワードにトレーラーハウス（訳注——車で牽引する移動住宅）の区画がありますね。その小さなトレーラー、いちばん小さなトレーラーに愛するナバホ族の寡婦マーガレット・バード姉妹が住んでいます。扶助協会の会長に頼んで、彼女を訪問し、扶助協会の集會に誘うようにしていただけませんか。」わたしたちはそのようにしました。そしてマーガレット・バード姉妹は扶助協会に出席し、温かい歓迎を受けました。

キンボール長老はまた別の折に電話してきました。「モンソン監督、二人のサモア人の少年が繁華街のホテルに住んでいることを知りました。トラブルに巻き込まれるかもしれません。二人をあなた



のワードの会員として迎えてくださいますか。」

行ってみると、その二人は夜中にホテルの階段に腰を下ろして、ウクレレを弾きながら歌っていました。二人はわたしたちのワードの会員になりました。やがて二人とも神殿で結婚して、雄々しく奉仕の業に携わりました。彼らのすばらしい影響力は多くの人に及んでいます。

わたしが最初に監督に召されたとき、第6・第7ワードで『扶助協会誌』(Relief Society Magazine)の購読者数が減っていることに気づきました。わたしたちは購読推進係として召すことのできる人を慎重に検討しました。そしてエリザベス・キーチーを召すべきだという靈感を受けました。わたしは監督として、責任について話しました。すると彼女は、「モンソン監督、やります」と言ってくれました。

エリザベス・キーチーはスコットランド人の血筋で、彼女が「やります」と言うときはほんとうにやることをみんなが知っていました。エリザベスと彼女の義理の姉妹であるヘレン・アイボリーは、二人とも5フィート(約150センチ)そこそこの小さな体で、ワード中の家という家、通りという通り、ブロックというブロックを訪ねて歩き始めました。すると、驚くような結果が生じました。ステーキ内の全ユニットの合計よりも多くの『扶助協会誌』が購読されるようになったのです。

ある日曜日の夕べに、わたしはエリザベス・キーチーの働きをたたえてから、こう言いました。「あなたの任務は終わりましたね。」

すると彼女は、「監督さん、まだ終わっていませんよ。まだ行っていないブロックが二つあります」と答えました。

どのブロックかを聞いたわたしはこう言いました。「キーチー姉妹、そこにはだれも住んでいませんよ。工業地域ですから。」

「それでもやはり、ヘレンと一緒に行って、自分たちで確かめないと気が済みませんから。」

ある雨の日、彼女とヘレンは最後の二つのブロックを訪れました。最初のブロックには住んでいませんでした。二つ目のブロックにも人が住んでいる様子はありませんでした。二人は、先ごろの嵐でぬかるんでいた私道に立ち止まりました。キーチー姉妹が機械の組み立て工場に沿った道の先に目を凝らすと、100フィート[約30メートル]ほど先にガレージがあることに気づきました。けれどもそれは普通のガレージではなく、窓にカーテンが取り付けられていました。

彼女は同僚を振り返ると、言いました。「ヘレン、行って調べてみる?」

そして二人のすばらしい姉妹はぬかるんだ私道を40フィート(約12メートル)ほど歩いて、ガレージの全体が見える場所まで行きました。よく見ると、ガレージのわきにドアが取り付けられていました。それは通りからは見えませんでした。煙突があつて、煙が出ていることにも気づきました。

エリザベス・キーチーがドアをノックしました。68歳になるウィリアム・リングウッドが出て来ました。そこで二人はすべての家庭が『扶助協会誌』を購読することの大切さを伝えました。ウィリアム・リングウッドは「それなら、父に話してもらった方がいいですね」と言いました。

次に94歳のチャールズ・W・リングウッドが出て来て、二人のメッセージを聞きました。そして購読することになりました。

エリザベス・キーチーはワードにこの



二人が住んでいることを、わたしに報告しました。わたしが教会本部に会員証明書を請求すると、管理監督会事務局の会員記録部から電話がありました。職員は言いました。「チャールズ・W・リングウッドが確かにあなたのワードに住んでいるのですか。」

そのとおりです、と答えると、彼の会員証明書はこれまで16年間も、管理監督会事務局の「不明会員」のファイルに入れられたままになっていたとのことでした。

日曜日の朝、エリザベス・キーチーとヘレン・アイボリーは神権会にチャールズとウィリアムのリングウッド親子を連れて来ました。彼らが礼拝堂に足を踏み入れたのは実に久しぶりのことでした。わたしはチャールズ・リングウッドほど年輩の執事に会ったことがありませんでした。彼の息子はわたしが会った神権者でない男性会員の中で最年長の人でした。

わたしはチャールズ・リングウッド兄弟を教師に、そして祭司に、最終的に長老に聖任する機会に恵まれました。彼の神殿推薦状の面接をしたことは忘れられません。彼は古く、くたびれた皮製の小銭入れから1ドル銀貨を取り出して、言いました。「断食献金です。」

わたしは言いました、「リングウッド兄弟、断食献金を納める必要はありませんよ。これはあなたに必要なお金でしょう。」

「わたしはお金を手もとに置いておくよ

り、祝福を受けたいのです」と彼は言いました。

わたしはチャールズ・リングウッドをソルトレーク神殿へ連れて行き、エンダウメントのセッションを一緒に受ける特権を得ました。

それから数か月の後にチャールズ・W・リングウッドはこの世を去りました。葬儀では、礼拝堂の前列に彼の家族が座っているのに気づきました。また後ろの方に二人のすばらしい女性、エリザベス・キーチーとヘレン・アイボリーが座っているのにも気づきました。

忠実で献身的なこの二人の女性を見詰め、二人が及ぼしたすばらしい影響について思い巡らしているとき、主の約束がわたしの全身を貫きました。「主なるわたしは、わたしを畏れる者に憐れみ深くかつ恵み深く、また最後まで義をもって真理にかなってわたしに仕える者に誉れを与えるのを喜びとする。彼らの受ける報いは大きく、彼らの栄光は永遠である。」⁵

すべてに勝る御方がおられます。この御方の持つておられる個人の影響力は、大陸を覆い、大海に広がり、まことの信者の心を貫きます。この御方は人類の罪を贖われました。

この御方は真理の教師ですが、教師以上の御方であられることを証します。この御方は完全な生活の模範を示されましたが、模範者以上の御方です。この御方

は偉大な医者ですが、医者以上の御方です。この御方は文字どおり、世の救い主、神の御子、平和の君、イスラエルの聖者、復活された主です。そしてこう宣言しておられます。

「わたしはイエス・キリストであり、世に来ると預言者たちが証した者である。……わたしは世の光であり命である。」⁶

「わたしは最初であり、最後である。わたしは生きている者であり、殺された者である。わたしは父に対するあなたがたの弁護者である。」⁷

わたしは主の証人として、主が生きておられることを証します。救い主イエス・キリストの聖なる御名によって、アーメン。

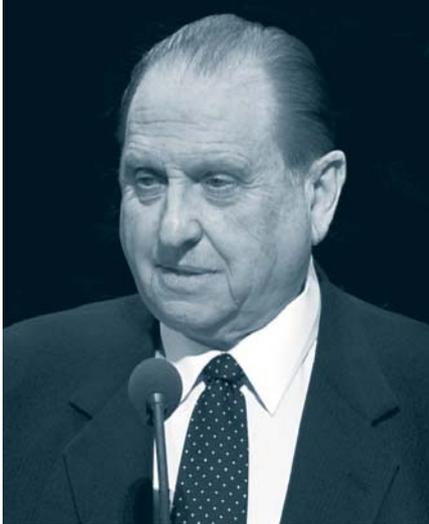
注

1. マタイ4:19
2. ミード・マクガイア, "Father, Where Shall I Work Today?" *Best-Loved Poems of the LDS People*, ジャック・M・ライオンほか共編 (1996年), 152
3. 大管長会からの手紙, 1999年2月11日付。『リアホナ』1999年12月号, 1で引用。
4. 1テモテ4:12
5. 教義と聖約76:5-6
6. 3ニーファイ11:10-11
7. 教義と聖約110:4

教会役員の支持

第一副管長

トーマス・S・モンソン



兄 弟姉妹の皆さん、ヒンクレー大管長の依頼により、これから、教会の中央幹部、地域幹部七十人、ならびに中央補助組織会長の名前を提議しますので、皆さんに賛意の表明をしていただきたいと思ひます。

預言者、聖見者、啓示者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてゴードン・ビトナー・ヒンクレーを支持してください、また、第一副管長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、第二副管長としてジェームズ・エストラス・ファウストを支持してくださいよう提議いたします。

この提議に賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば同様にその意を表してください。

十二使徒定員会会長としてトーマス・スペンサー・モンソンを、十二使徒定員会会長代理としてボイド・ケネス・バックナーを、また十二使徒定員会会員として、ボイド・K・バックナー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オーク

ス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリングを支持してくださいよう提議いたします。

この提議に賛成の方はその意を表してください。

反対の方。

大管長会の副管長、十二使徒を預言者、聖見者、啓示者として支持してくださいよう提議いたします。

この提議に賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば同様にその意を表してください。

七十人定員会会長会での働きに感謝を示し、デニス・B・ノイエンシュワンダー長老を解任するよう提議いたします。

この提議に賛成の方は皆、その意を表してください。

以下の人々を地域幹部七十人から解任するよう提議いたします。

アドルフォ・アバロス、ローウェル・C・バーバー、デビッド・J・バーネット、R・マイケル・ダフィン、ローランド・E・エルビッジ、シルビオ・ゲシュバンドナー、ブレント・H・コイル、J・マイケル・メラー、アドリアニ・オチョア、リンドン・J・ロビンソン。

感謝の意を表明してくださいの方は、その意を表してください。

中央日曜学校会会長会での働きに感謝を示し、メリル・J・ベイトマン、ジョン・H・グローバーク、バル・R・クリステンセンの各長老を解任するよう、また同様に中央若い男性会会長から、F・メルビン・ハモンド、リン・G・ロビンズ、ドナルド・L・ホールストロムの各長老を解任するよう提議いたします。

感謝の意を表明してくださいの方は、そ

の意を表してください。

七十人定員会会長会の一員として、ジョン・H・グローバーク長老を支持してくださいよう提議いたします。

この提議に賛成の方はその意を表してください。

反対の方。

以下の人々を地域幹部七十人として支持してくださいよう提議いたします。

ホルヘ・M・アルバレド、ホメロ・S・アマートー、ジョン・S・アンダーソン、ホルヘ・D・アレビラガ、A・ベナンシオ・カレイラ、ガブリエル・A・カンボス、マリオ・L・カーロス、ジョン・J・チップマン、リグランド・R・カーティス・ジュニア、セザール・A・ダビラ、モーシア・S・デルガド、キース・R・エドワーズ、J・ロジャー・フルーマン、ルイス・C・フランカ、マニュエル・ゴンサレス、ほった とおる きくち びん いー 堀田 徹、菊地 敏、李 庸煥、



2003年度教会監査部報告

教会監査部実務運営ディレクター

ウェスリー・L・ジョーンズ提出

末日聖徒イエス・キリスト教会大管長会に対して提示

アルフレッド・ヘリトン・デレモス, ドミンゴス・S・リンハレス, アレクサンダー・A・ヌニェス, メルビン・R・パーキンス, ジェームズ・C・ペリー, エロル・S・フィッペン, ジョン・C・ピングリー, ニール・E・ピッツ, ダイナ・M・レーエス, ホルヘ・A・ロハス, エリック・B・シャムウェー, ジョセフ・W・シターティ, テレンス・C・スミス, ローウェル・M・スノー, マイケル・J・テー, スタンリー・ワン, アレン・P・ヤング。

この提議に賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば同様にその意を表してください。

最近の決定により、七十人定員会の会員は日曜学校や若い男性の中央会長会で奉仕しないようになりました。中央日曜学校会長としてA・ロジャー・メルル, 第一副会長としてダニエル・K・ジャッド, 第二副会長としてウィリアム・D・オズワルドを支持してくださるよう提議いたします。

また、中央若い男性会長としてチャールズ・W・ダールクウィスト, 第一副会長としてディーン・リード・バージェス, 第二副会長としてマイケル・アントン・ナイダーを支持してくださるよう提議いたします。

この提議に賛成の方はその意を表してください。

反対の方。

そのほかの中央幹部, 地域幹部七十人, 中央補助組織会長会を現状のまま支持してくださるよう提議いたします。

この提議に賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいればその意を表してください。

提議は全員一致で賛意の表明が得られたようです。

兄弟姉妹の皆さんの変わらぬ信仰と祈りに感謝いたします。

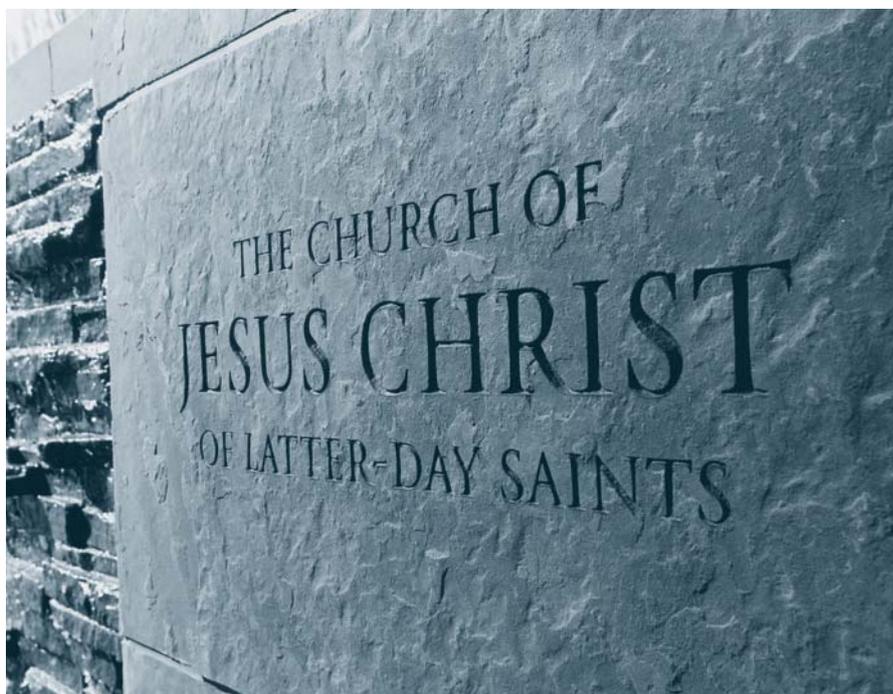
新たに召された日曜学校と若い男性の中央会長会の会員は、壇上の席に着いてくださるようお願いします。ただし、ウィリアム・D・オズワルド兄弟は現在、ロシア・ウラジオストック伝道部の部長として奉仕しているため、この場には出席していません。

愛する大管長会の皆様。
末日聖徒イエス・キリスト教会は、監査部を運営しています。この監査部は、教会のほかのあらゆる部門や運営組織から独立して業務を遂行しています。教会監査部の実務運営ディレクターは定期的に、大管長会に直接報告します。教会監査部の職員は、公認会計士、公認内部監査人、公認情報システム監査人、そのほかの資格ある専門家によって構成されています。

大管長会の指示の下に、教会監査部は世界全体にわたる教会のすべての部門、運営組織の監査を行う権限を保持しています。教会監査部には、献金と支出、教会資産の監査を行うために必要なあらゆる

システム、記録、職員、不動産の情報を入手する権利があります。監査作業は、財務と運営に関する専門的な監査基準ののっとって行われます。監査項目を選択する際の指針としておもに考慮されるのは、各部門が抱える危険要素です。

什分の一配分評議会は、教会基金の支出に対して責任を持っており、2003年度の教会基金の支出を承認しました。同評議会は、啓示によって規定されたとおり、大管長会、十二使徒定員会および管理監督会で構成されています。同評議会の指示の下、献金と支出、教会資産に対する責任は、各部門の運営責任者と教会の予算・財務部によって管理されています。運営、予算、財務をつかさどる責任者が



管理する資金についてはすでに監査と報告を終えています。

監査の結果、教会監査部では、2003年度の受領した献金、基金の支出、および教会資産の運用は、すべての点で、承認された予算指針と定められた教会の方針と手続きに従って管理されているという見解に達しました。

教会とは別に運営されている、教会の関連組織が行う財政活動については、教会監査部は2003年度の監査を行っていません。これらの組織の財政と関連する照合書類は、独立した公認会計事務所から監査を受けています。これらの組織には、デゼルト・マネージメント・コーポレーションとその子会社、およびブリガム・ヤング大学など、教会運営の高等教育機関が含まれています。しかしながら、教会監査部は、これらの公認会計事務所が各組織の監査委員会に対して監査結果の報告を適切に行ったことを確認しました。

以上、謹んでご報告いたします。

教会監査部
実務運営ディレクター
ウェスリー・L・ジョーンズ

2003年度統計報告

大管長会秘書
F・マイケル・ワトソン提出

兄 弟姉妹の皆さん、大管長会は、2003年12月31日現在の会員数の増加と現況を示す以下のよ
うな記録を発表しました。

教会ユニット数

ステーキ2,624
伝道部337
地方部644
ワードと支部の合計26,237

教会員数

教会員総数11,985,254
記録上の子供数の増加99,457
バプテスマを受けた改宗者242,923

宣教師

専任宣教師数56,237

神 殿

2003年に奉獻された神殿数2
(オーストラリア・ブリスベン、
カリフォルニア州レッドランズ)
儀式が執行されている神殿数116

2003年4月以降に他界した著名な 教会員

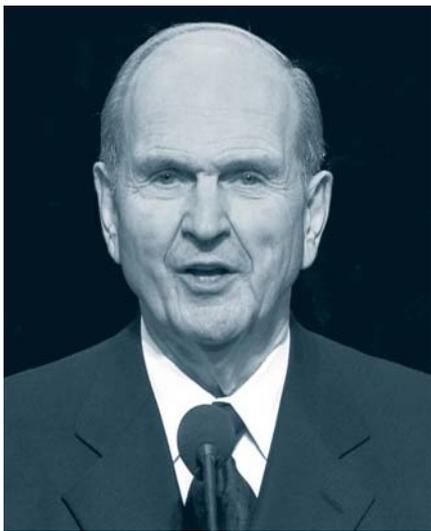
ヤコブ・ディアガー長老 (名誉中央幹部)
アンドリュー・ウェイン・ピーターソン
長老 (名誉中央幹部)
ロバート・L・シンプソン長老 (名誉中
央幹部)
イレイン・キャノン姉妹 (元中央若い
女性会長)
ロイ・M・ダーレー兄弟 (元タバナク
ル・オルガン奏者)



根と枝

十二使徒定員会
ラッセル・M・ネルソン

要約すれば、イエス・キリストの愛が心に深く根ざしているなら、人生で最も大いなる祝福がもたらされるのです。



空 港でセキュリティチェックを受ける度に、写真の付いた身分証明書の提示を求められます。だれもがそれは必要で役立つことを知っているの、納得して従います。しかし、本人であることを示すためとはいえ、わたしは不承不承写真を見せます。もしパスポートの写真を見た人から、「実によく撮れている。あなたそのものだ」とでも言われようものなら、わたしはすぐに家に帰って、もう少し見栄えをよくしようと努めるでしょう。でも、写真を提示するとき気が進まないのには、もう一つ理由があります。写真にはわたしの「根」と「枝」が何も写っていません。根も枝もわたし個人の重要な部分です。木の幹しか写っていない写真を見て、その木について多くのことが分かるのでしょうか。いいえ、分かりません。木の根と枝が、もっと多くの情報を与えてくれるのです。わたしたち個人や

宗教についても同じです。

個人の根

個人の根、つまり先祖はほんとうに重要です。ネルソン姉妹とわたしが知っているある家族は、家の外壁に描かれた巨大な絵で先祖のルーツを誇らしげに表しています。その美しい作品は、夫婦それぞれの家系をはっきりと描写しています。

親戚の人たちが生まれたばかりの赤ちゃんを囲むと、「この赤い髪、お母さんそっくり」とか、「あごはお父さん似だね」という言葉が必ず出てきます。

だれにでも先祖という「根」があります。男性は父親と似た遺伝的特徴を幾つか受け継ぎ、女性は母親と似た特徴を幾つか受け継ぎます。¹ それに加えて、一人一人を特異な存在にするほかの遺伝的な特質を受けています。

人は肉体と霊から成るので、² わたしたちには遠い昔にさかのぼる霊の「根」もあります。それらは人の価値観や信条、信仰を形作っています。霊の根は、主の教えと理想に従う決意へとわたしたちを導くのです。³

子供には親の模範をまねようとする自然の欲求があります。普通、男の子は父親のような考え方や仕事を身に付ける傾向があり、女の子は母親のような生き方にあこがれるものです。ですから両親の皆さん、いつか子供たちが皆さんより優秀になっても、あまり驚かないください。

肉体的、霊的な個人の「根」に感謝しましょう。わたしは、命を与えてくださった

創造主はもちろん、愛する両親や先祖に感謝しています。創造主および両親や先祖について学び、神殿で奉仕することにより、敬うように努力しています。⁴ 親には自分の「根」に関する知識を子供や孫たちに教える責任があります。ともに家族の歴史を学ぶとき、家族は一つになります。

宗教の根

また、自分の宗教の「根」を知る必要があります。末日聖徒イエス・キリスト教会は、1830年に正式に組織され、ずっと過去にさかのぼる「根」から回復されました。今や過去の神権時代から真理が集められ、詳しく述べられ、明らかにされました。⁵ 両親や教師にとってすばらしい教材は、信仰箇条です。預言者ジョセフ・スミスが書いたこの文書⁶ は、わたしたちの宗教を支える多くの教義について述べています。神会、選択の自由、アダムの墮落、イエス・キリストの贖いに言及しています。悔い改め、バプテスマ、聖霊の賜物を授けるための按手という基本原則と儀式について説明しています。神権の権能と組織に関する記述もあります。聖書とモルモン書、そして神から引き続き与えられる啓示が神聖な聖文であると明言しています。⁷ また、イスラエルの集合が現実のものであると宣言しています。わたしたちの宗教の「根」を教えるとき、この貴重な文書はまさに真理の宝庫なのです。

わたしたちの宗教の根が明らかにしている教義には、ほかに天地創造、復活、⁸ 什分の一の律法、祈り、完全な神殿の祝福があります。これらの教義を教えるとき、わたしたちの土台が非常に堅固であることに気づきます。そして教義を実践するとき、この宗教の根が自分自身の霊的な力の一部となるのです。

改宗者は自分の霊的な根を強めなくてはなりません。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、すべての改宗者には友人、責任、神の善い言葉による養いが必要であると教えました。そのような根が大切な改宗者とその子供たちを支えるならば、改宗者は後に続く家族にとって開拓者となります。

残念なことに、自分自身の根が弱いた



日本町田ステークセンターで大会の様様を視察する会員たち。

めに、信仰深い家族から離れていく人がいます。開拓者である先祖の信仰に背を向ける人のことを聞くと、心が痛みます。信仰深い先祖を持ち、仕事で称賛を受けている才能豊かな友人は、ある教義上の疑問が原因で完全な福音に対する理解を失い、神殿に参入しなくなりました。別の知り合いで、傑出した開拓者を先祖に持つ優しい姉妹は、自分はもう「活発な会員」ではないと、丁寧に話しています。

これらの愛する人々は、この世に翻弄されて自分の根を忘れてしまったのでしょうか。回復のほんとうの意味と、そのために払われた代価を忘れたのでしょうか。開拓者から受け継いだ遺産や、祝福師の祝福に宣言された血統を忘れたのでしょうか。目の前にあるわずかで、はかない利益のために、永遠の命を忘れ、失ってもいいのでしょうか。彼らは自分を祝福してきた根を忘れたために、全能の神の業に携わる聖徒たちの霊的なきらめきを、もはや享受できないでいるのです。

彼らの気高い先祖たちは「啓示と預言の霊によって……神の力によって……真理を知りました。そして「主に帰依し……二度と道を踏み外」しませんでした。⁸ この先祖たちは、自分の子孫が道を外れたことをどう思うのでしょうか。先祖の失望

は悲しみに変わるでしょう。根から絶たれた実には、長くはもたないからです。

主は厳粛に次のように警告しておられます。

「あなたがたは……神の善い言葉によって養われてきた後に……預言者たちの言葉を拒むのだろうか。……キリストについて語られた言葉をすべて拒むのだろうか。また……神の力と、聖霊の賜物を否定し、……あなたがたのために備えられた偉大な贖いの計画をあざけるのだろうか。

……復活……が、あなたがたを恥とひどい罪悪感をもって神の法廷に立たせる。」⁹

一人一人がこの神聖な警告に耳を傾けるように願っています。

個人の枝

「根」が人格や個性の大部分を決定づけるように、「枝」も個性の重要な一部です。個人の「枝」は、子孫という実を結びます。¹⁰ 聖文が教えるように、「あなたがたはその実によって彼らを見わけ」るのです。¹¹ ネルソン姉妹とわたしは昔、「お子さんを知っているのです、お二人のことが分かるような気がします」と若い人からよく言われました。今では、お孫さんを知っているのです、お二人のことが分かりますという人から、

温かいあいさつを受けています。

宗教の枝

それと同じように、わたしたちの宗教も枝の実によって知られています。最近わたしは、遠く離れた国からの政府関係者に会いましたが、彼らは教会と教会が世界中で行っていることに深い感銘を受けておられました。家族に関する教会の教えに好感を抱き、『世界への宣言』を1部と家庭の夕べの手引きが欲しいとおっしゃいました。また、福祉プログラムと人道支援活動についてもっと知りたいとも言ってくださいました。わたしたちがそれに応じてできる限りのことをすると、彼らの関心は、教会が何をしているかから、なぜそれをしているかに移っていきました。わたしは木にたとえて説明しました。「皆さんは、教会のいろいろな実に関心を持たれました。どれも豊潤で力強い実です。しかし、実を生じた木について知らないことには、実を十分に味わうことはできません。そして木を理解するには、その根について知らなければならないのです。わたしたちの宗教についても同じです。根がなければ、実が生じないのです。」彼らは納得してくださいました。

福音という木の枝には、「愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実」¹² という実がなります。ハロルド・B・リー大管長はかつて次のように言いました。「肥沃な土壌に木を植え、剪定や耕作、灌漑を適切に行わなければ、甘くて見事な実はありません。同じように、高德、貞節、正直、自制、高潔、誠実という甘い実には、福音の真理と主イエス・キリストの生涯と使命に対する堅固な証に根ざした生活を送ってなければ、育たないのです。」¹³

福音の実には、主に従う人にはおいしいものです。わたしたちは「神の栄光は英知である」¹⁴ ことを理解しているので、教育を追求します。什分の一の祝福は、什分の一を納めることによって与えられます。¹⁵ 知恵の言葉を守ることにより、その報いを刈り取ります。¹⁶ 祈り、安息日を敬い、聖餐を受けることによって罪の束縛から守られますが、わたしたちはそのこと

を、福音を实践する経験から学んでいきます。ポルノグラフィや不道徳には近づきません。個人の清さに伴う平安は、福音の律法に従って生活するときのみ得られることを知っているからです。

主は次の約束と戒めを与えられました。「あなたがたは、わたしが語った言葉によって既にきよくされている。わたしにつながっていなさい。そうすれば、わたしはあなたがたとつながりよう。……わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。」¹⁷ 要約すれば、イエス・キリストの愛が心に深く根ざしているなら、人生で最も大いなる祝福がもたらされるのです。¹⁸

証

個人のひととなり、パスポートの写真だけでは分かりません。人には「根」や「枝」もあります。一人一人が神の特質に根ざしています。「みな、〔創造主の〕み手のわざです。」¹⁹ 永遠の存在です。前世において、わたしたち兄弟は神権の務めに予任されました。²⁰ 世界が創造される前に、女性は子供をもうけて神に栄光を帰すように備えられました。²¹

わたしたちは、肉体を得て試練と試しを受けるために、この世にやって来ました。²² そして家族を築き、聖なる神殿で結び固められて、永遠に続く喜びと愛に満ちたきずなを享受するのです。これらの永遠の真理にわたしたちは根ざしているのです。

家族と福音という枝は、生活を豊かにする実を結びます。人の不死不滅と永遠の命をもたらす神の業と栄光が、わたしたちのものになるのです。²³ 神や愛する家族とともに永遠に住むことができます。この祝福は神御自身の方法で、御心にかなうときに、忠実な人々に与えられるのです。²⁴

神は生きておられます。イエスはキリストです。ジョセフ・スミスはこの最後の神権時代の啓示者であり、預言者です。モルモン書は真実です。末日聖徒イエス・キリスト教会は、この地上に再び立てられた主の王国です。ゴードン・B・ヒンクレイ大管長は主の生ける預言者です。これらの真理に根ざすなら、わたしたち



日本の会員は時差の関係で、総大会の各部会を衛星録画放送により視聴している。

の枝の実はいつまでも残るでしょう。²⁵ イエス・キリストの御名によって証します。アーメン。

注

1. 子供がそれぞれの両親から遺伝情報を受け取るのに加え、さらに小さな一組のミトコンドリアDNAが母親から息子と娘の両方に受け継がれる。
2. 教義と聖約88:15 参照
3. エペソ3:14-19; コロサイ2:6-7 参照
4. 教義と聖約128:15 参照
5. 教義と聖約128:18 参照
6. 信仰簡条は、シカゴの新聞の編集者兼所有者であるジョン・ウェントワース氏への書簡の中に記された。『タイムズ・アンド・シーズンズ』(Times and Seasons) 1842年3月1日号の記事として最初に掲載された。Ensign, 2002年7月号, 26-32参照。
7. 信仰簡条は、教会員の生活を教化する御霊の賜物についても述べている。また十部族の回復、シオンの確立、再新された地球におけるイエス・キリストの福千年統治など、末日の偉大な出来事を預言している。さらに礼拝の自由、寛容、律法への従順という原則に触れている。最後

は、教会員の人生観と個人の高い理想に関する言葉で締めくくられている。

8. アルマ23:6
9. モルモン書ヤコブ6:7-9
10. 例えば、2 ニーファイ3:6-7 参照
11. マタイ7:20; 3 ニーファイ14:20。ジョセフ・スミス訳マタイ7:25(英文)も参照
12. ガラテヤ5:22
13. Stand Ye in Holy Places (1974年), 218-219
14. 教義と聖約93:36
15. マラキ3:10; 3 ニーファイ24:10 参照
16. 教義と聖約89:18-21 参照
17. ヨハネ15:3-5。
18. エペソ3:17 参照
19. イザヤ64:8
20. アルマ13:1-5 参照
21. 教義と聖約132:63 参照
22. 「アブラハムのように」(教義と聖約101:4)。ヘブル11:17も参照
23. モーセ1:39
24. 教義と聖約88:68参照。何であれ神から祝福を受けるときは、「それが基づく律法に従うことによるのである。」(教義と聖約130:21)
25. ヨハネ15:16 参照

「わたしにつながっていないさし」

十二使徒定員会

ジェフリー・R・ホランド

福音が実を結び、生活に恵みを与えるようになるためには、人類の救い主である主……にしっかりとつながっていなければなりません。



教会初期の時代には、中央幹部が自分の伝道について総大会で報告することがよくありました。今は1904年ではなく、2004年だということは分かっていますが、当時の習慣に倣^{なら}って、ホランド姉妹とわたしがラテンアメリカで経験しているすばらしい事柄についてお話ししたいと思います。居住地、奉仕する地域にかかわらず、皆さん一人一人がわたしたちの経験から生活に生かせるものを見つけられるよう願っています。

まず、わたしたちに課せられているこのすばらしい末日の業に携わってきたすべての宣教師に感謝したいと思います。回復された福音が広められていくさまはまさに奇跡であり、しかもその大部分が19歳の若者たちの努力の成果であるということも奇跡です。(皆さんの両親や祖父母の場合もあるでしょうが、)皆さんの息子

や娘、孫がチリで忠実に伝道する姿を見るにつけ、わたしは世界中で出会った何万人もの同様の宣教師に思いをはせてきました。清く、純粋で、目を輝かせた二人組の宣教師は、どこの土地でもこの教会の生きた象徴となっています。宣教師自身が、求道者の最初に出会うメッセージそのものなのです。何とすばらしいメッセージでしょうか。宣教師がどんな人かはだれでも知っていますが、知れば知るほど、宣教師に対する愛はさらに深まります。

アルゼンチン出身で、わたしたちとともに伝道するよう召されたある姉妹を皆さんに紹介したいと思います。伝道費用を捻出するために、この姉妹は最も大切で、唯一の財産とも言えるバイオリンを売りました。そしてあっさりと言ったのです。「神の子供たちがイエス・キリストの福音の祝福にあずかれるように努めたら、神はわたしに別のバイオリンを与えてくださるでしょう。」

あるチリ人の長老のことも紹介しましょう。全寮制の学校の生徒で家族と離れて暮らしていたこの長老は、偶然にモルモン書を見つけたのですが、見つけたその晩にこの書物を読み始めました。パーリー・P・プラット長老の経験と同じく、むさぼるように一晩中読み続けたところ、夜が明けるころには心に深い平安と新たな希望が満ちていました。そこでこの書物がどのようにして世に出たのか、その驚嘆すべき記録をだれが書いたのかを突き止めようと心に決めたのです。その13か月後、この長老は伝道に出ました。

またボリビアからわたしたちの伝道部に赴任して来たすばらしい若者のことも紹介したいと思います。この若者の服は着任当時、上着とズボンの色が違っていましたし、靴も足より二回り以上も大きいものでした。年齢もほかの宣教師たちより少し上でしたが、それは家族の中で唯一の稼ぎ手であったため、伝道費用を稼ぐのに少々時間がかかったからです。彼はニワトリを育て、卵を一軒一軒売り歩きました。そしてようやく召しが来たとき、夫に先立たれていた母親が、急に盲腸の手術を受けることになりました。この青年は、伝道のために稼いできたお金を残らず母親の手術と術後の治療費に使った後に、友達から分けてもらった古着をそととかき集めて、予定どおりサンティアゴの宣教師訓練センターに到着したのです。ご安心ください。今彼は、上下のそろった服を着、サイズの合った靴を履いています。本人も母親も、物質面でも霊的面でも安泰です。

このように、宣教師は世界中の家庭から出ています。こうした大勢の献身的な主の僕^{しもべ}の中に、高齢の夫婦が増えていきます。夫婦宣教師はこの業になくてはならない貢献をしています。夫婦宣教師は、この教会のほとんどすべての伝道部で大切に愛され、必要とされています。伝道に出ることが可能な皆さん、ゴルフクラブを置き、株の心配をやめて伝道に出ましょう! 孫たちは、帰還後も皆さんの孫であることに変わりはないのです。人生最高の経験ができることを約束します。

すばらしい教会員たちのことについても話させてください。管轄区域の広いステークを再組織したときのことです。わたしはある兄弟をステーク会長会に召すようにという主の促しを感じました。しかしその兄弟には車がなく、自転車しか持っていないことが分かっていました。教会には車を持っていない指導者も数多くいますが、そのステークに限っては、車がないとどういうことになってしまうのだろうか心配でした。わたしはつたないスペイン語で面接をどうにか行い、こう言いました。「エルmano、ノ・ティエネ・ウン・アウ

ト?」「兄弟、車をお持ちではないのですか。」この兄弟はほほえみながら、何のためらいもなく答えました。「ノ・テング・ウン・アウト。ペロ・ジョ・テング・ピエス、ジョ・テング・フェ。」(「車は持っていませんが、わたしには足があります。信仰もあります。)」また、バスに乗ることも、自転車をこぐことも、歩くこともできる、と断言してにっこりほほえみました。「コモ・ロス・ミシオネーロス。」——「宣教師と同じですよ。」そして、その言葉どおりに行っています。

ちょうど8週間前、チロエ島で地方部大会を開きました。チロエ島はチリ南部沿岸に浮かぶ島で、訪れる人もほとんどいません。礼拝堂の前列に座っているかなり高齢の男性は、集会は11時に始まるというのに、朝5時に家を出て、4時間歩いて9時には到着していました。そのことを知らされたわたしが、このすばらしい人々に話をするということに、どれほど大きな責任を感じたか分かるでしょうか。この男性は良い席を取りたかったのだと言いました。わたしは彼の目を見詰め、これまであまりにも気軽に集会に出席してしまったり、遅刻しそうになったりしたときのことを省みて、イエスの言葉を思いました。「イスラエル人の中にも、これほどの信仰を見たことがない。」¹

チリのプンタアレナスステークは、地球上で最も南に位置する教会のステークで、南の境界線は南極まで延びています。これ以上南にステークを組織するとしたら、役員が務まるのはペンギンしかいません。プンタアレナスステークの聖徒たちにとって、サンティアゴ神殿に参入するのは、バスで往復4,200マイル(約6,800キロ)の旅になります。夫婦で参入する場合、旅費だけで年収の20パーセントもの金額になります。バスの定員はたったの50人なのに、神殿旅行の度に、出発の朝にはほかに250人もの人が集まって参入者とともに祈り会を開きます。

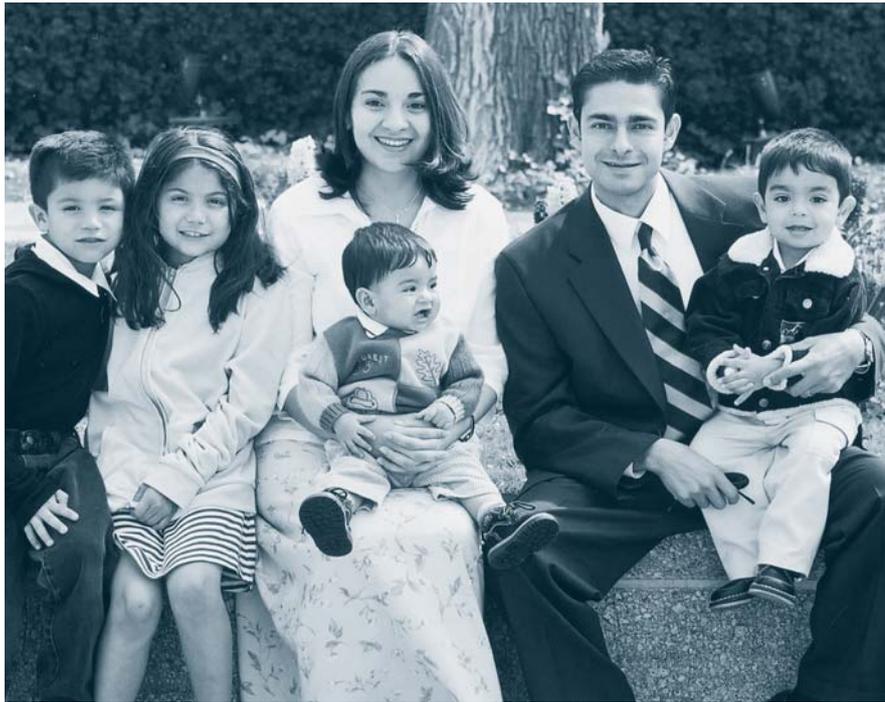
皆さん、このようなことをしたことがあるかどうか、ちょっと考えてみてください。神殿に向かう人々のために歌い、祈り、声援を送るだけのために、マゼラン海峡



に面した、風の吹き荒れる寒い駐車場に来るのです。胸には、お金をためて次の神殿旅行には自分が行くのだという望みを抱いています。バスに乗った70人は、ほこりの舞う、舗装されていないでこぼこ道を110時間も揺られ、アルゼンチンの荒野、パタゴニアを旅します。110時間もバスに揺られるとは、どれほど大変なことなのでしょう。正直言って、わたしには分かりません。しかし神殿から110マイル(約180キロ)以上離れて住んでいるからと神殿参入の意欲を失ってしまったり、神殿の儀式が110分以上かかったと言ってはへそを曲げてしまったりする人がいることは知っています。わたしたちは、神殿から遠く離れた地の聖徒たちに什分の一の原則を守るよう教え、ともに祈り、彼らのためにさらに多くの神殿を建設しようとしています。彼らのことを思えば、無理なく行ける所に神殿が続々と建設されて

いる今日、近くに神殿がある人は、さらに努力して定期的に神殿の祝福とすばらしさを味わえるようにする必要があるでしょう。

ここで、最後のテーマに入ります。ゴードン・B・ヒンクレー大管長の指導者としてのビジョンを念頭に置いて教会全体を見た場合、わたしたちの頭には非常に多くの事柄が浮かびます。その中には(恐らく特に)神殿の大規模な拡張と神殿建設があることでしょう。しかし、この壇上にいるわたしたちは、ヒンクレー大管長という、とりわけ教会に入った改宗者を完全に定着させるという断固たる決意を思い出すのです。現代の預言者の中で、定着についてこれほどはっきりと話した人も、これほど教会員に改宗者の定着を望んだ人もいませんでした。ヒンクレー大管長は最近、おどけた顔をして自分の前にある机を手で軽くたたきながら十二使徒



にこう言いました。「兄弟たち、わたしの人生が終わって、葬儀の最後に霊がこの世から旅立つときにも、皆さん一人一人の目を見て、『改宗者は定着していますか』と言いますからね。」

定着は、伝道と密接な関係にあります。宣教師の努力がもたらす心の底からの真の改宗と、教会の至る所で見られるすばらしい会員たちの強い決意と献身とが結び合わされるのです。

キリストは言われました。「わたしはまことのぶどうの木、……あなたがたはその枝である。」²「わたしにつながっていません。そうすれば、わたしはあなたがたとつながってしよう。枝がぶどうの木につながってなければ、自分だけでは実を結ぶことができないように、あなたがたもわたしにつながってなければ実を結ぶことができない。」³

「わたしにつながっていません」(Abide in me)は、欽定訳聖書の上品な英語で語られた、分かりやすい美しい概念ではありますが、「abide」という言葉は現代ではあまり使われていません。ですからこの表現を別の言語で知ったとき、この主の勧告に対する感謝の念が深まりました。この言い回しはスペイン語で「ペルマネセーデンミ」(*permanced en mi*)と言います。「ペルマネセル」(*permanecer*)は英語の動詞“abide”と同じく、「とどま

る、滞在する」という意味です。しかしわたしのような外国人でも、この言葉の語源が、英語の“permanence”つまり「永久」と同じであることが分かります。つまり「永久にとどまる」というニュアンスになります。これはチリ人、さらに世界中のすべての人に対する福音のメッセージの呼びかけです。来てください、そしてとどまってください。確信と忍耐をもって来てください。皆さん自身のためにも、そして皆さんに続く後のあらゆる世代の人たちのためにも、永久にとどまるつもりで来てください。そして、最後まで堅固な信仰を保てるよう、助け合うのです。

「棒の一方を拾う人は、他方も拾うのである。」(訳注——ある選択をすれば必ずそれに対する結果が伴うという意味)わたしのすばらしい伝道部長が、最初のメッセージで教えてくれた言葉です。⁴この教会、つまりまことの生ける神のまことの生ける教会に入るとは、こういうことなのです。わたしたちは、末日聖徒イエス・キリスト教会に入ると、シオン号という船に乗り込みます。行き先である福千年という港にたどり着くまで、その船が行く所にはどこへでも行きます。突風の中、嵐の中、嵐や照りつける太陽の中、どんなときでもわたしたちは船の上です。なぜなら、それが約束の地に行く唯一の方法だからです。この教会は、重要な教義を学び、

儀式を受け、聖約を交わすための主の手段であり、昇栄のために欠かせない鍵です。それに、イエス・キリストの福音に完全に従えるようになるためには、現世に設立された組織である教会の中で信仰をはぐむ努力が不可欠です。新しい改宗者の皆さんにも、古からの教会員の皆さんにも同じように、ニーファイの力強い最後の言葉を借りて申し上げます。「あなたがたはその門から入っている。……[しかし]あなたがたがこの細くて狭い道に入ったならば、それですべて終わりであろうか。見よ、わたしはそうではないと言う。……キリストを確固として信じ……力強く進まなければならない。そして……最後まで堪え忍ぶならば、見よ、……あなたがたは永遠の命を受ける……。」⁵

イエスは言われました。「わたしから離れては、あなたがたは何一つできない……。」⁶この言葉が神の真理であることを証します。わたしたちにとってキリストはすべてであり、わたしたちはいつまでも、揺らぐことなく、確固として、永遠にイエスにつながってなければならぬのです。福音が実を結び、生活に恵みを与えるようになるためには、人類の救い主である主と、その聖なる御名を冠した主の教会とにしっかりとつながってなければなりません。主はぶどうの木であり、強さの源、そして永遠の命の唯一の源です。主にあってわたしたちは堪え忍ぶだけでなく、決して敗れることのないこの聖なる業において勝利を収めることでしょう。わたしたちが決して挫折することなく、主の期待を裏切ることのないように、イエス・キリストの聖なる御名により祈ります。アーメン。

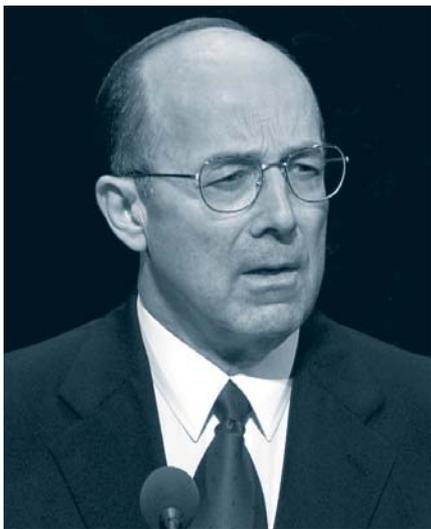
注

1. マタイ8:10
2. ヨハネ15:1, 5
3. ヨハネ15:4
4. ハリー・エマーソン・フォスディック, *Living under Tension* (1941年), 111からマリオン・D・ハンクスが引用
5. 2ニーファイ31:18-20
6. ヨハネ15:5

主イエスを思うとき

管理監督会第二副監督
キース・B・マクマリン

主イエスを思うとき、わたしの胸は言い尽くせない喜びに満ちあふれます。それはわたしのすべてを支配しています。



先日、ヒンクレー大管長は新たに神殿で結婚した一組の若い夫婦にこう言ったそうです。「何と素晴らしい時代に、生を受け愛し合うことができるのでしょう。」彼の楽天的な見方と性格は人を安心させてくれます。陰うつな世界にあって希望を与えてくれます。しかしこれは単なる前向きな人柄の表れではありません。その意味を説明するために、少し過去に目を向けてみましょう。

12世紀の初め、「熱烈……な信仰の人」¹とされたフランスはクレルボーの聖職者、聖ベルナルは、以下の言葉を書き記しました。

主イエスよ、わが胸
喜び満つ
み前に出づれば
さらにうれし²

世の多くが無知と貧困と絶望に覆われていた時代に書かれたにもかかわらず、この詩は希望と喜びと平安について語っています。これらの言葉には、イエスの証^{あかし}にいつのときも伴う穏やかな確信が表現されています。これと同じ確信が、愛する預言者やキリストに忠実に従うすべての人々に、朗らかさと楽観的な性質を与えているのです。

では、このイエスの証とはどのようなもので、どうすれば得られるのでしょうか。また、それを得る人に何をもたらすのでしょうか。イエスの証とは、聖霊によって人の霊に明らかにされた、イエスが生ける神の生ける御子であられるという疑いのない確かな知識です。³

イエスの証は神から授けられるため、最も大いなるものであって、幸福な生活に不可欠なものです。それはこの宗教の基本原則であり、信仰に関するほかの事柄はすべてそれに付随するものです。⁴ヒンクレー大管長は次のことを思い起こさせてくれます。

「イエスがキリストであり、神の御子、全人類の贖い主であられるという……確かな知識を自ら得ることは、すべての末日聖徒の特権であり、機会であり、義務です。……その証は……わたしたちが手にすることのできる最も貴い財産です。……」

わたしは、人がその心に主イエス・キリストが生きておられることに対する真の証を持つとき、ほかの事柄はすべて本来あるべき形に落ち着く……と確信しています。⁵

このイエスの証は義にかなった生活に

よってはぐくまれ、人のあらゆる行いを治める力となります。さらに、それはすべての人が手に入れることのできるものです。なぜなら「神は人をかたよりにみないかた」⁶だからです。

しかし、そのような証は個人の努力なしに得ることはできません。知りたいと望み、研究して学び、ふさわしくなるよう生活し、得るために祈らなければなりません。そうするときに、謙遜^{けんそん}さと信仰のうちに知識が与えられ、この知識とともに、すべてがうまくいくという心地よい確信と、物事を成し遂げるための内なる強さがもたらされるのです。

知りたいと望む

知りたいと望むことは、イエスの証の探究における最初の段階です。聖文にはこう勧告されています。「もしあなたが目を覚まし、能力を尽くしてわたしの言葉を試し、ごくわずかな信仰でも働かせようとするならば、たとえ信じようとする望みを持つだけでもよい。わたしの言葉の一部分でも受け入れることができるほどの信仰になるまで、その望みを育ててゆけ。」⁷

研究して学ぶ

イエスの証を誠実に求めるには、研究して学ぶ必要があります。主は次のように言っておられます。「聖文を調べなさい。あなたがたは、聖文の中に永遠の命があると思って調べているが、これらは、わたしについてあかしをするものである。」⁸

全編を通じて、聖書はキリストのことを教え、証しています。主は旧約のエホバであり、新約のメシヤであられます。⁹主についてのもう一つの証であるモルモン書が編さんされ、保存され、世に現されたのは、次のはっきりとした目的のためでした。それは「ユダヤ人と異邦人に、イエスがキリストであり、永遠の神であり、すべての国民に御自身を現されることを確信させるものである。」¹⁰

ふさわしくなるよう生活する

望み、研究すると同時に、人はそのよ



うな証を得るためにふさわしく生活しなければなりません。イエスの言われることを行う人は、イエスがどのような御方であるかを知るようになります。主はこうおっしゃいました。

「わたしの教はわたし自身の教ではなく、わたしをつかわされたかたの教である。

神のみこころを行おうと思う者であれば、だれでも、わたしの語っているこの教が神からのものか、それとも、わたし自身から出たものか、わかるであろう。」¹¹

得るために祈る

最後に、イエスの証はそれを得るために祈る人々にもたらされます。「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。」¹² これこそ謙遜で悔い改めた人をそのような知識へと導く招きです。この知識とともに、求めなければ隠されたままであろう眺望が開かれ、探究する人は人生の起源と目的についての理解も得るのです。

例えば、主の生涯はベツレヘムで始まったのではなく、¹³ わたしたちの人生も誕生から始まったではありません。前世において、主は神が御自分の子供たちのために用意された永遠の計画の忠実で確固とした弁護者として立たれ、¹⁴ わたしたちもそこにいました。天での大いなる戦いにおいて、ルシフェルを追い出したのはま

さに長子の力であり、¹⁵ わたしたちも大義のために戦いました。神の独り子によって「もろもろの世界が現在創造され、また過去に創造され」ました。¹⁶ その結果、わたしたちは自らの神聖な可能性を実現することができるのです。J・ルーベン・クラーク副管長は次のように語っています。

「初めに降りて来て……この世界を造ったのは、……初心者でもなければ未熟な者でもなく、初めて挑む者でもありませんでした。……

もし皆さんが、恐らく初めから……100万の世界を擁していたであろうこの銀河について考え、それにわたしたちの周囲にある何百万という銀河の数を掛けてみるならば、[イエス・キリスト]がどのような御方であるかを多少理解できるでしょう。」¹⁷

畏敬の念を抱きながら、わたしたちはいにしへの聖職者とともに歓喜の声を上げます。主イエスよ、わが胸、驚き満つ。

文字どおりの神の子であって、死すべき体を持つ母親から生まれた者として、前世でのキリストは肉における御父の独り子とされました。その満ちみちる尊厳、メシヤの特質および神性は最初から備わっていたものではなく、「恵みに恵みを受け続け、ついに完全を受けられた」のです。わたしたちもそうなることができます。¹⁸

天使たちが主に仕え、聖霊が主のうえに降られ、主は全人類の苦悩を担われました。そしてわたしたちの罪は主によって赦され得るのです。¹⁹

キリストと呼ばれるこのイエスは、その比類ない生涯、ゲツセマネでの苦しみ、流された血、十字架上での死、そして栄えある復活によって、全人類のための完全な贖罪をもたらされました。主は墓に対して勝利を得られ、主のおかげでわたしたちも死に打ち勝つことができます。²⁰ 「主はこの地上に生を受ける者の中で、最も偉大な御方です。……イエス・キリストは主の主、王の王、……救い主、……輝く明けの明星であられます。主の御名は……わたしたちに救いをもたらすことのできる、天下にある唯一の名です。」²¹ 主は油注がれた者であられます。わたしたちは再び声を上げます。主イエスよ、わが胸、畏れ満つ。

時の中間に世が主に打ち勝てなかったように、現代においてもこの世は主なしに歩むことはできません。それはわたしたちも同じです。主の目的は「人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと」です。²² そのために主は預言者ジョセフ・スミスを訪れ、神権を回復し、御自身の教会を再び設立し、贖いの計画を再度宣言されました。ジョセフは主にまみえ、主と言葉を

交わし、主に関する詩的な記述を残しました。それは人間の理解をはるかに超えたものです。

わたしは御座の周りに、
聖なる天使たちと天の軍勢と、
世の聖められた者たちが、
聖さのうちに神と小羊を
拝しているのを見た。
とこしえにいつまでも、アーメン、アーメン！

そして今、証人により、
主を知る者たちにより、
主についてなされてきたすべての証の後、
わたしがなす最後の証はこれである。
小羊は生きておられる、
そう、生きておられる！
そして神の右に、
その御座に座しておられる。

そしてわたしは大いなる声が、
天より証するのを聞いた。
彼こそ救い主、神の独り子である。
彼によって、彼から、彼を通じて、
もろもろの世界はすべて造られた。
広い天に織り込まれるすべてのものさえも。

それらに住む者もまた、
初めから終わりまで、
わたしたちと同じ救い主によって
救われる。
そして確かに、
神のもとに生まれた息子、娘となる。
その同じ真理と、その同じ力によって。²³

今日わたしたちには、主によって正式に
聖任された使徒たちがいます。彼らは
「全世界におけるキリストの名の特別な証人」²⁴としての神聖な務めに忠実に、次の
ように宣言しています。

「イエスは生けるキリスト、不死不滅
の状態にある神の御子です。イエス・キ
リストは今日、大いなる王、インマヌエルとして御父の右に立っておられます。
イエス・キリストは世の光、命、そして
希望です。イエス・キリストの道は、こ
の世においては幸福に、後の世において



は永遠の命に至る道です。わたしたちは
御子という比類ない贈り物を授けてくだ
さった神に感謝しています。」²⁵

主イエスを思うとき、わたしの胸は言
い尽くせない喜びに満ちあふれます。そ
れはわたしのすべてを支配しています。
主こそキリストであり、聖者であられる
ことを知っています。それによってわた
しの人生、愛、望みは形作られ、活気づ
き、目的を得ます。

イエスの証が与えられていることを神
に感謝し、すべての人が同様の祝福を受
けられるよう、イエス・キリストの御名
により祈ります。アーメン。

注

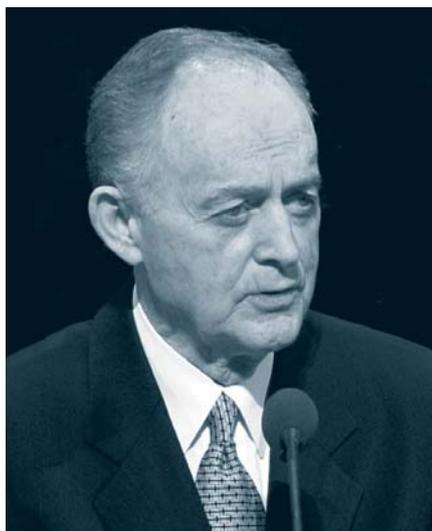
1. カレン・リン・デビッドソン, *Our Latter-day Hymns: The Stories and the Messages* (1988年), 167
2. 「主イエスよ、わが胸」『賛美歌』80番
3. ヨブ32:8; 1コリント2:11参照
4. *History of the Church*, 第3巻, 30参照
5. *Teachings of Gordon B. Hinckley* (1997年), 647-648
6. 使徒10:34。教義と聖約1:35:38:16も参照
7. アルマ32:27, 強調付加
8. 欽定訳ヨハネ5:39から和訳

9. 「生けるキリスト——使徒たちの証」『リアホナ』2000年4月号, 2参照
10. モルモン書, タイトルページ
11. ヨハネ7:16-17
12. マタイ7:7-8; 教義と聖約4:7参照
13. 「生けるキリスト——使徒たちの証」参照。モーセ2:26も参照
14. アブラハム3:22-27参照
15. モーセ4:1-3; 教義と聖約76:25-27参照
16. 教義と聖約76:22-24参照
17. "Who Is Our Savior?" *Improvement Era*, 1962年11月号, 798-799
18. 教義と聖約93:12-20参照
19. アルマ7:11-13参照
20. ルカ24:36-39; 1コリント15:55; アルマ11:41-45; 3ニーファイ11:7-14参照
21. Bible Dictionary, "Christ"の項, 633
22. モーセ1:39
23. "A Vision", *Millennial Star*, 1843年8月号, 51; ブルース・R・マッコンキー, *Mormon Doctrine*, 第2版 (1966年), 65-66参照。教義と聖約76:21-24も参照
24. 教義と聖約107:23
25. 「生けるキリスト——使徒たちの証」

キリストの御言葉—— わたしたちの 霊のリアホナ

七十人
W・ロルフ・カー

信仰をもって、キリストの御言葉を思いと心に刻みましょう。



世界中の教会の会員とともに、大管長会と十二使徒定員会を預言者、聖見者、啓示者として支持できたことを、神聖な名誉であり、特権であると感じています。わたしたちはへりくだり、彼らは「全世界におけるキリストの名の特別な証人」であると宣言します（教義と聖約107：23）。また、彼らは「聖霊に感じるままに語り」「何であろうと〔彼らが〕聖霊に感じて語ることは、聖文となり、主の心となり、主の思いとなり、主の言葉となり、主の声となり、救いを得させる神の力となる」ことを証します（教義と聖約68：3-4）。救い主は「わたし自身の声によろうと、

わたしの僕たちの声によろうと、それは同じである」と言われました（教義と聖約1：38）。わたしたちは、これらの末日における主の僕がキリストの御言葉を語るということを世界に宣言します。

救い主は「聖文を調べなさい、聖文は、わたしについてあかしをするものである。」と言われました（欽定訳ヨハネ5：39から和訳）。使徒パウロは信頼する同僚テモテにこう書き送りました。「聖文は、すべて神の靈感を受けて書かれたものであって、人を教え、戒め、正しくし、義に導くのに有益である。」（欽定訳2テモテ3：16から和訳）わたしたちは世の人々に、モルモン書は神の靈感によって与えられた聖文であると宣言します。モルモン書も聖書と同様に、人を教え、戒め、正しくし、義に導くのに有益です。

わたしたちは、モルモン書が神の賜物と力によって古代の記録から翻訳された神の御言葉であると、心から宣言します。この古代の記録は預言されたとおり、主の御手の中で聖書と一つに合わされる聖典として、書き記され、保存されました（エゼキエル37：16-20参照）。モルモン書は次のように勧めています。「キリストの言葉をよく味わえ。見よ、キリストの言葉はあなたがたがなすべきことをすべて告げるからである。」（2ニーファイ32：3）モルモン書は、救い主の生涯と使命に関

する第二の証です。確かに「イエス・キリストについてのもう一つの証」なのです。わたしたちは、モルモン書にイエス・キリストの御言葉が記されていることを宣言します。

キリストが降誕される600年前、主は古代の預言者リーハイに、家族を連れてエルサレムを離れ、大海を越え、ついには彼らにとって「約束の地」となる大陸へたどり着くという、未曾有の旅に出るよう命じられました。モルモン書は、古代アメリカ大陸におけるこれらの民の歴史を記録した聖典です。この民に与えられた預言や啓示などが収められています。これらの神の御言葉の中には、救い主の降誕と使命、主の偉大な贖いの犠牲に関する預言が数多くあります。主の究極的なはりつけと復活が記述され、古代アメリカの人々への主の訪問も預言されています。モルモン書を読むと、イエス・キリストは復活して昇天された後間もなく、アメリカ大陸の人々に実際に御姿を現されたことが分かります。これからこの驚嘆すべき史実を読みますので、ともに耳を傾け、心から味わってください。

「さて、ニーファイの民の大勢の群衆が……集ま〔っていた〕。

彼らは……すでにその死にかかわるしるしが現れたイエス・キリストについても語り合っていた。

そして、彼らが互いに語り合っていたとき、天から発せられるような声が聞こえた。しかし彼らは、自分たちに聞こえたその声の告げる意味が分からなかった。……それは耳障りな声ではなく、大きな声でもなかったが、小さな声でありながら、聞いた人々の心の中まで貫いたので、彼らの全身はことごとくそれによって震えた。まったく、それは魂そのものにまで彼らを貫き、彼らの心を燃え上がらせた。

そして彼らは、再びその声を聞いたが、それでもその声の告げる意味が分からなかった。

その声は3度まで聞こえ、彼らはこの度は耳を開いてそれを聞き、目をその声のする方へ向けて、その声が発せられる天を見詰めていた。

すると見よ、3度目には、彼らは自分たちに聞こえたその声の告げる意味が分かった。その声は彼らに語った。

『わたしの愛する子を見なさい。わたしの心になう者である。わたしは彼によって、わたしの名に栄光を加えた。彼に聞きなさい。』

そして、彼らはその意味が分かったので、再び天を見上げた。すると見よ、天から一人の男の方が降^{くだ}って来られるのが見えた。この御方は白い衣を着ておられ、降って来て群衆の中に立たれた。……

そこでこの御方は、片手を差し伸べて人々に言われた。

『見よ、わたしはイエス・キリストであり、世に来ると預言者たちが証した者である。』

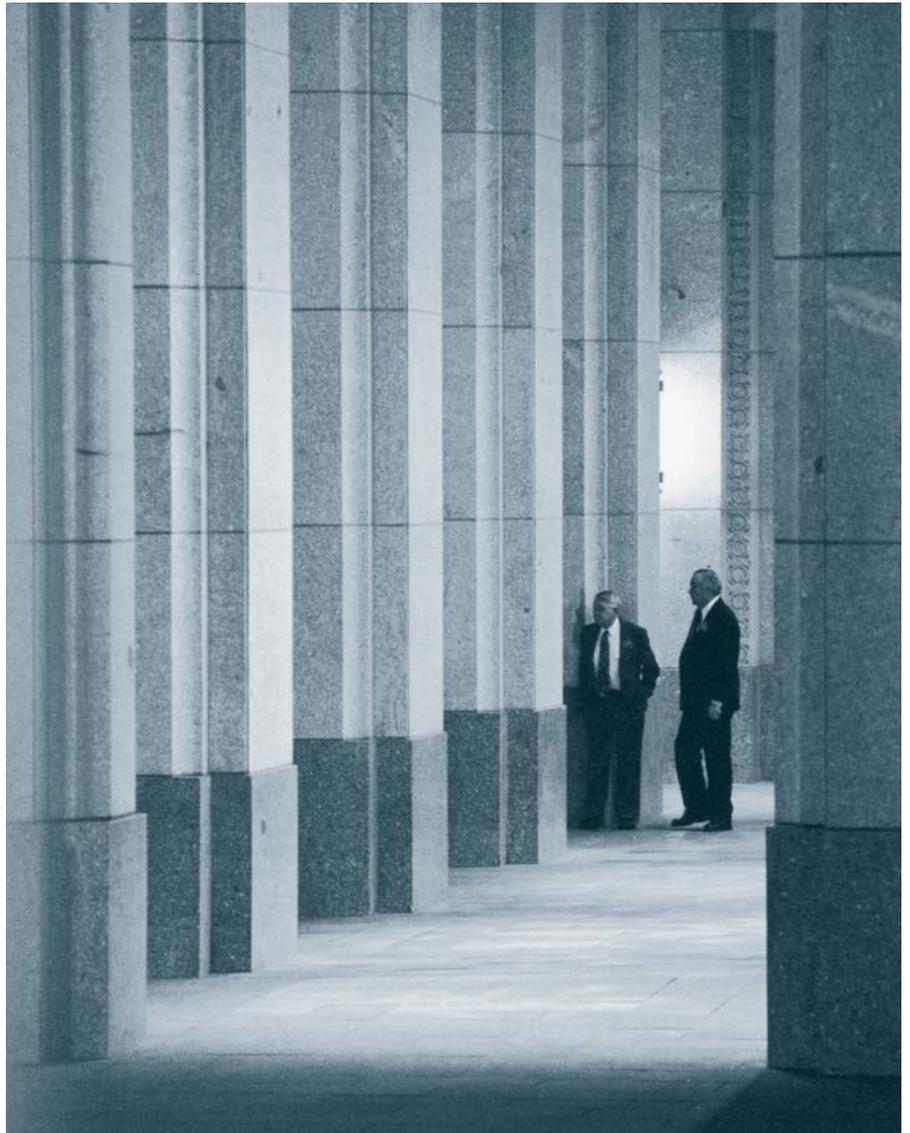
見よ、わたしは世の光であり命である。わたしは、父がわたしに下さったあの苦い杯から飲み、世の罪を自分に負うことによって父に栄光をささげた。わたしは世の罪を負うことによって、初めから、すべてのことについて父の御心^{みこころ}に従ってきた。』

さて、イエスがこれらの御言葉を語り終えられると、群衆は全員地に伏した。彼らは、キリストが天に昇られた後、自分たちに御自身を現されることが預言されていたのを思い出したからである。』(3ニーファイ11：1-12)

救い主はこれらの人々を祝福し、その栄光ある福音をエルサレムで教えたとおりに教えられました。わたしたちは祝福されて、主の御言葉をモルモン書から読むことができます。まさにキリストの御言葉を、古代文明の人々に語られたままの形で読むことができるのです。

リーハイとその家族はエルサレムを離れるよう命じられた後、旅の進路を示し羅針盤の働きをする神聖な指示器を与えられました。この指示器は、神を信じる信仰に応じて働いたと記されています。モルモン書の預言者アルマは息子ヒラマンに、この羅針盤は「リアホナ」と呼ばれたと教えています(アルマ37：38参照)。

「さて、わが子よ、このようなことに



は必ず影があることを理解してもらいたい。先祖はこの羅針盤を心に留めることを怠ったので(これらは物質的なことであり)、旅は順調ではなかった。霊的なことについても同様である。

見よ、キリストの御言葉は、永遠の喜びに至るまっすぐな道を指し示すものであるが、その御言葉を心に留めることが容易であるのは、約束の地に至るまっすぐな道を示すこの羅針盤に注意を払うのが、先祖にとって容易であったのと同じである。

さて、わたしは尋ねるが、このことの中に予型はないだろうか。この指示器がその示す道をたどる先祖を約束の地に導いたように、確かにキリストの御言葉は、わたしたちがキリストの御言葉の示す道をたどるならば、この悲しみの谷を越え

てはるかに良い約束の地へわたしたちを導き入れてくれるのである。

わが子よ、方法が容易だからということで怠けないようにしよう。……」(アルマ37：43-46)

兄弟姉妹の皆さん、キリストの御言葉は一人一人に道を示す個人のリアホナとなるのがこの聖句から分かります。方法が容易だからということで怠けないようにしましょう。神聖な聖文に記録されたままに、生ける預言者、聖見者、啓示者から語られたままに、信仰をもって、キリストの御言葉を思いと心に刻みましょう。信仰をもって熱心にキリストの御言葉を味わいましょう。キリストの御言葉は、なすべきことをすべて告げる霊のリアホナだからです。わたしはこれらのことを厳粛に証します。イエス・キリス

分かりやすくして簡単な福音の原則を家庭で応用する

七十人
フランシスコ・J・ビーナス

家族生活における幸福を確実なものとするには、家庭の中で(分かりやすくして簡単なイエス・キリストの福音の原則)を確立する必要があります。



1998年9月の中央扶助協会集会で、ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう述べました。「ほとんどすべての問題は、家庭から生じるのだと思います。何かを改善・変革し、かつての神聖な価値観を取り戻そうとするならば、それは家庭から始めなければなりません。家庭こそ真理を学び、高潔さを養い、自己鍛錬し、愛をはぐくむ場所です。」(「主の光の中を歩む」『リアホナ』1999年1月号, 110参照)

わたしたちが立ち返るべきかつての神聖な価値観の中には、分かりやすくして簡単なイエス・キリストの福音の原則があります。家族生活における幸福を確実な

ものとするには、家庭の中でこの原則を確立する必要があります。

ウィルフォード・ウッドラフ大管長はこう宣言しました。「主はわたしたちのために非常に多くの原則を備えられました。それらの原則の中で最も偉大なものは、最も分かりやすく、簡単です。わたしたちを永遠の命へと導く福音の第一の原則は何よりも簡潔で、しかも何にも勝って輝かしく、重要なものなのです。」(“Remarks,” *Deseret News*, 1857年4月1日付, 27)

家族生活に影響を及ぼすような問題に直面したときにこうした原則が度々軽んじられるのは、それらがまさに分かりやすくして簡単だからです。時々、問題が深刻であればあるほど、解決方法は大きく複雑なものでなくてはならないと思うことがあります。そのような考えは、例えば、わたしたちの心を家庭以外の人々や機関に向けさせ、助けを求めさせます。しかし本来、最良の解決方法は、家庭における日々の小さな行いや義務に、輝かしい福音の原則を応用することによって得られるのです。聖文は次のことを思い起こさせてくれます。「小さな、簡単なことによって大いなることが成し遂げられるのである。」(アルマ37:6)

『家族——世界への宣言』の中で、大管長会および十二使徒定員会はこう宣言

しています。「実りある結婚と家庭は、信仰と祈り、悔い改め、赦し、尊敬、愛、思いやり、労働、健全な娯楽活動の原則にのっとって確立され、維持されます。」(『リアホナ』1998年10月号, 24)

これらの原則を調べてみると、ほとんどが互いに関連し合い、補い合っており、これらの原則を生活の一部とする力は、贖い主であり救い主であるイエス・キリストの贖いの犠牲から得られるということが分かります。

これらの原則は一度取り入れると、家族一人一人を照らす光となり、関連するほかの価値観や原則に添って生活できるよう少しずつ導いてくれます。そして家族関係が強まるのです。わたしたちは次のことを知っています。「光を受け、神のうちにいつもいる者は、さらに光を受ける。そして、その光はますます輝きを増してついには真昼となる。」(教義と聖約50:24)

原則を応用することで、家族を築き、維持することに成功するならば、家庭が悪い影響を受ける様々な状況の中で、これらの原則が力強く作用するのを目の当たりにすることでしょう。共同生活の摩擦から生じる心の傷は癒され、怒りは解けます。そして高慢と利己心は、謙遜、思いやり、愛に変わります。

どの原則を生活に取り入れるかによって、人との関係の一助となる精神が決まります。原則を身に付けることで、その影響はわたしたちから発し、人々に伝わります。

これまで以上に、家族は悪の力による攻撃的的となっています。「悪しき者の力が地の全面に働いて」いた預言者モルモンの時代と同じように(モルモン1:19)、親であるわたしたちはこれらの原則を生活に取り入れ、影響力を発揮しなければなりません。そして子供たちがその力を感じ取れるようにする必要があります。

では、原則をどのように実践できるかお話したいと思います。これらは贖いの効力を個人や家族に及ぼすための段階の一部を形成します。この段階



は、福音の第一の原則である信仰から始まります。

悪を呼んで善といい、善を呼んで悪という価値観が変わる世の中において（イザヤ5：20参照）、モルモンが語った言葉は、わたしたちに希望と自信を与えてくれます。こう教えています。イエス・キリストは「〔御自分〕を信じるすべての者を、御自分に属するものと主張しておられる。また、キリストを信じる者は一切の善いものを固く守る……。」（モロナイ7：28）

一切の善いものを固く守る信仰は、神の言葉を聞くことにより生じます（ローマ10：17参照）。そして家庭の夕べのレッスンや家族の聖文研究の時間に神の言葉を聞くことにより、その力はさらに増します。信仰を築くうえで家庭以上にすばらしい場所はありません。そこでは教訓と実践が日々実現されるのです。

わたしたちは家庭において、信仰が贖いと密接な関係にあることを学びます。「この最後の犠牲の目的は、憐れみの心を成し遂げることであり、この憐れみは正義に打ち勝ち、また人々が悔い改めを生じる信仰を持てるようにするその道を設けるのである。」（アルマ34：15）

生活に贖いの効力がなければ、悔い改めに必要な信仰を築くことは不可能でしょう。そうすると偉大な憐れみの計画の外にとどまることになるのです。なぜなら「偉大な永遠の贖いの計画は、悔い改めを生じる信仰のある人のためにだけ備えられている」からです（アルマ34：16）。

悔い改めは、心の中に生じる変化であり、主への愛によって生まれ、罪から離れさせ、主の御心みこころに従わせるように導くものです。そして「イエス・キリストの贖罪しよくざいによってのみ有効なものとなり、神に受け入れられ」ます（『聖句ガイド』

「悔い改め」の項、89）。

神が悔い改めを受け入れてくださると、わたしたちは今語っているこの段階から進み、バプテスマや確認などの悔い改めに関連する儀式や聖約を受けます。そして定期的に、ふさわしい状態せいざんで聖餐を受けることにより聖約を新たにすることができます。

罪の赦しを受け、戒めに従順であろうと努力することでその状態を保てば、わたしたちはモロナイ書に書かれているように、柔和で心のへりくだった状態になり、聖霊の訪れを受けます。この慰め主は、希望と完全な愛を人の心に満たしてください。この愛は祈りの原則に熱心に従えば、持ち続けることができます（モロナイ8：26参照）。

柔和で心のへりくだった状態になり、聖霊せいりよを伴いばんいとすることに喜びを感じる人

は、人を怒らせたり、傷つけたりしようという望みを持つことがなく、人のいかなる攻撃にも影響を受けません。そのような人は、自分の伴侶と子供に愛と敬意をもって接し、交わる人々と良い関係を築きます。また、教会で指導者としての責任を持つときも家庭と同じ原則を用い、家庭という囲いの中でも、教会でも、人と接することにおいて何ら変わらないことを教えてくれます。

信仰、悔い改め、愛、赦し、祈りなどの原則を、今お話しした段階に添って実践するなら、罪という疫病と闘う最良の薬となります。この疫病は家庭において、不道德、高慢、ねたみ、争い、虐待、また家族関係に悪影響を及ぼし、結果的に苦痛、欺き、家庭崩壊を招くことになる習慣など、様々な症状として現れます。

これらの原則を生活に取り入れるという決心と、必要なときにいつでも段階を踏み始めるための機会は、ひとえにわたしたちの選択にかかっています。それはすべての人が踏むことのできる簡単な段階です。福音の主要な原則を基とし、主を信頼する人は皆、これまでも、またこれから見事にそれらを応用することができます。

福音の原則の必要性が日増しに高まる世に対して、わたしたちはそれらを絶えず教えなければなりません。理由は次のとおりです。

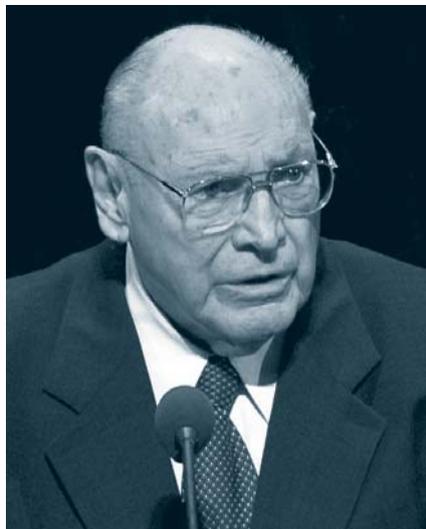
「また主がだれかに、主の救いにあずかってはならないと命じられたことがあるだろうか。見よ、わたしはあなたがたに言う。そのようなことはない。むしろ主は、すべての人に救いを無料で授けてこられた。そして、すべての人に悔い改めを説き勧めるよう、主の民に命じてこられた。」(2ニーファイ26:27)

これらの原則が真実であることを^{あかし}証します。これらは、イエス・キリストの贖いによって生活に取り入れることができるようになったのです。わたしは家族とともに原則に添った生活をしようと努めることによりこれを知りました。イエス・キリストの御名により、アーメン。

この世の負債と 天の負債

十二使徒定員会
ジョセフ・B・ワースリン

わたしたちにはこの世の負債と天の負債があります。知恵を使ってそれら一つ一つに対応(しましょう。)



愛する兄弟姉妹の皆さん、大会に参加できることは何とすばらしいことでしょう。ここで語られるのは靈感あふれる言葉であり、この場に集えることは喜びです。

わたしは、この世の負債と天の負債についてお話ししたいと思います。福音書には、救い主がいらっしゃる先々で群衆に囲まれていたことが記されています。ある人は癒^{いや}していただくことを期待し、またある人は救い主の話聞くためにやって来ました。生活上の助言を求めて来る人もいました。この世での務めが終わりに近づいたころには、救い主をあざけり、侮辱し、さらには十字架にかけられることを要求するために集まって来た人々もいました。

ある日、一人の男が救い主のもとへやって来て、家族のもめ事を仲裁して下さるように頼みました。男は言いました。「先生、わたしの兄弟に、遺産を分けてくれるようにおっしゃってください。」

救い主はそのような問題にかかわることを拒みましたが、大切な教訓をお教えになりました。「あらゆる貪欲^{どんよく}に対してよくよく警戒しなさい。たといたくさんの物を持っていても、人のいのちは、持ち物にはよらないのである。』¹

兄弟姉妹、あらゆる貪欲^{どんよく}に対してよくよく警戒してください。それは末日に見られる大きな災いの一つです。貪欲^{どんよく}は意地汚い欲望と恨みを生じさせ、しばしば、束縛、悲痛、そして背負い切れないほど大きな負債に結びつきます。

驚くほど多くの結婚生活が、金銭問題から破綻^{はたん}しています。悲嘆に暮れている人は数え切れません。金銭上の悩みから来るストレスは家族に重くのしかかり、病氣や落胆、さらには早すぎる死の原因ともなります。

この世の負債

初期の時代から今日^{こんにち}に至るまで、教会の中で繰り返し教えられてきたにもかかわらず、分別のない、愚かな金銭取引のわなにはまる会員が時々います。中には、お金は何か工面できると考え、さらに資金をつぎ込む人もいるのです。そして何とか乗り切っていきます。



しかしほとんどの場合、期待していたお金は手に入りません。

負債は一種の束縛であることを忘れないでください。それはシロアリのようなものです。クレジットカードで物を買うとき、手にするのは繁栄の幻にすぎません。物を所有しているように見えても、実際は物に所有されているのです。

質素な家、教育費、あるいは必要とされる1台の車など、一部の負債はやむを得ないと思います。けれども出費をよく考えずに消費者金融などを利用して、経済的に束縛されてはなりません。

利息は従順な僕であると同時に容赦のない主人だと言われています。J・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長は次のように説明しました。「利息は眠ることも、病気になることも、死ぬこともありません。利息は入院しません。日曜祝日も働き続け、決して休みません。……一度借金をすれば、利息は昼夜を問わずあなたに付きまとうのです。あなたはそれを阻むことも、逃れることも、また忘れることもできません。利息は、懇願にも、威嚇にも、命令にも応じません。そして、やり方に口を挟んだり、反したり、要求に応じなかったりしようものなら、たちまちあなたを押しつぶしてしまうのです。」²

現代の預言者たちが、負債について靈感に基づいて語った勧告は明瞭であり、50年前あるいは150年前と同様今日も真実です。

ヒーバー・J・グラント大管長はこのように語りました。「ブリガム・ヤングの時代から現在に至るまで、この壇上に立った人々は覚えているかぎり……借金を避けるよう人々に説いてきました。現在わたしたちが抱えているすべての問題は、その勧告に従わなかったためであるとわたしは信じています。」³

エズラ・タフト・ベンソン大管長はこう語りました。「経済的な嵐に対してあなた自身と家族を無防備な状態にしてはなりません。……貯金をしてください。」⁴

ハロルド・B・リー大管長はこう教えました。「わたしたちは負債から抜け出す方法を教えるだけでなく、負債に陥らずに生活することも教えるべきです。」⁵

ゴードン・B・ヒンクレイ大管長は次のように宣言しました。「教会員の中でぎりぎりの生活をしている人が多くいます。中には借金生活の人もあります。……

兄弟の皆さんに強く申し上げたいのは、家計の状態をよく調べて支出を抑えることであり、購買欲を抑えて、借り入れをできるだけ避けるといことです。負債

はできるだけ早く返済して束縛から逃れてください。」⁶

兄弟姉妹、皆さんの多くはこの預言者の勧告に耳を傾けてきました。自分の収入の範囲で生活し、借金を返済し、ほかの人に対する負債を軽くするために努力しています。このように行っている人々に賛辞を贈ります。なぜなら、彼らはやがて自分の努力に対する祝福を手にし、この靈感あふれる勧告の持つ価値を理解するからです。

しかし、金銭のことで苦しんでいる人たちもいます。彼らは不幸に見舞われたり、予期せぬ出来事によって経済的な痛手を負ったりしています。一方、自分を治めることができず、衝動買いを抑えられないために金銭的に束縛されている人もいます。そのような人は、結果として財政的に愚かな選択をしているのです。

皆さんに考えていただくために、財政的な自由を得るための5項目を提案します。

第1、^{じゅうぶん} 什分の一を納める。皆さんは天の窓が開かれることを願っているでしょうか。あふれる恵みを受けたいと思っているでしょうか。⁷ 常に什分の一を納め、結果を主にゆだねてください。

神の戒めに従うことは、幸福な生活の



集会所に集まったガーナ・アクラ・クリスチャンズバーグステーキの会員たち。

基盤です。従順は必ず天の恵みをもたらします。原則を知っていないながら百分の一を納めない人は、この世では心の痛みを感じ、次の世では恐らく悲しみを経験することになります。

第2, 収入以上の出費をしない。これは単純な勧告ですが、財政的な幸せを得る偉大な鍵です。家庭では、収入よりも欲求を優先させて出費することがよくあります。多くの物に囲まれていればそれだけ豊かな生活ができると考えているようです。しかし往々にして、避けることができたはずの不安や悩みだけが残ります。

収入の範囲内で安全に生活している人は、毎月幾ら収入があるかを知っていて、たとえ苦しくてもその金額以上に出費しないよう自制します。

クレジットカードは簡単に手に入ります。実際、まるで持つことを強いらられるかのようです。クレジットカードを使って深く考えずに余分な出費をする人は、そのような買い物を減らすことを考えるべきです。家族が負債によってやせ衰え、崩壊するよりは、プラスチックのクレジットカードを処分する方がはるかによいでしょう。

第3, 蓄えることを学ぶ。エジプトに売られたヨセフの教訓を思い出してください。豊作の間に、飢饉に備えて蓄えました。⁸

多くの人、けがや病気、失業、投資した資金が焦げつくようなことは恐らくない

と考えています。さらに悪いことに、望んでいることが明日実現するという楽観的な考えから、しばしば今日買い物をするのです。

賢い人は、明日降るかもしれない雨のために、今日貯金しておくことの大切さを知っています。彼らは病気や死亡の場合に補償となる十分な保険をかけています。また可能な場合は、1年分の食料、水、そのほか基本的な生活必需品を貯蔵しています。貯蓄や投資のためにお金を分けておきます。彼らは借金を減らすために勤勉に働き、負債のない生活を目指して努力します。

兄弟姉妹、皆さんが今日行う備えは、エジプトの民とヨセフの父親の家族にとっての蓄えのようになるでしょう。

第4, 負債を返済する。わたしたちは時々、貪欲と利己心がからんだ話を聞いて大きな悲しみを覚えます。詐欺や融資返済の不履行、金銭詐欺、破産の話を目にします。

また、家族に対する経済的な義務を放棄している父親の話聞きます。わたしたちはあらゆる地に住む男女に申し上げます。子供たちをもうけたあなたがたには、全力を尽くして彼らを扶養する厳粛な義務があります。車やボートそのほかの財産を手に入れながら、妻と子供たちに対する経済面での神聖な義務を怠っている男性はその名に値しません。

わたしたちは誠実な民です。負債を返

済し、隣人と正直に接します。

金銭上の誠実さと名誉を守るために大きな犠牲を払った人の話を紹介しましょう。

1930年代に、フレッド・スノーバーガーはオレゴン北東部で薬局を開業しました。店を開くことはフレッドの夢でした。しかし、見込んでいた景気の回復は実現せず、フレッドは8か月後に店を閉めました。

事業に失敗しても、フレッドは借入金を返済しようと決めていました。一部の人たちはなぜ返済し続けるのか分かりませんでした。自己破産を宣言すれば、法律的に許されるのです。

けれどもフレッドは耳を貸しませんでした。ただ借金を返済するだけ伝え、言ったことを果たそうと固く心に決めていたのです。家族は衣類の多くを自分たちで作り、食べ物はほとんど自家栽培しました。持ち物はすべて擦り切れるまで、またなくなるまで使いました。晴れた日も雨の日もフレッドは歩いて職場に通いました。そして毎月、できるだけ金額を返済しました。

何年かたち、ついにフレッドが晴れて最後の支払いをする日がやって来ました。お金を届けると、融資してくれた人は涙を流しながらこう言いました。「あなたがたは全額を返してくれただけでなく、人格と正直の意味を教えてくださいました。」

フレッドが借用書に署名してから70年近くが過ぎた現在になっても、フレッド・スノーバーガーとアーマ・スノーバーガーの子孫はこの話を誇らしげに語り継いでいます。この誉れと気高さにあふれた行為は、誠実な家族の模範として数十年にわたって生き続けています。

第5, 模範に従うよう子供たちに教える。家庭で金銭管理の正しい原則を教わらなかったために、あまりにも多くの若人が金銭上の問題を抱えています。子供たちが幼いうちから教えてください。単に欲しいからといって、物は手に入らないことを教えてください。労働、節約、貯蓄の原則を教えてください。

子供に教えるだけの知識がなければ、自ら学び始めてください。講習会や書籍、

またそのほかのものを通して、多くの情報を入手することができます。

わたしたちの中には豊かに祝福され、物のあり余っている人がいます。天の御父は富を使って巨大な家などの財を築くのではなく、もっと有益なことに使うよう望んでおられます。神の王国を築くためにもっとできることはないでしょうか。人々の生活を祝福し、光と希望をもたらすためにもっとできることはないでしょうか。

天の負債

これまで、この世の負債とそれを返済する義務について話してきました。しかし、負債はほかにもあります。もっと永続性のある負債です。その返済は簡単ではありません。実際、一部は返済が不可能です。それは天の負債です。

わたしたちは両親から命を受けて、この世にやって来ました。そして死すべき体を得て、恵み豊かな地上における喜びと悲しみを経験する機会を与えられています。多くの場合、両親は子供のために自分の夢や願いを後回しにします。両親を敬い、言葉と行いによって愛と感謝を表すことは何と理にかなったことでしょうか。

また、わたしたちの前を歩み、永遠の進歩を続けるために幕のかなたで儀式を待っている先祖に対しても大きな借りがあります。この負債は少なくともその一部を神殿で返済することができます。

この末日に、預言者ジョセフ・スミスを通して御自身の教会と真実の福音を回復してくださった主に対して、わたしたちはどれほど大きな借りがあることでしょうか。ジョセフ・スミスは少年時代から殉教するまで、失われていたイエス・キリストの福音を人類に回復するために全生活をささげました。わたしたちはジョセフ・スミスと主の教会を管理する権能を受けてきた、神聖な召しにあるすべての人に心からの感謝を示さなければなりません。

救い主に対する負債はどのようにして返済することができるのでしょうか。救い主は、決して支払うことのできない負債からわたしたちを解放するために、御自分に関係のない負債を支払ってくださいまし



集会所で大会の視聴に備えるガーナ・アクラの聖徒たち。

た。救い主のおかげでわたしたちは永遠に生きるのです。主の無限の贖罪のおかげでわたしたちの罪はぬぐい去られ、神のすべての賜物のうち最も大いなる永遠の命にあずかることができます。⁹

そのような賜物に代価はあるのでしょうか。その賜物に対して代償を支払うことができるのでしょうか。モルモン書の預言者であるベニヤミン王はこう教えました。「たとえあなたがたが全身全霊の力を尽くして一切の感謝と賛美をささげたとしても、……たとえ全身全霊を尽くして仕えたとしても、それでもなお、あなたがたはふつつかな僕である。」¹⁰

わたしたちにはこの世の負債と天の負債があります。知恵を使ってそれら一つ一つに対応するとともに、救い主の次の言葉を常に心に留めていようではありませんか。聖文はこう告げています。「あなたがたは自分のために、虫が食い、さびがつき、また、盗人らが押し入って盗み出すような地上に、宝をたくわえてはならない。むしろ……天に、宝をたくわえなさい。」¹¹ 天の御父の家で忠実な者たちを待ち受ける宝と比較すれば、この世の富はちりのようなものです。さびつき、消えてなくなるものを追求して生涯を過ごす人は何と愚かなことでしょうか。永遠の命を求めて生涯をささげる人は何と賢いことでしょうか。

キリスト・イエスが生きておられることを心の中で知ってください。平安を得て

ください。主に近づくなら、主は皆さんに近づいてくださるからです。悲しみではなく、喜びを心に抱いてください。預言者ジョセフ・スミスを通して福音は再び回復されました。天は閉じられていません。いにしへの時代と同じように、わたしたちは再び無限の御方と交わる預言者を頂いています。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、わたしたちの時代の預言者です。イエス・キリストの御名によって証します。アーメン。

注

1. ルカ12:13, 15参照
2. Conference Report, 1938年4月, 103
3. Conference Report, 1921年10月, 3
4. *Pay Thy Debt, and Live . . .* Brigham Young University Speeches of the Year (1962年2月28日), 10
5. *Teachings of Harold B. Lee*, クライド・J・ウィリアムズ編(1996年), 315
6. 「若い兄弟たち、そして成人の兄弟たちに」『リアホナ』1999年1月号, 61-62
7. マラキ3:10参照
8. 創世41:47-57参照
9. 教義と聖約14:7参照
10. モーサヤ2:20-21
11. マタイ6:19-20

「主が……どれほど憐れみをかけてこられたかを思い起こし」なさい

十二使徒定員会

ニール・A・マックスウェル

一人一人の人生には、かけがえのないすばらしい思い出がたくさんあるものです。これらの思い出は、「主が（わたしたちに）どれほど憐れみをかけてこられたかを思い起こし」させてくれます。



兄弟の皆さん、形式ばらずに感謝をもって思い出を語らせていただきます。劇的で華々しい話ではなく、幾つかの思い出話やちょっとした人生訓に、長く親しまれてきた短いジョークを交えて、くつろいだほとんど会話のような形で話せたらと願っています。思い出話の意図は、憐れみ深い主が与えてくださった成長の機会に焦点を当てることにあります（モロナイ10：3参照）。

この思い出話の一つだけでも皆さんの生活に「当てはめ」ることができれば（1ニーファイ19：23参照）、後で父親と息子の短い話し合いに発展する可能性もあるでしょう。

1. 60年さかのぼってみましょう。グラントステーク、ワンダミアワードの1944年7月2日付けの記録によると、友人のワード・ジャクソンとアーサー・ヒックとわたしが141人の会衆のために聖餐を執行したとあります。それから間もなく、わたしは徴兵されました。1945年5月、わたしは再び聖餐を執行していました。場所は沖縄の壘壕の中。たった一人、自分だけの聖餐でした！

そんな状況にあっても、深く意識していたわけではないのですが、コーヒーを飲まないなど、子供のときからの訓練がはっきりと効果を発揮していました。塩素臭の強いわずかな水であっても、コーヒーにして飲みやすくしようとは思わなかったからです。

どんな未来が若い皆さんを待ち受けているか分かりませんが、わたしのアドバイスは、シートベルトを締めて自分の原則をしっかりと守ってください、ということです。

2. わたしが初等協会の子供のころは、「小さな川が」を歌ったものでした（『子供の歌集』116）。この歌は確にかわいらしく、また動機づけになります。しかし、教義的にあまり深いとは言えない歌です。御存じのように、今の子供たちは靈性に焦点が当てられた「イエス様のように」を歌っています（『子供の歌集』40-41）。

3. わたしが子供のころは、家族も近所の人々も、ワードや学校で会う人々も、皆

が貧しい時代でしたが、自分を貧しいと思う人はいませんでした。互いの成長を助け合い、愚かな過ちを救い合い、少なくとも靈的な反射運動、つまり、反射的にできる無意識の行動が幾つか育つまで待つ余裕を持っていました。今は、子供の成長を心配するあまり、たとえて言えば、根が伸びているかどうか見るためにヒナギクを引き抜くようなことを繰り返している親もいるようです。

4. 神権者の皆さん、年齢に関係なく、愛するゆえに皆さんの誤りを正し、たとえ皆さんが望まないときでも、標準や可能性を思い出させてくれる人たちが皆さんの周りにいることに感謝してください。

以前、わたしが何か皮肉めいたことを言ったとき、今は亡き親友に「そんなことを言わなくても、一日幸せに暮らせただろうに」と諭されたことがありました。彼の機知に富んだ小言は愛に満ちていて、愛をもって人を正すことが可能であることをわたしに教えてくれました。

5. 愛する人々が示す模範は特に忘れられないものです。妹のロイスは生まれながら全盲に認定された視覚障害者でしたが、単に障害とともに生きてだけでなく、公立学校の教師として33年間立派に勤め上げました。彼女には、昔、西へ西へと手車を引いて黙々と歩き続けた開拓者と共通する、独特の反射能力がありました。わたしたちは皆、そんな能力を必要としています。将来様々な苦難に遭遇するとき、人生の苦い杯を、その苦さに毒されることなく飲めるようにならなければなりません。

6. 第二次大戦から復員して間もなく、わたしには「守らなければならない約束」がありました（ロバート・フロスト、"Stopping by Woods on a Snowy Evening," *The Poetry of Robert Frost*, エドワード・コネリー・レーゼン編〔1969年〕、225で引用）。「今すぐに」伝道に出たかったのです。わたしは監督が言い出すのを待ち切れず、若いころの「権能の系統を無視する」傾向から監督の家に押しかけ、貯金もあるのだから「すぐにでも出発したい」と言いました。その善良な監督はためらいながら、伝道についてはいずれ

話そうと思っていたのだと言いました。

何年もたってから当時の献身的なワー
ド書記から知らされたのですが、その
とき監督は、人生の10分の1も故郷を遠く離
れて暮らしたわたしに家族と過ごす時間
をもう少し与えたかったのだそうです。
それを聞いたわたしは、人を簡単に裁く
自分を責めたものです（ブルース・C・ヘ
ーフェン、*A Disciple's Life: The Bio-
graphy of Neal A. Maxwell*〔2002年〕、
129-130参照）。

ヘンリー・B・アイリング長老の賢明なお
父さんが「主の作られた教会は、わたし
たち全員が中に入るまでは完全であ
った」とかつて述べたのもうなずけます。

7. まだ若い父親の皆さんのために、二
つの相対的な思い出を紹介しましょう。わ
たしが皆さんのように若かったころ、友人
が事故で亡くなったことを知らせる電話が
かかってきました。居間で泣いていると、
幼い息子のコーリーが廊下を通りかかり
ました。彼はわたしの涙を見て、自分が何
か悪いことをしたからだろうと思ひ込んで
しまったようです。電話のことを知らな
かったからです。兄弟たち、わたしたちは、
親を喜ばせたいと思う子供の純粋でひた
むきな気持ちを過小評価しがちです。

8. 数学的能力が皆無と言えるわたし
は、子供の算数や理科の勉強をめったに
見てやれませんでした。ある日、高校生の
娘のナンシーがわたしのところに来て、最
高裁判所の「フレッチャー対ベック」の判
例について「ちょっと手伝って」ほしいと頼
みました。それまでほとんど手伝えな
かったわたしは張り切りました。チャンス到
来！とばかり、わたしは「フレッチャー対ベ
ック」について知っている限りの知識を披
露し始めました。しばらくして娘は「お父
さん、ちょっと手伝ってくればいいの！」
と不満をぶつけました。わたしは娘が望
んだ「ちょっとの手伝い」を与える代わりに、
自分の必要を満たしていたのです。

兄弟の皆さん、わたしたちは訓戒に訓
戒を加えて教えてくださる主を礼拝して
いるのですから、自分たちが子供に福音
を教えるときも、一度に詰め込みすぎな
いように気をつけましょう。

9. さらに年月がたっ
て、わたしは教会を去
った人たちの中に、数
は多くはないものの、教
会を攻撃し続け、知的
疑問を自らの過ちの言
い訳に使う人たちがい
るのを見てきました（ニ
ール・A・マックスウェ
ル、*All These Things
Shall Give Thee
Experience*〔1979年〕、
110参照）。皆さんもそ
ういう現象を目にする
ことがあるでしょう。と
ころで、この世の問題
の解決にこの世的な解
決法が効果的だと思わ
ないでください。C・S・ル
イスは、そんな解決法
は洪水のときに消火器

を持って右往左往するよ
うなものだと書いてい
ます（*The Screwtape Letters*〔1959
年〕、117-118参照）。
常に頼れるのは福音
だけであり、それ以外
の代替物はいざという
とき役に立ちません。

10. ラッセル・M・ネルソン長老夫妻と
旅行していたときのこ
とです。わたしたち
は、パキスタンのカラ
チ経由イスラマバード
行きの飛行機に乗る
べく、インドのボン
ベイにあるホテルを
出ました。雑然とし
た空港に着いてみる
と、乗るはずだった
便がキャンセルにな
っていました。わたし
はいらいらしながら
航空会社のカウンタ
ーの職員に言いま
した。「どうしたら
いいのですか。あ
きらめてホテルに
戻るとはいいけ
ませんか」と答え
ました。そこで、
わたしたちは空
港中をくまなく歩
き回って代わり
の便を見つけ、
イスラマバード
での約束を果た
すことができました
ばかりか、その
晩ゆっくり眠
ることもでき
たのです。時
に人生には
そういうこ
とが起こり
ます。そ
んなときは
決してあ
きらめず、
思いどお
りになら
なくても
希望を持
ち続け、「
ホテル
に戻る」
ことを拒
否するべ
きな
のです。さ



もなければ「すぐにあきらめなくなる」気
持ちは、人生に始終付きまとうでしょう。
そのうえ主は、わたしたちが「眠りに就く
まで」にどれくらいの道のりを進まなけれ
ばならないかをよく御存じなのですから。
（“Stopping by Woods on a Snowy
Evening”）

11. わたしはワシントンD.C.で数年過
した後、条件の良い就職口を幾つか断
って故郷に戻りました。やがて、1956年
にユタ大学から就職の誘いを受けました。
妻は受諾すべきだと言いました。まるで
未来を知っているかのようにこう言った
のです。「そこに行けば、きっと学生に
良い影響を与えられるって感じるの。」
わたしは気短に「新聞に出す記事を
タイプする仕事なんだよ。学生を相手
に働けるわけじゃない」と答えたの
を覚えています。しかしその後、わたし
は学生ワードの監督に召され、学生
部長に就任して、政治学のクラスで
何百人というすばらしい学生を教
える機会にも恵まれることになった
のです。もちろん大切だったのは役職
ではなく、成長と奉仕の機会を頂
いたことでした。若い兄弟の皆さん、
奥さんたちには、しばしば、霊感
が与えられるものなので

す。それは、時には直感に反しているように思えるかもしれません。皆さんの父親がそれを認める勇気のある人だったら、いずれ説明してくれるかもしれません。

12. 興味深いことに、わたしたちは、気づかないうちに、日増しに自分の孫に期待をかけてしまうものです。何年前か、孫のロビーが5歳のころ、わたしたち夫婦はオレムにある彼の家に立ち寄りました。ロビーは2階で寝ていましたが、母親に「ロビー、ニールおじいちゃんがいらしたわよ」と呼ばれました。すると、疲れた小さな声が聞こえてきて、「ぼくの聖典持って行っていい?」と言いました。

もちろんロビーは小さくてまだ字が読めませんでしたが、近ごろ教会で多くの友達がしているように聖典を持ち歩きたかったのです。

兄弟の皆さん、一人一人の人生には、かけがえのないすばらしい思い出がたくさんあるものです。これらの思い出は、「主が〔わたしたちに〕どれほど憐れみをかけてこられたかを思い起こ」させてくれます(モロナイ10:3)。主は確かにわたしにも憐れみをかけてこられました。

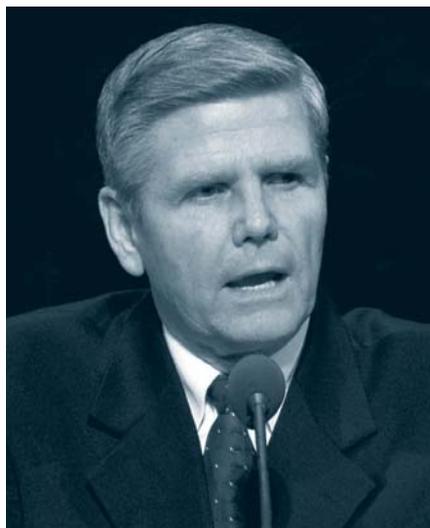
兄弟たち、自らの意思を神の御心みこころに従わせるとき、皆さんは自分にできる唯一のささげ物を神にささげているのです。自らの意思を神にささげ始める時期を遅らせてはなりません。受領書をもらうまで待つ必要はありません。主は、わたしたちのささげ物を受け取ったことを知らせる特別な方法をお持ちです。

神はずっと昔から皆さん一人一人を御存じであったことを皆さんに証あかしします(教義と聖約 93:23参照)。遠い昔から皆さんを愛してこられました。神はすべての星の名前(詩篇 147:4; イザヤ 40:26参照)だけでなく、皆さんの名前、そして喜びや悲しみもすべて御存じです。ちなみに、不滅の星などこの世に存在しません。星はいつか消えてしまいます。しかし、今晚皆さんの隣に座している人たちは不滅の存在です。不完全ではありますが、「イエス様のように」なろうと努むそめているのです。主イエス・キリストの御名によって、アーメン。

兄弟たちを強めなさい

七十人
マービン・B・アーノルド

各定員会ならびにわたしたち一人一人が……「弱い者を伴って行きなさい。……彼らも強くなるためである」と言われた救い主の模範に従うことができますように。



ホセ・デ・ソーザ・マルケス兄弟は「また、あなたがたの中で御霊みたまにおいて強い者がいれば、その人は弱い者を伴って行きなさい。それは、弱い者ができるかぎり柔和に教化されて、彼らも強くなるためである」という、救い主がお教えになった原則を真に理解した指導者でした(教義と聖約84:106)。

ブラジル・フォルタレザにある支部の支部長会の一員であるマルケス兄弟は、ほかの神権指導者と一緒に、あまり教会に来ていない会員が再び教会に来ることができるように計画を立てました。その対象となった若い男性の中にフェルナンド・アラウホがいました。先日フェルナンドに会い、当時のことについて聞きました。

「日曜の朝のサーフィン大会に出るようになり教会に行かなくなりました。ある日曜の朝、マルケス兄弟が家に来て、母に

『息子さんと話せますか?』と言いました。教会員でない母は、息子は寝ていると言いましたが、母からわたしを起こす許可を得たマルケス兄弟は『フェルナンド、教会に遅れるよ』と言い、有無を言わず連れて行きました。

次の日曜も同じでした。その次の日曜には捕まらないよう早く出かけることにしました。しかし門を開けると、車で聖文を読んでいたマルケス兄弟がこう言うのです。『早く起きたね。今日は、もう一人若い男性を見つけに行こう。』選択の自由を主張しましたが『その話は後で』と言われました。

こんな調子で8週間が過ぎ、ついにわたしは友人の家に泊まることにしました。翌朝海岸にいて、背広にネクタイ姿の男性が歩いて来ました。マルケス兄弟だと分かった瞬間、走って海の中に逃げました。突然、肩に手の重みを感じて振り向くと、それは胸まで水につかったマルケス兄弟の手でした。わたしの手を取って『遅刻だぞ。行こう』と言います。服がないと言いましたが、『服なら車の中だ』という答えが返ってきました。

あの日、一緒に海から出たときに、マルケス兄弟の純粋な愛と思いやりを感じました。彼は救い主の言葉を真に理解していました。『わたしは、うせたものを尋ね、迷い出たものを引き返し、傷ついたものを包み、弱ったものを強く〔する。〕』(エゼキエル34:16)ただ迎えに来るだけでなく、活発でいられるように定員会で配慮してくれました。よく計画された活動のおかげで、自分は必要とされているのだと感

じました。召しを受け、定員会の仲間との友情を深めていきました。]

再び教会に来るようになったアラウホ兄弟は、専任宣教師となり、監督、ステーク会長、伝道部長、地区代表を務めました。夫に先立たれた母親と3人の姉妹、そしていとこたちもまた、バプテスマの水に入りました。

現在再び監督を務めているアラウホ兄弟は、ワードのアロン神権定員会についてこのように言います。

「わたしたちの救出活動は、アロン神権の3つの定員会を全部対象にしています。いなくなった羊一人一人がリストに載っています。定員会会長会、アドバイザー、監督会は手分けして定期的に彼らを訪問します。それに加えて、彼らの家族や会員の家庭にいる会員でない家族も訪問しています。

一人一人の若い男性の心に触れる活動を準備しています。定員会会長会の会合や監督会の月例青少年委員会で、若い男性一人一人について話し合っています。2003年には、祭司5人、教師1人、執事2人を救い出すことができました。現在皆それぞれの定員会に活発に集っています。再び教会に集うようになった家族もあり、何人かがバプテスマの水に入るという祝福も得ました。」

神権を受けた兄弟たちが神聖な義務を果たしたいと願い、治めるのではなく仕えるために多くの時間を費やしていることを考えるとき、救い主の次の御言葉が浮かびます。

「あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせ、かわいていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、

裸であったときに着せ、病気のときに見舞い、獄にいたときに尋ねてくれたからである。」(マタイ25:35-36)

いなくなった羊を見つけに1マイル余分に歩かれた救い主の模範は、聖文の至る所に記されています。「あなたがたのうち、100匹の羊を持っている者がいたとする。その1匹がいなくなったら、99匹を残しておいて、いなくなった1匹を見つけるまでは野原を捜し歩かないであろうか。」



青少年に手を差し伸べることの大切さを伝える話の中で、マービン・B・アーノルド長老が語った物語の再現写真。今では成熟したフェルナンド・アラウホ兄弟が写真の中で当時の神権指導者の役をしている。若き日のフェルナンド・アラウホ兄弟にふんしているのは、ブルーノ・アグスト兄弟。

(ジョセフ・スミス訳ルカ15:4, 英文から和訳) 良い羊飼いである主は羊がいついなくなったか御存じです。「聖者は……その羊を数えられ、羊は聖者を知るようになります。」(1ニーファイ22:25)「そして彼は自分の羊の名をよんで連れ出〔されまゝす。〕」(ヨハネ10:3)主は「野原」(wilderness)すなわち英語で「混乱した群れ」とよく定義される場所を捜して歩かれました(Merriam-Webster's Collegiate Dictionary, 第11版〔2003年〕「野原(Wilderness)」の項, 1432)。

羊を見つけられるのにどれくらいかかったか、良い羊飼いを助ける人がいたかどうかは分かりません。しかし、羊が「〔羊飼い〕の声を知って」いて(ヨハネ10:4)、羊飼いが羊を愛しておられたことは確かです。羊飼いはあきらめず、「〔その〕1匹を見つけるまで……捜し……見つけ」、大切に肩に乗せて帰って来て、こう言われました。「『わたしと一緒に喜んでください。いなくなった羊を見つけましたから。』……よく聞きなさい。それと同じように、罪人がひとりでも悔い改めるなら……よろこびが、天にあるであろう。」

(ルカ15:6-7)

エゼキエル書第34章には預言者の警告の声があります。

「主の言葉がわたしに臨んだ、『……わざわざいなるかな、自分自身を養うイスラエルの牧者。牧者は群れを養うべき者ではないか。』……

わが羊は散らされている。彼らはもろもろの山と、もろもろの高き丘にさまよい、わが羊は地の全面に散らされているが、これを捜す者もなく、尋ねる者もない。……

主なる神は言われる、わたしは生きている。わが羊はかすめられ、わが羊は野のもろもろの獣のえじきとなっているが、その牧者はいない。わが牧者はわが羊を尋ねない。……

わたしは……わたしの羊を彼らの手に求め〔る。〕(1-2, 6, 8, 10節, 強調付加)

主は、父親、定員会指導者、定員会会員など、聖なる神権を授けられた人々に、群れに対する責任を負うよう常に求めてこられました。兄弟の皆さん、わたしたちは群れを捜さなければなりません。わたしたちの群れが「野のもろもろの獣のえじ



き)になるのを見過ごしてはなりません。

教義と聖約第20章には、神権者および定員会会員として果たすべき義務が多く示されています。以下の言葉の中に、その義務に対して主が感じておられる緊急性と必要性が強調されています。「見守る」「指導する」「説き明かす」「各会員の家を訪れる」「祈る」「強める」「警告する」「送る」「教える」「勧める」「バプテスマを施す」「キリストのもとに来るようにすべての人を招く」(42, 44, 46-47, 53, 81-82節, 強調付加)。

ヒンクレー大管長の次の勧告からも、緊急性を感じます。「わたしたち一人一人が心の内に決心して立ち上がりましょう。地上に住む神の息子、娘の不死不滅と永遠の命をもたらすという天の御父の栄えある業の一助となるために、新しい機会を受け入れ、新しい責任感を抱き、新しい義務を引き受けましょう。」(「子羊を見だし、羊を養う」『リアホナ』1999年7月号, 127)

いなくなった羊が無事に戻るまであきらめない良い羊飼いの模範に感謝します。トーマス・S・モンソン副管長の模範に感謝します。モンソン副管長は監督のとき、群れをアドバイザーにゆだねてウエストン自動車修理工場に行き、グリースピット〔訳注——整備士が自動車の下に入って作業するための穴〕の中にいたリチャードを救ったのです(「アロン神権者の道」『聖徒の道』1985年1月号, 42)。フェルナンドを海から救ったマルケス兄弟に感謝します。また、わたしの知人である定員会アドバイザーと定員会会員たちに感謝します。彼らは6か月間、毎週日曜の朝にスコットの部屋の窓をたたきました。友情と愛を示した結果、スコットはついに群れに戻りました。いなくなった羊を捜すために1マイル余分に歩いている皆さんの模範に感謝します。皆さんの努力は定員会会員の人生に、また何世代にもわたる彼らの子孫に、永遠に影響を及ぼすでしょう。彼らは救い主の次の約束に

対する生ける証^{あかし}となるでしょう。「あなたがたにゆだねられている神の羊の群れを牧しなさい。……そうすれば、大牧者が現れる時には、しばむことのない栄光の冠を受けるであろう。」(1ペテロ5:2, 4) また「人々をわたしのもとに導き、わたしの父の王国で彼らとともに安息を得られるようにすること」ができるであろう。(教義と聖約15:6)「その喜びはいかに大きいことか。」(教義と聖約18:16)

各定員会ならびにわたしたち一人一人が教会の評議会と協力して働き、「弱い者を伴って行きなさい。……彼らも強くなるためである」と言われた救い主の模範に従うことができますように(教義と聖約84:106)。ジョセフ・スミスが神の預言者であり、モルモン書が聖文であること、ゴードン・B・ヒンクレー大管長がまさに神の預言者であり、イエス・キリストが贖い主^{あがな}であり良い羊飼いであり、生きておられることを、へりくだり証します。イエス・キリストの御名^{みな}により、アーメン。

若人の強さのために

七十人会長会
アール・C・ティンギー

教会の標準は堅固で真実です。それらは皆さんに安全と永続する安心を与えるためにあります。



愛する神権者の皆さん、今晚皆さんと集えることを光榮に思います。このカンファレンスセンターには、わたしの4人の孫である、クレグ、ブレント、ケンドル、マイケルが来ています。わたしは彼らとアロン神権者全員に向けて話したいと思います。ほかの皆さんも耳を傾けてください。

『若人の強さのために』にある大管長会からのメッセージにはこう記されています。

「愛する若い男性……の皆さん、わたしたちは皆さんに大きな信頼を寄せています。皆さんは優れた霊の持ち主であり、大きな機会と責任が待ち受け、そのために誘惑も大きいこの時期に地上に生を受けました。皆さんは現世の旅にたつ、出発地点にいます。天の御父は皆さんが喜びに満ちた生涯を送り、みもとに戻って来ることを望んでいらっしゃいます。こ

こで下す決断は今後の人生に起きる多くの出来事や永遠の行く末を決めていくでしょう。」¹

皆さんは実に不確実な世の中に生きています。いろいろな声が聞こえ、道も数多くあります。すべてが天の御父へとつながっているわけではありません。では、だれの言葉に耳を傾け、どこへ行ったらよいのでしょうか。どうすれば分かるのでしょうか。

預言者ヤコブは、次の聖句の中でこれらの質問に答えています。「御霊は真実を語り、偽りを言われることがない。したがって、御霊は現在のことをありのままに示し、未来のこともまた、ありのままに述べられる。」²

ところで、ヤコブが述べている「現在のことをありのままに」とはどういうことでしょうか。ニール・A・マックスウェル長老はそれについてこう述べています。

『『現在の……ありのまま』の事柄に対して従順にならなければ、果てのない回り道に迷い込んだり、別の人生をむなしく求めたりすることになります。……現在送っている間違った人生を、後になって正しいと証明することはできませんし、それが証明されることもありません。……

主イエス・キリストの福音は多くの真理を伝えていますが。……神が確かに生きておられ、真の教会、生ける預言者、真実の聖霊が存在すること、そして復活が裁きとともに確かにあることを教えているのです。」³

真理、すなわち「現在の……ありのまま」の事柄には、基準が設けられている

ものがあります。その多くは計ることができます。スポーツから幾つか例を挙げてみましょう。

2004年3月号の『リアホナ』にメキシコのモロナイ・ルビオの写真が掲載されています。2年前、モロナイは16歳のときに中央アメリカジュニア選手権の100メートル走で優勝しました。現在の自己ベストは10.46秒です。⁴彼の場合、ストップウォッチを使って成績を測ります。

男子走り高跳びの世界記録を保持しているのはキューバの選手で、2メートル45センチ跳んでいます。想像できるでしょうか。競技者は、縦に伸びた2本のポールに水平にかけられたバーの上を跳び越えます。このバーは基準を表し、その基準を満たすか、それ以上の値を出さなければなりません。

陸上競技会でストップウォッチを使わなかったり、走り高跳びの基準となるバーがなかったりしたらどうでしょうか。

人生には陸上競技と同じように、標準、すなわちはかりとなる行いがあります。正しいことと間違ったことがあるのです。神権者であるわたしたちには標準があります。

残念ながら、現在の世の中では、道徳や行動の伝統的な標準が取り去られています。今日の流行は「何でもあり」です。世の中は長く尊ばれてきた標準を、古くさいとか、時代遅れと見なしています。

わたしたちの教会では、標準に従うことが期待されています。過去において常に間違っていたことは、今日においても間違っています。教会は、習慣の変化や自分たちが住んでいる社会のモラルを取り入れて、道徳の標準を修正することはありません。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、少年のときの経験について話しています。弟のシャーマンと古い農場の荷車をベッドにして横になっていた晩のことです。二人は「空に輝く無数の星を見詰め、順番になじみのある星座を見つけていました。そして北極星を見つけるために、ひしゃくの形をした北斗七星をたどったのです。」ヒンクレー大管長は、北極星



に魅了されたと語っています。地球は自転しますが、北極星は空での位置を変えず、決して動きません。またこう言っています。「わたしはそれを、変化のただ中における不変のものとしてとらえています。北極星は常に信頼できるもの、頼れるもの、そして動いていて変わりやすい大空における錨いかりのようなものです。」⁵

不動の、絶対的な位置にある北極星に注目したある作家が、キャンプ旅行で迷子になった少年の話を対比させています。ようやく息子を見つけた父親は、目印を見つけておくことを覚えていなかったのかと尋ねました。そうすれば、自分の位置を確認するのに役立つはずだと言うのです。息子は「そうしたよ」と答えました。

「何を目印にしたんだい？」父親は聞きました。

「そのウサギだよ。」少年はそう答えたのです。⁶

アロン神権を持つ若い男性の皆さん、動き回るウサギではなく、変わることのない福音の標準に焦点を合わせてください。

『若人の強さのために』の小冊子にある次の標準は、とりわけ皆さんにとっての

北極星となります。高い標準を持つ友達を選んでください。入れ墨を彫ったり、ボディピアスを付けたりして、自分自身を傷つけてはなりません。ポルノグラフィを避け、攻撃的な言葉を用いた音楽を聞かないでください。神聖さを汚す言葉を使わないでください。高い標準を持つ人とだけデートし、性的な清さを保ち、必要に応じて悔い改めてください。正直であり、安息日を重く守り、じゅうぶん 十分の一を納め、知恵の言葉に従ってください。⁷

12年ほど前、アフリカのある国で何年も自宅で集会を開いていた忠実な教会員たちがいました。わたしは、宣教師の入国と教会を設立する許可を政府から得られるか確認するためにその国へ行きました。そして政府の高官と面会しました。高官は、教会の説明をする時間を20分取ってくださいました。

説明し終わると、高官はこう言われました。「今のお話から、既存の宗教との違いが見えてきません。宣教師をわたしたちの国に呼び寄せたいという要望を承認する理由がありません。」

高官は立ち上がり、わたしを部屋から立ち去らせようとされました。頭が真っ

白になりました。失敗したのです。面会はもう終わってしまいます。何ができると言うのでしょうか。わたしは静かに祈りをささげました。

そのとき、一つのすばらしい考えが浮かびました。わたしは高官に伝えました。「あと5分だけお時間を下されば、もう一つだけお話ししたいことがあります。それだけ話せば、わたしは帰ります。」高官は親切にも、同意してくださいました。

わたしは書類入れを取り出し、いつも携帯しているこの『若人の強さのために』の小冊子を出しました。

そしてこう言ったのです。「標準を記したこの小さな冊子を、わたしたちは教会の青少年全員に渡しています。」

それから、今晚話した幾つかの標準を読み上げました。読み終わると、高官はこう言われました。「教会の青少年に、このような標準に添って生活するよう期待していると言うのですか？」

「はい。彼らはそうしています」と答えました。

高官は言われました。「それは驚きです。何冊か送ってもらえないでしょうか。うちの教会の青少年にも配りたいので。」

「分かりました。」わたしはそう答え、そのようにしました。

数か月後、その国に来て、教会を設立してもよいとの許可を政府から正式に頂きました。

若い男性の皆さん、皆さんが守るこの標準は特権であり、真の高価な真珠です。世の中はそれを理解しません。しかし多くの善良な人はそれを求め、皆さんはすでに手にしているのです。

預言者ジョセフ・スミスは啓示を受け、現代においてどの声に耳を傾け、どの標準に従うべきか知る方法を確認しました。この啓示の中で、わたしたちの時代、また世代は、人が「あふれる懲らしめを見」、「荒廃をもたらす病気が地を覆う」時代であると述べられています。⁸

そして主は、忠実に従う者たちを守る安全の標準を与えてくださいました。主はこうおっしゃいました。「しかし、わたしの弟子たちは聖なる場所に立ち、動

かされない。』⁹

大管長会と十二使徒定員会の兄弟たちは、聖なる場所に立つ弟子たちです。彼らは過去に真理として確立されたものから、時の流れによって動くことも、揺らぐこともありません。教会の標準は堅固で真実です。それらは皆さんに安全と永続する安心を与えるためにあります。標準に従うことを決心したとき、皆さんは神が承認され、時が証明した標準で計られることになるのです。

わたしの孫や親愛なるアロン神権者の皆さん、皆さんは人生という競走の中にいます。それは短距離走ではなく、マラソンのようなものです。

皆さんは神が定められた標準によって試され、証明されます。そしてどうすればよいのか、御霊によって導かれます。

わたしたちは、長年尊ばれてきた標準を掲げる唯一の組織と言っても過言ではないでしょう。ほかのほとんどの組織は、この世の文化に屈してきました。生ける預言者を頂いていることは、何という祝福でしょう。

皆さんが教会の標準を守ることで祝福されますように。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

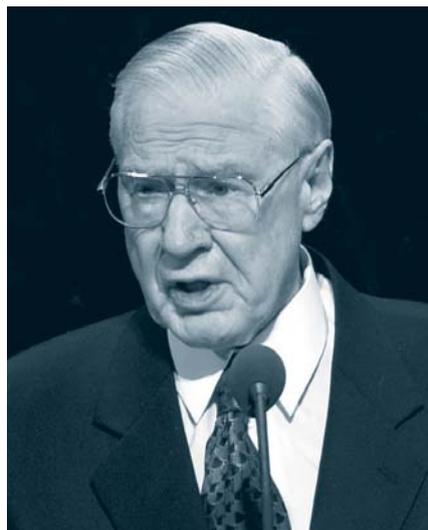
1. 『若人の強さのために』 2
2. モルモン書ヤコブ4：13
3. *Things as They Really Are* (1978年), xi-xii
4. アダム・C・オルソン「モロナイの足」『リアホナ』2004年3月号, 8-11参照
5. シェリー・L・デュー, *Go Forward with Faith, The Biography of Gordon B. Hinckley* (1996年), 5-6参照
6. ジェリー・ジョンストン "Following True North Is Lifelong Challenge," *Deseret Morning News*, 2004年2月14日付, セクションE, 1参照
7. 『若人の強さのために』 12-37参照
8. 教義と聖約45：31
9. 教義と聖約45：32

選 択

第二副管長

ジェームズ・E・ファウスト

明日の祝福と機会^{きょう}は今日の選択にかかっているのです。



神の聖なる神権を持つ、全世界の愛する兄弟の皆さん、皆さん一人一人を愛と友情を込めて歓迎いたします。

この現世では多くの選択が求められます。非常に重要な選択もあれば、そうでないものもあります。選択の多くは、善と悪を選ぶことです。幸せになるか不幸せになるかは、何を選ぶかに大きく左右されます。なぜなら、人は皆選択の結果を刈り取らなければならないからです。常に完全な選択をするのは不可能なことです。しかし満足のいく良い選択をして、成長することは可能です。神の子供たちが導きを受けるにふさわしく生活するなら、「とこしえに自由となり、善悪を知る」ようになり「思いのままに行動することができ、強いられることは」なくなります。¹

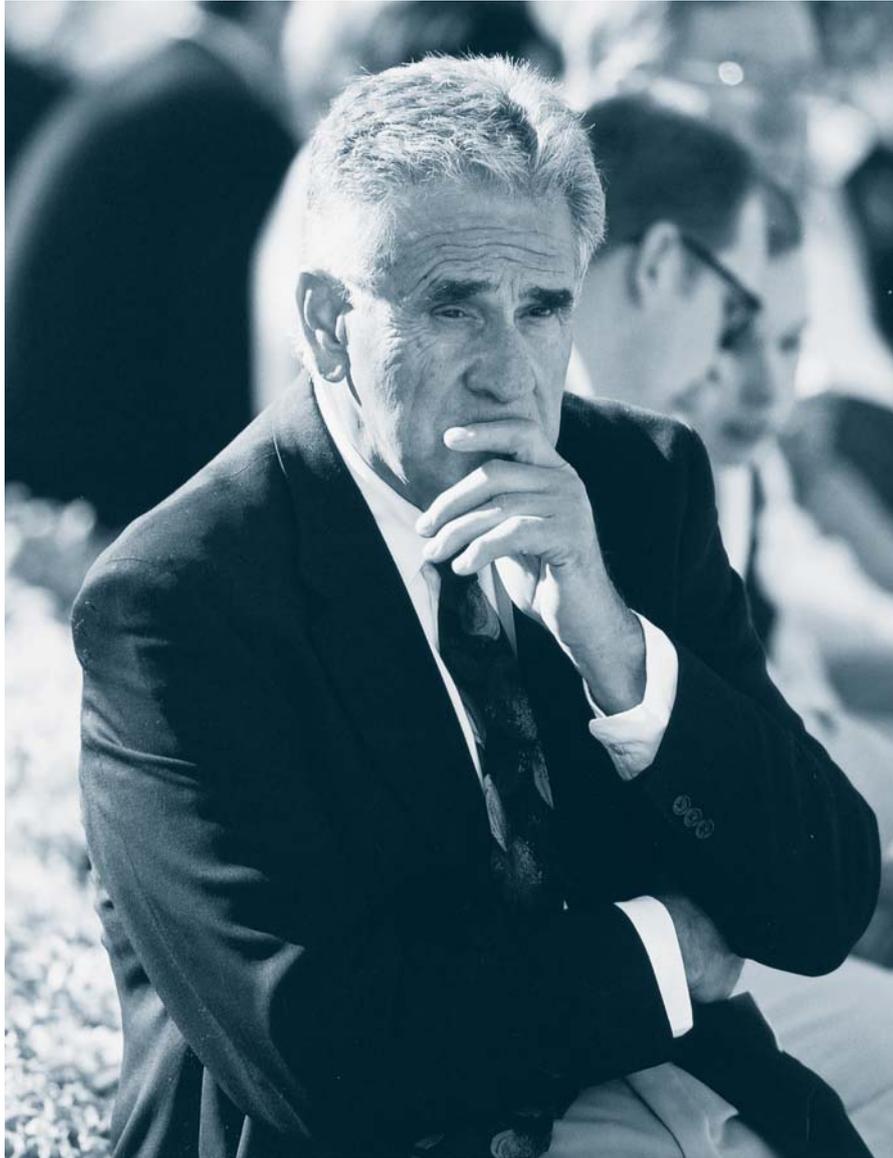
人は時に周囲の圧力に負けて愚かな選択をすることがあります。キース・メリ

ルは少年時代にそのような経験をしました。友人と、ソルトレーク・シティの北東にあるイーストキャニオンで、切り立った崖から人造湖に飛び込んで遊んでいたときのことで。一人がダム^{ダム}の最も高い所に登り、15メートルの高さから飛び込むと、10代の少年たちの対抗意識がかき立てられました。全員がダムの上に登り、同じ所から飛び込んだのです。物足りないと思った一人が言いました。「よーし、次はもっと高い所だ！」彼は崖を18メートル登りました。負けず嫌いのキースも一緒に這い上がりました。先に飛び込んだ少年が大丈夫そうだったので、キースも思い切って飛び込みました。高さを競い続けたのはこの二人だけでした。友人は21メートルまで登り、飛び込みました。彼は笑顔で、肩と目をこすりながら浮かんで来ました。そして次のように言ったのです。「おまえもやるか？」

「もちろんだよ！」すると水辺にいた少年たちも言いました。「キースならやるに決まっている！」

それでキースは泳いで岸に戻り、岩を這い上がりました。同じ所から飛び込んだら、相手がさらに高い所に挑戦するだろうと思い、キースは24メートルある崖の頂上まで登りました。だれもそれより上に行けません。見下ろすと、水面がはるか下に見え、キースは恐ろしくなりました。向こう見ずな決断でした。望んだわけでも、正しいと感じたわけでもありません。今では名前すら思い出せないような一握りの少年たちにせき立てられて決断してしまったのです。

キースは後ろに下がり、崖の縁を目が



けて全力で走りました。前もって注意深く岩に付けておいた印を見て、そこから宙に身を躍らせました。落下中に「決定は慎重に、誤った決定で死ぬことだってあるんだから」と言っていた両親の言葉を思い出しました。そして思いました。「決定を誤った。こんなスピードで突っ込めば、水はコンクリート同然だ。」実際、コンクリートのように感じました。やっとの思いで水面に頭を出したキースは、ほっと胸をなで下ろしました。

彼はなぜ飛び込んだのでしょうか。何を示したかったのでしょうか。キースをせき立てた少年たちは、このばかげた行為を気にも留めず、思い出もしないでしょう。キースは後に、命を落としかねない決断をしたことに気づきました。友人の

圧力に負け、したくもないことをしたのです。愚かでした。彼はこう言いました。「この世に生き、この世の者となっていたわたしは、自分をコントロールできなかったのです。命にかかわる決定を自分で下していませんでした。大切な決定をこの世に任せてしまい、危うく帰らぬ人となるどころでした。」²

衝動を抑え、決断を人任せにするような愚行を避けるには、ある種の勇気が必要です。自分は神の息子であり、聖なる神権を持ち、意義深い可能性を秘めた者であるということをはっきり認識するなら、しっかりした態度を保てるはずです。

残念ながら取り返しのつかない選択もありますが、多くは修正できます。軌道修正し、正しい道に戻ることができるの

です。道に戻るには、悔い改めの原則に従う必要があります。まず誤っていたことを認めます。次に誤った行いを捨てます。第3に二度とその過ちを繰り返しません。第4に告白をし³、可能なかぎり償いをします。経験から学ぶのも有益ですが、試行錯誤から学ぶ方法は失敗も多いものです。両親や気にかけてくれる人々、教師たちから学べば、早く容易に進歩できます。人の失敗から学ぶこともできます。誤った選択の結果を観察するのです。

どちらの道を選んでも良い機会に恵まれる場合もあります。例えば、職業の選択や、学校を決める場合がそうです。知人の中に聡明で有能な若者がいます。医者を目指していましたが、機会に恵まれず、法律の道に進むことにしました。彼は弁護士として大きな成功を収めていますが、医者になっていたとしても成功していたことでしょう。

大切な選択の中には時間制限があるものもあります。決定が遅れると永遠に機会を逸します。時として、不安があるために何かを変えるという選択ができないことがあります。そして機会を逃してしまうのです。ことわざにあるように「選択すべきときに選択しないこと、それも一つの選択なのです。」⁴

決断するのが苦手な人もいます。ある精神科医が患者に「決断するのが難しいときがありますか」と聞くと、患者が答えました。「さあ、どちらとも言えません。」「あなたがたの仕える者を、きょう、選びなさい。ただし、わたしとわたしの家とは共に主に仕えます」⁵と宣言したヨシュアのように、わたしたちも決断できますように。

ある選択はほかの選択より重大な結果をもたらします。この世の中では、結婚相手を選ぶことほど重大な選択はありません。この選択から永遠の幸福と喜びが得られます。結婚生活から最高の満足を得るためには、夫婦が互いに自らを完全にささげる必要があります。

満足と幸福につながる大切な決意は一度だけにすべきで、一度決意したら、後戻りしてはなりません。例えば、たばこ、

アルコール、精神に作用する薬物を取らないという決意は、一度だけきっぱり決意すればよいのです。

1976年、アメリカ空軍の大佐だったロバート・C・オクス長老は海上事故交渉団に属していました。交渉団はレニングラード海軍管区主催の晩餐会に招かれました。ソ連と合衆国の高官約50人が出席している中、主催者が食前の乾杯の音頭を取ろうとしました。皆乾杯のために起立し、グラスを掲げました。ほとんどのグラスにはロシア製のウォッカが注がれていました。オクス兄弟のグラスはピンク色のレモネードでした。乾杯の音頭を取ろうとした大將はすぐにそのことに気づきました。大將は乾杯を途中でやめ、オクス兄弟のグラスにウォッカをつぐように命じ、それまで乾杯はしないとしました。オクス兄弟はそれを辞退し、これでけっこうですと言いました。

気まずい雰囲気はその場に流れ始めました。ほとんどがオクス兄弟の上官である交渉団の団員もその状態に当惑しました。ソビエト人の案内役がオクス兄弟の耳もとでささやきました。「ウォッカを注いでください！」オクス兄弟は生涯で最も短い祈りをささげました。「神様、助けてください！」

すぐに、ソビエト人通訳者が主催者の大將に「宗教上の理由なのです」とささやきました。通訳者は陸軍大尉で、以前宗教について話し合っていたのです。大將はうなずき、場の雰囲気は元に戻り、晩餐会は進行していきました。⁶

オクス長老が決してアルコールを口にしないと決めたのは何年も前のことで、いつ試されても決意し直す必要はありませんでした。オクス長老は、信仰の原則を一つ妥協したら、ウォッカを飲むよりもっと大きな害を受けることになるだろうと確信していました。ところで、宗教上の原則に従ったことで彼の職歴に悪影響はありませんでした。この後、彼は大將に昇進しました。

不思議なことに、間違っただけの行いが正当に見えることがよくあります。それが最も楽だからでしょう。間違っただけの行いには「だ

れでもやっているよ」という言い訳が付き物です。真理をゆがめるこの言葉は、サタンの言葉です。ニーファイが教えているように「悪魔はこのようにして人々をだまし、巧みに地獄に誘い落とす」⁷のです。

世の多くの人々の行いがどうであろうと、不正直、虚言、詐欺、冒瀆を正当化することはできません。特に主の御名をみだりに唱えたり、性的不道徳の罪を犯したり、安息日を尊ばなかったりすることの言い訳にすることはできません。

他人の行いが物事のよしあしを決定するものではありません。一人の人が勇気を出して正しい選択をすれば、多くの人に賢明な選択をする勇気を与えます。わたしはパンフレット『若人の強さのために』に述べられていることを支持します。

「あなたは自分の選択に対して責任を取らなければなりません。神の戒めに背く選択をして、それを自分の環境、家族、

友達のせいにはすることはできません。あなたは神の子供であり、大きな力を与えられています。どのような環境の下に置かれていても、正義と幸福を選ぶ力があなたにはあります。」⁸

どのように正しい選択をするのでしょうか。選択には意識的な決定が伴います。賢明な選択をするには、手に入る全部の情報のメリットとデメリットを検討する必要がありますが、それだけでは不十分です。正しい決定を下すには祈りと靈感が必要です。教義と聖約の第9章には大切な鍵が提示されています。主はオリバー・カウドリに言われました。

「見よ、あなたは理解していなかった。あなたはわたしに求めさえすれば、何も考えなくてもわたしから与えられると思ってきた。

しかし見よ、わたしはあなたに言う。あなたは心の中でそれをよく思い計り、



勇気が求められる

第一副管長

トーマス・S・モンソン

多数意見に挑む勇気、原則を守る勇気を持ちましょう。妥協しない勇気が、神が承認された恵みをもたらすのです。



こから見る皆さんの姿は実に壮観です。またこの時間に、同胞である神の神権者が世界中の何千とある教会堂で、衛星中継を使ってこの放送に見入っていることを思うと、畏敬の念さえ覚えます。その国籍は異なり、話す言葉は様々でも、わたしたちは共通の糸で結ばれています。わたしたちは信任を受けて神権を授かり、神の御名によって行動することができます。神の信頼を受け、大きな期待を寄せられているのです。

その昔、有名な作家チャールズ・ディケンズは、将来待ち受ける機会を作品にしました。『大いなる遺産』と題する彼の傑作の中で、フィリップ・ピリップ、または「ピップ」としてよく知られた少年が描かれています。ピップは特異な環境に生まれ、孤児でした。彼の心からの望みは学者になり、紳士になることでした。しかし、彼

の願いや望みは、どれもかなわぬものにも思えました。若い男性の皆さん、時々そのように感じませんか。大人のわたしたちでも、同じような気持ちになりませんか。

そんなある日、ジャガーズと名乗るロンドンの弁護士が幼いピップに会いに来て、見ず知らずの慈善家が彼に財産を残したことを告げました。そして彼の肩に手を回して言いました。「君は莫大な遺産を手に入れたんだ。」

今晚、若い男性の皆さんを見て、皆さんが何者で、将来何になるのか理解したうえで、こう宣言します。「皆さんは莫大な遺産を手に入れました。」それは見ず知らずの慈善家からでなく、よく知られた慈愛の御方、天の御父からのもので、皆さんに大きな期待が寄せられているのです。

人生の旅路でたどる道は、障害物や落とし穴、わなを取り払った高速道路ではありません。むしろ分かれ道や曲がり角のある小道です。常に決断に迫られます。賢明な決断を下すには勇気が必要です。「いいえ」と言う勇気、「はい」と言う勇気です。そのような決断が行く末を決めるのです。

だれもが常に勇気を求められます。これまでずっとそうであり、これからも変わることはないでしょう。

アメリカ南北戦争当時、グレーの軍服をまとった南軍の歩兵を務めた若者が、ある軍人指揮官の勇気について記録しています。彼はJ・E・B・スチュアート司令官の影響力について次のように記しました。

「勝敗を決する重大な局面になると、彼は敵に向かって手を振り挙げて叫ん

その後、それが正しいかどうかわたしに尋ねなければならない。もしそれが正しければ、わたしはあなたの胸を内から燃やそう。それゆえ、あなたはそれが正しいと感じるであろう。

しかし、もしそれが正しくなければ、あなたはこのような感じを少しも受けず、思いが鈍くなり、それによって誤っている事柄を忘れるようになる。」⁹

未来に目を向けるなら、「悪を善と呼び、善を悪と呼ぶ」¹⁰ 世界で、もっと強くなり、自らの選択にもっと責任を持つようになる必要があります。神の御心や神権者の勧めに反して選択の自由を行使するなら賢い選択をしているとは言えません。明日の祝福と機会は今日の選択にかかっているのです。

神権者の皆さん、教会全体としてわたしたちは、世のすべての人に義の模範を示す責任があると、わたしは確信し、証します。ゴードン・B・ヒンクレー大管長の偉大な指導の下、靈感に満ちた選択をすることにより、人々に道を示さなければなりません。選択の力は皆さんにあります。永遠の選択をするときに、神から授かった選択の自由を賢明に行使できるよう、イエス・キリストの御名によりお祈りします。アーメン。

注

1. 2ニーファイ2：26
2. 「決断のとき」『聖徒の道』1976年11月号、533-534参照
3. 教義と聖約58：43参照
4. ウィリアム・ジェームズ、エバン・エスカー編、*20,000 Quips and Quotes* (1968年)、132で引用
5. ヨシュア24：15
6. *Believe! Helping Youth Trust in the Lord* (2003年)、27-28参照
7. 2ニーファイ28：21
8. 『若人の強さのために』4-5
9. 教義と聖約9：7-9
10. 2ニーファイ15：20



だ。『進め、前進だ！ わたしに続け！』

兵士たちは勇気と不屈の精神をもって、司令官の後に〔続いて〕怒濤の勢いで突進し、目的地を攻め落とす。』¹

さらに時代をさかのぼり、遠く離れた地で、別の指導者が同じ呼びかけをなしていました。「わたしについてきなさい。」² この御方は戦争の司令官ではなく、平和の君、神の御子でした。その当時、主に従った人々や、現在主に従っている人々は、はるかに重要な勝利を手にし、その結果は永遠に続きます。とはいえ、勇気は常に必要なのです。

聖典はこの真理を明らかにしています。エジプトに売られたヤコブの子ヨセフは、ポテバルの妻から誘惑されたとき、勇気ある固い決意を示してはっきりとこう言いました。「『どうしてわたしはこの大きな悪をおこなって、神に罪を犯すことができましょう。』……ヨセフは聞き入れず……外にのがれ出』ました。³

現代において、ある父親はこの勇気の

模範を子供たちの生活に当てはめて、こう助言しました。「いてはならない場所にいることに気づいたら、そこから逃れなさい。」

ヒラマンの2,000人の若者たちの生き方に啓発されない人がいるのでしょうか。彼らは両親の教えに従う勇気、そして純潔と清さを守る勇気が必要であることを教え、自らそれを示しました。⁴

恐らくこうした記録の最後を飾るのは、モロナイの模範でしょう。彼は最後まで正義を守る勇気を持っていたのです。⁵

これらの人は皆、モーセの次の言葉から力を得ました。「あなたがたは強く、かつ勇ましくなければならない。……恐れ、おののいてはならない。あなたの神、主があなたと共に行かれるからである。主は決してあなたを見放さず、またあなたを見捨てられないであろう。」⁶ 主は彼らを見放さなかったように、わたしたちを見放されたいです。彼らを見捨てなかったように、わたしたちをお見捨てに

ないでしよう。

人生において日々刻々と、皆さんやわたしに導きを与えてくれるのは、この慰めに満ちた確信です。もちろん、恐れを感じ、あざけられ、妨害に遭うこともあるでしょう。多数意見に挑む勇気、原則を守る勇気を持ちましょう。妥協しない勇気が、神が承認された恵みをもたらすのです。勇気は、死を恐れぬ勇敢な態度としてだけでなく、ふさわしく生きる決意として理解するとき、いきいきとした魅力ある徳になります。道徳的な意味での臆病者とは、人から反対されたり笑われたりするのを恐れて、自分が正しいと思うことを実行しない人のことです。恐れはだれにでもあることを忘れないでください。しかし、その恐れに毅然として立ち向かう人には勇気もあります。

わたしが勇気について経験したことから、軍隊での話を紹介しましょう。

第二次世界大戦が終わりに近いころ、わたしは合衆国海軍に入隊しました。そ



れはチャレンジに満ちた経験でした。雄々しい行いや勇敢な行動、勇気の模範について学びました。中でもよく覚えているのは、18歳の水兵が示した静かな勇気です。彼は末日聖徒ではありませんが、祈りを少しも恥としませんでした。250人の隊員の中で、毎晩ベッドの傍らにひざまずいて祈るのは彼だけでした。時には興味本位のからかいや不信者からのあざけりの中で、彼は頭を垂れて、神に祈りました。決してひるまず、ためらうこともありませんでした。彼には勇気があったのです。

わたしは詩人エラ・ウィーラー・ウィルコックスの次の詩が好きです。

人生が歌のように流れているとき
人はだれでも陽気でいられる。
しかし、何一つうまくいかないとき、
ほほえむことのできる人こそ、
価値ある人⁷

ポール・ティンギーはそのような人でした。ちょうど1か月前、わたしはソルトレーク・シティーで行われた彼の葬儀に参列しました。ポールは立派な末日聖徒の家庭で育ち、ドイツで宣教師として主に仕え

ました。伝道中の同僚には、七十人第一定員会のブルース・D・ポーター長老がいます。ポーター長老は、ティンギー長老が最も献身的で成功を取めた宣教師の一人であると述べています。

伝道が終わると、ティンギー長老は家に戻って大学を卒業し、すてきな女性と結婚し、二人で子供たちを育てました。彼は監督として仕え、仕事でも成功しました。

その後、何の前触れもなく、神経組織が恐ろしい病気に侵されました。多発性硬化症でした。この疾病に襲われたポール・ティンギーは、雄々しく闘いましたが、残りの人生を治療施設で過ごすことになります。彼はそこで悲しむ人を元気づけ、すべての人を喜ばせました。⁸わたしはその教会の集会に出席する度に、ほかの人と同じように、ポールによって霊を鼓舞されました。

2002年にソルトレーク・シティーでオリンピックが開かれたとき、ポールは特定の区間の聖火リレーを行うよう選ばれました。このことが治療施設で発表されると、集まった患者たちから喝采が起り、心からの拍手がホールにこだましました。わたしがお祝いの言葉をかけると、彼は限られた発声法で言いました。「聖火を落

とさなければいいけど。」

兄弟の皆さん、ポール・ティンギーは聖火を落としませんでした。それ以上に、彼は人生において、その最後の日まで自分の聖火を雄々しく運んだのです。

霊性、信仰、決意、勇気、ポール・ティンギーはすべてを備えていました。

ある人が言ったように、勇気とは恐れないことではなく、恐れを克服することです。⁹時には、失敗から立ち上がって再び努力するために、勇気が必要になります。

10代の若いころ、教会のバスケットボールの試合に参加しました。形勢は不利で、試合の後半が始まるとすぐに、コーチはわたしをコートに入れました。わたしはパスを受け、ドリブルしてフリースローゾーンに近づき、シュートしました。ボールが指から離れた瞬間、なぜ相手チームがわたしを止めようとしなかったのか分かりました。味方のリングにシュートしたのです。わたしは心の中で祈りました。「どうか、ボールが入りませんように。」ボールはリングの縁を回って外に落ちました。

観客が大声で叫びました。「モンソンを出せ、モンソンを出せ、モンソンを出せ、コートの外に！」コーチはそうするしかありませんでした。

その後何十年もして、わたしは十二使徒評議会の一員としてほかの中央幹部と一緒に、ある新たに完成した教会堂を訪れました。そのこの体育館には、通常よりも固いカーペットを実験的に敷き詰めていました。

数人が床の具合を調べていると、その当時管理監督会にいたJ・リチャード・クラーク監督が、突然バスケットボールをわたしに投げて、こう言いました。「そこからシュートを決めることはできないと思うよ。」

わたしは現在スリーポイントラインと呼ばれる位置より後ろに立っていました。この位置から成功したことは一度もありません。そのとき十二使徒のマーク・E・ピーターセン長老が大声で言いました。「彼にはできる！」

わたしは味方のリングにシュートした昔の恥ずかしい経験を思い出しました。そ

れでもねらいを定めてボールを放つと、ネットを揺らして入りました。

クラーク監督はわたしの方にボールを投げて、もう一度言いました。「2度目はできないだろう。」

ピーターセン長老が声を上げました。「もちろん、できる!」

ある詩人の言葉が心にこだしました。「我らを導け、おお、我らを導け、偉大な創造主、闇より外へ、再び闘うために。」¹⁰ わたしはシュートしました。ボールは弧を描いてリングに吸い込まれました。

それで教会堂の視察は終わりました。

昼食のとき、ピーターセン長老はこう言いました。「プロバスケットボールの先発メンバーに入れたかもしませんね。」

アロン神権とメルキゼデク神権という神の神権を持つ者として、自分の義務について深く考えるとき、バスケットボールの勝ち負けは、わたしたちの思いから消えていきます。わたしたちは主の戒めに従い、主に仕えるために受けた召しにこたえることにより、自分自身を備えるという神聖な義務を負っているのです。

神の神権に聖任されたわたしたちは、違いを生み出す力があります。主の助けを受けるにふさわしければ、少年を育成し、男性を本来の道に戻し、主の聖なる業に仕えて奇跡を行うことができます。機会は無限にあるのです。

課せられた務めは膨大に見えても、わたしたちを力づける真理があります。「今日の世の中における最大の力は、人を介して現れる神の力である。」主の用向きを受けている人には、主の助けを得る権利があります。しかし、その助けは、わたしたちのふさわしさに基づいています。現世の海を安全に渡り、人命救助という使命を果たすために、永遠の航海士、大いなるエホバの導きが必要です。わたしたちは天よりの助けを得るために、神を仰ぎ見て、人に手を差し伸べるのです。

差し伸べるその手は清いでしょうか。思いは純粹でしょうか。歴史を振り返ると、死に瀕したダリウス王の言葉から、ふさわしさについての教訓を学ぶことができます。ダリウスは然るべき儀式を通し

て、エジプトの正当な王と認められていました。ライバルのアレクサンダー大王も、アモンの正当な息子であると宣言されていきました。彼も王だったのです。戦いに敗れたダリウスが死にかけていることを知ったアレクサンダーは、彼を癒すために頭に手を置き、立ち上がって王の力を取り戻すように命じ、最後にこう言いました。「ダリウスよ、わたしはあらゆる神々に誓って、これらのことを偽りなく真心から行うものである。」ダリウスは穏やかに論じて言いました。「アレクサンダーよ…その手で天に触れることができると思っているのか。」¹¹

兄弟の皆さん、自らの義務を学んで、与えられた召しを尊んで大いなるものとするとき、主はわたしたちの働きを導き、わたしたちが仕える人々の心に触れてくださるのです。

何年も前になりますが、わたしは監督として、夫に先立たれたマティーという年輩の姉妹をよく訪問しました。マティーとはずっと昔からの知り合いで、その孤独な境遇には胸が痛みました。かわいがっていた息子は遠くに住み、何年も母親に会いに来ませんでした。マティーは通りに面した窓際で、何時間も寂しい思いで待ち続けました。何度も開け閉めしたために擦り切れてきたカーテンの陰で、落胆した母親は自分に言い聞かせました。「ディックは来る。ディックは必ず来る。」

しかし、ディックは来ませんでした。月日は流れ、やがて太陽の光のように、教会の活動がディックの生活を照らしました。かつてわたしのワードのアロン神権者だったディックは、当時、母親から遠く離れたテキサス州ヒューストンに住んでいました。彼はわたしに会いにソルトレークに来ました。彼は到着すると電話をくれ、生活が変わったことを興奮ぎみに報告しました。そして、直接事務所に行ったら都合はどうかと尋ねました。わたしは喜びましたが、こう言いました。「ディック、まずお母さんのところへ行ってから、わたしのところへ来なさい。」彼は喜んでわたしの言葉に従いました。

ディックがわたしの事務所に来る前に、

母親のマティーから電話が入りました。その声は喜びにあふれ、涙にむせていました。「監督、ディックが来るのは分かっていたわ。言ったとおりでしょう。窓から息子が見えたのよ。」

数年後に、マティーの葬儀で、ディックとわたしはそのときの経験について話しました。わたしたちは、息子に対する母親の信仰という窓を通して、神の癒しの力をかいま見たのです。

時は過ぎていきます。しかし、義務は常にあります。義務は薄らぐことも、減ることもありません。破局へと向かう争いが移り変わっても、人の魂を勝ち取る戦いはやむことはありません。主の言葉はラッパのように、皆さんやわたしに、そしてあらゆる場所にいる神権者に向かって響きわたるのです。「それゆえ、今や人は皆、自分の義務を学び、任命されている職務をまったく勤勉に遂行するようにしなさい。」¹²

わたしたち一人一人がそのように行う勇気を持てるよう、イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。

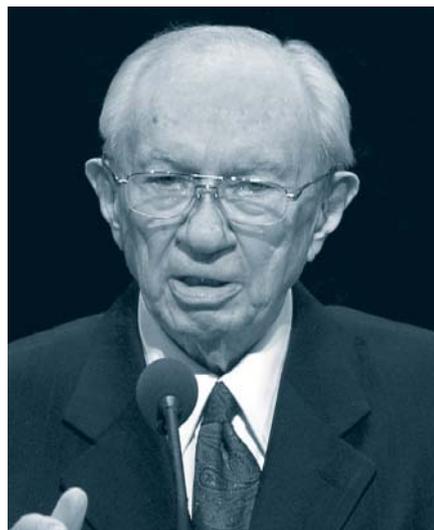
注

1. エモリー・M・トーマス, *Bold Dragon: The Life of J. E. B. Stuart* (1986年), 211-212で引用
2. マタイ4:19
3. 創世39:9-10, 12
4. アルマ56章参照
5. モロナイ1-10章参照
6. 申命31:6
7. "Worth While", *The Best-Loved Poems of the American People*, ヘーゼル・フェレマン選(1936年), 144
8. 「今日われ善きことせしか」『賛美歌』137番参照
9. ゴートン・カルス, ユージーン・エールリッヒ共編, *The Harper Book of American Quotations* (1988年) 111, 「マーク・トウェイン」の項参照
10. ヨンカーズ高等学校の校歌から
11. ヒュー・ニブリー, *Abraham in Egypt* (1981年), 192から改作
12. 教義と聖約107:99

「あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせ……てくれた」

大管長
ゴードン・B・ヒンクレー

何かの理由で支援を必要としている地域があれば、そこに教会を代表する人々が派遣されてきました。……わたしは教会の人道支援がもたらしている効果を直接見てきました。



1936年、今から68年前、十二使徒定員会の秘書の一人が、ある十二使徒から聞いた話を教えてくれました。それは、開拓者の聖徒たちがこの盆地に到着した出来事よりも、もっと注目を集めるプログラムが次の総大会で発表されるというものでした。

ここで一言申し上げておきますが、皆さんは内密にすべき事柄を秘書に漏らしてはなりません。そして内密事項を知った秘書は、決してだれにも漏らしてはなりません。

けれども、昔、それが起きてしまいま

した。今では決してそのようなことは起きません。とんでもない！ わたしの有能な秘書たちは秘密を漏洩することなどありません。

歴史に通じている人は、そのとき教会保全計画が発表されたことを御存じでしょう。その後、この計画は教会福祉プログラムと名称が変更されます。

当時わたしは、教会がどのようなことを行ったとしても、合衆国西部の山あいに民が集めた、かの歴史的な出来事に勝ることはないと思っていました。実に大規模な移動であったため、それ以上に注目を集めるような出来事は起こるはずがないと考えていたのです。けれどもごく最近、興味深いことを発見しました。

大管長会事務局には、政府要人や各国の大使など多くの著名人が訪問されます。数週間前にも、ある世界的な大都市の市長をお迎えしました。また最近ではエクアドルの副大統領と大使、リトアニア大使、ベラルーシ大使をはじめとする方々の訪問を受けました。これらの訪問者の中に、わたしたちの先祖が行った偉大な開拓の旅を話題にする人は一人もいませんでした。けれども、こちらから水に向けなくても、全員が福祉プログラムと人道支援活動を高く評価してください

ました。

この偉大な神権者の集会で話すに当たって、世界の様々な地域で、教会員である人にかかわらず援助を必要としている人のために行われている活動について触れてみたいと思います。

近代の福祉プログラムが始まったとき、それは末日聖徒の必要を満たすことを目的としていました。それからの年月は何千万の人々が支援を受けてきました。監督と扶助協会会長は、援助を必要とする人々が食糧や衣類、そのほかの必需品を手に入れられるようにしてきました。必要な物資を生産するために無数の教会員がボランティアとして働いてきました。現在、113の倉庫、63の農場、105の缶詰工場と家庭貯蔵センター、18の食品加工および配送施設、そのほか多くの機関が稼働しています。

教会員の必要を満たしているだけでなく、教会に属していない無数の人々にも援助の手が差し伸べられています。ここソルトレーク・シティーの地域社会では、末日聖徒でない組織が、食料を必要とする多くの人々に末日聖徒の福祉物資を毎日支給しています。

ソルトレーク・シティーやほかの多くの地域で、教会はキャッシュレジスターのない店を運営しています。そこではお金を使わずに、食品や衣類などの必需品が困っている人々に提供されています。監督の倉から支給される牛乳、肉、小麦粉は、一般のスーパーに並んでいるものよりも良質です。

これらの施設の運営原則は、設立当初から基本的に変わっていません。

困っている人や援助を必要としている人は、まず自分で対処するために全力を尽くすよう求められます。次に、その家族が支援するよう求められます。その後には教会の資源が使用されるのです。

わたしたちは主の次の御言葉を信じており、真剣に受け止めています。

「わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい。

あなたがたは、わたしが空腹のときに



食べさせ、かわいていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、

裸であったときに着せ、病気のときに見舞い、獄にいたときに尋ねてくれたからである。」(マタイ25:34-36)

これが、援助を必要とする人々を助ける主の方法です。主は言われました。「貧しい人たちはいつもあなたがたと一緒にいる[。]」(マタイ26:11参照)

援助なしに生活できる人々は、支援が必要な人を助けるためにボランティアとして働いています。昨年福祉施設に提供された労働時間は、延べ56万3,000日に達しました。これは、一人で1日8時間働く場合、1,542年間続けたことに相当します。

最近の『チャーチニュース』(Church News)に、アイダホの小さな町に住む農夫たちに関する話が掲載されていました。その記事から少し読みたいと思います。

「10月下旬、午前6時、アイダホ州ルパー

トの甜菜畑には早くも霜が降りていた。

トラクターは先端に付いた長いアームで12列の甜菜の頭を切り取っていた。その後には収穫車が続き、鋤で甜菜を掘り出し、ベルトコンベヤーに載せ、待機しているトラックまで運んでいた。

……ここはアイダホ州ルパートの福祉農場、今日働いている人はすべてボランティアである。……時には60台以上もの機械が畑に入って整然と作業を行う。……すべて地元の農家から提供された機器である。

作業は一日中続く。

午後7時、……日は沈み、辺りは再び闇と冷気に包まれる。体は疲れ切っているが、心は晴れ晴れとして農夫たちは家路に就く。

今日もよく働いた。

主の甜菜を収穫したのだ。」(ニール・K・ニューウェル, "A Harvest in Idaho", Church News, 2004年3月20日付, 16)

主の倉に物資を供給するために、このようなすばらしいボランティア活動が常に行われています。

導入初期から、このプログラムは援助を必要とする人々を支援するだけでなく、備えをするよう教会の家族に奨励してきました。大災害がいつやって来るかはだれにも分かりません。病気や失業、身体に障害を残すような事故についても同様です。

昨年このプログラムを通して、教会の家族は全体で約8,000トンに及ぶ緊急時用の基本食品を備蓄しました。そのような事態に至らないことを願っています。けれども、健康に良い基本的な食品を蓄えることによって、心の平安と、勧告に従っていることへの満足感が得られます。

さて、福祉プログラムは新しい目標を設定しました。これは数年前にアフリカで起きた干ばつによって無数の人が飢えと死にさらされたときに定められまし



た。教会員は、これらの極度に疲弊した人々の必要を満たすため、人道支援に貢献するよう求められたのです。皆さんからたくさんのお金を受けました。ほかにも多くの地域で必要が生じたため、この活動は現在も継続しています。この支援活動は奇跡を起こしました。何百万トンもの食糧、医療用品、毛布、テント、衣類、そのほかの資材が世界各地で飢饉と荒廃を防ぎました。井戸を掘り、穀物を植え、人の命を救っています。一つの例を紹介しましょう。

ニール・ダーリントンは化学技師で、ガーナの大きな生産会社で働いていました。やがて定年を迎えました。

それから妻とともに夫婦宣教師の召しを受けて、ガーナに派遣されました。ダーリントン兄弟はこう語っています。「飢饉と病気があふれ、社会不安にさらされている地域で、わたしたちは教会を代表する者として極貧と飢えと苦しみにあえいでいる人々に手を差し伸べるために召されました。」

二人は小さな村で新しく井戸を掘ったり、古い井戸を修理したりしました。新

鮮できれいな水が豊富にあるわたしたちにとって、水が不足している人々の状況を理解することは至難の業です。

献身的な末日聖徒の宣教師であるこの夫婦の姿を思い浮かべることができるでしょうか。乾燥し切った大地を、地下の水脈まで掘り下げます。すると奇跡の水が地表まであふれ出て、乾き切った地面を潤すのです。歓喜の声が上がり、涙があふれます。今やそこには飲む水があり、洗う水があり、穀物の生長に必要な水があります。乾燥地帯において、水ほど大切にされているものはありません。新しい井戸から水があふれる光景は実に見事です。

二人に感謝の言葉を述べるために村の部族の長と長老たちが集まって来たとき、ダーリントン兄弟は姉妹と一緒に歌を歌わせてほしいと頼みました。褐色の肌をした男女の目を見詰めながら、二人は「神の子です」を歌い、皆が兄弟であることを伝えました。

この一組の夫婦は、人里離れた村と難民キャンプに住む約19万人に水を提供しました。この偉業がどれほど大きな奇跡

を起こしたか考えてください。

これまで、文字どおり数千組を数えるこのような夫婦が、様々な方法で、様々な場所で奉仕してきました。そして現在も奉仕しています。もし宣教師として働いていなければ、日々を浪費していたことでしょう。彼らはこれまでアメリカの貧しい地域で働いてきました。そしてこれからも働き続けます。インド、インドネシア、タイ、カンボジア、ロシア、バルト諸国においても同様です。このように業は広がっていくのです。

教会はこのほど、ほかの団体と協力して、約4万2,000人の障害者に車いすを提供しました。移動するために文字どおり這って行かなければならなかった人々にとって、これが何を意味するかを考えてください。また医師と看護師の無私の協力により、2003年だけで1万9,000人近くの医療関係者に新生児蘇生法の訓練が行われました。これによって多くの新生児の命が救われることでしょう。

昨年、目に問題を抱える約2,700人が治療を受け、300人の開業医が視力回復治療の訓練を受けました。目の見えない人々が実際に見えるようになっていきます。

大洪水に襲われた地域、地震によって被災した地域、飢饉が蔓延している地域、何かの理由で支援を必要としている地域があれば、そこに教会を代表する人々が派遣されてきました。昨年は、約9,800万ドルの現金と物資が支援に向けられ、過去18年間の支援総額は6億4,300万ドルに上ります。

わたしは教会の人道支援がもたらしている効果を直接見てきました。世界中を旅するときに、皆さんの惜しみない支援を受けた人々に出会います。1998年には、ハリケーン・ミッチによって大被害を受けた中央アメリカの地域を訪れました。ここでは食糧と衣類が素早く配付され、壊れた家屋を修復し、生活を立て直すために奇跡的な活動が行われました。

これらの偉大で重要なプログラムがどれほどの力を発揮しているかすべて紹介する時間はありません。支援するに当たって、被援助者が教会員かどうかを尋ね

るようなことはしてきませんでした。地上の子供たち一人一人が、必要な支援を受けるにふさわしい神の子であることを知っているからです。左手でしていることを右手に知らせずに、ほとんどを匿名で実行してきました。称賛や感謝の言葉は求めているではありません。御父の子供であるこれらの最も小さい者の一人を助けるとき、それは御父とその愛される御子に対して行っているというだけで十分に報いを受けています（マタイ25：40参照）。

今後も援助活動を続けていきます。援助が必要とされる状態はこれからも続くでしょう。飢えと困窮と災害がなくなることはありません。しかし福音の光に触れ、助けを必要としている世界中の人々のために進んで奉仕し、働き、引き上げる人々がいなくなることもないのです。

同様の働きとして、教会は永代教育基金を設立しました。皆さんの惜しみない献金によって実現しました。現在23か国で実施しています。ふさわしい若い男女の教育のために融資が行われています。もしこの基金がなかったら、彼らは両親や先祖が何代にもわたって経験してきた、よほど貧困の状態から抜け出せなかったことでしょう。現在、1万人以上が援助を受けています。これまでの実績から、彼らはそのような訓練を受けることで以前の3倍から4倍の収入を得られることが分かっています。

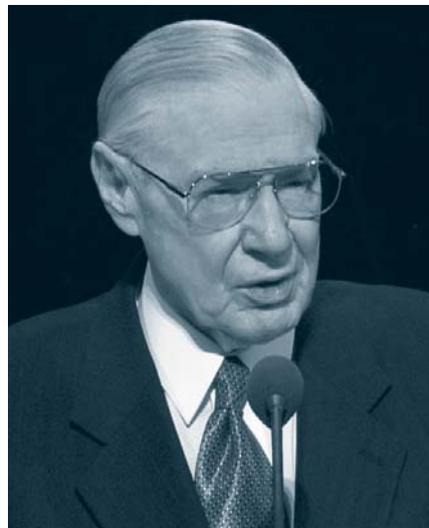
この業は主の御霊によって導かれています。福祉活動は物質的な働きであり、それ自体は米や豆、毛布やテント、衣類や医薬品、雇用とより良い職業のための教育という形で表現されます。しかしこの物質的な働きは、内なる霊の表れであって、「よい働きをしながら、……巡回され[た]」（使徒10：38）と記されている主の霊が表されているのです。

天の助けによってこの偉大なプログラムが栄え、そこで奉仕するすべての人に天の祝福がとどまるよう、イエス・キリストの聖なる御名によってへりくだり祈ります。アーメン。

正しいメッセージを受け取りましたか

第二副管長
ジェームズ・E・ファウスト

わたしたちは自分の生活を整えなければなりません。そうすれば、主が望んでおられる事柄を伝える……メッセージを受けるとき、応じることができます。



愛する兄弟姉妹と友人の皆さん、わたしは友情と愛の精神をもって皆さんにごあいさつします。わたしたちは情報の行き交うすばらしい時代に生きています。電子メールやファックス、携帯電話、そのほかの手段により送られる情報量は驚異的です。実にメッセージの氾濫です。その量が膨大なため、きわめて重要なメッセージを見過ぎしやすく、情報の欠如が深刻な事態を招くことがあります。

例えば、戦争のときに指揮官と前線にいる兵士の間で情報伝達ができなかったために、ひどい混乱と多くの死を招いたことがありました。第一次世界大戦のとき、前線にいる第308歩兵大隊に、いかなる代償を払ってでもアルゴンヌの森の

一部を奪って占拠するため命をかけて攻撃するように命令が下されました。その戦闘は壮絶で、大隊の右翼と左翼の支援部隊は引き揚げてしまい、大隊は包囲されて孤立しました。司令部が大隊との連絡を取れなくなったため、その大隊は「失われた大隊」として知られるようになりました。

大隊は、その所在地から司令部までメッセージを携えた伝書鳩を飛ばして連絡を取ろうとしました。しかし、鳩が放たれるや、たちまち相手軍に撃ち落とされてしまいました。「失われた大隊」は、自分たちの位置を確認できないままにその場所から大砲を撃ち、敵に多くの損害を与えました。大隊の食糧や水は尽きましたが、彼らはその地域を占拠し、ひどい損害を受けたにもかかわらず降伏はしませんでした。そしてついに、セラミーと呼ばれる1羽の伝書鳩が、銃弾を受けたにもかかわらず、大隊の所在地を告げるメッセージを携えて司令部に到着しました。その命運をかけた1通のメッセージが届いたことで、大隊の生存者たちは救出されたのです。¹

重要なメッセージを逃すと、重大な結果を招きます。特に、そのメッセージが神からのものである場合にはそうです。世界の歴史を通じて、神は様々な方法でメッセージを送ってこられました。モーセは砂漠で義理の父の羊の番をしていたとき、「しばの中の炎」²を見ました。モーセ



は好奇心に駆られ、どうしてもしばが燃え尽きないのか知りたいと思いました。³ モーセが見定めようとすると、「神はしばの中から彼を呼んで、『モーセよ、モーセよ』と言われ」ました。「彼は『ここにいます』と言」⁴いました。神は彼に言われました。「足からくつを脱ぎなさい。あなたが立っているその場所は聖なる地だからである。」⁵ 神は燃えるしばの中からモーセに語りかけられました。神はモーセに、してもらいたい仕事があると告げられました。それはイスラエルの人々をエジプトから導き出して、「乳と蜜の流れる地」に至らせることでした。⁶

かつて主の御言葉は、燃えていながら燃え尽きないしばの中から発せられました。預言者エリヤは別の経験をしています。彼が待っていると、「その時主は通り過ぎられ、主の前に大きな強い風が吹き、山を裂き、岩を砕いた。しかし主は風の中におられなかった。風後に地震があったが、地震の中にも主はおられなかった。地震の後に火があったが、火の

中にも主はおられなかった。火の後に静かな細い声が聞えた。」⁷

メッセージはごく普通には、「静かな細い声」によって示されます。その声は、聖文や現代の預言者たち、また個人的な啓示を通じてわたしたち全員に語りかけます。

時々人は、神からのメッセージを聞きながらないことがあります。例えば、主の御言葉はヨナに、ニネベに行って悔い改めを宣言するように告げました。しかし、ヨナはそのメッセージをないがしろにし、ヨッパへ逃れ、そこからタルシシへ向かう船に乗って主の御前から去ろうとしました。しかし、主は海にひどい暴風を起こされました。水夫たちは恐れ、主をなだめようとヨナを海に投げ込みました。すると、大きな魚がヨナを飲み込み、彼は3日3晩その魚の腹の中にいました。ヨナは赦しと助けを祈り、魚は彼を陸に吐き出しました。再び、主の御言葉がヨナに下され、彼は聞き従って、ニネベの人々に悔い改めを叫ぶために出かけました。⁸

感覚を呼び覚ますために、燃えるしば

のような驚くべき経験を必要としている人々がいるかもしれません。このような経験をする、人、状況、目的といったものの本質が突如として認識できるようになります。わたしたちはこれが靈感であることを理解しています。人生の平凡で当たり前の事柄について、真実の意味を靈感によって理解できることは、特別な賜物です。多くの人が靈感に気づきません。それは、神の「力は人々の理解では小さく見え」⁹ するため、あるいは「しるし、すなわち天からの不思議に次第に驚かなくなってきた」¹⁰ ためです。

わたしは若いときに、靈感はだれにでも与えられることを学びました。わたしは中学時代に、難しいクラスを取りました。教わっていることのほとんどが頭上を乗り越えて行きました。ある日、教師から一つの質問をされました。わたしはその質問に答えるどころか質問の意味すら理解できませんでした。しかし、どこからか答えが心の中に浮かんできて、わたしはそれを教師に告げました。それは正解でした。しかし、それが自分から出たものでないことを、わたしは知っていました。

では、靈感を受けたときにどうすればそれが分かるのでしょうか。エノスは述べています。「わたしがこのように心を込めて祈っていると、見よ、再び主の声がわたしの心に聞こえて……言われた。」¹¹ 啓示の霊の声は必ずしも聞き取れませんが、思いや感情を通じて神聖な確信を与えます。教義と聖約の中で告げられているとおりで、「あなたに降ってあなたの心の中にとどまる聖霊によって、わたしはあなたの思いとあなたの心に告げよう。」¹² わたしたちはその神聖な声に対する感性を養わなければなりません。

わたしが手にした最初のラジオは鉱石ラジオでした。特定のラジオ局の周波数に合わせるのは難しいことでした。電波受信に用いる鉱石の小さな凹凸部分に検波器の細い金属針を当て、受信できる位置を探りながら周波数に合わせていかなければなりません。その受信点からどちらかに1ミリずれただけで、電波を受信できず、雑音が入ります。長い間忍耐し、我慢



末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部

2004年4月現在

大管長会



第一副管長
トーマス・S・モンソン



大管長
ゴードン・B・ヒンクレー



第二副管長
ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会



ボイド・K・パッカー



L・トム・ペリー



デビッド・B・ヘイト



ニール・A・マックスウェル



ラッセル・M・ネルソン



ダリン・H・オークス



M・ラッセル・バラード



ジョセフ・B・ワースリン



リチャード・G・スコット



ロバート・D・ヘイルズ



ジェフリー・R・ホランド



ヘンリー・B・アイリング

七十人会長会



アール・C・ティンキー



D・トッド・クリストフアーソン



デビッド・E・ニレンセン



チャールズ・F・ウェルチ



ディーター・F・ウークトドルフ



メリル・J・ペイマン



ジョン・H・グロバーグ

七十人第一定員会



カズオ・H・アマモト



ニール・L・アンダーセン



モトユキ・J・アラヤ



シェルドン・F・チャイルド



L・ホイットニー・C・クレイトン



ゲリー・J・コールマン



スベン・J・コンテ



ジョン・R・クック



クエンティン・L・クック



クワイ・R・M・コスタ



ロバート・K・デロン



ジョン・B・テイヨン



クリストファー・J・ゴルコフ



ウォルター・F・ゴンザレス



ブルース・C・ヘフナー



リチャード・L・ホルストロム



F・サルバン・H・ホムバート



ハロルド・G・ヒラム



F・ロバート・H・ハウード



ジェイ・E・ジェンセン



マーティン・K・ジェンセン



ケンジョ・シヨノン



ウィリアム・R・ルーフ



榎地 啓彦



ジョン・M・マドソン



リチャード・J・メインズ



リン・A・ミケルセン



デニス・B・マイヤ



グレン・L・ネイス



ウィリアム・D・ポーター



カール・B・プラット



ロナルド・A・ラスバン



ロン・G・ロビンス



セムエル・O・セムエルソン



スティーブ・E・スニー



フランシス・J・ウィーヴァー



ロン・B・ウィックマン



ウィリアム・S・ウィティック

七十人第二定員会



マービン・B・アーノルド



E・レイ・ベイトマン



ダグラス・L・カリスター



クレイグ・C・クリステンセン



ウィリアム・D・クリステンセン



ワルター・R・クリステンセン



ダニエル・B・クリステンセン



ケニス・C・クロケット



アサムール・M・タミアニ



ジェームズ・M・ダム



ダリル・H・ガン



D・レックス・シエレット



ロナルド・T・ハーバートソン



ロバート・C・ホークス



ケニス・K・ヒルビグ



スペンサー・V・ジョンソン



ジェラルド・N・ランド



ジェラルド・W・マスケ



テリー・E・ミラー



ロバート・C・オー



ロバート・C・オー



ロバート・F・オート



スティーブ・B・オーソン



ウィリアム・W・パーモリー



ウェイン・S・ピーターソン



H・ブライアン・リチャーズ



ネット・B・ローゼイ



ロバート・R・ウィリアムズ



ウィリアム・T・ラップ



デニス・E・シモンズ



ドナルド・L・スターンズ



ロバート・H・スタマー



デビッド・R・スターンズ



H・アルビン・ストーカー



ウィリアム・R・ウォーカー



ロバート・J・ワット



ステイブン・A・ウエスト



ロバート・H・ワインワイト



ロバート・S・ワット



ハロルド・W・ワインワイト



ハロルド・W・ワインワイト



ハロルド・W・ワインワイト



第一副総務
リチャード・C・エッジリー



管理総務
ケニス・B・バートン



第二副総務
ケニス・B・マクマリ

管理監督会





ブラジル人の会員リリエル・ドミシアーノ姉妹は、大会の日曜午前の部会でタバナクル合唱団とともに歌声を披露した。

し、目を凝らし、手が震えないようにすることで、わたしはあまり苦勞なく鉱石上の受信点を見つけられるようになりました。

靈感についても同様です。神からの靈感の波長に自分を合わせ、雑音を回避しなければなりません。波長を合わせるように努めなければなりません。ほとんどの人は波長を合わせられるようになるのに長い時間を要するでしょう。わたしが中央幹部として新たに召されたとき、当時70歳代だったマリオン・G・ロムニー副管長はわたしたちにこう言いました。「わたしには、自分が御霊を受けて働いているときと、そうでないときが分かります。」御霊に導かれているときが分かるのは、崇高な賜物です。

現代のコミュニケーションの点から見ると、鉱石ラジオは、人がコミュニケーションの暗黒時代から抜け出す助けになりました。技術の進歩で、現在、携帯電話が多くのコミュニケーションに使用されています。しかし、時折、携帯電話への信号が受けられないデッドスポットがあります。携帯電話の利用者がトンネルや渓谷にいるとき、あるいはそのほかの妨害があるとき、このことが起こります。

神聖なコミュニケーションについても同様です。静かな細い声は、静かで細くはありますが、非常に力強いものです。それは「万物を貫き通してささやき」¹³ます。

しかし、古い鉱石ラジオと同じように、メッセージが届いていても、受け取れないことがあります。恐らく、生活の中のある部分はそのメッセージを聞くのに妨げとなっているのでしょう。「心が鈍って」¹⁴いるためです。わたしたちは、霊的なデッドスポット、すなわち神聖なメッセージを受けられない場所や状況に身を置くことがしばしばあります。このようなデッドスポットとして、怒り、ポルノグラフィ、神への背き、自己本位、ならびに御霊に背くそのほかの状況などがあります。

数々のメッセージが個人的に、また直接に、神聖な源から、また教会の管理役員を通じて与えられます。両親や祖父母から与えられるメッセージも非常に大切です。親の教えが子供の望んでいることと相いれないこともあります。しかし、経験し時間がたつと、父や母からの靈感あふれる教えは愛のメッセージであることが分かるようになります。親の勧告に従うことは、「あなたの父と母を敬え」¹⁵という戒めを守る一つの方法です。

現代の非常に多くの人々が聞き流しているメッセージの一つは、「世の汚れに染まらずに」¹⁶と命じておられる主の御言葉です。召される者は多いが、「選ばれる者は少ない」、それは「彼らがあまりにもこの世のものに執着」¹⁷しているためであると言われています。

山上の垂訓における救い主の深遠なメッセージは、わたしたち全員にとって「燃えるしば」と同じくらいに貴いものです。「まず、神の王国を築き、神の義を打ち立てることを求めなさい。」¹⁸このメッセージを心と霊に貫き通す必要があります。わたしたちは、このメッセージを受け入れるとき、現世において何を支持し、擁護していくかを決めているのです。定期的に神殿に参入することは、神の王国を築き上げようと絶えず努めるうえで助けとなります。現在、世界に117の神殿があり、かつてないほど多くの人々が主の神聖な宮に参入しています。

もう一つの非常に大切なメッセージは、自分の家族を強め、守る必要があるということです。あまりにも多くの家族が崩壊しています。この悲痛な状況が様々な結果を次々と招いています。結婚生活における幸せは、夫婦が愛と思いやりを持ち、互いに尊敬し合って生活し、主の御前を義にかない、へりくだって歩むことで始まります。それはすべての誓いと聖約に忠実であることが条件となっています。どのような理由であれ、家族が崩壊するとき、両親は、罪のない子供たちを支え、助けるよう特に懸命に努力する必要があります。

もう一つのきわめて重要なメッセージは、主に正直であり、自分自身に正直で



あり、すべての人に正直であるようにということ。正直に什分の一^{じゅうぶん}を納め、収入の範囲内で生活し、困窮のときに備えて貯蓄する必要があります。負債は束縛です。「借りる者は貸す人の奴隷となる」¹⁹からです。家を購入するためや教育を受けるためなど、ある種の負債は必要かもしれませぬ。このことについての主の勧告はこうです。「負債を支払い……束縛から自らを解放しなさい。」²⁰

神は、わたしたちが神の御心^{みこころ}を行えるように教えや励まし^{あかし}のメッセージを与えてくださいます。特別な務めに備えるためにしばしばこれが与えられます。燃えるしばからメッセージを受けたモーセの場合がそうでした。わたしたちは自分の生活を整えなければなりません。そうすれば、主が望んでおられる事柄を伝える「燃えるしば」のようなメッセージを受けるとき、応じることができます。確実にそ

のメッセージに気づき、それを果たせる状態に自分を置くことが必要なのです。

世俗のか霊的かを問わず、非常に多くの源から様々なメッセージが送り出されているこの時代に、どうすれば自分にとってきわめて重要なものを選び出せるでしょうか。メッセージの源と背後にある動機を見るようにというのが、わたしの勧めです。主は預言者アルマを通じて基準を与えてくださいました。「善いものは何であろうと神から出、悪いものは何であろうと悪魔から出るからである。」²¹ 神から出る深遠なメッセージを見逃すことがないように、ふさわしい状態を保つことを心がけなければなりません。結局、これらのメッセージにはイエス・キリストの福音のすべてが含まれるのです。

わたしはこれまで、預言者ジョセフ以降の歴代の大管長の半数以上に会い、知り合う特権にあずかりました。アロン神

権の祭司のときにヒーバー・J・グラン
ト大管長に会いました。彼に対して愛を感じ、またそれ以降すべての大管長に愛を感じてきました。わたしは彼らの勧告に従って生活したいと思いました。

トーマス・S・モンソン長老とわたしがゴードン・B・ヒンクレー大管長の副管長として奉仕するようになって9年になります。わたしはヒンクレー大管長が今の時代のための靈感あふれる大管長であり預言者であることを知っており、絶対的かつはっきりとそれを感じています。わたしは証^{あかし}します。彼はこの民と全世界に対する主の思いと御心を知らされ、啓示を受けてきました。そしてこれからも受け続けるでしょう。わたしたちは常に、現在の大管長から出る預言者のメッセージを待ち望み、心に留めなければなりません。それができるように、イエス・キリストの御名^{みなを}によって祈ります。アーメン。

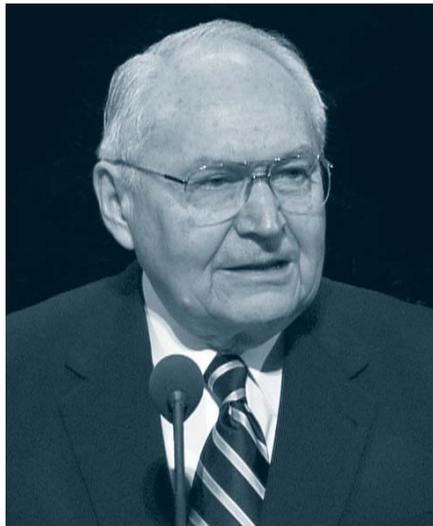
注

1. バック・プライベート・マッカラム, *History and Rhymes of the Lost Battalion* (1939年) 参照
2. 出エジプト3:2
3. 出エジプト3:3
4. 出エジプト3:4
5. 出エジプト3:5
6. 出エジプト3:8
7. 列王上19:11-12
8. ヨナ1-3章参照
9. エテル3:5
10. 3ニーファイ2:1
11. エノス1:10
12. 教義と聖約8:2
13. 教義と聖約85:6
14. 1ニーファイ17:45参照
15. 出エジプト20:12
16. 教義と聖約59:9
17. 教義と聖約121:34-35
18. ジョセフ・スミス訳マタイ6:38。マタイ6:33も参照
19. 箴言22:7
20. 教義と聖約19:35
21. アルマ5:40

父親、永遠の召し

十二使徒定員会
L・トム・ペリー

時の初めから家庭における父親の大切さについて警告を発してきた預言者たちの声に耳を傾けましょう。



今 日の世界を注意深く見ていると、サタンが人々をとりこにするため絶えず動いているのがますます明白になっています。サタンの第一の攻撃目標は社会の基本単位である家族です。

ここ数十年、サタンは最も基本的で重要な組織である家族を軽視しその品位を下げるために、激しい戦いを仕掛けてきました。成果はますます明白になっています。ほぼ毎日、嫌な出来事が起き、報じられ、耳に入ります。多くの家族が崩壊しているのです。家族の崩壊が原因で、社会は恐ろしい影響を受けています。犯罪の増加、不道德、貧困、薬物乱用、問題は増える一方です。

わたしには、サタンの攻撃は特に夫と父親に向けられているように見えます。例えば今日のメディアは、夫や父親の神聖な役割をあざけり、卑しめるために、

執拗な攻撃を続けています。

聖文に見られる例

メディアが描く夫や父親像に反対するには、聖文を使うことが有効でしょう。すばらしい模範に満ちているからです。

御父と救い主。新約聖書には、救い主と御父の関係の一端が描かれています。中でも主が裏切られる直前の園での出来事は、非常に鮮明に描かれています。

「〔イエスは〕ひざまずいて、祈って言われた、

『父よ、みこころならば、どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください。』

そのとき、御使が天からあらわれてイエスを力づけた。』¹

モーセとエテロ。出エジプト記には、イスラエルの子らを治めるモーセを見ていた、モーセの義父エテロの模範が記されています。

「モーセのしゅうとは、彼がすべて民にしていることを見て、言った、『あなたが民にしているこのことはなんですか。あなたひとりが座し、民はみな朝から晩まで、あなたのまわりに立っているのはなぜですか。』

モーセはしゅうとに言った、『民が神に伺おうとして、わたしの所に来るからです。』

モーセのしゅうとは彼に言った、『あなたのしていることは良くない。

あなたも、あなたと一緒にいるこの民も、必ず疲れ果てるであろう。このこと

はあなたに重過ぎるから、ひとりですることができない。』²

そこでエテロはモーセに、神を畏れる有能な人を召し、長としてイスラエルの民を裁かせるように言いました。

「平素は彼らに民をさばかせ、大事件はすべてあなたの所に持ってこさせ、小事件はすべて彼らにさばかせなさい。こうしてあなたを身軽にし、あなたと共に彼らに、荷を負わせなさい。』³

アルマ。モルモン書には、アルマの息子アルマの話が記されています。息子アルマは反抗的で、あらゆる罪悪を行う者の一人でした。父アルマは息子が真理を知ることができるようにと深い信仰をもって祈りました。この祈りは特別な方法でこたえられました。

「さて、彼が神の教会を滅ぼそうとして歩き回っていたときに……主の天使が彼らに現れた。その天使は、まるで雲に包まれて来たかのように降って来て、さながら雷のような声で語〔った〕。

彼らはそのためにひどく驚き、地に倒れた。しかし、彼らには天使の語った言葉が分からなかった。

それでも天使は、また大声で言った。『アルマよ、起き上がって立ちなさい。あなたはなぜ神の教会を迫害するのか。主はかつて、「これはわたしの教会である。わたしがこれを設ける。わたしの民の背きのほかに、これを覆すものはない」と言われた。』

天使はまた言った。『見よ、主は、御自分の民の祈りと、御自分の僕であり、またあなたの父であるアルマの祈りを聞かれた。あなたの父が、あなたが真理の知識に導かれるように、深い信仰をもってあなたのことを祈ってきたからである。したがって、わたしは神の力と権能が存在することをあなたに認めさせるために来た。神の僕たちの祈りが、彼らの信仰に応じてかなえられるためである。』⁴

息子アルマはこの経験の後、別人のようになっていました。

軽視される父親の役割

家族を崩壊させるため、サタンは巧妙



なわなを仕掛け、父親の役割を軽んじさせています。若者の暴力や青少年の犯罪が増加していること、貧困や経済不安の深刻化、授業についていけない児童数の増加は、家庭で父親の影響力が足りないことを明確に示しています。⁵ 家族は父親の支えが必要なのです。

基本的な家族は社会の最も安定した確かな基盤であり、若人が将来様々な責任を果たすのに備えるために必要不可欠な場所であることを、わたしたちは過去何世紀もの経験から十分承知しています。男女間の結婚によって築かれる家族以外の家族形態は正しく機能していません

し、今後も決して機能しないことを理解しているはずですが。このことは大管長会と十二使徒定員会が発表した「家族——世界への宣言」の中ではっきりと指摘されています。

「わたしたち、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長会と十二使徒評議会は、男女の間の結婚は神によって定められたものであり、家族は神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中心を成すものであることを、厳粛に宣言します。

すべての人は、男性も女性も、神の形に創造されています。人は皆、天の両親

から愛されている霊の息子、娘です。したがって、人は皆、神の属性と神聖な行く末を受け継いでいます。そして性別は、人の前世、現世および永遠の状態と目的にとって必須の特性なのです。……

神がアダムとエバに授けられた最初の戒めは、彼らが夫婦として親になる能力を持つことに関連したものでした。わたしたちは宣言します。すなわち、増えよ、地に満ちよ、という神の子供たちに対する神の戒めは今なお有効です。またわたしたちは宣言します。生殖の神聖な力は、法律に基づいて結婚した夫婦である男女の間においてのみ用いるべきです。

神の計画により、父親は愛と義をもって自分の家族を管理しなければなりません。また、生活必需品を提供し、家族を守るという責任を負っています。また母親には、子供を養い育てるという主要な責任があります。これらの神聖な責任において、父親と母親は対等のパートナーとして互いに助け合うという義務を負っています。……

わたしたちは警告します。貞節の律法を犯す人々、伴侶や子供を虐待する人々、家族の責任を果たさない人々は、いつの日か、神の御前に立って報告することになります。またわたしたちは警告します。家庭の崩壊は、個人や地域社会、国家に、古今の預言者たちが預言した災いをもたらすことでしょう。」⁶

父親の役割

天の御父の子供たちの将来について、重大な警告が発せられています。ですから父親と母親は永遠の家族を築くという主の指示に従っているかどうか、自分の心を探らなければなりません。特に父親について、主は何を期待しておられるでしょうか。

家族を築くとき、父親は次のような役割を担うことになります。

1. 父親は家族の頭です。

「父親は指導者です。それも最も大切な指導者です。過去においてもそうでしたし、将来もそうです。父親であるあなたは、永遠の伴侶から援助と助言と励ま

しを受けて家庭を管理します。ふさわしさや資格とは関係なく、神がそう定められたからそうするので。」⁷

父親は指導者として、家族を礼拝に参加させなければなりません。

「食卓で祈るときや家庭の夕べのときに、あなたは家庭を管理します。そして主の御霊の導きを受け、子供たちに正しい原則が教えられるようにします。父親は家庭生活全般にわたって指導します。あなたは父親の祝福を与えます。決まりを作り、しつづけるときに、積極的な役割を果たします。指導者として、一致した幸せな家庭という祝福を得るために計画し、犠牲を払わなければなりません。そのためには、生活を家庭中心にする以外にありません。」⁸

次はジョセフ・F・スミス大管長の勧告です。「兄弟の皆さん、家庭の中に宗教的な献身、愛、神への畏れがあまりにも少なく、逆に、敬虔の念に欠け、この世間的思いや利己心を抱き、無関心になることが多すぎます。さもなければ、このような問題がそれほど多く世に見られることもないでしょう。したがって改革が必要なのは家庭です。今日、そして明日、家庭を変えるように努めてください。」⁹

兄弟の皆さん、家族の指導者として役割を果たすとき、妻が同僚であることを忘れないでください。ゴードン・B・ヒンクレイ大管長はこう教えました。「この教会では、男性は、奥さんの前に立って歩くのではなく、後ろを歩くのではなく、並んで歩いています。」¹⁰ 神は時の初めから、男女は結婚によって結び合い、一体となるよう人類に命じてこられました。¹¹ したがって、家族には会長も副会長もいません。夫婦は家族のために永遠に協力するのです。夫婦は家族を導くときに、言葉にも行いにも一致していなければなりません。歩調を合わせて歩むのです。夫婦は一致協力して家族の事柄を計画し、準備し、進んでいきます。

2. 父親は教師です。

ジョセフ・F・スミス大管長の勧めは今日も応用できます。「子供たちを専門家に任せるようなことをせずに、あなた

自身の説得と模範により、あなたの家庭で教えてください。あなたが真理の専門家になってください。」¹²

「子供を教えることの大切さに気づいたあなたは、謙遜にならざるを得ません。訓戒と模範によらなければ教えられないことをすぐに実感するからです。効果的に教えるにはこれ以外に方法はありません。聖霊を常に伴侶とすることを目標に生活し、学び、祈らなければなりません。あなたの模範と指導にイエス・キリストの福音の光が反映するように、生活を清め、整える必要があります。

日々の生活設計を立てるうえで、主の御霊の導きどおりに計画しなければなりません。ほかの事柄で忙しくなる前に、自分と家族の幸福を熱心に求める必要があります。生ける預言者はこう教えています。「いかなる成功も、家庭の失敗を

償うことはできない。』」（デビッド・O・マッケイ、Conference Report, 1964年4月, 5. J・E・マッカロック, *Home: The Savior of Civilization* [1924年] 42から引用)¹³

3. 父親は物質的必要を満たす人です。

エズラ・タフト・ベンソン大管長はこう明言しました。「主は、妻が家庭にあって母親としての責任を全うできるように、男性に家族を扶養する義務を与えられたのです。……夫の求めに応じたり、強いられりして外で働いている母親がいることも知っています。余分な収入がないと買えないような品物を、夫の方が欲しがっているのです。兄弟たち、もしもそのようなことをしていると、家族を悲しませるばかりか、自分自身の霊的成長も止めてしまうことになります。」¹⁴

父親の皆さんは、家族を管理するよう





2004年4月の総大会の部会を視聴するために集会所に到着した家族。
後ろにドイツ・フランクフルト神殿が見える。

神に命じられています。これは厳粛な指示であり、あなたにとって最も大切な責任です。なぜなら永遠の責任だからです。家族を正しい優先順位に置いてください。家族は死後もあなたの生活の一部として続きます。わたしは次の言葉が真実であることを証します。

「男性、特にメルキゼデク神権者は、家族の中で最も重要な位置を占めます。そしてそのことは、男性が神から家長と定められたときに授かった位と権威とともに、正しく認識され、維持されていかなければならないのです。」

「家族という組織に関して、特にこの組織が大神権者によって管理されるとき、父親の権威より高い権威はありませ

ん。……族長制度はその起源が神にあり、この世から永遠にわたって存続するものです。ここに、男女、子供が神の民の家族における族長の位と権威を理解しなければならない特別な理由があるのです。この権威は神の御心に添って、神の子らが最高の昇栄に至るために条件を整え、備えとなるように用いなければならないのです。家庭を管理する権威は常に父親に与えられます。家庭と家族に関するあらゆることについて、これ以上の権威はほかにありません。」¹⁵

出典を述べずに幾つかの言葉を引用しましたが、意図的にそうしたのです。5月号の『エンサイン』(Ensign)と『リアホナ』では注を付して明らかに示されます。大会号を

読むときに引用文を調べてください。この機関誌がすべての家庭に置かれるようお勧めします。この大会の精神は機関誌の誌面に一年中生き続けているのです。

時の初めから家庭における父親の大切さについて警告を發してきた預言者たちの声に耳を傾けましょう。シオンの父親たちに主が与えられた義務と責任をいっそう忠実に果たす決意ができるよう、へりくだり祈ります。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. ルカ22：41-43
2. 出エジプト18：14, 15, 17-18
3. 出エジプト18：22
4. モーサヤ27：10-14
5. デビッド・ブランケンホーン, *Fatherless America: Confronting Our Most Urgent Social Problem*, (1995年) 序文, 25-48; デビッド・ポベノー, *Life without Father*, (1996年) 52-78参照
6. 『リアホナ』1998年10月号, 24。強調付加
7. 十二使徒定員会, *Father Consider Your Ways: A Message from The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints* (パンフレット, 1973年)。Ensign, 2002年6月号, 16に掲載
8. Ensign, 2002年6月号, 16
9. "Worship in the Home," *Improvement Era*, 1903年12月号, 138
10. 「それは、片すみで行われたのではない」『聖徒の道』1997年1月号, 58
11. 創世2：24参照
12. *Improvement Era*, 1903年12月号, 138
13. Ensign, 2002年6月号, 14
14. 「イスラエルの父親たちへ」『聖徒の道』1988年1月号, 53
15. ジョセフ・F・スミス, "The Rights of Fatherhood," *Juvenile Instructor*, 1902年3月1日, 146

たとえ そうでなくても……

七十人
デニス・E・シモンズ

人は主を信頼し、主の戒めを守り、主が用意しておられる自分たちの行く末を理解できなくても信仰を行使するときに、驚くべきことを達成します。



若かったころ、「中学2年バスケットボール・トーナメント」から落胆と、失望と、当惑の思いを胸に帰宅したことがあります。わたしは母をつかまえて出し抜けてこう言いました。「どうして負けちゃったんだろう。勝つという信仰があったのに！」

今にして思えば、当時のわたしは信仰とは何なのかを理解していませんでした。

信仰とは強がりと言うことではありません。単に幸運を祈ること、あるいは希望を抱くことでもありません。真の信仰とは主イエス・キリストを信じる信仰を意味します。それはイエス・キリストに対する確信と信頼であり、それによって人は主に従うようになります。¹

何世紀も前のこと、ダニエルとその若

い仲間たちは、突然、平和な家庭から恐ろしい異教の世界へと連れ出されました。シャデラク、メシャク、アベデネゴがネブカデネザル王の立てた金の像にひれ伏して礼拝しなかったとき、王は激怒し、もし命じられたとおりに礼拝しないならば、即座に火の燃える炉の中に投げ込むと言い、「いったい、どの神が、わたしの手からあなたがたを救うことができ[るだろ]うか」²と告げました。

3人の若者は確信をもってすぐさま次のように答えました。「もしそんなことになれば(すなわち、もしあなたがわたしたちを炉の中に投げ込んだら)、わたしたちの仕えている神は、その火の燃える炉から、わたしたちを救い出すことができます。]また王よ、あなたの手から、わたしたちを救い出されます。」³表面的にはわたしが中学2年生だったころの信仰に似ています。この3人の若者の違うところは、次のような言葉で信仰の意味がはっきりと理解できているのを示した点にあります。彼らはこう続けたのです。「たといそうでなくても、……わたしたちはあなたの神々に仕えず、またあなたの立てた金の像を拝みません。」ここに真の信仰とは何かが述べられています。

この若者たちは神が信頼できる御方だということを知っていました。⁴たとえ物事が自分たちの望むように進まなくてもです。彼らは、信仰とは知識に基づく同意、神が生きておられるという認識以上のもの

のであり、神に全幅の信頼を置くことであると知っていました。

信仰とは、人にはすべてのことが理解できなくても、神は御存じであると信じることです。信仰とは、人の力には限界があっても、神の力には限界がないのを知ることです。イエス・キリストを信じる信仰とは、主に対する完全な信頼なのです。

シャデラク、メシャク、アベデネゴは、どのようなときでも主を信じるができることを理解していました。主の計画を知り、主が変わらぬ御方であられることを知っていたからです。⁵わたしたちが知っているのと同様に、彼らも知っていたのです。つまり、現世は無意味なものではなく、愛にあふれる天の御父が準備された偉大な計画⁶の一部であり、この計画に基づいて、わたしたちが望めば、神の息子、娘として主が享受しておられるのと同じ祝福を享受できると知っていたのです。

わたしたちは前世で人生の目的について天の御父から教えを受けていました。そのことをわたしたちが知っているのと同様に、彼らも知っていたのです。

「……これらの者が住む地を造ろう。そして、わたしたちはこれによって彼らを試し、何であろうと、主なる彼らの神が命じられるすべてのことを彼らがなすかどうかを見よう。」⁷

このようにわたしたちは試されるのです。現世は死すべき人間にとって試しの場です。天の御父はわたしたちが御父を信頼し、御父に助けを求めようと願っておられます。すべてがそのような御父によって管理される試しであるということを理解するならば、すべての本質もっと鮮明に見えてくるはずで

す。天の御父は御自身の業と栄光とは「人の不死不滅と永遠の命をもたらしこと」⁸であると告げられました。御父はすでに神としての属性を身に付けておられます。天の御父の残された目標は、わたしたちを助けること、すなわちわたしたちが天の御父のみもとに帰り、御父のようになって、御父のような生活を永遠に送れるよう助けることなのです。

このようなことをすべて理解していた3



人の若いヘブライ人にとって、先に述べたような決定を下すのは難しいことではありませんでした。彼らは何が起ころうとも神に従い、主を信じる信仰を行使しようと決意していました。だからこそ彼らは、「主がきっと自分たちを救ってくださる、たといそうでなくても、……」と宣言したのです。この物語の結末がどうなったかは皆さん御存じのとおりです。

主はわたしたちに選択の自由、すなわち物事を決定する権利と責任を与えました。⁹ 主は試練に遭わせることによってわたしたちを試されます。主はわたしたちを耐えられないような試練に遭わせることはないと言われますが¹⁰、大きな試練を通して人の人格が磨かれるということも理解しておかなければなりません。わたしたちは苦難を求めているわけではありませんが、信仰をもって苦難に対処しようとする人を主は確かに強めてくださいます。「たといそうでなくても……」という態度は、すばらしい祝福をもたらしてくれるのです。

使徒パウロはこの大切な教訓を学び、何十年にもわたる熱心な伝道の後に、こう宣言しています。「[わたしたちは] かんなん 苦難を……喜んでいる。なぜなら、患難は忍耐を生み出し、忍耐は錬達を生み出し、錬達は希望を生み出すことを、知っているからである。そして、希望は失望に終ることはない。」¹¹

パウロは救い主から次のような慰めを受けました。「わたしの恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱いとこ

ろに完全にあらわれる。」¹²

パウロは次のように語っています。「それだから、キリストの力がわたしに宿るように、むしろ、喜んで自分の弱さを誇ろう。……わたしはキリストのためならば、弱さと、侮辱と、危機と、迫害と、行き詰まりとに甘んじよう。なぜなら、わたしが弱い時にこそ、わたしは強いからである。」¹³ 主の方法で主の試練にこたえるときに、パウロの信仰は増し加えられていきました。

「信仰によって、アブラハムは、試練を受けたとき、イサクをささげた。」¹⁴ アブラハムはその偉大な信仰のゆえに、子孫の数が天の星よりも多くなるという約束、子孫がイサクから出るという約束を受けていました。アブラハムは即座に主の命令に従いました。「神は約束を守ってくださる」と信じて従ったのです。そして、たとえその方法がアブラハムの予想したものでなくても、なおアブラハムは主を完全に信頼したのです。

人は主を信頼し、主の戒めを守り、主が用意しておられる自分たちの行く末を理解できなくても信仰を行使するときに、驚くべきことを達成します。

「信仰によって、モーセは、……パロの娘の子と言われることを拒み、

罪のはかない欲楽にふけるよりは、むしろ神の民と共に虐待されることを選び、キリストのゆえに受けるそしりを、エジプトの宝にまさる富と考えた。……

信仰によって、彼は王の憤りをも恐れず、エジプトを立ち去った。……

信仰によって、人々は紅海をかわいた

土地をとおるように渡った……。

信仰によって、エリコの城壁は……くずれおちた。」¹⁵

さらには「……彼らは信仰によって、国々を征服し、……約束のものを受け、ししの口をふさぎ、

火の勢いを消し、つるぎの刃をのがれ、弱いものは強くされ、戦いの勇者とな〔つ〕た。」¹⁶

しかし、たとえ当事者がそのようなありとあらゆる輝かしい結果を願い、期待していても、期待どおりにならないことが常でした。

「なおほかの者たちは、あざけられ、むち打たれ、しばり上げられ、投獄されるほどのめに会った。

あるいは、石で打たれ、さいなまれ、のこぎりで引かれ、つるぎで切り殺され、〔放浪し〕、無一物になり、悩まされ、苦しめられ〔た。〕」¹⁷

「神は彼らのために、苦難を通してさらに良いものを備えてくださった。なぜなら、苦しむことなしに、彼らが完全な状態にされることはないからである。」¹⁸

わたしたちに与えられている聖文と教会の歴史は、主が自分たちを救われると信じ、たとえ救われなくても、主を信じ、忠実であろうとした偉大な神の人々の記録であふれています。

主は救う力を持っておられます。しかし、そのことがわたしたちにとって試練となります。

主は試練に関してわたしたちに何を期待しておられるのでしょうか。主がわたしたちに期待しておられるのは、最善を尽くすことです。後のことは主にお任せするのです。ニーファイはこう言っています。「……それは、わたしたちが最善を尽くした後、神の恵みによって救われることを知っているからである。」¹⁹

わたしたちも、シャデラク、メシヤク、アベデネゴと同じ信仰を持たなければなりません。

わたしたちの神はわたしたちを嘲笑や迫害から、

病気や疾患から、孤独、落胆、そして恐怖から、脅迫、告発、そして不安から、愛

する人の死、あるいは衰弱から救われます。しかし、たとえそうでなくても、わたしたちは主を信頼します。

わたしたちの神は、わたしたちが正義と公平にあずかるように見守っておられます。わたしたちの神は、必ずわたしたちが愛され認められるようにしてください。わたしたちは非の打ち所のない伴侶と義にかなった従順な子供に恵まれます。たとえそうでなくても、わたしたちはこれからも主イエス・キリストを信じます。そして、最善を尽くせば、主の定められた時に主の方法で、救われ、主の持つておられるすべてを受け継ぐことができるということを知っています。²⁰ そのことを、イエス・キリストの御名によって証します。アーメン。

注

1. 『聖句ガイド』「信仰」の項、136；ヘブル11：1；アルマ32：21；エテル12：6参照
2. ダニエル3：12-15参照
3. ダニエル3：17-18参照
4. モーサヤ7：33参照
5. アルマ7：20；3ニーファイ24：6；モルモン9：19；モロナイ8：18参照
6. 2ニーファイ11：5；アルマ12：25；34：9；41：2；42：5；11-13章；教義と聖約84：35-38参照
7. アブラハム3：24-25参照
8. モーセ1：39参照
9. 2ニーファイ2：27；ヒラマン14：30；教義と聖約101：78参照
10. 1コリント10：13；アルマ13：28参照
11. ローマ5：3-5参照
12. 2コリント12：9参照
13. 2コリント12：9-10参照
14. ヘブル11：17参照。強調付加
15. ヘブル11：24-27, 29-30。強調付加
16. ヘブル11：33-34。強調付加
17. ヘブル11：36, 37
18. ジョセフ・スミス訳ヘブル11：40から和訳
19. 2ニーファイ 25：23参照
20. 教義と聖約84：35-38参照

「母の心」

中央若い女性第一副会長
ジュリー・B・ベック

「母の心」を養い育てることにより、すべての少女と女性が母としての神聖な永遠の役割に備えることができます。



父 はよく母のことを「母の心」を持った女性と表現しましたが、わたしもそのとおりだと思います。何百、いえ、恐らく何千という人々が、母親としての影響力を彼女から感じてきました。母は養育者としての役割を芸術の域にまで高めました。母は回復されたイエス・キリストの福音に対する証と、強い主体性、そして目的を持つて自らの人生を歩んできました。

晩婚だった彼女は、独身時代、進歩成長するために懸命に努力しました。当時としては珍しく、大学を卒業し、職業に就いてからもさらに上を目指しました。結婚後は次々と子供に恵まれ、短い間に大家族の母親となりました。それまでに得たすべての知識、生まれ持った能力、賜物、技術を、この世を超えて続く家族のために注ぎました。聖約を守る神の娘として、母は生涯をかけて母親となる備

えをしてきたのです。

「母の心」とはどのようなものでしょうか。どうすれば養えるのでしょうか。聖文にはその特質が幾つか書かれています。箴言の言葉を少し言い換えると、次のようになります。「だれが〔母の心を持つ女性〕を見つけることができるか、彼女は宝石よりもすぐれて尊い。その手の働きの実をもって、ぶどう畑をつくり、……手を貧しい者に開き、……力と気品とは彼女の着物である、……彼女は口を開いて知恵を語る、その舌にはいつくしみの教がある。彼女は家の事をよくかえりみ、怠りのかてをを食べることをしない。」（箴言31：10, 16, 20, 25-27）「母の心」を持った女性は回復された福音への証を持ち、福音の原則をはっきりと教えます。聖なる神殿で交わす神聖な聖約を守っています。才能や技能を人々のために惜しみなく使います。状況が許すかぎり教育を受け、学んだことを次の世代に伝える望みをもって精神と霊を向上させようとします。

子供がいるのであれば、「母の心」を持った女性は「善い……親」であり（1ニーファイ1：1）、生ける預言者が教える標準のとおりに行動し、教えています。「その子供たちに祈ることと、主の前をまっすぐに歩むことも教え」ています（教義と聖約68：28）。この世の声や部分的でしかない真理に耳を貸すことはありません。福音の標準が永遠不変の真理に基づいていることを知っているからです。「子供を養い育てるという主要な責任」が非常に重大で高貴、そして「神聖な責任」であること



を知っています(「家族——世界への宣言」『聖徒の道』1998年10月号, 24)。必要な養いを与えることは、物質的にも霊的にも同じように誉れある仕事です。「善を行うことに疲れ果て」ることなく、家族のために仕えることを喜びとします。「小さなことから大いなることが生じる」ことを知っているからです(教義と聖約64:33)。

すべての少女、すべての女性が、この地上で交わす聖約を守り、永遠の母となる可能性が自分の内に秘められている、

という証を持てますように。「〔女性〕は皆、天の両親から愛されている霊の……娘です。したがって、皆、……神聖な行く末を受け継いでいます。」(「家族——世界への宣言」) 女性は神の霊の娘として「霊の世界において最初の教えを受け、……〔地上に〕出て行〔く〕準備をしました(教義と聖約138:56)。「高潔で偉大な者たち」の中において(教義と聖約138:55)、地球が創造されたとき「喜び呼ばわ」りました(ヨブ38:7)。現世で

肉体を与えられ、「試〔される〕」機会にあずかることを知ったからです(アブラハム3:25参照)。

義にかなった男性の傍らにあって、お互い独りではなし得ない永遠の目標を果たすために、ともに働きたいと望みました。女性の役割はこの地上で始まったものではありませんし、ここで終わるのではありません。地上で母親の役割を尊ぶ女性は、来世でも同じようにします。「〔彼女の〕宝のある所には、心もあるから」です(マタイ6:21)。「母の心」を養い育てることにより、すべての少女と女性が母としての神聖な永遠の役割に備えることができます。「〔彼女が〕この世において得る英知の一切は、復活の時に〔彼女〕とともによみがえる。そこで、もしある人が精励と従順によって、この世でほかの人よりも多くの知識と英知を得るならば、来るべき世でそれだけ有利になる。」(教義と聖約130:18-19)

わたしは、この世では自分の子供を産み育てる機会のない女性たちが真の「母の心」を宿しているのを、自分の経験を通して目にしてきました。彼女たちは「すべてのことは時節にかなって起こる」こと、自分たちが「一つの大きい業の基を据えつつある」ことを知っています(教義と聖約64:32-33)。彼女たちは聖約を守ることによって、完全に最高の将来を築いているのです。それは「第二の位を守る者は、とこしえに栄光をその頭に付け加えられる」ことを知っているからです(アブラハム3:26)。

最近わたしはある公園で、「母の心」を持った女性たちに会いました。若く、聖約を守る女性たちです。聡明な彼女たちは、優秀な大学で高い学位を取得していました。現在はそのすばらしい賜物を使って、その日の夕飯の献立を立てたり、家事のアイデアを分かち合ったりしていました。2歳の子供に友達と仲良くするように教え、赤ん坊をあやし、擦りむいたひざにキスをしてやり、涙をふいてあげていました。わたしはその中の一人に尋ねました。自分の才能を母親の務めに喜んで使えるようになったのはどうして

か、と。彼女はこう答えてくれました。「自分が何者か、本来、何をすべきか分かっていません。後はおのずとついてきます。」その若い母親は、家族で祈り、聖文を学び、本を読み聞かせ、歌を歌ってやり、夕飯を準備するといった一つ一つの行いによって、次の世代のために信仰と人格を築いていくでしょう。すばらしい業に働いている彼女は、「子供たちは神から賜った^{たまわ}嗣業であり……矢の満ちた矢筒を持つ人はさいわいである」ことを知っています（詩篇127：3, 5）。また、誠実で義にかなない、日々たゆまず続く母親の業は、この世のいかなる地位も人の作った組織もかなわないほど、大きな影響力を持っていることを彼女は知っています。ふさわしければ旧約の女性リベカが受けたのと同じ「ちよろずの人の母とな」る祝福を受ける可能性が自分の内にあることを、はっきりと思い描いています（創世24：60）。

母になる時期が早いか遅いか、この世において「矢の満ちた矢筒」のようにたくさんの子供に恵まれるかどうか、独身か既婚か、あるいは親としての責任を一人で背負っているかどうかにかかわらず、母の心を持った聖約を守る女性は皆、聖なる神殿において「高い所から力を授けられ」ることを知っています（教義と聖約38：32）。エンダウメントを受け、祝福を約束され、「はるかにそれを望み見て喜〔んで〕」います（ヘブル11：13）。

聖約を交わし守るすべての少女と女性は「母の心」を持つことができます。「母の心」を持つ女性が成し遂げられることに制限はありません。義にかなった女性はこれまでも歴史を変えてきましたし、これからもそうする力を持つでしょう。その影響力はますます大きく、永遠に広がり続けるでしょう。主が女性を信頼して母としての神聖な使命を託してくださっていることに心から感謝しています。母なるエバのように、わたしはこれらのことを知って「喜び」を感じています（モーセ5：11参照）。イエス・キリストの御名により、アーメン。

「恐れてはならない」

十二使徒定員会会長代理
ボイド・K・パッカー

文明の基盤となるはずの道徳的価値観は、かつてない速さで低下しています。それでも、わたしは未来を恐れません。



数 週間前に末の息子が家族を連れて我が家に立ち寄りしました。車から真っ先に降りて来た2歳の孫が両手を差し出し、「おじいちゃん、おじいちゃん」と大声で叫びながらわたしの方に走って来ました。

足にしがみつくと孫の笑顔と、汚れのない大きなひとみを見ながら「この子の未来には何が待ち受けているのだろう」と思いました。

一瞬、不安を感じました。多くの親がわたしたちによく話す、未来に対する不安です。どこを訪問しても、問題の多い世の中を生きる子供の将来を案じる親に出会います。

けれどやがて確信に包まれ、未来への不安は消えていきました。

教会員ならよく理解できる、導きと慰めの御霊によって、すでに得ていた知識を思い出したのです。未来への不安は消え

ました。邪悪な世の中に暮らしていても、輝くひとみの2歳の孫も、その子供や孫たちさえも、良い人生、ほんとうにすばらしい人生を送ることができるのです。

彼らはその生涯の中で多くの出来事を目にするでしょう。その中には、大いなる勇氣と信仰が求められる出来事もあるでしょう。けれども助けと導きを祈り求めるなら、敵対するものに打ち勝つ力が授けられます。試練は成長を妨げるものではなく、より豊かな知識を得るための踏み台となるはずで

祖父として、また使徒の一人として、勧告と警告と、とりわけ励ましを皆さんに授けたいと思います。父親より母親の方が人生をよく知っているので、我が家の祖母であり、57年の連れ合いである妻が隣にいてくれるならもっとうまくできたでしょうが、とにかく頑張ってみることにしましょう。

わたしたちは自分自身の将来も、子供たちの将来も恐れてはいません。今は危険な試練の時代です。かつて人類を支えてきた価値観が捨て去られつつあります。

モロナイがこの時代を見て語った次の言葉を無視してはなりません。「自分たちがひどい状態にいるという意識に目覚め〔なければならぬ。〕」（エテル8：24）

モルモン書に記された次の警告を軽んじてはなりません。

「主を信頼する者たちを、主が大いなる限りない慈しみをもって祝福し、栄えさせられる……。〔主が〕御自分の民の繁栄と幸いのためにあらゆることを行われるそのときに、彼らは心をかたくなに

し、主なる神を忘れ、聖者を足の下に踏みつける……。これは、彼らが安楽で、非常に豊かに繁栄したためである。

またこのことから、主が多くの苦難をもって御自分の民を懲らしめられなければ、まことに、死と恐怖と飢饉ききんとあらゆる疫病を下されなければ、彼らは主を思い起こそうとしないことが分かる。」(ヒラマン12:1-3, 強調付加)

このモルモン書の預言者の警告にある、恐怖という言葉に気づきましたか。

文明の基盤となるはずの道徳的価値観は、かつてない速さで低下しています。それでも、わたしは未来を恐れませんが。

第一次世界大戦はわたしが生まれる6年前に終結しました。子供時代には、至る所に戦争の爪痕つめあとが見られました。そのわずか15年後に第二次世界大戦が始まり、暗雲が空を覆ったのです。

当時、今の皆さんと同じような不安を感じていました。動乱の世の中で、どんな将来があるのだろうか案じていたのです。

子供のころ、どの地域でも、子供の病気が再三流行しました。水ぼうそう、はしか、おたふく風邪などにかかると、保健局の人が来て、伝染病患者がいることを示す札を、家の玄関や窓につけるのです。我が家のような大家族では、子供が次々に感染したため、伝染病の札を何週間もつけていました。

恐ろしい伝染病を避けるために、家に閉じこもったり、どこかに隠れたりすることはできませんでした。学校、職場、教会に行き、生活しなければならなかったのです。

二人の姉がとても重いはしかにかかりました。いったんは回復したかのように見えたのですが、数週間後、母が窓から外を見ると、下の姉アデルがブランコにもたれてぐったりしていました。熱で衰弱し、気が遠くなっていたのです。リウマチ熱でした。はしかの合併症です。上の姉も同じように熱を出しました。

できることは何もありませんでした。両親の祈りにもかかわらず、当時8歳だったアデルは亡くなりました。

2歳上のノナは回復しましたが、生涯



のほとんどを病弱なまま過ごしました。

中学1年のとき、保健の授業で先生が次のような記事を読みました。隣の子供たちが水ぼうそうにかかると聞いて、自分の子供も順々にかかるだろうと思ったある母親が、その試練にいつべんに対処しようと考えました。

この母親は子供たちを隣の家にやり、一緒に遊んで感染させ、病気を一気に片付けてしまおうとしました。やがて医師が来て、感染したのは水ぼうそうではなく天然痘だと聞かされたとき、母親の恐怖はいかばかりだったでしょうか。

当時も今も、肉体的・霊的な感染の恐れのある場所を避けることが最も良い方法なのです。

わたしたちの孫がはしかにかかる心配はまずありません。予防接種を済ませているので、安心してどこへでも行けます。

はしかは世界の大部分で事実上根絶されましたが、それにもかかわらず、ワクチンが受けられないために、はしかで命を落とす子供が今なお大勢います。

末日聖徒が惜しみなく差し出した献金の中から、教会は先ごろ、アフリカの子供たちがはしかの予防接種を受けられるようにする共同事業に100万ドルを寄付しました。1ドルで一人の子供を守るのです。

今の親は道徳的・霊的な病を懸念しています。標準や価値観が失われた現代では、恐ろしい合併症にかかる危険性があります。皆、予防策を講じなければなりません。

適切な血清があれば肉体を病気から守ることができます。道徳的・霊的な病気からも子供を守ることができます。

予防接種を意味する“inoculate”という言葉は「内にある」という意味の“in”と「目」という意味の“oculate”で構成されています。

子供はバプテスマと確認の儀式を受けるとき(教義と聖約20:41, 43; 33:15参照)、内なる霊的な目すなわち聖霊の言い尽くせない賜物を受けます(教義と聖約121:26参照)。福音の回復に伴い、この賜物を授ける権能が与えられました。

モルモン書はこのことについて教えています。

「天使は聖霊の力で語る。したがって、天使はキリストの言葉を語る。……キリストの言葉をよく味わ〔いなさい。〕見よ、キリストの言葉はあなたがた〔と子供たち〕がなすべきことをすべて告げるからである。」(2ニーファイ32:3)

この教えを心に留め、養うなら、回復された福音に対する知識とイエス・キリストに対する証あかしは、子供にとって霊的な予防接種となるでしょう。

非常に明確なことですが、道徳的・霊的な病に対して最高の防御となるのは、堅固な家庭や家族です。それはこれまでも、そしてこれからも永遠に変わりません。このことをしっかり心に留めておかなければなりません。

聖文の中で主は「信仰の盾」について教え、それは「悪い者の放つ火の矢をことごとく消すこと〔が〕できる」と言われました(教義と聖約27:17)。

信仰の盾を作るのに最も良い場所は家

庭です。教会のレッスンや活動を通して盾を磨くことはできますが、盾を作り、一人一人に合わせて仕上げていくのは家庭なのです。

主は言われました。「災いの日に耐えられるように、そしてすべてを成し遂げて立つことができるように、わたしの武具を身に着けなさい。」(教義と聖約27:15)

今の教会の若人は、多くの点で、わたしたちの若いころよりもはるかに強く優れています。彼らもわたしたちも未来を恐れる必要はありません。

若人を励ましてください。彼らは恐れる必要はありません(教義と聖約6:36参照)。恐れは信仰の対極にあります。

邪悪なものを排除することはできませんが、霊的に養われ、邪悪な影響に対する予防接種を済ませた若い末日聖徒を生み出すことはできます。

長生きした祖父として、皆さんに信仰を保つように忠告します。物事には原則があります。教会から離れないでください。子供を教会から離れさせないでください。

アルマの時代には「^{みことば}御言葉を説き教えることは民に正しいことを行わせるのに大きな効果があり、まことにそれは、剣やそのほか、これまで民に起こったどのようなことよりも民の心に力強い影響を及ぼしたので、アルマはこの度も神の言葉の力を使うのが望ましいと思った」とあります(アルマ31:5)。

真実の教義を理解するならば、態度と行動が変わります。人の行いは、行動について研究するよりも、福音の教義を研究した方が早く改善されるのです。

ありふれたの事柄の中に幸福を見いだし、ユーモアのセンスを持つようにしてください。

姉のノナは、はしかとリウマチ熱に打ち勝ちました。心臓切開手術を受けたおかげで十分長生きし、健康も随分回復しました。元気になったねと言われると、ノナは「古い車に新しいエンジンを積んでいるからね」と答えていました。

ユーモアのセンスを忘れないでください!

子供をもうけることを恐れなくてください。わたしたちは、霊に肉体を与えて



現世に迎え入れるという聖約を交わしています(創世1:28;モーセ2:28参照)。子供たちは回復された教会の未来です。

家庭を整えてください。母親が外で働いている場合には、少しでも状況を変えられるように検討してください。今すぐ状況を変えるのが難しい場合もあるでしょうが、注意深く分析し、よく祈り(教義と聖約9:8-9参照)、霊的な導き、すなわち啓示を待つのです(教義と聖約8:2-3参照)。時に応じて家族にとって最善の行動ができるよう、幕の向こうの力が介在することを求めてください。

アルマは救いの計画を「偉大な幸福の計画」と呼びました(アルマ42:8。2ニー

ファイ11:5;アルマ12:25;17:16;34:9;41:2;42:5, 11-13, 15, 31;モーセ6:62も参照)。

わたしたちは皆死すべき肉体を得て、試しを受けるためにこの世に来たのです(アブラハム3:24-26参照)。

人生に試練は付き物です。試練には耐えるのが難しくつらいものもあります。そのような試練がすべて取り去られるようお願いしたくなるかもしれませんが、それは偉大な幸福の計画に反します。「それは、すべての事物には反対のものがなければならないから」です(2ニーファイ2:11)。人は試練を通して強められるのです。

罪のない子供だった姉アデルのこの世



の命は、病と苦痛によって奪われました。アデルとまた同じようにして亡くなった人々は、幕の向こう側で主の業を続けています。アデルは永遠の進歩に不可欠なものを何一つ失わないでしょう。

わたしの母の名を取ってエマと名付けられた孫娘を幼くして失ったとき、わたしたちは聖文から慰めを得ました。

「幼い子供たちは悔い改めもバプテスマも必要ない。

幼い子供たちは……キリストによって生きている。」(モロナイ8：11-12)

キリストの贖いを思い起こしてください。サタン誘惑に陥った人々を永遠に失ったと思って落胆する必要はありません。彼らは「最後の1コドラント」まで負債を払い終えると(マタイ5：26)、完全な悔い改めに伴う癒しを受け、さらにその後、救いを得るのです。

皆さんを導くよう召された指導者に従ってください。次の約束が与えられてい

るからです。「わたしの民が、わたしの声と、わたしの民を導くためにわたしが任命した僕たちの声に聞き従うならば、見よ、まことに、わたしは言うが、彼らはその場所から移されることはない。」(教義と聖約124：45)

末日聖徒イエス・キリスト教会は「全地に満ち」(教義と聖約65：2)、偉大なエホバが御業は成し遂げられたと宣言されるまで前進するでしょう(*History of the Church*, 第4巻, 540参照)。教会は安全な港です。わたしたちは正義によって守られ、憐れみによって慰めを受けるでしょう(アルマ34：15-16参照)。いかなる汚れた者の手もこの業の前進をとどめることはできません(教義と聖約76：3参照)。

わたしたちはこの世の状態をよく知っています。

使徒パウロは末日の「苦難の時代」を預言し(2テモテ3：1)、このように警告

しました。「わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。」(エペソ6：12)

イザヤはこう約束しました。「あなたは義をもって堅く立ち、しえたげから遠ざかって恐れることはない。また恐怖から遠ざかる、それはあなたに近づくことがないからである。」(イザヤ54：14)

主御自身もこのように励まされました。「元気を出しなさい。恐れてはならない。主なるわたしはあなたがたとともにおり、あなたがたの傍らに立つからである。あなたがたは、わたし、すなわちイエス・キリストについて、わたしが生ける神の子であること、わたしがかつており、今おり、やがて来ることを証ししなければならない。」(教義と聖約68：6) イエス・キリストの御名によって、アーメン。

明るい夜明けだ

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

わたしたちは何と栄光に満ちた時代を目の当りにしてきたことでしょう。全能の神の業の中にあつて新たな時代が到来したのです。



実にすばらしい歌声でした。リリエル・ドミシアーノ姉妹と聖歌隊の皆さん、ありがとうございました。何と雄々しい信仰の宣言でしょうか。「主は生けりと知る。」感動的なすばらしい音楽に心から感謝しています。

世界中の会員の皆さん、またそのほかにもいろいろとお世話になった皆さん、まず始めに皆さんがヒンクレー姉妹とわたしに示してくださった、あふれんばかりの親切に感謝させてください。皆さんはいつも優しく寛大な心で接していただけます。皆さんの親切にいつも心を打たれます。もし世界中のすべての人が同じような扱いを受けたとしたら、この世界は見違えるほどすばらしいものとなるでしょう。慰め、癒すために手を差し伸べられた主の精神でお互いを思いやることができたらと思います。

さて、兄弟姉妹の皆さん、パッカー長老は先ほど孫に向かって話すように皆さんに話してくれました。わたしは長老が提示してくれたテーマの中から一つを選び、さらに掘り下げて話したいと思います。わたしも、もう老人になってしまいました。信じられないかもしれませんが、あのパッカー長老よりも年寄りなのです。方々を旅して回るようになって長い年月がたちます。遠い異国の地まで足を伸ばしたこともあります。様々な世界を見てきました。静かに冥想していると、ほとんどの国でなぜこれほど多くの問題や苦しみがあるのだろうと不思議に思います。現代は危険に満ちています。パウロがテモテに語った言葉がよく引用されます。「しかし、このことは知っておかねばならない。終りの時には、苦難の時代が来る。」(2テモテ3:1)パウロはさらに続けて、この世に蔓延する数々の問題について語っています。思うに、この末日が文字どおり危険に満ちた時代であることはだれの目にも明らかであり、かつてパウロが語ったとおりの問題が生じています(2テモテ3:2-7参照)。

しかし、危険は人類家族にとって今に始まった問題ではありません。黙示録にはこう記されています。「天では戦いが起った。ミカエルとその御使たちが、龍と戦ったのである。龍もその使たちも応戦したが、

勝てなかった。そして、もはや天には彼らのおる所がなくなった。

この巨大な龍、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれ、全世界を惑わす年を

経たへびは、地に投げ落され、その使たちも、もろともに投げ落された。」(黙示12:7-9)

危機的な状況だったことでしょう。全能の神御自身が暁の子と対戦されたほどの戦いでした。わたしたちもこの戦いの場にいました。きっと壮絶で困難な戦いだったことでしょう。しかし、結果は大勝利に終わりました。

天上でのこのような重大な出来事に関して、主はつむじ風の中からヨブにこう語られました。

「わたしが地の基を据えた時、どこにいたか。……

かの時には明けの星は相共に歌い、神の子たちはみな喜び呼ばわった。」(ヨブ38:4,7)

そのときわたしたちはなぜ喜んだのでしょうか。それは善が悪に打ち勝ち、人類家族がすべて主の側に立っていたからでしょう。わたしたちはサタンに背を向け、神の軍勢に加わりました。そして神の軍勢が勝利を得たのです。

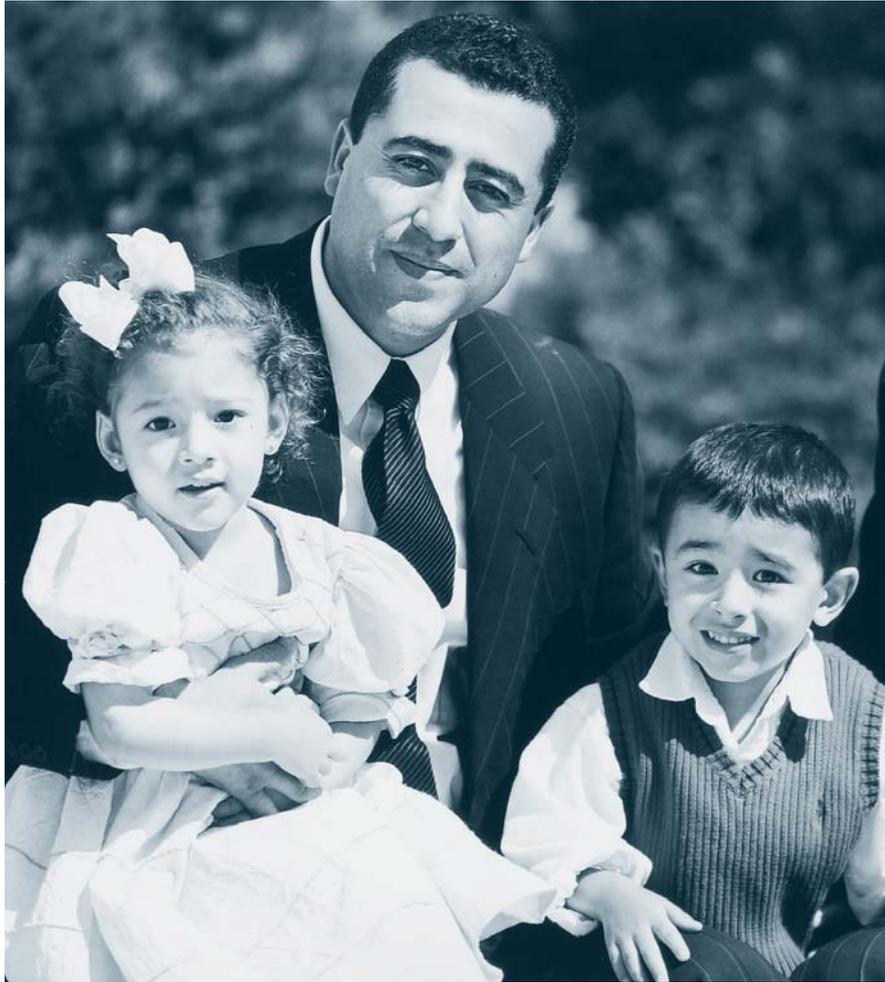
しかし一度そのような決定を下したにもかわらず、なぜこの地上に生を受けた後も繰り返し同じ決定をしなければならないのでしょうか。

天で大きな戦いが起こったときに下した決定をこの現世で台なしにしてしまう人があまりにも多いのはなぜなのか、わたしには理解できません。

しかし、天での戦いに端を発する善と悪の戦いがまだ終わっていないことは明らかです。この戦いは現在に至るまで繰り返しやむことなく行われてきているのです。

天の御父は神の子供たちのことを嘆いておられるに違いないと思います。なぜならその多くが、創世の時代から今日に至るまで、御父から授かった選択の自由を用いて善の道よりむしろ悪の道に歩んでいるからです。

悪は、カインがアベルを殺した昔からこの世界に姿を現しています。この悪はノアの時代まで増長し、「主は人の悪が地にはびこり、すべてその心に思いはかることが、いつも悪い事ばかりであるのを見られた。



主は地の上に人を造ったのを悔いて、心を痛め〔られた。〕(創世6:5-6)

主はノアに箱船を造るよう命じられ、「わずかに8名だけ」が救われました(1ペテロ3:20)。

こうして地球は清められました。洪水は収まりました。正義が再び確立しました。しかし、それから程なく人類家族は、そのあまりにも多くが、以前の不従順な状態に戻ってしまいました。人間の陥った墮落の代表的な例として、低地の町々、ソドムとゴモラの住民を挙げることができます。その結果、跡形もないように、「神が低地の町々を〔完全に〕こぼたれた」と記されています(創世19:29)。

イザヤは声を大にして語りました。

「あなたがたの不義があなたがたと、あなたがたの神との間を隔てたのだ。またあなたがたの罪が主の顔をおおったために、お聞きにならないのだ。

あなたがたの手は血で汚れ、あなたがたの指は不義で汚れ、あなたがたのくち

びるは偽りを語り、あなたがたの舌は悪をささや〔く。〕(イザヤ59:2-3)

旧約聖書に登場するほかの預言者も同様のことを語りました。彼らのメッセージの主眼は、悪に対する非難でした。また、その当時の危険は旧世界に限ったことではありません。モルモン書の中には、西半球でヤレド人の軍隊が死ぬまで戦ったと記されています。またニーファイ人とレーマン人の間にも戦いが起こり、おびただしい数の人が死に、モロナイは独り命の安全を得られる場所を求めてさまよい歩かざるを得ませんでした(モロナイ1:3参照)。モロナイの偉大で最後の嘆願は、現代に住む人々にあてられたものであり、義になかったことを行うようにとの呼びかけです。

「さらに、わたしはあなたがたに、キリストのもとに来て、あらゆる善い賜物たまものを得るように、また悪い賜物や清くないものに触れないように勧めたい。」(モロナイ10:30)

主はこの地上を歩まれたときに、「よい働きをしながら……巡回されました」が(使徒10:38)、それと同時に、律法学者やパリサイ人の偽善を非難し、彼らを「白く塗った墓」と呼ばれました(マタイ23:27参照)。神殿いのりにいた両替商を激しく非難し「『わが家は祈の家であるべきだ』と書いてあるのに、あなたはそれを盗賊の巣にしてしまった」と言われました(ルカ19:46)。現代と同様その当時もまた、大きな危険をはらんだ時代でした。パレスチナはローマ帝国の属国でしたが、このローマ帝国の統治形態は過酷かつ圧制的であり、悪に満ちていました。

パウロはその手紙の中で、キリストに従う者が力を得て、サタンの道にそれないようにと嘆願しています。しかし、最終的には背教の精神が教会内にはびこってしまいます。

無知と悪が世界を覆い、その結果、暗黒時代として知られる時代が到来します。イザヤは次のように預言しました。「暗きは地をおおい、やみはもろもろの民をおおう。」(イザヤ60:2) 何世紀にもわたって、疫病が猛威を振るい、貧困が蔓延しました。14世紀には「黒死病」でおよそ5,000万の人々が命を落としました。これもまた恐ろしい、危険に満ちた時代でした。よく人類は生き残れたものだと思います。

しかし、その長い暗黒の時代を経て、やっとのことでろうそくに火がともされました。ルネサンス時代の到来とともに学問、芸術、そして科学の時代が開花したのです。さらには大胆で勇敢な男女による運動が起こりました。彼らは、天を仰ぎ見、神と神の御子を認めようとしてました。それがいわゆる宗教改革です。

そしてさらに幾世代もの人々がこの地上に生を受けました。その多くは争い、憎悪、暗黒、そして悪の中で生涯を送りました。しかしついに、回復というあの偉大な更新の時代が訪れました。御父と御子が少年ジョセフに御姿を現され、栄光に満ちた福音の時代の幕が切って落とされたのです。こうして世界は、時満ちる神権時代の夜明けを迎えました。過去のす

すべての神権時代に存在したすべての善なるもの、美しいもの、神聖なものが、この最も注目すべき時代に回復されました。

しかし、そこには悪も存在しました。その悪が形を取って現れたのが迫害でした。憎しみも存在しました。人々は、冬のまっただ中に追放や強行軍を幾度も経験させられました。

それはチャールズ・ディケンズがその著『二都物語』の冒頭で語った状況に似ています。「それはおよそ善き時代でもあれば、およそ悪しき時代でもあった。……光明の時でもあれば、暗黒の時でもあった。希望の春でもあれば、絶望の冬でもあった。」(中野好夫訳『二都物語』上巻, 7, 新潮社, 読み仮名付加)

これらの時代に大きな悪が存在したものの、それから現在に至るまで、わたしたちは何と栄光に満ちた時代を目の当たりにしてきたことでしょうか。全能の神の業の中にあって新たな時代が到来したのです。この業は発展し、力を増し、全世界に広がっています。今や何百万という人々の生活に良い影響を及ぼしています。そして、これはまだ始まりにすぎないのです。

この偉大な時代の幕開けは、結果として途方もなく大量のこの世的な知識をも世界にもたらしました。

寿命が伸びたことについて考えてください。現代医学のすばらしい進歩について考えてください。驚くべきことです。知識が増し加えられ、交通手段や伝達手段が奇跡的な進歩を遂げたことについて考えてください。天の神が靈感を与え、光と知識を注がれるかぎり、人の能力には限界がないように思われます。

世界にはまだ実に多くの争いがあります。恐ろしい貧困や病気、憎しみも絶えません。人に対する非人道的な扱い方もとどまることを知りません。しかしそれでもなおこの栄光に満ちた夜明けが存在します。「その翼には、いやす力を備えている」「義の太陽」が昇るのです(マラキ4:2)。神とその愛する御子が御姿を現されました。わたしたちは御二方を知っており、「霊とまこととをもって」



礼拝します(ヨハネ4:24)。わたしたちは御二方を愛しています。敬いあがめ、その御心を行いたいと願っています。

永遠に続く神権の鍵が過去の牢獄の扉を開けました。

夜明けだ、朝明けだ
シオンの旗掲げよ
明るい夜明けだ
厳かにあまねく、朝日は昇り行く
(「夜明けだ、朝明けだ」『賛美歌』1番)

今は危険に満ちた時代でしょうか。そうですね。確かにこの時代は危険に満ちています。しかし人類は地球が創造される前から危険と隣り合わせで生きてきました。ともかくもあらゆる暗闇をくぐり抜け、かすかであっても美しい光のあるところまで到達しました。そして今輝きを増したこの光は全世界を照らしているのです。この光は神の幸福の計画を神の子供たちにもたらします。偉大で計り知れないほどすばらしい、贖いの力をもたらししてくれます。

わたしたちは天におられる神にどれほど深い感謝の念を抱いていることでしょうか。義にかなった生活を送るだけで、永遠の行く末に影響を及ぼすあらゆる危険を乗り越えさせ、救いの機会と神の王国における昇栄の祝福を神の子供たちに与えてくださる慈愛に満ちた心遣いに、ど

れほど深い感謝の念を抱いていることでしょうか。

兄弟姉妹の皆さん、この事実があるからこそ、わたしたち一人一人に、身もすくむほどの大きな責任が課せられているのです。ウィルフォード・ウッドラフ大管長は1894年に次のように語っています。

「全能の神がこの民とともにおられます。自らの務めを果たし、神の戒めを守るならば、必要な啓示はすべて必ず与えられるのです。……わたしは……命のあるかぎり、自らの務めを果たしたいと思います。すべての末日聖徒にも自らの務めを果たしてほしいと思います。わたしたちには聖なる神権が与えられています。……神権者には偉大ですばらしい責任が課せられています。神とすべての聖なる預言者の目がわたしたちに注がれています。わたしたちは世界の創造以来、常に語られてきた大いなる神権時代に生きています。わたしたちは……神の力と戒めによって……集合しています。神の業を行っています。……さあ、召しを果たそうではありませんか。」(ジェームズ・R・クラーク編, *Messages of the First Presidency of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints*, 全6巻[1965-1975年], 第3巻, 258で引用)

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちには偉大で厳しいチャレンジが与えられています。これこそ常に行わなければならない選択です。幾世代にもわたる先駆者も同様の選択を行わなければなりませんでした。

主の方には 誰が立つや
恐れず聞かん 時は至る
特に強き われらの敵
目覚めてあり いざ戦え
(「主の方には」『賛美歌』165番)

わたしたちはほんとうに理解しているのでしょうか。与えられているものが持つ途方もなく大きな意味を理解しているのでしょうか。それはまさしく幾世代も続いてきた人間の総括であり、ありとあらゆる人間の経験を締めくくる最終章なのです。

しかしだからといって、わたしたちが

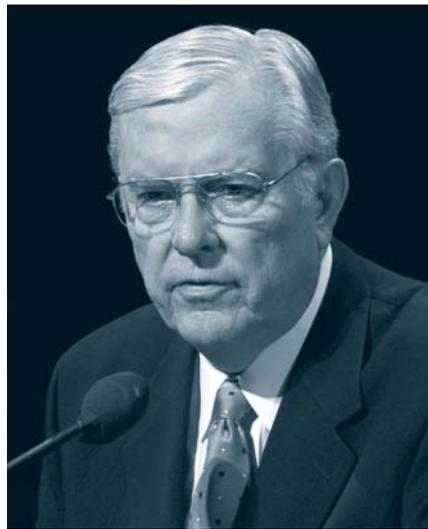
●日曜午後の部会
2004年4月4日

しよくざい 贖罪と一人の価値

十二使徒定員会

M・ラッセル・バラード

**もし主イエス・キリストの贖罪が真に理解できれば、人は皆、神の息子や娘の一人
がいに貴いかを理解することでしょう。**



今年の1月、わたしたち家族は孫のネーサンを飛行機事故で失いました。ネーサンはロシア語圏にあるバルト諸国伝道部で働きました。彼は人々を愛し、主に仕えることを特権と思っていました。事故死したのは、わたしが彼と彼の愛するジェニファーの永遠の結婚を執り行ってから3か月後のことでした。ネーサンがあまりに突然取り去られてしまった後、わたしたち家族一人一人の心と思いは主イエス・キリストの贖罪へ向けられました。わたしにはキリストの贖罪のすべての意味を言い表すことはできませんが、主の贖罪がわたしと家族に、また皆さんと皆さんの家族にどのような意味を持つかを説明できるよう祈っています。

救い主の貴い降誕、生涯、ゲツセマネの園での贖罪、十字架での苦しみ、ヨセフの墓への埋葬、そして栄えある復活、

そのすべてが、わたしたち家族にとって新たな現実となりました。救い主の復活により、人は皆いつの日か主のように復活すると保証されています。全人類の救い主、贖い主であるイエス・キリストの愛にあふれる恵みによって与えられたこの大いなる賜物は、何という平安、何という慰めでしょう。主のおかげで、再びネーサンに会えると確信しています。

神の御子によって行われた雄々しい贖罪ほど、大いなる愛の表現はありません。世の始まる前に設けられた天の御父の計画がもしなかったならば、過去、現在、未来のすべての人類は、永遠に進歩するという希望を持ち得なかったことでしょう。アダムの子の背きの結果として神から引き離されたわたしたち人間は(ローマ6:23参照)、死の縄目に打ち勝つ方法が見いだされないかぎり、永遠にその状態にとどまることになりました。死の縄目を解くのは容易ではありませんでした。全人類の罪を負うには、罪のない人物による身代わりの犠牲が必要だったからです。

感謝すべきことに、イエス・キリストは勇敢にも古代エルサレムにおいてこの犠牲となりました。静かで孤独なゲツセマネの園で、救い主は節くれ立ったオリブの木々の間にひざまずき、人間には完全に理解することのできない途方もない方法で、世の罪を受けられました。主は清く罪のない生涯を送られたにもかかわらず、皆さんとわたしと、かつて生を受けた全人類の罪に対する究極の罰を受けられました。その精神的、情緒的、霊的な苦痛はあまりに激しく、すべての

ほかの人々よりも優れているというわけではありません。むしろ、謙遜けんそんにならなければなりません。「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」と教えられた救い主の精神で(マタイ19:19)、あらゆる人に思いやりをもって手を差し伸べるという弁明の余地のない責任が与えられているのです。独善を捨て、つまらない自己中心主義を克服しなければなりません。

主の業を推し進めるうえで必要とされるすべてのことを実行し、地上に神の王国を建設しなければなりません。啓示によって与えられた教義に関していかなる妥協も許してはなりません。しかし、時の初めから人とともに存在した、偽りの教義や論争、憎悪、危険に対抗しながらも、ほかの人々の信仰に敬意を払い、徳を称賛し、手を取り合って、ともに生き、働くことはできるはずで

自分たちの教義を微塵も曲げることなく、善き隣人として、援助の手を差し伸べ、親切で寛大な民となることができます。

この世代に生きるわたしたちは、すでに過ぎ去った全人類の最後の収穫です。ただ単にこの教会の会員として名を連ねるだけでは不十分です。厳粛な義務が課せられています。この義務を正面から受け入れ、取り組もうではありませんか。

すべての人を慈しみ、キリストに真に従う者として生活し、悪に対して善で報い、模範によって主の道を教え、主が指し示された広範囲にわたる奉仕の業を達成しなければなりません。

過去のすべての危険な時代を経てもたらされた、光と理解、そして永遠の真理という栄光に満ちた賜物たまものにふさわしい生活を送ることができますように。これまで地上に生きたすべての人の中で、どういふわけか、わたしたちはこの特異な驚嘆すべき時代に生を受けました。常に感謝しましょう。そして何より、忠実であってください。これらのことをへりくだって祈るとともに、この業が真実であることを証します。イエス・キリストの御名みなによって、アーメン。



毛穴から血が流れ出たほどでした（ルカ22：44；教義と聖約19：18参照）。しかしイエスは進んでその苦しみを受けられたのです。それはすべての人が、主を信じ、罪を悔い改め、正しい神権の権能によってバプテスマを受け、確認の儀式を通して聖霊の清めの賜物を受け、救いに不可欠なほかのあらゆる儀式を受けることによって、洗い清められる機会を得るためです。主の贖罪がなければ、その祝福のどれ一つも得ることはできず、神の御前みまへに住むにふさわしくなく、その備えもできないのです。

救い主はさらに、侮辱的な尋問、残酷な鞭打ち、カルバリにおける十字架の刑と死に耐えられました。最近、このことに関する注解が数多く出ていますが、救い主の命を奪う力はだれにもなかったという重要な点を明示したものは一つもありません。主は御自分から命を捨ててわ

た私たちを買い取られたのです。神の御子である主には状況を変えることもおできになりました。それでも聖文には、主は人の子らに対する大いなる愛のゆえに、鞭打ちや屈辱、苦しみ、ついには十字架上の死にさえ身をゆだねられたと、はっきり記されています（1ニーファイ19：9-10参照）。

イエス・キリストの贖罪は、地上における御子の使命と、人の救いに関する御父の計画の中で、欠くことのできない事柄でした。御父が愛する御子を救うために手を伸べたいという父親の情を抑えられたことに、わたしたちはどれほど感謝すべきでしょうか。皆さんやわたしに対する永遠の愛のゆえに、御父はイエスが予任されたとおりに贖い主となられるのをお許しになりました。復活と不死不滅の賜物はイエス・キリストの愛にあふれる恵みによって、あらゆる時代のあらゆる人間

に、行いのよしあしを問わず、無料で与えられます。そして主を愛することを選び、戒めを守り、贖罪の完全な祝福を受けるふさわしさを身に付けていながら、主への愛と信仰を示す人々には、神とその愛する御子の御前に永遠に住むという祝福、すなわち昇栄と永遠の命というさらなる約束が与えられているのです。

わたしたちがよく歌う賛美歌に、わたしが救い主の優しさと贖いの犠牲について思うときに抱く感情が表現されています。

主イエスの愛に ただ驚く
恵みの深きに われまど惑う
罪人つみびとのため 十字架にて
流されたる血に 身はみ震う
（『主イエスの愛に』『賛美歌』109番）

全人類の救い主、贖い主であるイエス・キリストは、死んではおられません。

生きておられるのです。復活した神の御子は生きておられる、それがわたしの証です。今日主は御自分の教会を導いておられます。

1820年の春、一筋の光の柱がニューヨーク州北部の小さな森を照らしました。天の御父とその愛する御子が、預言者ジョセフ・スミスに御姿を現されたのです。この出来事により、何世紀にもわたって失われていた真実の教義の力強い回復が始まりました。背教の闇によって隠されていた教義の中には、人は皆、神すなわち愛にあふれた御父の霊の息子・娘であられるという感動的な事実も含まれています。人は神の家族の一員です。神が父親であることは寓話や詩などではありません。文字どおり人の霊の父親であるのです。御父はわたしたち一人一人を心にかけておられます。この世は人を過小評価しがちですが、実際は、人は皆高貴な存在であり、神の血統に属する者なのです。御父と御子の聖なる森への来臨という空前の出来事の中で、全人類の御父が最初に発せられた言葉は「ジョセフよ」という個人の名でした。御父と人間との個人的な関係とはそのようなものなのです。御父は個人の名を御存じで、わたしたちがふさわしくなって戻って来るのを切に願っておられます。

預言者ジョセフ・スミスによって福音が回復されました。主イエス・キリストは、御自分の選ばれた預言者によって、信じるすべての人の救いのために、儀式そのものと、儀式を執り行うために必要な神権の権能を再び明らかにされました。

別の時代の預言者は、「地のすべての民族」を見ました(モーセ7:23)。「主はエノクに、まことに世の終わりに至るまですべてのことを示された。」(モーセ7:67)エノクはまた、サタンが「手に大きな鎖を持ち、それ[が]地の全面を闇で覆[い、]サタン[が]見上げて笑[っている]」のを見ました(モーセ7:26)。

エノクが目にしたすべてのもののうち、何にも増して注意を引いたと思われるものがあります。エノクは、神が「民の残りの者を見て泣かれ[る]」のを見

たのです(モーセ7:28)。神聖な記録によると、エノクは神に何度もこう尋ねています。「どうして泣くことがおできになるのですか。……どうしてあなたは泣くことがおできになるのですか。」(モーセ7:29, 31)

主はエノクに答えられました。「これらあなたの兄弟たちを見なさい。彼らはわたし自身の手で造られたものである。……わたしはあなたの兄弟たちに……互いに愛し合うように、また父であるわたしを選ぶようにという戒めも与えた。ところが見よ、彼らは愛情がなく、自分の血族を憎んでいる。」(モーセ7:32-33)

エノクはこの末日の状態を見ました。彼や昔の預言者たちは、試練に対処し、平安と喜びを得て幸福になるには、贖罪を受け入れて、福音に従うよう努める必要があることを知っていました。この大いなる賜物を理解することは、神の子供一人一人が個々に行うべき仕事なのです。

兄弟姉妹、わたしはこう信じています。もし主イエス・キリストの贖罪が真に理解できれば、人は皆、神の息子や娘の一人がいかに貴いかを理解することでしょう。御自分の子供たちに対する御父の永遠の目的は、一般に、人が互いに行う小さくて簡単なことによって成し遂げられます。英語で「贖罪」に当たる“atonement”という言葉の中心には“one”すなわち一人という言葉があります。もし全人類がこのことを理解したなら、年齢や人種、性別、宗教、または社会的、経済的な地位にかかわらず、すべての人を気にかけるようになるでしょう。救い主を見習うようになり、不親切や無関心、無礼や無神経な態度がなくなることでしょう。

もし贖罪と一人一人の永遠の価値を真に理解したならば、わたしたちは不従順な少年や少女、そして神の不従順な子供たちすべてを探し求めるでしょう。彼らがキリストからどれほど愛されているかを理解できるよう助け、福音の救いの儀式に彼らが備えられるように、できるすべてのことを行うでしょう。

キリストの贖罪がワードや支部の指導者の思いの大部分を占めるなら、新しい

会員や再び教会に集うようになった会員を放っておいたりはしないでしょう。一人一人が非常に貴い存在なので、指導者たちはイエス・キリストの福音の教義が一人一人に教えられるようにともに評議することでしょう。

ネーサンがわたしたちにとっていかに貴い存在であるかを思うとき、天の御父がそのすべての子供たちに抱いておられる感情をはっきりと理解し、感じることができます。わたしは神が涙を流されるのを見たくはありません。ですから、全力を尽くして福音の真理を伝えたいのです。わたしは教会のすべての青少年が贖罪の祝福を知り、伝道に出て主に仕えるにふさわしくなるための努力をするよう祈っています。主イエス・キリストによる贖いの犠牲の意味を深く考えるならば、必ずやもっと多くの年配の夫婦や健康的に可能な人々が、宣教師として主に仕えることを熱望するでしょう。イエスは次のように言っておられます。「あなたがたはこの民に悔い改めを叫ぶことに生涯力を尽くし、一人でもわたしのもとに導くならば、わたしの父の王国で彼とともに受けるあなたがたの喜びはいかに大きいことか。」(教義と聖約18:15, 強調付加)さらに、その人が悔い改めるとき、主の喜びは大きいことでしょう! 主にとってその一人が貴いからです。

兄弟姉妹、天の御父は救い主の贖罪によって手を差し伸べておられます。御父は「イスラエルの聖者であるキリストのもとに来て、キリストの救いと、キリストの贖いの力にあずかるよう」すべての人を招いておられます(オムナイ1:26)。福音の原則を忠実に守り、回復された救いの儀式を受け、絶えず奉仕を行い、最後まで堪え忍ぶことによって、聖なる御父の御前に戻れるということを、御父が自ら教えてくださっています。これほど重要な知識が一体この世界のどこにあるのでしょうか。

悲しいことに、今日の世の中では、観衆をどれだけ集められるかによって、人の価値が判断されることがあります。メディアやスポーツ番組の評価も、時には

会社の名声も、そしてしばしば政治上の地位も、観衆の多さで決まります。「父親」「母親」「宣教師」などに万雷の拍手が送られないのは、恐らくそのためなのでしょう。父親、母親、宣教師が「その役割を果たす」のは、とても小さな観衆の前からです。しかし主の目から見て永遠に重要な観衆の数はただ一つ、たった一人なのです。つまりあなたやわたし、そして神の子供たちの一人一人がその観衆なのです。贖罪は無限にして永遠でありながら、個人的に一人ずつ適用されるという点で、二面性を持っています。

子供の賛美歌「神の子です」には永遠の真理が歌われています（『賛美歌』189番）。わたしたちは神の子です。忠実であるならば、全能の主なる神に満ちみちる喜びを、不忠実であれば涙をもたらすほど、一人の人間の存在は貴いものなのです。

復活した救い主がニーファイ人に言われた言葉は、今の人々にも向けられているでしょう。

「『あなたがたは信仰があるので、幸いである。見よ、わたしの喜びは満ちている』……」

そして、イエスはこれらの御言葉を語ると、涙を流された。群衆はそのことを証した。

また、イエスは幼い子供たちを一人一人抱いて祝福し、彼らのために御父に祈られた。」（3ニーファイ17：20-21、強調付加）

兄弟姉妹、一人がどれほど貴いかを決して、決して過小評価しないでください。次の主の簡潔な勧めを常に覚えていてください。「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。」（ヨハネ14：15）主イエス・



キリストの贖罪の神聖で完全な祝福にふさわしく生活するよう、常に努めてください。愛するネーサンとの別離の悲しみの中で、わたしたち家族は救い主、贖い主だけから頂ける平安を得ています。一人一人が主に頼りました。そして今、より大きな感謝と理解をもって歌うことができます。

ああ、わがため主は死にたもう

奇しきみ業

ああ、^奇しき主のみ業

（「主イエスの愛に」『賛美歌』109番）

愛する兄弟姉妹、主イエス・キリストが差し出された贖罪のすべての祝福を人に与え、自分も受けられるように、イエス・キリストの御名によってへりくだり祈ります。アーメン。

「優しい親の情を込めて」 家族への 希望のメッセージ

十二使徒定員会

ロバート・D・ヘイルズ

世の中がどんなに邪悪になっても、わたしたちの家族は安泰です。正しいことをするなら、導かれ、守られるのです。



パウロの預言どおり、わたしたちは「苦難の時代」¹に生きています。「サタンは、方々を巡って民の心を惑わし[ており]」²その影響力は強さを増しています。しかし、世の中がどんなに邪悪になっても、わたしたちの家族は安泰です。正しいことをするなら、導かれ、守られるのです。

「勇みて進めや 神は守ります」³と先祖の開拓者たちがよく歌った賛美歌は、わたしたちが何をすべきか告げています。この勇気と信仰を、この末日においてわたしたち親と家族は必要としています。

父親のリーハイにはそのような勇気がありました。リーハイは家族を愛し、何

人かの子供たちが主の戒めを守っていたことを喜んでいました。しかし、息子の「レーマンとレムエル[が神の愛を表す]実を食べなかった」ときは、大変悲しかったことでしょう。「[二人]のことを非常に心配して[いました。]まことに、父は二人が主の前から捨てられはしないか心配で[した。]」⁴

親はだれでも、そのような心配事に直面するときがあります。しかし、子供たちを教え、助けるために自分にできることを行って信仰を働かせるとき、心配は軽くなります。リーハイも勇んで進み、「優しい親の情を込めて、[父親]の言葉に聞き従うように」信仰をもって勧め、「主の命令を守るように告げ[ました。]」⁵

わたしたちも、信仰をもって子供たちを教え、戒めを守るように勧めなければなりません。子供たちが何を選択したかで、わたしたちの信仰が弱まるようなことがあってはなりません。子供の正しさは、親としての価値を測る基準ではないのです。レーマンとレムエルが実を食べるのを拒んだからといって、リーハイは命の木の実を味わう祝福を失いませんでした。子供たちが間違いを犯したり、道をそれたりするとき、時々わたしたちは親として失敗してしまったように感じる場合があります。最善を尽くして子供を愛し、教え、気遣い、子供のために祈る

なら、親は決して失敗することなどありません。そのような親の信仰と祈り、努力は、子供たちの益のために聖別されることでしょう。

親であるわたしたちに主が望まれること、それは主の戒めを守ることです。「戒めに従ってあなたの子供たちに光と真理を教え……家を整え……」「もっと勤勉に家庭のことに携わ[る]」⁶ようにと主は言われました。

完成に達した家族はいない、ということをおぼやかし、皆さんにもう一度思い出してもらいたいと思います。あらゆる家族が、死すべきこの世の状況に影響を受けます。あらゆる人は、自分の意志で選択しその選択の結果から学ぶという、選択の自由という賜物を与えられています。

わたしたちはだれでも、伴侶や子供、親、親戚のだれかが、精神的、あるいは肉体的、情緒的、霊的な苦しみを何らかの形で受けるのを経験するでしょう。時には、わたしたち自身が艱難に遭うかもしれませぬ。一言で言えば、この世の人生は簡単ではないのです。

家族はそれぞれに特別な事情を抱えています。しかし、イエス・キリストの福音はあらゆる困難に助けを与えてくれます。子供たちに福音を教えなければならぬのは、このためです。

「家族——世界への宣言」には、はっきりとこう述べられています。

「両親には、愛と義をもって子供たちを育て、物質的にも霊的にも必要なものを与え、また互いに愛し合い仕え合い、神の戒めを守り、どこにいても法律を守る市民となるように教えるという神聖な義務があります。夫と妻、すなわち父親と母親は、これらの責務の遂行について、将来神の御前で報告することになります。」⁷

この末日の世にあって、これらの義務を果たすことが家族を守る鍵です。

モーセはこう勧告しています。「努めて[これらの言葉]をあなたの子らに教え、あなたが家に座している時も、道を歩く時も、寝る時も、起きる時も、これについて語らなければならない。」⁸わたしたちは常に家族について考えていなければならぬ



らないのです。

困難な時代に成長したモーセは、常に教える必要があることを理解していました。彼が生まれたとき、パロはエジプトにいるヘブル人の男の赤ん坊をすべて川に投げ込むように命じました。しかし、モーセの両親は親としての義務を真剣にとらえていました。

「信仰によって、モーセの^{うま}生れたとき、両親は、3か月のあいだ彼を隠した。……彼らはまた、王の命令をも恐れなかった」⁹と聖文は記録しています。大きくなったモーセを隠し切れなくなったとき、母親のヨケベデは、アスファルトと樹脂で防水を施した精巧なかごをパピルスで作り、息子モーセをその中に置きました。安全な所に行くようにと、彼女が川に流した小さなかごは、水浴びをしているパロの娘のもとに着きました。

わが子に何が起るのか見届けようと、ヨケベデは靈感豊かな娘ミリアムを助け手として一緒に行かせました。パロの娘である王女が赤ん坊を見つけると、ミリア

ムは勇敢にもヘブル人の子守を呼んで来ましようと言ったのです。その子守とは、モーセの母親、ヨケベデでした。¹⁰

彼女が忠実だったおかげで、モーセの命は助かりました。モーセは自分の素性を知ると、「王の憤りをも恐れず、エジプトを立ち去りました。」¹¹

わたしはあらゆるところにいる忠実な両親の皆さんとともに声をそろえてこう宣言します。「自分がほんとうは何者であるかを知っています。また、親としての責任を理解し、暗黒の君の怒りを恐れませんが、そして、主の光を信頼します。」

ヨケベデと同じように、わたしたちは邪悪で敵意に満ちた世界、つまりパロが支配するエジプトの宮廷のように危険な世界で子供を育てています。しかし、ヨケベデと同じように、わたしたちも子供たちの周りに「家族」と呼ばれる子供を守るかごを編み、家庭や教会の中でのわたしたちの教えが強められる安全な場所へと導くのです。

子供たちを導く最終の場所は、学び舎

の中でも最も偉大な学び舎、神聖な神殿です。彼らはいつかそこで、忠実な家族に囲まれてひざまずき、ふさわしい伴侶と永遠に結び固められます。わたしたちから学んだことを、彼らはその子供たちに教えるでしょう。そして、永遠の家族の業は続いていきます。

その途中、時には子供がわたしたちから離れていくこともあります。そんなとき、彼らを見守る靈感豊かな「ミリアム」として、主は神権組織や補助組織の指導者、教師、親戚、立派な友人など、特別な第三者を与えてくださいます。また時には、自分たち以外に医師や資格あるカウンセラーなどの人たちの特別な助けを求めるように、^{みたま}御霊がわたしたち両親を導いてくれることもあります。いつ、どのようにそのような助けを得るべきかを御霊は教えてくれるでしょう。

しかし家族にとってのいちばん大きな助けは、天の御父から、聖霊の導きを通して、教義と原則の中に、そして神権を通して、つまり、福音を通してもたらさ

れます。ではここで、子供を育てるうえで重要な5つの要素をお話ししましょう。それらは、家族を強める助けとなるでしょう。

家族会議を開いてください。わたしたちは時々恐れを抱くことがあります。怒らせるのではないかと恐れて子供への助言を躊躇するのです。しかし、家族一人一人の生活に純粋な関心があることを示しながら助言し合うとき、そこから貴重な祝福が得られます。家庭の夕べの一環として、また特別な集まりの一部として、全員が参加する家族会議を開くことができます。しかし、子供たちとは一人一人、定期的に話し合うことが必要です。

一対一の話し合いがなければ、子供は自分がどんな難題に迫られているのか、お父さんもお母さんも、おじいちゃんもおばあちゃんも理解してくれないし、気にかけてもくれないと思いがちです。愛をもって、話を遮らずに耳を傾けると、御霊は子供の力になり、子供を教えるにはどうしたらよいかを教えてください。

例えば、何をするかを選ぶことはできても、その結果を選ぶことはできないと教えることができます。また、自分の行動の結果が自分自身の生活に表れることを理解できるように、優しく助けることができます。

教えたことが守られなかったり、期待どおりの結果が出なかったりするときには、**心の扉を開けておく**ことを思い出す必要があります。

放蕩息子^{ほうとう}のたとえには、家族、特に両親のための力強い教えがあります。「本心に立ちかえっ[た]」¹² 下の息子は、家に帰る決心をしました。

父親が自分を拒まないことを、彼はどのようにして知ったのでしょうか。それは、父親がどういう人であるか彼がよく知っていたからです。年若い息子のやむを得ない誤解や争い、愚かな行為に対して、父親は、理解ある心と思いやりの気持ち、穏やかな受け答えと聞く耳、そして、赦しの抱擁で彼に接したのでしょうか。その光景が目に見えよう。また、自分の帰りを待つ家がどのようなどころなのかを知

っていたので、息子は家に帰ることができると思ったのでしょうか。聖文にはこう記されています。「まだ遠く離れていたのに、父は彼をみとめ、哀れに思って走り寄り、その首をだいて接吻した。」¹³

わたしは、天の御父が扉を開いて、わたしたちが帰るのを迎えていてくださることを証します。また、「愛してるよ」「ごめんなさい」「赦してください」という簡単な言葉を添えて子供たちとの間にある扉を開くのに、遅すぎることはないことも証します。子供たちが現在だけでなく、永遠にわたって帰りたいと思うような家庭を、今からでもつくることのできるのです。

わたしたちはまた、従順な子供たちに対して愛と感謝を示し、兄弟や姉妹の悔い改めとともに喜べるように助けることによって、彼らも赦しの扉を開いておけるように助けることができます。

心の扉を開けて、**聖文を自分の生活に当てはめる**ことも学んでください。

よくわたしたちは、聖文を使って子供を教えることについて話しますが、どのようにすればよいのでしょうか。

数年前、わたしはまだ若かった息子に、ヤレドの兄弟の生涯と経験について教えました。その生涯はとても興味深い話だったのですが、息子はあまり興味を示しません。そこで、自分にどう当てはまると思うか聞きました。わたしたちが子供に「これは自分にどう当てはまるか」尋ねるのは実に有意義なことです。息子の答えはこうでした。「これって、森の中で祈って答えを受けたジョセフ・スミスの話とあんまり変わらないね。」

わたしは言いました。「君はジョセフと同じくらいの年だね。ジョセフがしたような祈りは、君に役立つと思うかい。」すると突然、話題は遠い国で起こった昔の話ではなくなりました。わたしたちが話していたのは、息子のことでした。彼の日常、必要なもの、そして、どのように祈りが役に立つかということでした。

親であるわたしたちには、子供たちが「すべての聖文を[まさに、イエス・キリストの福音のあらゆる部分を]自分たちに

当てはめて、それが[家族]の利益となり、知識と」¹⁴ なるようにするうえで助ける責任があります。

わたしたちは、子供の福音にかかわる経験を、彼らの実生活のほんとうに必要なことに当てはめているでしょうか。子供たちが困難にぶつかったとき、聖霊の賜物や悔い改め、贖い、聖餐、聖餐会の祝福について教えているでしょうか。子供たちに、知らなければならぬすべてのことを教えるには、通常の集会だけでは足りません。だからこそ、**日々の時間を活用して教えなければならぬ**のです。

このような時間は貴重です。仕事をしているとき、遊んでいるとき、一緒に苦しんでいるときに機会はやって来ます。そのとき主の御霊は、わたしたち親が何を言うべきか分かるように助け、子供たちには親の教えを受け入れる助けを与えてくれます。

家庭に御霊があるのは、何とすばらしい喜び、祝福でしょうか。祈り、聖典を勉強し、優しい言葉で話し、互いに感謝の気持ちを表すことによって御霊を招くことができるのは、何とすばらしい祝福でしょうか。教える機会に備えて、アルマが息子のために「深い信仰をもって」¹⁵ 祈ったように祈りましょう。断食し、聖文を探求し、罪を悔い改め、聖霊がわたしたちの心を愛と赦しと憐れみで満たしてくれるように、魂のすべてをかけて祈りましょう。やがてそれらは家庭に満ちあふれるでしょう。それからすべきことは、**良い羊飼いを信頼すること**です。

モーセの母親、ヨケベデは「たましいの牧者」¹⁶ を信じて息子を川に導きました。わたしたちも親として、良い羊飼いの教えと導きに信頼を寄せることができます。イザヤも、主は子供に責任を持つすべての人を「やさしく導かれる」¹⁷ と約束しています。

主は、たとえ子供たちが愚かな選択をしたときでも、わたしたちが選択の自由の原則、物事には反対のものがあるという原則、贖いの原則を信じ、それらを敬うことができるように助けてくださいます。子供たちに、「人生で難しい課題、試練、

苦難に直面するときはずっと、自分がだれなのか、つまり、自分が神の子供であることを思い出すように」と教えるとき、御霊を通して主は助けてくださいます。そこでわたしたちは靈感を受けて、どうすれば子供たちが「神の武具」¹⁸を身に着けられるように導くことができるかを理解するのです。それにより彼らは「敵対する者の……火の矢」¹⁹に「信仰のたて」²⁰と「御霊の剣」²¹を持って対抗することができます。霊的な武具を着け、強くなっている子供たちは、主に祝福されて終わりまで忠実に堪え忍び、家に帰って、ふさわしい状態で天の御父のみもとで永遠に住むことができるようになります。

それでもなお、家族がこの世から飛んで来る石や矢に苦しんでいるのを見れば、悲しく思うでしょう。しかし、わたしたちは主イエスの愛にただ驚いて立ち尽くすばかりです。主がおられるので、子供たちは打たれても屈することなく、かえって心を和らげ、強くなり、聖くなれるのです。

世界中の両親と家族の皆さんに証します。主イエス・キリストは人を救う力を備えておられます。主は癒す御方であり、贖い主です。99匹の羊を残して1匹を見つけ、お救いになる羊飼いです。家族の中の特別な「一人」を救おうとするとき、その人が主の御手の届くところにいることを証します。忠実に福音に従い、神殿で結び固めを受け、交わす聖約に忠実に生活するとき、わたしたちはその一人を助けようとされる主を援助することになるのです。

ジョセフ・スミスの教えについて述べた、オーソン・F・ホイットニー長老の次の言葉に、親である皆さんは大きな慰めを得られることでしょう。

「預言者ジョセフ・スミスは次のように宣言しましたが、この宣言により、これ以上ないほどの慰めに満ちた教義を説いています。忠実な両親が受けた永遠の結び固めと、真理の大義における雄々しい奉仕に対して授けられた神の約束は、当人のみならず、子孫をも救う力があります。中には迷い出る羊がいるかもしれませんが



が、良い羊飼いの目は彼らに注がれています。囲いに連れ戻そうと差し伸べられている神の御手に、遅かれ早かれ、彼らは気づくでしょう。現世か来世のいずれかで、戻って来るでしょう。正義に対する負債は支払わなければなりません。自分の犯した罪のために苦しみ、つらいばらの道を歩むことになるかもしれません。しかし、そのつらい道を通して、罪を悔い改めた放蕩息子のようになり、最終的には愛と救いに満ちた父親の心と家へ戻るのであれば、つらい経験も無駄にはならないでしょう。軽率で反抗的な子供のために祈り、信仰をもって見守ってください。神の救いを見届けるまで、希望と信頼を捨てないでください。」²²

特別な証を述べたいと思います。イエス・キリストは御自身の命をささげ、地上に住むすべての家族の救いと昇栄を可能にしてくださいました。天の御父が皆さんとその家族を愛しておられることを、優しい親の情を込めてお伝えします。

愛する人々を周りに集め、賛美歌にあるように、「勇んで進[む]」ことができますように。神は必ず守ってくださいます。信仰と勇気と愛があれば、家族は真の意味で永遠にともにいられます。イエス・キリストの御名により証いたします。アーメン。

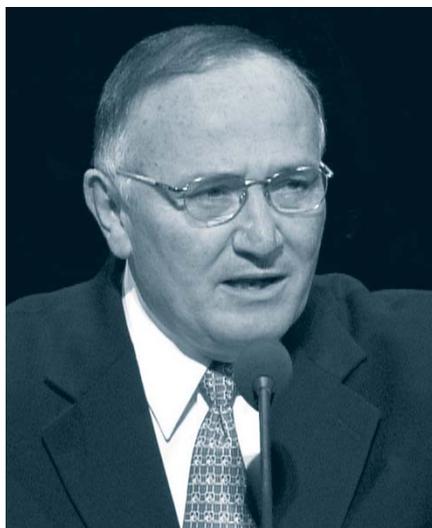
注

1. 2テモテ3:1
2. 3ニーファイ2:3
3. 「恐れず来たれ、聖徒」『賛美歌』17番
4. 1ニーファイ8:35-36
5. 1ニーファイ8:37-38
6. 教義と聖約93:42-43, 50
7. 『聖徒の道』1998年10月号, 24
8. 申命6:7
9. ヘブル11:23
10. 出エジプト2:3-10参照。ジェリー・W・ハード, *Our Sisters in the Bible* (1983年), 36-37も参照
11. ヘブル11:24-27参照
12. ルカ15:17
13. ルカ15:20
14. 1ニーファイ19:23
15. モーサヤ27:14
16. 1ペテロ2:25
17. イザヤ40:11
18. エペソ6:11, 13参照。教義と聖約27:15も参照
19. 1ニーファイ15:24; 教義と聖約3:8. エペソ6:16も参照
20. エペソ6:16; 教義と聖約27:17
21. エペソ6:17. 教義と聖約27:18も参照
22. Conference Report, 1929年4月, 110

染みのない状態で 主の御前に立つ

七十人
クレート・W・マスク・ジュニア

イエス・キリストの贖いのおかげで、わたしたちは皆染みのない清く白い状態で主の御前に立つことができます。



何年も前、冒険好きの息子ジェフとわたしは古いバスに揺られ、中央アメリカの悪路を旅していました。午前1時のことです。この真夜中のバスが、その日に運行される唯一のバスだったのです。半時間後、バスが停車し、二人の宣教師が乗り込みました。息子とわたしはこんな時間に一体どこへ行くのですかと彼らに尋ねました。ゾーン大会に行く、とのことでした。二人は、大会に行くためならどんなことでもしようと覚悟を決めていました。2時になると、また二人の宣教師が乗り込んできました。彼らは抱き合って再会を喜びました。バスが田舎の山道を上る間、30分ごとに同じ光景が繰り返され、午前5時には、総勢16人の主の精鋭が乗客に交じりました。

わたしたちは彼らから発散される御霊の影響力を満喫していました。

すると突然ブレーキの音をききませながらバスが止まりました。大量の泥流が行く手をふさいでいたのです。「どうする、父さん」とジェフが聞きました。友人のスタンやエリック、アランも困惑していました。そのとき巡回宣教師が叫びました。「行きましょう、長老たち。何ものわたしたちを止めることはできません。」そして宣教師たちは次々にバスを降りて行きました。わたしたちは顔を見合わせ、言いました。「長老たちに続こう。」そして宣教師の後を追うように泥流をかき分けて進みました。泥流の向こう側にたまたま停車していたトラックにわたしたち全員で乗せてもらうことができました。ところが、もうしばらく行くとまたしても泥流が道をふさいでいたのです。先ほどと同じように宣教師は泥をかき分けて進み、わたしたちも彼らに続きました。残念ながら今回は乗るべきトラックがありませんでしたが、巡回宣教師は勇敢に言いました。「たとえ残りの道をすべて歩かなければならないとしても、行くべき場所に行きましよう。」ジェフはアルゼンチンでの伝道中に、このときの宣教師とこの写真がどれほど自分を鼓舞し、靈感を与えてくれたかを後になって話してくれました。

わたしたちは何とか泥流を克服しましたが、体中泥だらけでした。宣教師たちは、伝道部長夫妻が宣教師の身だしなみ

を注意深く点検することを思い出して、泥に汚れたままでゾーン大会に行き、伝道部長の前に立つのを少し不安に感じているようでした。

わたしたちが人生の泥流の中を押し進むときにも、泥や染みを逃れることはできません。わたしたちはだれも、泥だらけで主の御前に立つことを望んではいません。

救い主は古代アメリカに御姿を現されたとき、こうおっしゃいました。「悔い改めて、わたしのもとに来て、わたしの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊を受けて聖められ、終わりの日にわたしの前に染みのない状態で立てるであろう。」(3ニーファイ27:20)

わたしたちが泥で汚れることについて、アルマは警告しています。「わたしたちの言葉がわたしたちを罪に定め、まことに、行いもすべてわたしたちを罪に定めるので、わたしたちは染みのない者とは認められない。また、わたしたちの思いもわたしたちを罪に定める。」(アルマ12:14)

またアルマはこのように言いました。

「あなたがた〔は〕救いを得られない……。だれも衣を白く洗い清められないかぎり、救いを得られないからである。まことに、人の衣は、……すべての汚れがきれいになるまで清められなければならない。……

……あなたがたの中で血とあらゆる汚れで汚れた衣を着たまま神の法廷に立つ人がいるとすれば、その人はどのように感じるであろうか。」(アルマ5:21-22)

アルマはわたしたちにこうも言っています。「すべての聖なる預言者は」「今清められていて染みのない、清くて白い衣を着ている……。」(アルマ5:24)

そしてアルマは、人生の泥流の中をわたしたちがどのように押し進んでいるか尋ねています。「あなたがたは、罪のない状態で神の御前を歩んできたか。あなたがたは、もし今死ぬように召されたとして……自分の衣は、将来御自分の民を罪から贖うために来られるキリストの血によって清められ、白くされていると言えるであろうか。」(アルマ5:27)

悔い改めてイエス・キリストの贖いによって、わたしたちの衣は、染みのない、清

く、美しく、純白の状態になるのです。モロナイは熱心にこう説いています。「おお、だから、信仰のない者たちよ、主に立ち返りなさい。小羊の血によって清められて、あの大いなる終わりの日に染みがなく、清く、美しく、潔白であると認められるように、イエスの名によって熱烈に御父に叫び求めなさい。」(モルモン9:6)

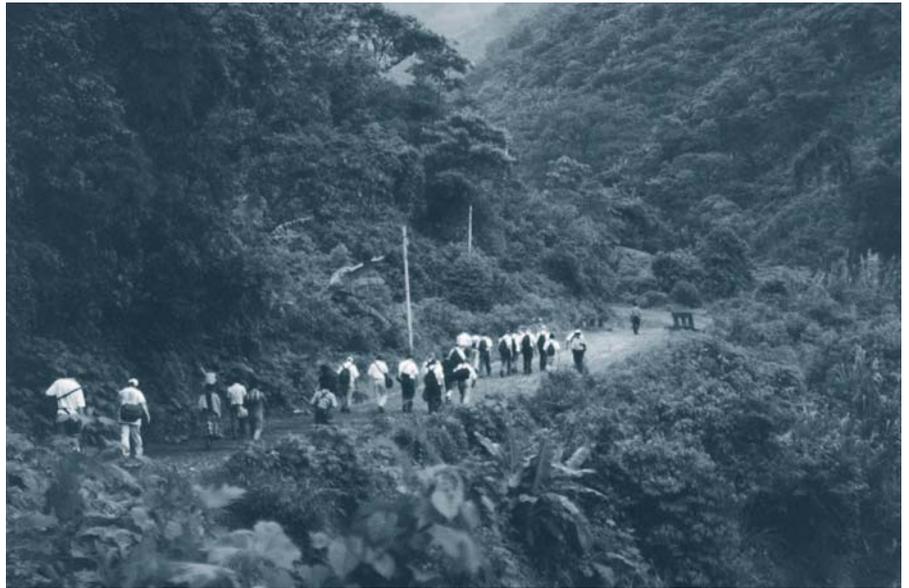
サムエル記上にはこのように書かれています。「顔かたちや身のたけを見てはならない。……人は外の顔かたちを見、主は心を見る。」(16:7)

ニーファイ人はレーマン人の外見を見ていました。そこでヤコブはこのように言いました。「さて、わたしは戒めをあなたに与える。これは神の御言葉である。あなたがたは彼らの肌が黒ずんでいるからといって、彼らを二度とののしってはならない。」(モルモン書ヤコブ3:9)

ボストンから沖縄まで、サンアントニオからスペインまで、そしてイタリアからコスタリカに至るまで、天の御父は世界中の御自分の子供すべてを御存じであり、愛しておられます。先日ガーナで、ゴードン・B・ヒンクレイ大管長は主に感謝をささげました。「わたしたちはお互いに対して同胞の愛を抱いています。肌の色も生まれた国も、天の御父の息子、娘であるわたしたちを分断することはできません。」(ガーナ・アクラ神殿奉献式での祈り“Brotherhood Exists” Church News, 2004年1月17日付, 11に引用)

わたしたちはあらゆる国、言語、文化に属する男女を「[キリスト]のもとに来て主の慈しみにあずかるように」招いています。「主は、黒人も白人も、束縛された者も自由な者も、男も女も、主のもとに来る者を決して拒まれない。……すべての人が神にとって等しい存在[だから]である。」(2ニーファイ26:33)

この世に生を受けるときにわたしたちそれぞれに与えられた肌の色、容姿、体格や環境は異なっています。神の王国に救われるためには、財産も背の高さも、やせていることも、また聡明さや美しさも必要ありません。ただ清くあればいいのです。わたしたちは主イエス・キリストに



中央アメリカの道路を徒歩で旅する宣教師たち。七十人のクレート・W・マスク・ジュニア長老が語った実話の一部。

対して従順であり、主の戒めに従うことが必要です。住んでいる場所や外見にかかわらず、わたしたちは皆、それを選ぶことができるのです。

モーサヤの4人の息子がどう猛で残忍なレーマン人に福音を説いたとき、レーマン人の心に大きな変化が生じました。

「彼らの説教を信じて主に帰依したレーマン人は皆、二度と道を踏み外さなかった。

彼らは義になかった民となったのである。まことに、彼らは謀反に使う武器を捨てて、もはや神と戦わず、同胞のだれとも戦わなかった。」(アルマ23:6-7)

今日、彼らの子孫の多くが、自分のモルモン書からこの話を読み、キリストに従う道を選んでいきます。現在わたしが奉仕しているメキシコ南地域にある数多くの神殿で、染みのない白い状態のリーハイの子孫たちに会うのは大きな喜びです。グアテマラシティー神殿の奉献式で次のように述べたゴードン・B・ヒンクレイ大管長と同じような気持ちになるのです。

「親切で寛容な御父が、リーハイの息子、娘たちを覚えてくださったことに対する感謝で、わたしたちの心は満たされています。彼らの先祖は何代にもわたって苦難を受け、長い間霊的な知識において暗闇の中を歩んできました。あなたは彼らの叫びを聞き、その涙を御覧になりま

した。そして今、彼らの前に救いと永遠の命に至る門が開かれるのです。」(グアテマラ・グアテマラ・シティー神殿奉献式での祈り“*Their Cries Heard, Their Tears Seen*” Church News, 1984年12月23日付, 4で引用)

謙遜なリーハイの子孫が山を下って神殿の前に立ち、畏敬の念に打たれて人前をはばからず涙するのを、わたしは見てきました。ある人はわたしを抱き締め、自分たちに福音を伝えてくれた宣教師と、忠実に仕分の一を納めて彼らの地元に神殿を建てられるようにしてくれた聖徒たちへの愛と感謝と友情を伝えてほしいと言いました。イエス・キリストの贖いのおかげで、わたしたちは皆染みのない清く白い状態で主の御前に立つことができます。

心からの感謝を込めて、わたしはニーファイとともに高らかにこう語ります。「わたしたちはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを預言し、また、どこに罪の赦しを求めればよいかを、わたしたちの子孫に知らせるために、自分たちの預言したことを書き記すのである。」(2ニーファイ25:26)

妻とわたしはこの聖句がとても好きでしたので、妻は居間の壁に、この聖句を飾り文字で書きました。その壁の上部は飾り棚になっていて、美しい白のキリス

ト像が置かれています。それを見ると、キリストを中心に据えて生活することを思い出せます。

ある日息子が家族と一緒に聖文を読んでいたとき、7歳の孫クレイターが言いました。「キリストのことを話し、キリストのことを喜ぶだって……。ねえこれおじいちゃんとおばあちゃんの家の壁にも書いてあるよ。」クレイターはこの聖句が大好きになりました。

またあるとき、わたしたちはこの同じ孫たちと一緒にテンプレスクウェアの訪問者センターに行きました。2歳のアシュレーは疲れて帰りたいと言い出しました。そこで妻がアシュレーに「おばあちゃんのところにあるような大きなイエス様を見たくない？」と聞くと、アシュレーは、「そのイエス様はわたしと同じぐらいの大きさなの」と聞きました。妻は「いいえ、ずっと大きいわよ」と答えました。幼いアシュレーは荘厳なキリスト像を見上げると、その足もとに駆け寄り、敬虔なまなざしで数分間もじっと見詰めていました。アシュレーの父親がもう帰る時間だよと告げると、アシュレーは言いました。「だめよパパ。イエス様はわたしのことを愛しているから、わたしを抱き締めたいと思ってくださっているのよ。」

人生という道には靈性に影響を及ぼす泥流が広がっています。わたしたちの罪や不完全さがどのようなものであれ、泥流に果敢に立ち向かったあのときの宣教師の熱意をもってそれらを克服することができますように。そして、わたしたちの泥の染みを赦し、主の御前に染みのない状態で立てるように御子イエス・キリストをお送りくださった天の御父に日々感謝できますように。アシュレーの言ったように、天の御父はわたしたちを愛しておられ、終わりの日にわたしたちにこう語りかけてくださるでしょう。「良い忠実な僕よ、よくやった。……主人と一緒に喜んでくれ。」(マタイ25:21)

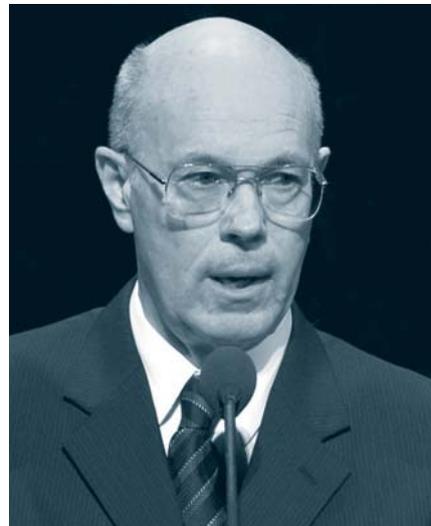
主が生まれおられ、わたしたちを愛して下さっていることを証します。主は救い主であり贖い主です。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

結婚と家族——わたしたちの神聖な責任

七十人

W・ダグラス・シャムウェー

結婚しながらない人や子供を持つとしない人が多く、家庭がないがしろにされている今日の社会の中で、わたしたちには結婚生活を大切にし、子供を養い育て、家庭を堅固なものとする責任があります。



結婚して間もないころ、わたしは3人のきょうだいとともに、父のオフィスで会議の席に着いていました。話し合いが終わったので立ち上がって帰ろうとすると、父が立ち止まり、わたしたちの方を向いてこう言いました。「おまえたちは伴侶をあまり大切にしていない。妻にはもっと親切にし、敬意を払うべきだ。」父のこの言葉は、わたしの心を貫きました。

今日、結婚生活や家族に対して、絶え間ない攻撃が続くのを、わたしたちは目の当たりにしています。結婚生活や家族は、サタンが見下し壊滅させようとする主要な攻撃目標のようです。結婚しながらない人や子供を持つとしない人が多く、家庭がないがしろにされている今日の社会

の中で、わたしたちには結婚生活を大切にし、子供を養い育て、家庭を堅固なものとする責任があります。

結婚生活を大切にするためには、夫婦が互いに愛し合い、尊敬し合い、献身的な態度で助け合う必要があります。「心を尽くして妻を愛し、妻と結び合わなければならない。その他のものと結び合ってはならない」という神聖な教えが(教義と聖約42:22)、わたしたちには与えられています。

預言者マラキは次のように教えています。「これは主があなたと、あなたの若い時の妻との間の、契約の証人だったからである。彼女は、あなたの連れ合い、契約によるあなたの妻であるのに、あなたは彼女を裏切った。……あなたがたはみずから慎んで、その若い時の妻を裏切ってはならない。」(マラキ2:14-15) 聖約を守り、知恵を得、これから先永遠に愛し合いながら若いときの妻とともに人生を歩むことは、まさに特権なのです。

こんな言葉を思い出します。「ほかの人の幸せや安全が、自分の幸せや安全と同じくらい大切に思えるようになったとき、愛が存在すると言えるのです。」(ハリー・スタック・サリバン, *Conceptions of Modern Psychiatry* [1940年], 42-43)

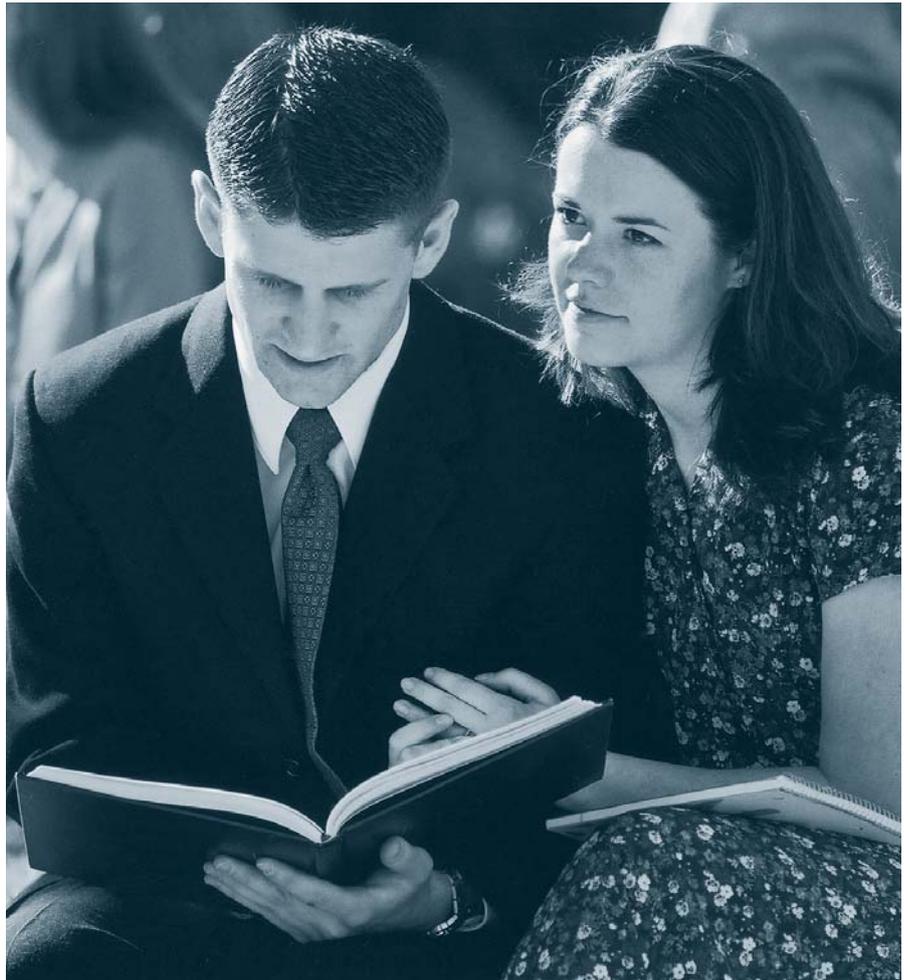
結婚とは、男性と女性の間に結ばれる愛と拘束力のある仲むつまじい関係のことを指します。また、結婚とはそのような関係でなければなりません。家族は神に

よって定められたものであり、結婚生活とは永遠に続く約束と祝福に満ちたものです。このことを夫婦双方が理解していれば、別居や離婚を考える人は、末日聖徒の家庭にはほとんどいなくなることでしょう。そして夫婦は、主の宮で受けた儀式とそこで交わした聖約が主のみもとに帰るための手立てとなっていると悟ることでしょう。

両親には、「主の薫陶……によって、〔子供たちを〕育てなさい」という神聖な義務が与えられています（エペソ6:4）。また、「神がアダムとエバに授けられた最初の戒めは、彼らが夫婦として親になる能力を持つことに関連したものでした。」（「家族——世界への宣言」『聖徒の道』1998年10月号, 24）ですから、わたしたちには伴侶を幸福にする責任だけではなく、子供を注意深く育てる責任もあるのです。というのは、「子供たちは神から賜った^{しよ}嗣業」だからです（詩篇127:3）。主の戒めに従って子供を養い育て、「祈ることと、主の前をまっすぐに歩むことも教えるよう決心しなければなりません（教義と聖約68:28）。親としてわたしたちは、子供を神から授かった^{たまもの}賜物と考え、家庭がわたしたちの息子娘を愛し、訓練し、養い育てる場になるよう努力する決心を固めなければなりません。

トーマス・S・モンソン副管長は、わたしたちにこう言っています。「指導者になるということは、楽なことではありません。重い責任を負うことなのです。……『若い人たちには、しかる人より手本となる大人が必要です。』今から100年もたてば、わたしたちがどんな車に乗り、どんな家に住み、銀行の口座にどのくらいの預金があり、どんな服を着ていたかなどといったことは、どうでもいいことになっているでしょう。しかし世の中は、わたしたちが少年少女の人生で果たした大きな役割のゆえに少しなりとも良くなっているかもしれませぬ。」（*Pathway to Perfection* [1973年], 131）

時には生活に疲れ、いらいらして、子供に構っている時間などないと感じる時もありますが、家庭で待っている息子や



娘はかけがえのない存在であることを決して忘れてはなりません。当面の務めや仕事上の約束、新しい車などはどれも大切で有益な事柄ではありますが、子供たちの貴さに比べれば、わずかな価値しか持たなくなります。

幼い息子を^{のうしよ}脳腫瘍で失ったジョン・ガンサーはこう言っています。「息子や娘が〔まだそばにいる間に、〕もう少し喜んで抱き締めてあげてください。子供を持つことの喜びをもっと自覚してください。」（*Death Be Not Proud: A Memoir* [1949年], 259）

ハロルド・B・リー大管長は、偉大な教育者ホレス・マンについて語っています。「ホレス・マンは、ある男子校の開校式で話をしたのですが、その話の中にこんな言葉がありました。『この学校を創設するに当たって数十万ドルもの費用がかかりました。しかし、この学校のおかげで一人の少年が救われるのであれば、それだけの費用をかけた価値があるのです。』す

ると、友人の一人が、式が終わるころこんなことを〔マン氏のところに〕言いに来たのです。『君は、話に熱が入りすぎて、間違ったことを言ったね。この学校を作るのに数十万ドルかかったとしても、少年をたった一人でも救えれば、それだけのお金をかけた価値があるだつて？ ほんとうにそう思っているの。』

ホレス・マンはその友人の目を見て言いました。『そのとおりだよ。それだけの価値があるんだ。もし、その救われた一人が自分の息子であつたら、それだけのお金をかけたかいたがあつたと言えるのだよ。』（“Today’s Young People,” *Ensign*, 1971年6月号, 61）

子供たちを愛し、守り、養い育てることは、わたしたちに課せられた仕事の中でも最も神聖で、不変の価値を持つ事柄です。この世の持ち物は皆消えてなくなります。今いちばん人気のある映画や歌も、少したてば廃れてしまいます。しかし、息子や娘との関係は永遠に続くのです。



「家族は神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中心を成すもので[す。]」(『家族——世界への宣言』)したがって、親と子供は一致協力して家族の関係を強め、良くするために、日々努力しなければなりません。

わたしの兄レックスは大きな大学で働いており、学生の中にずば抜けて優秀なハードル選手がいると話してくれました。その若い選手は盲目です。「転んだりしないのですか?」と兄が尋ねたところ、「厳密でないといけないんですよ」と選手は答えました。「毎回レースの前に距離を測るんです。一度測らなかったことがあります、危うく死ぬところでした。」続けて、父親が何年も膨大な時間をつぎ込んで自分がハードルを跳べるように教え、助け、実演してくれたことを話しました。そのおかげで、彼はついにトップクラスの選手になれたのです。

父親と息子という最強のチームにいたのですから、この若い選手が成功しないわけがありません。

若人の皆さん、価値ある家族の目標を達成しようと努めるとき、皆さんは家庭で

すばらしい影響を与えることができます。わたしは何年も前の家庭の夕べのことを決して忘れないでしょう。帽子の中に、家族一人一人の名前を書いた紙が入っていました。自分の引いた紙に名前が書いてあった人が、その週の「秘密の友達」となるのです。火曜日になり、わたしは前に約束したとおりの車庫の掃き掃除をしようと思いつきながら仕事から帰ってきました。すると、何と車庫はもうきれいに掃いてありました。わたしの心がどんなに愛で満たされたか、皆さんにも想像できるはずですよ。車庫の入り口には、「いい一日でしたか。秘密の友達より」と書いた紙がはってありました。金曜日には、ベッドにもぐり込もうとシーツを引っ張ると、大好物の「アーモンドジョイ」という菓子が置いてありました。無地の白い紙に丁寧に包んでテープで留め、「お父さん、大好き! ありがとう。秘密の友達より」というメモが添えてありました。さらにうれしかったのは、日曜日の夕方、遅い時間の集会が終わって家に着くと、食堂のテーブルの上に食器がきれいに並べてあったことです。わたしの席に置いてあったナプキンには、「最高のパパへ」という言

葉が大きく太い文字で書いてありました。そして括弧で囲んで「秘密の友達より」とあります。家庭の夕べを開いてください。家庭の夕べこそ、福音を学び、証^{あかし}を得、家族を強める場だからです。

サタンは幸福な結婚生活や義にかなった家族を築くためになくしてはならないものを破壊しようとしています、わたしは次のことを約束します。イエス・キリストの福音には、サタンとの戦いで敵と戦い、勝利を収めるのに必要な方法と教えがあります。伴侶を愛し、自分のことよりも伴侶のことを大切にしましょう。また、優しく諭し、模範という名の最高の教師を使って子供を養育育てましょう。そして、確実に家庭の夕べを開き、家族で祈りをささげ、聖文を研究することによって家族の霊性を高めましょう。このようにして結婚生活を大切に守りさえすれば、生ける救い主イエス・キリストがわたしたちを導いて、永遠の家族を築き上げようとする努力に勝利を得させてくださることを証します。これらのことをイエス・キリストの御名^{みな}によって証します。アーメン。

あがな

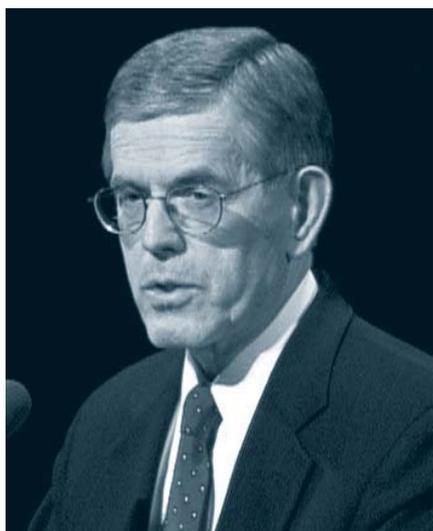
贖い——

すべてを受けのために すべてをささげる

七十人

ブルース・C・ヘーフェン

救い主のすべてとわたしたちのすべてが一つとなったとき、^{ゆる}罪の赦しを受け……
「御子に似た者となれる」のです。



近年、末日聖徒は以前よりもさらに救い主イエス・キリストについて教え、歌い、証^{あかし}しています。民の喜びが増していることをうれしく思います。

「[もっと]キリストのことを話¹」すなら、福音の教義がもっと明らかになるでしょう。例えば友人の中には、贖いへの信仰と天の御父に似た者となることへの信仰の関係が分からない人がいます。また、憐れみ^{あはれ}と信仰の関係について、教会はプロテスタント的な考えに近づいているのではないかと誤解している人もいます。それらの誤解を解くために、今日は贖いに関する回復された教会独自の教義につ

いて考えたいと思います。

背教が続いた後、主はジョセフ・スミスを通して御自身の福音を回復されました。5世紀以来、キリスト教会はアダムとエバの墮落を悲劇的な過ちだと教え、人は生来邪悪であるという考えを人々に植え付けてきました。墮落や人の性質、また人生の目的についてのそのような考えは間違っています。

墮落は災いではありません。過ちでも、不慮の出来事でもなく、救いの計画の一部として初めから意図されていたのです。人は神の霊の「子孫」²として、アダムの背きに対して「罪のない」³状態で地上にきました。しかし御父の計画により、人は真の喜びを知るために、墮落したこの世で、誘惑や苦難を経験することになっています。苦さを知らなければ、甘さを知ることができないからです。⁴ 御父に似た者となるため、また「進歩するための一歩」として、現世での訓練と精錬が必要なのです。⁵ しかし、進歩すると、それに伴い苦痛も大きくなります。それはまた、救い主の恵みによって開かれた道を「最善を尽く〔して〕」⁶ 歩む過程で、失敗から学んでいくという意味でもあります。

アダムとエバは、困難から絶えず学びました。カインとアベルの一件で家族の悲劇も経験しました。しかし贖いのおかげで、その件で罪に定められることはなく、

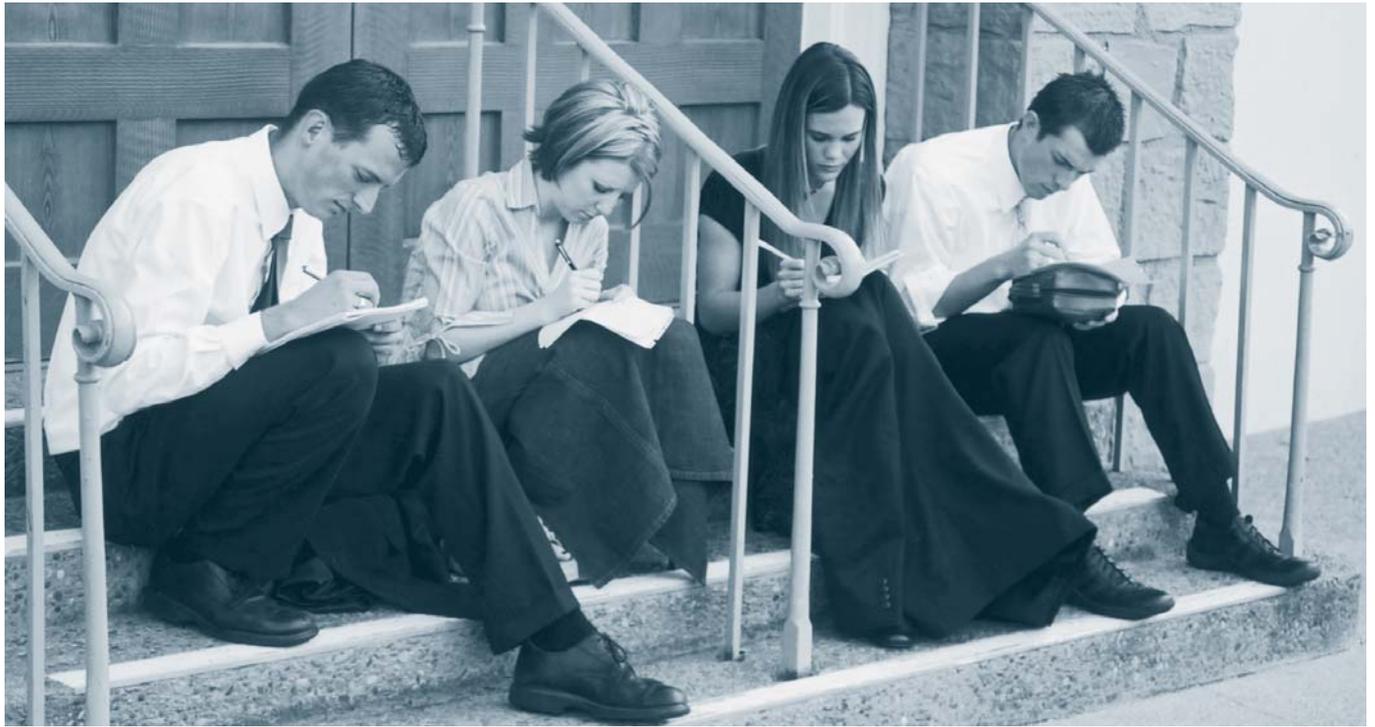
経験から学ぶことができたのです。キリストの犠牲は、二人の選択を白紙撤回し、罪なきエデンへ連れ戻すことはしませんでした。この物語には初めから成長という筋書きがあったのです。主は人が、教えに教え、恵みに恵みを受けて、一歩ずつ成長するよう計画されました。

ですから、問題があっても、自分が悪いのだと決めつけしないでください。問題に遭うことは、根本的な人生の目的だからです。神に近づくにつれ、人は神から弱さを示され、それによってさらに賢く、強くなれるのです。⁷ 自分の弱さがたくさん目に入るのは、神から離れているからではなく、少しずつ近づいているからかもしれないのです。

オーストラリアの初期の改宗者がこう言いました。「これまでの人生は、一輪の花もない、雑草だらけの荒れ野〔でした〕。〔でも〕今は、雑草は消え失せ、花が咲き乱れています。」⁸

成長するには、雑草を取り除き、花を育てなければなりません。もしも自分の役割を果たすなら、救い主が祝福してください。まずは根気よく、罪や誤った選択という雑草の根を抜き取ります。草刈りをするのではなく、根っこから完全に悔い改めて、憐れみを受けるための条件を満たすのです。しかし、赦しを受けるのは成長の一部にすぎません。借金の返済とは違うからです。目標は日の栄えの人となることなのです。心の土地を整えたら、神の特質の種を植え、絶えず雑草を抜き、養い育てるのです。やがて努力と自己修養が実を結び、主の賜物^{たまもの}、つまり希望や柔和さという「恵みの花」⁹ が開きます。心の庭には、命の木さえ生長し、やがて甘い実をつけ、「神の御子の喜びによって」¹⁰ 重荷がすべて軽くなることでしょう。そして心に慈愛の花が咲くとき、キリストのような愛の力で人を愛せるようになるでしょう。¹¹

罪の雑草を抜き、神々しい花をつけるには、恵みを受ける必要があります。人の力だけではできません。しかし恵みを受けるための代価は非常に高いものです。一体幾らするのでしょうか。「キリストを



信じる」だけでよいのでしょうか。高価な真珠を見つけた人は、そのために「持ち物をみな売り払い」¹²しました。「〔御父〕が持っておられるすべて」¹³を求める人に、神はすべてを求められます。それほど宝を手に入れるには、「いかに激しいか、あなたは知らない。まことに、いかに堪え難いか、あなたは知らない」¹⁴と言われたキリストのように、何であれ最後の一滴までささげなければなりません。パウロは「苦難をも共にしている以上、キリストと共同の相続人なのである」¹⁵と言っています。心をすべて差し出された主のように、わたしたちも心をすべて差し出す必要があるのです。

主と人にそれほどの代価を支払わせる真珠とは何でしょう。人のふるさととは地球ではありません。地球は「偉大な幸福の計画」¹⁶の課題を果たすための学校であり、人はここでふるさとに帰ることの意味を学んでいるのです。主と人がこの計画に自らをささげる理由を、主は繰り返し教えられました。エバはそれを「贖いの喜び」¹⁷と呼び、ヤコブは「聖徒たちのために用意されているあの幸福」¹⁸と呼びました。必要があって、この計画は主と人にとげと涙を与えます。しかし、主とともにあらゆる反対のものを克服するとき、主と完全に一つとなるという「計り知れな

い喜び」¹⁹を味わうことができるのです。

キリストの贖いはこの計画の中心を成します。主の貴い犠牲なしには、故郷に帰る道も、一つとなる道も、主のようになる道もありません。主は御自分のすべてを与えてくださいました。ですから、たとえ一人でもそれを受け取り、雑草から目を上げて御子を見るなら、そのときに「主の喜びはいかに大きいこと」でしょう。²⁰

回復された福音にのみ、この完全な真理があります。悪魔は史上最大の隠蔽工作を謀り、教会は何も理解していないと宣伝していますが、この教会は人とキリストとの関係がどのように真のクリスチャンを作るのかということをも深く理解しています。

すべてをささげるとは「ほとんどすべて」をささげるといってはいけません。完全に戒めを守らなければ、完全な祝福は受けられません。例えばこういうことです。罪の泥の中をうろつきながら、伝道や神殿の面接の直前に悔い改めのシャワーを浴びればよいと考えている若者がいます。背きのさなかに悔い改めの計画を立てているのです。このような態度は真の悔い改めに対して与えられる憐れみの賜物を侮辱しています。

片手を神殿の壁につけながら、もう一方の手でこの世の「清くないもの」²¹に触

れている人がいます。両手を神殿に付けて貴い人生を送らなければなりません。片手ではほとんど十分であるとさえも言えないのです。

裕福な青年はほとんどすべてをささげました。すべてを売り払うようにとの救い主の勧めは、単に富だけを指していたものではありません。²²望むなら人は永遠の命を得ることができますが、ほかの何よりもそれを得たいと望む人にしか与えられないのです。

だからこそ進んですべてをささげなければならないのです。なぜなら、成長する意志のない人や、すべてをささげようとしない人を成長させることは、神でさえおできにならないからです。しかしながら、たとえすべてをささげたとしても、人は自らを完成させることはできません。それは神の仕事なのです。「〔信仰〕の完成者」²³である主の完全が加わるまでは、人が幾らすべてをささげようとしても、それは結局ほとんどにすぎません。主の完全が加わって初めて、心からささげた不完全なほとんどが十分となるのです。

友人のドナには若いころ、結婚して大家族を持つ夢がありましたが、実現することはありませんでした。その代わりに、彼女は思いやり深くワードの人々に仕え、大きな学校区で情緒に問題のある児童のカウ

ンセラーとなりました。関節炎のため憂うつな日々を過ごしながらも、ドナは常に友人や家族を励まし、またいつも彼らの励ましを受けていました。あるとき、リーハイの夢について教えていたドナは、ユーモアを込めて穏やかにこう言いました。「鉄の棒に沿って細くて狭い道を行く途中で、疲れて倒れる自分が見えるの。」ドナが亡くなる直前、ホームティーチャーは靈感に満ちた祝福の中で、主は彼女を「受け入れてくださった」と告げました。ドナは泣きました。生涯独身であったことをずっと受け入れられなかったからです。しかし主は「犠牲を払って自分の聖約を……守ろうとする……者は、わたしに受け入れられる」²⁴と言われました。主が命の木の道を歩いて来られ、喜びながらドナを抱き上げ、ふるさとに連れて帰られる様子が目に浮かびます。

ドナのように自らを完全に奉獻し、そのためのたとえほとんどであっても十分な人々がいます。

例えば、ヨーロッパや同じような場所でも多くの人に拒まれながらも、傷ついた心をささげ続ける多くの宣教師たち。

極限状態に追い込まれて神を知った手車隊の開拓者たちもそうです。彼らにとって、主を知るために支払った代価は、特権でした。

最善を尽くしながらも、娘の選択を変えることのできなかった父親。彼はアルマが息子にしたように、必死で主に近づき、懇願しました。

夫の弱さにもくじけず長年励まし続け、ついに夫の心に悔い改めの兆しを見ることのできた妻。彼女は「キリストが自分を見てくださっているように、夫を見ようと思いました」と言いました。

長年心身の障害に苦しむ妻に寄り添い、それを「彼女の病気」ではなく「二人の小さな試練」と呼んでいる夫。彼は結婚の領域において、妻の苦難を自分の苦難としたのです。²⁵それはちょうどキリストが無限の領域で人々の「苦難を自分の苦難と」²⁶されたのと同じでした。

第三ニーファイ第17章で、破壊、疑い、暗闇を耐え抜いた人々は、イエスとともに



神殿に集まりました。大いなる驚きの中、何時間も主に耳を傾けた民は疲れ果て、主の言葉を理解できなくなりました。イエスが去ろうとされたとき、民は涙を流して主を見詰め、とどまって悩める者や子供たちを祝福してくださるようにと懇願しました。御言葉は理解できなくても、何よりも主とともにいたいと望んだのです。主はとどまられました。彼らのほとんどは十分だったのです。

どんなに不完全であっても、それが救い主の犠牲に倣うものである場合は特に、ほとんどで十分なのです。主が人々のためにお受けになった苦しみを多少なりとも味わわなければ、キリストの愛である慈愛を心から感じることはできません。愛と苦難は表裏一体だからです。人の苦難を自分のものとして苦しむとき「その苦難にあずかって」²⁷キリストと共同の相続人になることができます。

主の賜物を受けるための代価がどんなに高くとも、ひるまず進めますように。救い主のすべてとわたしたちのすべてが一つとなったとき、罪の赦しを受け、さらに「ありのままの御姿の御子にまみえ……御子に似た者となれる」のです。²⁸主を愛しています。主とともにいたいと願っています。イエス・キリストの御名によって、アーメン。

注

1. 2ニーファイ25:26
2. 使徒17:28参照

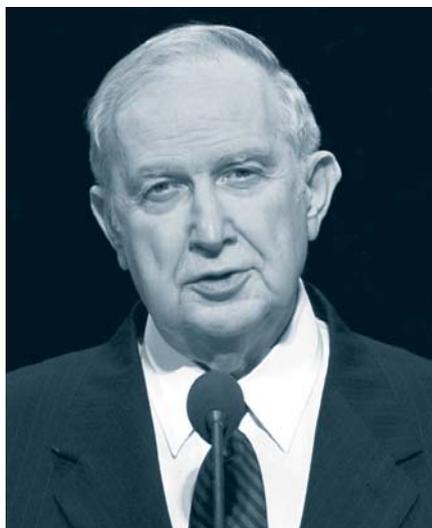
3. 教義と聖約93:38参照
4. 教義と聖約29:39参照
5. ジェフリー・R・ホランド、*Christ and the New Covenant: The Messianic Message of the Book of Mormon*(1997年)、207
6. 2ニーファイ25:23、強調付加
7. エテル12:27参照
8. マーサ・マリア・ハンフリーズ、マージョリー・ニュートン、*Southern Cross Saints: The Mormons in Australia*(1991年)、158で引用
9. 「心に光あり」(『賛美歌』139番)参照
10. アルマ33:23
11. モロナイ7:48参照
12. マタイ13:46。アルマ22:15も参照
13. 教義と聖約84:38
14. 教義と聖約19:15
15. ローマ8:17
16. アルマ42:8
17. モーセ5:11
18. 2ニーファイ9:43
19. アルマ28:8参照
20. 教義と聖約18:13、強調付加
21. アルマ5:57参照
22. マタイ19:16-22参照
23. ヘブル12:2。モロナイ6:4も参照
24. 教義と聖約97:8、強調付加
25. 教義と聖約30:6参照
26. 教義と聖約133:53参照
27. ペリピ3:10
28. モロナイ7:48; 1ヨハネ3:2、強調付加

邪悪がはびこる世界で 正しい生活を送る方法

十二使徒定員会

リチャード・G・スコット

思いと心を神にひたすら向けているならば、皆さんの周囲の世界で何が起きようと、神は豊かで充実した生活を送れるように助けてくださいます。



今 大会では、道徳的な環境の退廃と闘うための卓越した提案がなされてきました。神の預言者ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、きわめて明確な視点に立って、世界情勢とわたしたちを待ち受けているチャンスを明らかにしています。大管長が最近神権指導者と補助組織指導者に向けて語った二つの説教には、預言者としてのそうしたビジョンが明らかにされています。最初に、わたしたちが直面しているチャレンジについて大管長はこのように述べています。

「伝統的な家族の在り方が激しい攻撃にさらされています。ソドムとゴモラの時代がはたして現在よりも悲惨だったかどうか、わたしには分かりません。……今日、似たような状況が見られ、全世界に蔓延し

ています。天の御父は御自身の息子や娘が道をそれていくのを天から御覧になり、悲しんでおられることでしょう。』¹

それと同時に、この上なくすばらしい機会についても語っています。

「教会の初期の時代に、これほどすばらしい機会に恵まれた時代が来ると想像できた人が、はたしていたでしょうか。……教会はすばらしい状態にあり、……〔さらに、〕発展し、強くなるでしょう。……未来の姿を想像することもできないようなこの偉大な業を続けていく機会と責任がわたしたちにはあります。』²

どちらを選ぶかを決めるのは皆さんです。将来におびえ不安に打ちのめされるか、あるいは邪悪に満ちた世界にあっても平安と幸福を得て生きるために、主が与えられた勧告に従うかのいずれかです。もし世の中の暗い面に目を向ける方を選ぶとすれば、よくないところばかりが目につくことでしょう。世界の至る所で道徳が衰退し、徳や正義、誠実さ、伝統的な結婚の制度、家族の生活が見捨てられています。ソドムとゴモラは旧約の時代における墮落した生活の典型でした。当時それはソドムとゴモラだけの問題でした。しかし今や、その状態は世界中に広がっています。サタンはあらゆる種類のメディアとコミュニケーションの力を巧みに操っています。その劣悪で破壊的な影響が全世界に行き渡るほど、サタンの働きは大きな成功を取めています。以前はこれほどの邪悪を見つけ

ようとすれば、多少の努力を要しました。現在、それは事実上、全世界の至る所にまで浸透しています。この邪悪な影響がさらに拡大するのを止めることはできません。なぜなら、それは御父から与えられた選択の自由を人が行使した結果だからです。けれどもわたしたちは、人々を惑わし破壊する潮流に近寄ることの危険性を、はっきりと警告することができますし、そうしなければなりません。

では、明るい面に目を転じてみましょう。ところどころに邪悪な場所は存在するものの、世界は概して雄大で美しく、善良で誠実な人々であふれています。この世で生活しながらも、邪悪な人々がまき散らす劣悪な力に負けない方法を主は用意しておられます。天の御父がわたしたちを守るために作られた幸福の計画に従うことにより、徳高く、創造的で、義にかなった生活を送ることができます。それは聖文と神の預言者たちが靈感によって宣言した言葉の中に見られます。神は皆さんの英知に霊をまわらせて、肉体の驚異を経験できるようにしてくださいました。神が定められた方法でその肉体を使うときに、強さと能力を増し加え、罪を遠ざけ、豊かな祝福を受けることができます。

永遠の父なる神とその愛される御子は、聖なる森の厳粛な示現の中でジョセフ・スミスに御姿を現されたときから、幸福の計画とこの計画を支えるために必要なすべてを地上に回復する業に着手されました。その回復の一環として、聖書の貴い記録を補う聖文が明らかにされました。これらの貴い聖文はモルモン書、教義と聖約、高価な真珠に収められています。御父はこの時代を御存じでした。御父は聖文を用意し、わたしたちを支えるために神聖な導きを与え続けてこられました。この助けによって、邪悪のはびこる世であっても安らかに、また幸福に暮らすことができるのです。

次の聖句の意味を深く考えてください。

「すべてのことは時節にかなって起こる。〔神はこの勧告をお与えになったとき、わたしたちが様々なチャレンジに直面することを御存じだったのです。〕



それゆえ、善を行うことに疲れ果ててはならない。あなたがたは一つの大きいなる業の基を据えつつあるからである。そして、小さなことから大きいなることが生じるのである。

見よ、主は心と進んで行く精神とを求める。そして、進んで行く従順な者は、この終わりの時にシオンの地の良いものを食べるであろう。」³

これはきわめて貴重な約束です。思いと心を神にひたすら向けているならば、皆さんの周囲の世界で何が起きようとも、神は豊かで充実した生活を送れるように助けさせていただきます。

パウロはこのように教えました。「悪に負けてはいけない。かえって、善をもって悪に勝ちなさい。」⁴

わたしたちはヨシユアを手本としなくてはなりません。「あなたがたの仕える者を、きょう、選びなさい。ただし、わたしとわたしの家とは共に主に仕えます。」⁵

イエスはこのようにお教えになりました。「苦難の中で忍耐強くありなさい。あなたは多くの苦難を受けるからである。しかし、それに耐えなさい。見よ、わたしはあなたの生涯の最後まで、あなたとともにいるからである。」⁶「忠実な者はすべてのものに打ち勝ち、終わりの日に高く上げられるであろう。」⁷

そして、これが成功への道です。「キリストのもとに来て、キリストによって完全にならなさい。神の御心に添わないものをす

べて拒みなさい。もしあなたがたが神の御心に添わないものをすべて拒み、勢力と思いと力を尽くして神を愛するならば、……あなたがたは神の恵みにより、キリストによって完全になることができる。」⁸

幸福の計画は、どこに住んでいるかにかかわらず、この計画に従って生活する人々を高め、祝福をもたらすことをわたしは知っています。

37年前のクリスマスイブのことでした。わたしはボリビアのキリサの人里離れた村で、満月の光を浴びながら、ある小高い丘に登りました。その日は4人の若い長老たちとともに足場の悪い道を一日中歩いて山を越えました。それからわたしたちは、救い主の教えが貧しい人々の助けとなることを確認するために、苦勞して川を渡りました。その日わたしたちが目にしたのは悲惨な光景でした。栄養失調の子供たち、わずかな穀物で命をつないでいる大人たち、アルコールや薬物に逃避しているどんよりとした目の人々。荒れ果てた小さな村に目を向けると、れんがの壁とわらぶき屋根の家々が、過酷な環境の下、無惨な姿で建っていました。生気を感じさせるのは、食べるものを探しながらほえる犬ぐらいのものでした。そこには電気や電話、水道、道路、適切な衛生設備がなく、医者もいませんでした。絶望的な有様でした。けれども熱心に祈った結果、わたしたちはそこにとどまるべきであると確信しました。そして、回復された福音を受け入れて、福音

に従うことを決意する謙遜な人々を見つけました。極限までの貧しさやアルコール、薬物、魔術、不道徳という過酷な環境の中で彼らは決意したのです。

やがて、素晴らしい宣教師たちの指導で人々は熱心に働いて土地を耕すことを学びました。そして栄養価の高い野菜を収穫し、良質のたんぱく質を摂取するためにウサギを飼育しました。けれども、最良の収穫は、愛する宣教師たちから得られました。宣教師たちは、神が彼らを愛しておられること、人に恵みを得させるために救い主が命をさげられたことを教えたのです。やがて人々の外見が変わり始めました。真理の光が彼らの幸せそうな顔から発散するようになりました。献身的で愛に満ちた主のしもべである宣教師たちは、喜んで受け入れる人々に忍耐強く真理を教えました。夫婦は、仲良く暮らし、子供たちに真理を教え、祈り、御霊の導きを理解する方法を学びました。

わたしはこんな光景を目にしました。最初のバプテスマ会を熱心に見ていた6歳の少年が、自分の見たことを妹に見せたのです。少年は妹に手のつかみ方を詳しく教えると、かわいらしい腕を直角に挙げて、何か言葉をつぶやき、干からびた大地のくぼみにゆっくりと妹を沈めました。そして、妹を岩の上に座らせて、確認の儀式を行い、それから握手しました。青少年たちは非常に早く学びました。宣教師から、そしてやがては自分の親から教えられ

た真理の光に従うようになりました。わたしはその村でバプテスマを受けた第一世代の青少年が、信仰と従順によって、絶望的とも思える未来に立ち向かい、問題を克服するのを見ました。中には宣教師になり、大学を卒業し、神殿で結び固めを受けた人たちもいます。かつて過酷な風土と邪悪に満ちた環境に置かれていた人々が、勤勉と従順によって人生の目的と成功を見いだしたのです。ボリビアのキリサで実現できたのであれば、どこでも実現できるはずで。

けばけばしい映像を見せ、騒々しい音楽を聞かせ、あらゆる感覚を必要以上に刺激することによって、サタンは人の思いと心を捕らえようとしていることに皆さんは気づいているでしょうか。サタンは生活をあらん限りの活動や娯楽、刺激で満たすことによって、誘惑の結果についてじっくり考える時間を人に与えないようにしています。このことについて考えてください。最も基本的な神の戒めを破るよう惑わされている人々がいます。メディアの中で、退廃的な行為がまるで容認されるかのようになり、さらには魅力的で好ましいことであるかのように描かれているからです。大した問題は起こらず、むしろ喜びと幸せがいつまでも続くかのようです。けれどもこうしたパフォーマンスには台本があって、役者がそのとおりに演じているだけなのだとして理解してください。同様にドラマや映画の中でなされた選択の結果も、しょせんはプロデューサーの望むままの形に操作されているだけなのです。

人生はそのようなものではありません。確かに人は望むままに選ぶことができますが、その選択によって招く結果を自分の思いどおりにすることはできません。偽りの物語などとは異なり、天の御父は皆さんの選択の結果を定めておられます。従順は人を幸福に導きますが、神の戒めを破ることによって幸福がもたらされることはありません。

人をとりこにするようなライフスタイルの織り込まれた物語などの制作者たちが、実際にどんな生活をしているのかを考えてみてください。一般的に、自らがメディアの

中で非常に魅力的に描いているような、破壊的影響力のある実に不埒な生活におぼれています。富を築いているかもしれませんが、惨めであり、善悪の判断力がありません。靈感あふれる預言者であり、愛に満ちた父親であるアルマの言葉は、まさしく彼らの生活を指しています。「悪事は決して幸福を生じたことがない。」⁹

もしルシフェルの差し出す誘惑を試してみようという気持ちに駆られたら、まず、そのような選択による必然の結果を冷静に分析してください。そうすれば皆さんの生活が台なしになることはないでしょう。神が禁じておられるものを軽率に試してみてもなりません。幸福を破壊し、霊的な導きを失うという悲しむべき結果を招くからです。

軽率な選択によって罪に染まっている人は、今すぐ引き返す決心をしてください。どうしたらよいか知っているでしょう。今すぐ行動を起こしてください。わたしたちは皆さんを愛しています。皆さんを必要としています。神は助けてくださいます。

若い男女の皆さんには、今、人生が難しく感じられるかもしれませんが、真理の鉄の棒にしっかりとつかまっています。皆さんは、自分が思う以上の進歩を遂げています。一貫して戒めを守り続けるなら、懸命に取り組むことにより、人格を形成し、修練を積み、天の御父と救い主の約束に対する確信を持つことができます。皆さんは非常に大切な存在であり、必要とされています。皆さんのように義にかなった生活をするために犠牲を払っている人はまれです。感受性と愛と思いやりを養うことによって、永遠の結婚の聖約に基づく最高の幸福を得ることができます。皆さんは世が決して与えることのできない洞察力を子供たちに与えることができます。ますます困難になっていく世の中において、皆さんの模範は、子供たちが立派な人生を歩むための道しるべとなることでしょう。発展を続ける主の王国を強めるために、また、皆さんが持っている真理の光をまだ持っていない大勢の人々にとって手本となるために、皆さんは必要とされています。

世の邪悪を退けてください。神がすべてを統治しておられることを知ってください。最終的にサタンのもくろみは完全にくじかれ、サタンはその邪悪さゆえに罰を受けます。神は皆さんの人生に対して特別な計画を持っておられます。信仰を持ち、絶えず従順な気持ちでそれを尋ね求めるならば、神はその計画を少しずつ明らかにしてくださいます。神の御子は皆さんを自由にしてくださいました。行いが招く結果からの自由ではなく、選択する自由です。神は皆さんがこの世で成功を収めることを永遠の目的としておられます。世の人々がどれほど邪悪に染まるとしても、皆さんは努力してその祝福を受けることができます。聖なる御霊を通して与えられる個人的な導きを求め、耳を傾けてください。導きを受けるにふさわしく生活し続けてください。つまずき、混乱して、迷っている人々に手を差し伸べてください。

父なる神とその愛される御子イエス・キリストは皆さんを守ってください。わたしは神について証することを許されている主の使徒の一人として、救い主が生きておられ、救い主は復活された、栄光あふれる御方であり、完全な愛を持った御方であることを知っていると、厳粛に証します。救い主は皆さんの希望であり、仲保者、贖い主です。この世に邪悪がはびこる中であっても、皆さんが従順であり、主の御手によって平安と幸福に導かれるよう願っています。イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. 「力強く確固として立つ」『世界指導者訓練集会』2004年1月10日、20
2. 「教会の現状」『リアホナ』2003年11月号、4、7
3. 教義と聖約64:32-34
4. ローマ12:21
5. ヨシヤ24:15
6. 教義と聖約24:8
7. 教義と聖約75:16
8. モロナイ10:32
9. アルマ41:10

結びの言葉

大管長
ゴードン・B・ヒンクレー

この業の偉大な基本原則に対するさらに輝くわたしたちの証^{あかし}が、それぞれの生活と
行いを通して光を放ちますように。



兄弟姉妹の皆さん、総大会も幕を閉じようとしています。この歴史的な大会を終えるに当たって、ラドヤード・キプリングの退場のための不朽の賛美歌が思い浮かびます。

喧噪と叫び声^{けんそう}がやみ

司令官や王は世を去っても

いにしへの主の犠牲と、

へりくだり悔いる心は残る。

万軍の主なる神よ、我らとともにおりたまえ。

我らが主を忘れぬために。

我らが主を忘れぬために。

(God of Our Fathers, Known of Old
『賛美歌』〔英文〕80番)

わたしたちが帰るとき、このすばらしい集会で得た気持ちを胸に、家路に就くことができますように。聞いたことや感じた

ことが、いつまでも残る愛と平安、悔い改めようとする態度となり、そしてまばゆい福音の陽光の中でさらにもう少しだけ雄々しく立とうという決意となって、わたしたちの内にとどまりますように。

この業の偉大な基本原則に対するさら

に輝くわたしたちの証が、それぞれの生活と行いを通して光を放ちますように。

家庭にあつて、互いに対する愛と、平和と、感謝の心が増しますように。労働において成功を取め、さらに惜しみなく分かち合えますように。周囲の人々に友情と敬意をもって手を差し伸べられますように。

わたしたちの祈りがあらゆる良いものを与えてくださる御方への感謝と、わたしたちの贖い主^{あがな}である主への愛の表現となりますように。

さて、兄弟姉妹の皆さん、個人的な事柄で恐縮ですが、少し話させていただきます。ヒンクレー姉妹が出席していないことにお気づきの方もいらっしゃるでしょう。わたしが中央幹部に召されて46年になりますが、彼女が総大会に出席しな



かったのは初めての事です。

わたしたちは今年の初めにアフリカに行き、ガーナ・アクラ神殿を奉獻しました。そこからサルという大西洋の孤島に飛び、地元の教会員と会いました。次にカリブ諸島のセントトーマス島に行き、何人かの教会員と会いました。そしてその帰路、妻は過労で倒れました。それ以来、体調が思わしくありません。彼女は現在92歳、わたしより少し年下です。どうやら時計のぜんまいの巻きが緩んできているようで、どうやって巻き戻したらいいかわかりません。

寂しく思います。今月で結婚して67年になります。妻は、才能豊かで有能な5人の子供の母親、25人の孫の祖母、そして増え続けるひ孫の曾祖母です。わたしたちはこれまで、嵐の日も晴れの日も、友として、伴侶として、手に手を取って歩んできました。彼女はこれまで、遠くまで、また広範囲にわたって旅をして、この業に対する証を述べてきました。どこに行っても愛と励ましと信仰を伝えてきました。全世界の女性の方々から感謝の手紙を頂いています。彼女の快復を願い、祈り続けています。妻に付き添い、世話をしてくださっている方々、また、妻のために偉大な信仰をもって祈ってくださっている方々に、心から感謝いたします。そろそろ家路に就く時がやって来ました。最後にこう申し上げます。

神よ、また逢うまで 汝れを守りませ……
危うきときには み腕に守りて……
愛の旗掲げ 死の恐れを去り……
また逢う日まで 神よ、共に在ませ
(「神よ、また逢うまで」『賛美歌』85番)

老若男女、すべての人々が、2日前に総大会が始まったときの自分よりもさらに善い人となってこの大会を後にできますように。わたしの祝福と愛を、イエス・キリストの聖なる御名によって皆さん一人一人に残します。アーメン。

万事があなたがたの 益となるように ともに働くであろう

中央若い女性会長
スーザン・W・タナー

探し、祈り、信じる時、日々の奇跡に気づき、人の生活に奇跡を起こせるようになれます。



教義と聖約第90章24節は意味深い教えです。「熱心に探し、常に祈り、そして信じていなさい。あなたがたがまっすぐに歩〔む〕ならば、万事があなたがたの益となるようにともに働くであろう。」この驚くべき約束、万事がわたしたちの益となるように働くという主の約束は、聖文に繰り返されています。特に人生の物語で試練に遭う人や預言者に対して、繰り返しその約束が与えられています。

この約束を与えられたとき、優しく、愛にあふれる御父は、人を祝福し、人生の旅を歩むときに希望を持つべき理由を教えたいと願っておられたのではないかと思います。聖文には、御父の約束を理解し、信じ、「はるかにそれを望み見て喜〔んだ〕」忠実な人々がいますが（ヘブル11：13）、そのように最後には万事がわたしたちの益となるように働くを知っていれば、困難に耐えるときの力となります。わたしたちもその約束を喜んで受け入れることができます。

約束がすぐに成就することがある一方で、何年も願い求めた末にやっと成就することもあります。忠実なアブラハムのように、約束を信じてこの世では成就せず「信仰をいだいて死んだ〔が〕まだ約束のものは受けていなかった」ということもあるかもしれません（ヘブル11：13）。約束が成就するのは永遠の世に行

わたしは読書が好きです。でも、主人公が危険や悲劇、複雑な状況に遭遇すると、やきもきしてきます。そんなときは結末を先に読んで、結局は問題がすべて解決しているのを確かめずにはられません。

人は皆、ある意味で自分が主人公の小説、人生という物語を生きています。時々、物語はとても厳しいものに思え、結末を最初に読んで最後にはすべてがうまくいっているかどうか確かめたくありません。将来経験する出来事の詳細は分かりませんが、幸いにもわたしたちは、ある事柄については、ふさわしければどうなるかをあらかじめ知っています。

ってからかもしれませんが、探し、祈り、信じるときに、物事が自分の益となるようにともに働くのが、この世で分かるのも事実です。

使徒たちがイエスの死後経験したことを読むと、何度も残忍な迫害を受け、投石され、投獄されたのが分かります。しかし彼らは勇気と信仰を持っていました。最終的に万事が益となるようにともに働くと知っていました。しばしば経験する祝福と奇跡により、すべてがうまくいくと知っていました。支えと教えと守りを受けながら、はるか未来の約束だけでなく、今この瞬間に対する約束をも喜んで受け入れていたのです。

ヘロデ王に投獄されたペテロは、驚くべき奇跡を経験しました。使徒仲間のヤコブは殺され、16人の兵卒から注意深く見張られていたペテロは、リバティーの監獄にいた預言者ジョセフ・スミスと同じ気持ちだったことでしょう。そのときジョセフは主から次の約束を受けます。「これらのことはすべて、あなたに経験を与え、あなたの益となるであろう。」(教義と聖約122:7) そのような試練の中で、その約束を信じるのは難しいことですが、ジョセフがそうだったように、ペテロは主の祝福を受けました。

教会の人々は集まってペテロのために「熱心な祈^{いのり}」をささげていました。すると、不思議なことが起きます。その夜、天使が、二人の兵卒の間で、二重の鎖に縛られて寝ていたペテロの「そばに立ち」、彼を「起^{おこ}し」ます。「すると鎖が彼の両手から、はずれ落ちた」のです。これは夢だと思いつつもペテロは天使に従い番兵を通り過ぎ、鉄門を抜けて通りに出ます。すると「とたんに、御使^{みつかい}は彼を離れ去りました。そして、それが夢でなかったと知ります。ペテロは奇跡によって解放されました。主は彼を、まさにその時点で、祝福されたのです。

教会員は一つの家に集まってペテロのために祈っていました。ペテロがその家の門の戸をたたくと、ロダという、ちょうど皆さんのような若い女性が出て来て、ペテロの声を確認します。聖文には



彼女は「喜〔んだ〕」とあります。喜びのあまりロダはペテロの中に入れるより先に、ペテロが門の外に立っていることを皆に知らせようと走って引き返します。皆はロダの話が信じられず、ロダに自分の言っていることが分かっていないのではないかと言います。その間ペテロはずっと門をたたき、待っていました。ようやく出て来た人々は、ペテロがそこにいるのを見て「驚」きました(使徒12:4-17参照)。

奇跡を祈り求めていたはずですが、祈りに対する主の答えを受けたときには、驚いてしまいました。奇跡的な方法でこたえてくださった主の慈^{いつく}しみに、皆驚嘆

したのです。わたしたちは生活の中で約束の成就を認識しているでしょうか。救い主は「目があっても見えないのか」とお尋ねになりました(マルコ8:18)。わたしたちは見る目を持っていますか。

人生の物語で危険や困難に遭遇している若い女性はどこにもいます。ペテロのように「天使たちはあなたがたの周囲にいて、あなたがたを支え」てくれます(教義と聖約84:88)。天使はこの世の重荷に耐えるときに支えてくれます。生活の中で、そばにいてわたしたちを愛してくれ、主の御手^{みて}に使われる者になろうとしてくれる人がそのような天使となってくれることがあります。スペンサー・



W・キンボール大管長は言いました。「神は人に心を留め、見守っておられます。しかし、神が人の必要を満たされるのは、通常はほかの人を介してです。だからこそ、神の王国にあって互いに仕え合う必要があるのです。」(“There Is Purpose in Life” New Era, 1974年9月号, 5)

すばらしい若い女性と若い女性の指導者、母親と父親、そして、互いに強め合う良い友人に感謝します。皆さんは、天の御父の愛する子供たちの生活の中で、御父の約束が成就するよう助ける天使なのです。

オクラホマ州に住んでいるある若い女性たちは、耳の不自由なある一人の姉妹をビーハイブに迎える最も良い方法を知るために天の御父に祈りました。主の道具、文字どおり主の御手となって彼女を助けようと、一生懸命努力しました。彼女たちがビーハイブの新しい仲間アレクシスを支える天使になったとき、ワード全体に奇跡が起きました。

アレクシスの言葉です。「若い女性に上がるのは期待と不安がありました。耳が不自由なので、母がいつも手話で助けてくれます。開会の歌と祈りの後、若い

女性会長のホスキン姉妹が『プレゼントがあるの』と言って、皆で立って手話で何かを伝えてくれました。特別なものと分かりました。後でそれは若い女性のテーマだと知りました。わたしを驚かすために、若い女性のみみんなが練習してくれていたのです。

地上で愛を示してくれるすばらしい人々、特に手話で福音を学ぶ助けをしてくれる若い女性のクラスのみならず、若い女性の指導者たちがいてくれるので、天父が愛してくださっていることが分かります。」(中央若い女性会長会への手紙から)

若い女性会長のホスキン姉妹は、アレクシスを助ける方法を知るために熱心に祈りました。こう書いています。

「ワードの若い女性会長になってやっとまだ1週間しかたっていないときに、ビーハイブに進級してくる一人の子について心配するようになりました。聴覚障害者のアレクシスが皆に溶け込むのをどう助け、皆が仲間であることをどのように伝えられるか、心配でした。何日も悩み、何度も祈りました。ある夜、夢で目が覚めました。夢の中で、若い女性が全員立ち上がり、手話で若い女性のテーマ

を伝えていました。わたしは祈りの答えが分かりました。

練習は大変でした。何時間もかかりました。最初のミュチュアルはそれだけで終わり、その後も毎週練習しました。アレクシスの誕生日になって、皆『秘密のプレゼント』のことで落ち着きませんでした。アレクシスとお母さんを皆の前に連れて来て、手話で伝えました。『プレゼントがあるの。今からあなたは仲間よ。』皆立ち上がり、声を出しながら手話でテーマを暗唱しました。御霊を強く感じ、皆泣いていたので、声が出せませんでした。でも立派にできました。アレクシスの顔は輝き、自分が仲間だと分かったのです。

天の御父がわたしたちみんなを愛しておられることを知りました。御父の声となり手となって、御父の愛を感じてもらえるよう助けになれることも分かりました。仕えることで最高の喜びを得られることも知りました。努力が必要で、不可能に思えるときでも、導きに従うことの大切さを学びました。」(中央若い女性事務局所有の手紙)

アレクシスのお母さんが、母として娘に抱くごく普通の夢と希望を抱いて、アレクシスのために何年も祈ってきたことを考えてください。お母さんの言葉です。

「障害を持つ娘の母親として、娘に少し手を貸すことには慣れていません。耳が聞こえませんが、よく隣で手話をします。若い女性全員が娘のために手話で若い女性のテーマを暗唱し始めたとき、わたしがどう感じたかご想像いただけるでしょう。涙を浮かべながら見ていると、マタイによる福音書第25章40節の聖句が思い出されました。『わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。』

その日以来、ワードの若い女性たちは愛を示し、すばらしい奉仕をしていています。時間をかけ努力して手話を学び、今では教会でアレクシスのために通訳をしてくれます。わたしは娘が幸せて、進歩し、愛されていることが分かるようにと、いつも祈ってきました。

若い女性とその指導者の奉仕と愛を見るにつけ、親として救い主に対する証が強められました。娘に対する不安が重荷だったこともありましたが、忠実な若い女性たちと彼女たちの思慮深い指導者の行いによって、心が軽くなりました。」

この母親は主の助けを求めて祈りました。そして今、目の前で、地上の天使の助けにより、万事が娘の益となるようにともに働いているのです。

ワードの若い女性も、この奉仕によって成長できたと述べています。ローレルのクラス会長は、テーマを手話で覚えるのは大変だったけれど、努力する中で御霊の助けを感じたと言っています。「いつものように早口では暗唱しませんでした。言葉についてよく考えながら、よく理解してもらえるように手話をしました。アレクシスがテーマを理解し、自分が神の娘であることが分かったと聞いて、うれしいです。」

さらに、若い男性も加わりました。ミューチャルのダンスパーティーの前に「一緒に踊っていただけますか」という手話を覚えたのです。その結果、アレクシスは全曲踊ることになりました。祭司たちは聖餐の祈りの手話も覚えました。愛の精神がワード全体を包み込みました。

どこのワード、支部、家庭、家族にも、肉体的、情緒的、霊的に特別な助けを必要とするアレクシスがいます。彼らは困難な中で、やがて「万事が〔自分〕の益となるようにともに働く」ように祈り、信じています。わたしたち一人一人が主の御手に使われる地上の天使となり、奇跡を起こす助けができるのです。

天の御父が優しく愛にあふれる親であり、持てるすべてのもので人を祝福したいと望んでおられることを証します。探し、祈り、信じる時、日々の奇跡に気づき、人の生活に奇跡を起こせるようになれる。「万事があなたがたの益となるようにともに働くであろう」という御父の約束を確信できますよう、イエス・キリストの御名により、アーメン。

わたしは聖文に喜びを感じる

中央若い女性第一副会長

ジュリー・B・ベック

毎日の聖文研究が習慣となっていない人は、今から始めて、学び続けてください。



新 婚のころ、料理上手な夫の母に特製ロールパンの作り方を教えてほしいと頼みました。義理の母は笑みを浮かべながら、最高のロールパンを作れるようになるのに25年もかかったのよと答え、こう付け足しました。「すぐに始めた方がいいわね。」その助言に従ったおかげで、これまでたくさんのおいしいロールパンを家族で味わってきました。

同じころ、昼食会に招かれました。モルモン書か教会歴史に関する短い本を読み終えたワード扶助協会の姉妹たちが招待されるのです。当時、真剣に聖文を読んでいたわたしは、簡単で時間のかからない短い歴史の本を読んで昼食会に出席することにしました。食事をしてきたとき、心に強く感じるものがありま

した。歴史の本はすばらしい本でしたが、わたしはモルモン書を読むべきだったのです。聖霊が聖文を読む習慣を変えるように促してくださいました。わたしはその日からモルモン書を読み始め、以来一日も欠かしたことはありません。聖文を知り尽くしているわけではありませんが、聖文を読むことがほんとうに大好きです。また、生涯続く聖文研究の習慣を作れたことに感謝しています。一度読み通しただけで、あるいは特定の聖句をクラスで勉強するだけで、聖文に含まれている教訓を学ぶことは不可能です。

パン作りは家庭におけるすばらしい技術です。焼く度に甘い香りが家中に漂い、自分で作ったものを分かち合うことで家族に愛を示すことができます。聖文を研究すると主の御霊が家中にあふれます。そして聖文から得た大切な知識を家族に伝えることで、家族への愛はいつそう深まるのです。主はわたしたちに「聖文を研究すること……に時間を費や」すべきであると教えられました（教義と聖約26：1）。また『モルモン書』と聖文が〔わたしたちを〕教えるために……与えられている」とおっしゃいました（教義と聖約33：16）。女性は皆、家庭において福音の教義の教師となることができます。そして教会の姉妹は、指導者や教師となるために福音の知識が必要です。毎日の聖文研究が習慣となっていない人は、今から始めて、この世と永遠における皆さんの責任に備えられるよう学び続



かと勤めてくれました(ジョン・S・タナー “Responding to the Lord’s Questions” *Ensign*, 2002年4月号, 26参照)。以来、「あなたは何を望んでいるのか」(1ニーファイ11:2)や「あなたがたはキリストをどう思うか」(マタイ22:42)など、大事な質問をたくさん見つけました。わたしはそれらの質問をリストにして聖典の後に書いています。そして静かな時間を見つけると、よく質問を一つ選んで考えます。深く考えることによって心が開かれ、「聖書を悟」れるようになるのです(ルカ24:45)。聖典が近くないときは、暗記している教えを復習します。信仰箇条やほかの聖句を暗唱することで、それらをいつでも記憶にとどめておくことができます。

けてください。

パン作りや聖文研究を始めたころ、うまくいかないこともありました。しかし、だんだん簡単になりました。どちらの場合も、正しい技術を学び、適切な手順を理解する必要があったからです。成功の秘訣は何度でもやり直すことでした。聖文研究を始める良い方法の一つは、自分に「当てはめて」みることです(1ニーファイ19:23参照)。中には、『聖句ガイド』からさらに知識を深める必要のある項目を選んで研究する人もいます。また、聖典の始めから読み、読みながらある特定の教えを探す人もいます。

例えば、わたしは若い女性の指導者に召されたとき、新たに聖典を買いました。そして聖文を読んで印を付けながら、召しに役立ちそうな聖句を探していったのです。時には研究している項目やテーマ別に色紙を挟み、すぐに探せるようにしました。わたしは、悔い改めと贖いに関する好きな聖句に付箋紙を付け、すぐに見つけられるようにしています。毎週聖餐のときに深く考えられるようにするためです。また、学んだことについてメモを取るようにしています。聖典に書き留めたり、別のノートに書いたりもします。

時々新しいモルモン書を買うことがあります。新しい聖典を読み始めるときは、学んだことを記録するために余白にメモを書き込んでいきます。また、学んだことを忘れないよう関連のある概念を線で結びます。聖句に色を塗り、重要な言葉には線を引きます。関連のある概念を幾つか見つけると、それらを連結させるために聖句のリストを書き込みます(『関連聖句の連結』『教師、その大いなる召し』57参照)。わたしにとって聖典は学習帳であるため、しばしば特別な理解を得た場所や教えてくれた人の名前を書き込みます。そうすることで、後でその聖句を読むときに、そのときの経験が鮮明によみがえってくるのです。

皆さんの多くは、外国語を勉強していることでしょう。そのような人は、別の言語でモルモン書を読むこともできます。外国語で聖文を読むと、言葉の意味を新たに学ぶことができます。疑問に対する答えを探すことから学び始める人もいます。彼らは自分が何者であり、人生をどう生きるべきか知りたがっているのです。あるとき友達が、聖文の中で主がわたしたちに問いかけておられる質問を探して、それについて考えてみたらどう

どのような方法で聖文を学び始めようと、重要な知識の扉を開く鍵は学び続けることにあります。わたしは、聖文に記された豊かな真理の宝を発見することに飽きることがありません。それは、聖文が「可能なかぎりはっきりした言葉で」教えてくれるからです(2ニーファイ32:7)。聖文はキリストについて証し(ヨハネ5:39参照)、わたしたちがなすべきことをすべて告げ(2ニーファイ32:3参照)、「救に至る知恵を……〔わたしたちに〕与え」てくれます(2テモテ3:15)。

わたしは、聖文研究とそのときにささげる祈りを通して知識を得ました。その知識は平安をもたらし、永遠に価値のある事柄に勢力を向けさせてくれます。毎日の聖文研究を始めたおかげで、天の御父とその御子イエス・キリストについて、そして御二方のようにするには何をしなければならぬかを学びました。また、聖霊について知り、聖霊を伴侶とするにはどうしたらよいかも学びました。自分が神の娘であることも知りました。そして何にも増して、わたしは自分が何者であるかを知り、なぜこの地上に存在

して、人生をどう生きるべきかを学んだのです。

預言者ジョセフ・スミスは少年のころ、重くのしかかる難問を抱えていました。聖文を読み始めたジョセフは、聖書（ヤコブの手紙1：5参照）の中に解決法を見いだしました。ジョセフはこう語っています。「この聖句が、このとき、かつて人の心に力を与えたいかなる聖句にも勝って、わたしの心に力強く迫って来た……。」そして「再三再四」その聖句について思い巡らしたのです（ジョセフ・スミス－歴史1：12）。ジョセフは、読んだ聖句に従って行動したため、天の御父と御子イエス・キリストと聖霊について学び、自分が神の子であることを知りました。ジョセフは自分が何者であり、なぜこの地上にいるのか、そしてこの世の生涯で何をやる必要があるのかを学んだのです。

聖文は、ニーファイが命に代えても手に入れようとした大切なものです。ニーファイは自分で「見聞きし、また知りたいと思」いました（1ニーファイ10：17）。そして「〔聖文〕を調べて、それが望まし〔く〕……大きな価値のあるもの」であると分かったのです（1ニーファイ5：21）。「主がほかの地で昔の人々の中で行われたこと」を学んだのも聖文からでした（1ニーファイ19：22）。ニーファイは聖文の研究を始めてから天の御父と御子イエス・キリストと聖霊について学び、自分が神の子であるということを知りました。自分が何者であり、何をすべきか知ったのです。

わたしは教会の若い女性を心から信頼しています。毎日の聖文研究を習慣づけることにより、皆さんは「聖文、まことに書き記されている聖なる預言者たちの預言を信じるように」なります（ヒラマン15：7）。皆さんこそ、母親や指導者として、次の世代が福音を理解し、証あかしを持てるように備える人です。皆さんの子供は、皆さんが聖文から教えることを基として、地上に神の王国を建設し続ける信仰深い男女となるでしょう。

聖文を読むことをまだ習慣としていな



い人は、今日始めてはどうでしょうか。おいしいロールパンを作るために、実際は25年もかかりませんでした。必要だったのは始める勇気だったのです。家族は自家製のロールパンをととても喜んでくれました。でも、何年も前に始めた毎日の聖文研究は、さらに大きな喜びを与えてくれました。多くの時間を聖文研究に費やすときもあれば、幾つかの聖句について思い巡らすときもあります。食事や呼吸によって体が支えられているように、

聖文はわたしの霊を養い、息を吹き込んでくれるのです。わたしは今、ニーファイの言葉を繰り返します。「わたしは聖文に喜びを感じ……聖文について心に深く考え〔る。〕……見よ、わたしは主に関することに喜びを感じる。わたしの心は、これまでに見聞きしたことを絶えず深く考えている。」（2ニーファイ4：15－16）イエス・キリストの御名みなによって、アーメン。

信じましょう!

中央若い女性第二副会長
イレイン・S・ダルトン

自分を信じましょう。決して独りではないことを信じましょう。常に導かれていることを信じましょう。



数か月前、自分が育ったステークの若い女性に話すよう招待を受けました。わたしは胸を躍らせ、その日を心待ちにしていました。会場へは母とともに行き、時間よりも少し早く着きました。集会は、わたしが大学に入って家を離れるまでずっと通っていた教会堂で行われたのです。長い間戻ったことがなく、建物に入ったらどんなことが起きるか想像もつきませんでした。中に入ると思い出が次々とよみがえり、わたしは泣き出してしまいました。その姿を見た母はこう言いました。「イレイン、まだ泣くには早いわよ。」しかし、美しい大理石の階段を上った所にある監督室を見上げると、また涙があふれてきたのです。そこは父が監督として奉仕したときに使っていた部屋でした。階段を上り切ると、監督室の扉は開いていました。中に入ると、そこは小さな

教室に改装されていて、さらにたくさんの思い出がよみがえってきました。記憶の中に、父が机の後ろに座り、幼いわたしが向かいのいすに座って自分の一を納めている姿が見え、さらに若い女性になって面接や神権の祝福を受ける光景が思い浮かびました。その建物を愛するわたしの気持ちは、そこで体験した霊的な経験や思いに深く結びついていました。

少女のころ、わたしはよく監督である父と一緒に教会へ行き、集会や面接が終わるまで待っていました。いつも探検をして暇をつぶしたものです。建物の隅々まで知り尽くしていました。お気に入りの一つは、塔の部屋でした。そこは長い階段のいちばん上にある広い部屋で、救い主の絵が大きな暖炉の真上に掛けられていました。いつもその部屋に引き寄せられました。階段を上がり、敬虔な気持ちで足を踏み入れるのです。そしていすに腰かけ、救い主の絵を眺めては天の御父によく祈ったものです。簡単な祈りばかりでした。しかし、祈るときにいつも特別な気持ちに包み込まれ、主が幼いわたしの祈りをお聞きになっていることが分かりました。わたしの信仰はそこで芽生えたのです。

主はこう約束されました。「熱心に探し、常に祈り、そして信じていなさい。……万事があなたがたの益となるようにともに働くであろう。」(教義と聖約90:24, 強調付加) これは万事がスムーズにいくとか、試練がないという意味ではありません。わたしたちが「堪え忍ぶ」ならば良い結果が生まれるということ

す。わたしたちには「信者の模範にな[る]」機会が与えられており(1テモテ4:12)、救い主は「信ずる者には、どんな事でもできる」と約束されています(マルコ9:23)。ですから、自分を信じましょう。決して独りではないことを信じましょう。常に導かれていることを信じましょう。

自分を信じましょう

十二使徒定員会のデビッド・B・ヘイト長老は、皆さんについてこう語りました。「わたしたちは皆さんを信じています。皆さんの両親やきょうだいもそうです。神は皆さんが最善を尽くすよう期待しておられます。ですから、皆さんは自分自身を信じなくてはなりません。困難な局面を迎えても、決してあきらめなidekudaisai。皆さんは偉大な業の基を据えているのであって、その偉大な業とは皆さん自身の人生なのです。」(「備えの時」『聖徒の道』1992年1月号, 43参照)

ゴードン・B・シンクレイ大管長は、次のように語りました。「わたしは自分自身を信じています。うぬぼれの気持ちで言っているわけではありません。わたしや皆さんの能力を信じているのです。善を行い、自分の住む社会に貢献し、自分が成長、向上する能力、今は不可能と思えるような事柄を実現する能力を信じています。……また、世において違いを生み出せるという原則も信じています。それはほんのささいな違いかもしれませんが、しかし、より良い世界を実現するうえで役立つはずです。」(「私は信じる」『聖徒の道』1993年3月号, 8参照)

皆さんは、この地上に生を受けた最も偉大な若い女性の世代の一人です。地上に来る前に御父のみもとで教えを受け、特別な目的のために地球に来るよう取っておかれました。皆さん一人一人には、ほかの人では同じように成し遂げることのできない役目があります。果たすべき使命があるのです。

皆さんは信者の一人として義にかなった模範を示すことにより、世において違いを生み出すことができます。ですから、

「善を行うことに疲れ果ててはな〔りません。〕あなたがたは一つの大いなる業の基を据えつつあるからで〔す。〕」（教義と聖約64：33）

決して独りではないことを信じましょう

信者の模範になろうと努力するとき、孤独を感じることもあるでしょう。義にかなった、清い人間になろうと懸命に努力しているのは自分だけではないかと感じるかもしれません。また、行動や言葉遣い、外見を慎み深いものにしようとしているのは自分一人ではないかと感じることもあるでしょう。しかし、皆さんは独りではありません。世界中の何千という若い女性が、皆さんと同じように信者の模範になろうと努めています。

メキシコ・ハラバに住む二人の若い女性、カルメリタとロサリオはそのような信者です。二人は家族の中で唯一の教会員であり、家族と離れて暮らしています。彼女たちの小さな家を訪問したとき、二人は次のように話してくれました。「天の御父がわたしたちをととも愛しておられることがわかります。福音を教える宣教師を送ってくださったからです。」状況は大変ですが、二人は毎日天の御父の愛に満ちた助けと導きに頼っています。

カルメリタとロサリオ、そして皆さんに証します。皆さんは独りではありません。主はこう約束されました。「わたしはあなたがたに先立って行こう。わたしはあなたがたの右におり、また左にいる。わたしの御霊はあなたがたの心の中にある。また、わたしの天使たちはあなたがたの周囲にいて、あなたがたを支えるであろう。」（教義と聖約84：88）

導かれていることを信じましょう

熱心に聖文を探求し、常に祈るなら、皆さんは主に導かれるでしょう。モンゴルに住むある若い女性は、宣教師がモルモン書の聖句を読み上げる中、預言者の言葉を聞きました。まだモルモン書が彼女の国の言葉に翻訳されていなかったのです。しかし、宣教師が聖文を訳し、彼女は信じてバプテスマを受けました。彼



女はモンゴルの信者たちの模範になりました。

彼女は後にソルトレーク・シティーへ伝道に召されました。その喜びは大きなものでした。彼女は英語を学び、自分の聖典を購入しました。我が家を訪れたとき、自分の新しい聖典から敬虔な態度で読んでくれました。聖典を愛していて、すべてのページのほとんどすべての聖句に黄色い印が付けてありました。わたしはこう言いました。「サランツェツェグ姉妹、あなたの聖典は金版のようですね。」すると彼女はこう答えました。「好きな箇所に印を付けているだけです。」

聖典に記されているすべての事柄は、わたしたちの生活に当てはめることができます。聖文はわたしたちの疑問に答え、模範となる人々や英雄を示し、問題や試練に対処する方法を理解できるよう助けてくれます。読んだ聖句が祈りの答えになることが往々にしてあるのです。

わたしが皆さんの年ごろのとき、父親が重い病気にかかりました。初めはただ

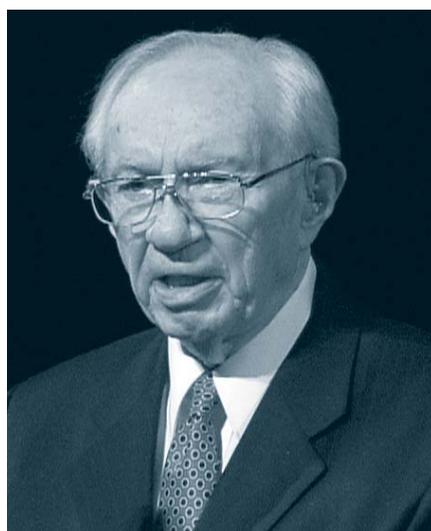
のインフルエンザだと思っていましたが、日がたつにつれ、病気はどんどん重くなっていきました。「常に祈る」（ニーフай32：9）この意味を知ったのはこのころです。心の中でいつも祈り、静かな場所を見つけては、父を癒してくださいよう天の御父への祈りを通して心を注ぎ出しました。数週間患った末、父は亡くなりました。わたしはショックを受け、不安に駆られました。心から愛する父を亡くして、わたしたち家族はこれからどうなるのでしょうか。どうやって前進して行けばよいのでしょうか。わたしの熱心な祈りは聞かれなかった、またこたえられなかったと感じました。信仰が試されました。天の御父に祈り、次のように尋ねました。「天のお父様、ほんとうにそこにいらっしゃいますか。」

何か月もの間、助けと導きを求めて祈りました。家族のために、また父がどうして癒されなかったかを理解できるよう祈りました。しばらくの間、天は黙しているかのようでした。それでも家族で慰

気高い道にとどまる

大管長
ゴードン・B・ヒンクレー

気高い道を歩む強さを求めて祈(つてください。)] 孤独なときもあるかもしれませんが、その道はこの生涯における、そしてその後永遠に続く、平安と幸福と究極の喜びへと続いているのです。



愛する友である、麗(うるわ)しい若い女性の皆さん、わたしたちは若い女性の会長から感動的な証(あかし)とすばらしい話を聞いてきました。実に才能豊かで有能な指導者たちです。彼女たちの後ろには同様の特質を持った中央管理会の会員がいて、これらの人々が全世界に広がる若い女性のためのこの大いなるプログラムを指導してくれています。

わたしが皆さんに話をする順番になりましたが、何を言えよいかほとんど分かりません。皆さんの人数には圧倒されます。この大きなカンファレンスセンターには非常に大勢の人が集っています。近くの建物も若い女性であふれています。この集会の様子はこの広大な地球上にある多くの国々の集会所に届けられています。

ほんとうに多くの皆さんが集っています。わたしの心は皆さんに引き寄せられ

ています。わたしは皆さんに感謝しています。皆さんを尊敬しています。大切に思っています。皆さんは世の人々のために途方もなく大きな力になっています。

皆さんは今の時代の強さであり、将来の希望です。

皆さんはこれまでに過ぎ去ったすべての世代の集大成であり、これからやって来る世代の先駆けです。

これまでも言われてきたように、皆さんはこの世で一人きりではないことをぜひ知っててください。何十万人もの仲間がいます。皆さんは様々な国に住んでいます。様々な言語を話します。そして皆さん一人一人の内には、神聖なものが秘められています。

皆さんに及ぶ者などいません。皆さんは神の娘たちなのです。

生まれながらの受け継ぎとして、皆さんは美しく、神聖な、天与の特質を授かっています。決してそのことを忘れないでください。皆さんの永遠の御父は偉大な宇宙の主であられます。御父はすべてを支配しておられますが、御自分の娘である皆さんの祈りにも耳を傾け、皆さんが語りかけるときに聞いてくださいます。そして皆さんの祈りにこたえてくださるのです。皆さんを独りにしたりはなさいません。

静かな時間に、わたしは将来に思いをはせて、そのすばらしい可能性のすべてと、恐ろしい誘惑のすべてについて考えます。これからの10年間、皆さんにはどのようなことが起きるでしょうか。皆さんはどこにいるでしょうか。何をしていますで

めと導きを求めて祈り続けました。わたしも一人で祈り続けました。すると、数か月後のある日、聖餐会(せいさんかい)に出席していると聖句を通して答えが与えられたのです。話者はこう言いました。「心をつくして主に信頼せよ、自分の知識にたよってはならない。すべての道で主を認めよ、そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。」(箴言3:5-6) 平安に包まれ、礼拝堂には自分しかいないように思えました。それがわたしへの答えでした。天の御父は祈りを聞いてくださっていたのです。

この経験はずっと昔のことですが、今でも鮮明に覚えています。主がわたしを導かれてきたことを証(あかし)します。わたしたちが主を信じて、主に信頼を寄せるなら、「万事が〔わたしたち〕の益となるようにともに働く」ことを知っています。

今皆さん一人一人に与えられている召しは、使徒パウロが若い友人テモテに与えたものと同じです。「信者の模範になりなさい。」(1テモテ4:12) 皆さんのこの召しを引き受けてくれるでしょうか。世の中と主に対し、服装、言葉遣い、自分の体を尊ぶ姿勢、生活の清さによって自分の信仰を表してくれるでしょうか。

救い主を信じましょう。主は皆さんを愛しておられ、決して皆さんを独りにされないことを証(あかし)します。主はこのように約束しておられます。

恐るな、われは汝(なんじ)が神常に汝と共にあり
助け与え、強くして
わが正しき力をもて
汝を支え、励まさん

(「主のみ言葉は」『賛美歌』46番。イザヤ41:10; 43:2-5も参照)

皆さん一人一人には世の中を変える力があると確信しています。自分を信じましょう。決して独りではないことを信じましょう。導かれていることを信じましょう。イエス・キリストの御名により、アーメン。



しょうか。それは皆さんの選択にかかっており、中にはそのときには重要でないように思えても、重大な結果を招くものが出てくるでしょう。

ある人はこう述べています。「今日善いことをするか悪いことをするかで、永遠に及ぶ違いが生じるかもしれない。」(ジェームズ・フリーマン・クラーク、*Elbert Hubbard's Scrap Book* [1923年], 95で引用)

皆さんには心に決めたどのようなものにもなれる可能性があります。皆さんには思いと体と霊があります。これらの3つが一体となって働くとき、皆さんは成功と幸福に続く気高い道を歩むことができます。しかしそれには努力と、犠牲と、信仰が求められます。

とりわけ、皆さんの注意を喚起したいことがあります。それは、可能な限りの教育を受ける必要があるということです。人生は非常に複雑で、競争によって左右されるものになっています。自分には当然与えられるべき権利があるなどと考え

てはいけません。皆さんは自分が手にすることができる最もすばらしい将来に向かって進むために、大いに努力し、才能を最大限に発揮するように求められます。時にはひどい落胆を味わうでしょう。しかし道中、援助の手を差し伸べてくれる人々がいて、大勢の人々が前進するための励ましと力を与えてくれるでしょう。

先日親しい友人に会いに病院を訪れました。そのとき、勤務に就いている様々な看護師を、注意を払って見ました。非常に優秀な人々でした。わたしは彼らが現在の状況と、それについてなすべきことをすべて理解していることに感銘を覚えました。彼らは十分な訓練を受けており、そのことが明らかに見て取れました。それぞれの部屋の壁には次のようなモットーが書かれた額が掛かっていました。「わたしたちは卓越した者となるために努力します。」

訓練によって何と大きな違いが生じることでしょう。訓練こそチャンスへの鍵です。訓練は知識を増すことへの挑戦と、

鍛錬から生まれる強さと力をもたらします。皆さんには希望する学校教育のすべてを受けるための資金がないかもしれません。できる限りのお金を教育に充てるとともに、奨学金や補助金、返済できる範囲内での融資をうまく利用してください。

永代教育基金が設立されたのはこのためです。わずかな金額で若い男性や若い女性が必要な訓練を受ける機会に大きな違いが生じ得ることに、わたしたちは気づいたのです。基金の受給者は訓練を受け、だれかほかの人が同様の機会を得られるように融資を返済します。

これまでの経験から、訓練を受けることによって訓練を受けていなかった場合の3倍から4倍の報酬が得られることが明らかになっています。考えてみてください。

このプログラムはすべての地域で利用できるわけではありませんが、一部の皆さんが住んでいる地域では実施されていますので、もし利用できるとすれば、皆さんの人生にとって大いなる祝福となるでしょう。

人生の道を歩むとき、友人に注意してください。友人は皆さんを助けることもあれば、減ぼすこともあります。不幸な人々や困っている人々には惜しみなく助けを与えてください。しかし親しくつきあう友人には皆さんと同じような人、皆さんを励まし、支えてくれて、皆さんが望むような生活をしている人、同じ種類の楽しみを持つ人、皆さんが抵抗しようと決意している悪に抵抗する人を選ぶようにしてください。

主の幸福の計画を成し遂げるために、偉大な創造主はわたしたちの内に一つの本能を植え付けておられ、それによって少年は少女に興味を持ち、少女は少年に興味を持つようになります。その強い気持ちは美しい経験をもたらす可能性もあれば、恐ろしくおぞましい経験をもたらす可能性もあります。世の中を見渡してみると、道徳は捨て去られてしまっているように思われます。古い標準に反する行いが一般的になっています。長い歳月を経て実証されてきた原則が放棄されていることを、種々の研究は次々と明らかにしています。自制は忘れられ、性的な不道徳を欲しいままにすることが広がっています。

しかし、わたしの愛する友である皆さん、わたしたちは世の中で一般的になっている事柄を受け入れるわけにはいきません。この教会の会員として、皆さんにはより高い標準があり、より多くが求められています。それはシナイからの声のように、あなたは快樂にふけてはならないと宣言しています。自分の望みをコントロールしなければなりません。皆さんには、ほかのどのような道においても将来はないのです。少し和らげて、主は悔い改めと赦しを用意してくださっていると言わなければなりません。それでもなお、誘惑に屈することは傷となる恐れがあり、それは決して癒えることなく常に醜い傷跡を残すように思われます。

慎み深い服装と振る舞いは、誘惑から身を守る助けとなります。慎み深い服を見つけるのは難しいかもしれませんが、十分に努力すれば見つかります。すべての少女がミシンを使える環境にあって、

その使い方の訓練を受けることができたなら、と思うことがあります。そうすれば自分ですてきな衣服を作ることができるでしょう。これは非現実的な願いだと思えます。しかし何のためらいもなく言いますが、皆さんは慎み深さを捨てなくても魅力的でいられます。服装や振る舞いにおいて、さわやかで、明るく、美しくいられます。皆さんの魅力は、皆さんの個性をすべて合わせたものである、皆さんの人格から醸し出されます。朗らかで、笑みを絶やさず、快活にしましょう。しかし同時に、確固とした制限、すなわち皆さんが越えることのない境界線を設けてください。

主は勧告を拒む人々、また、「嵐が襲い、風が吹きつけ、雨が降って〔自分たちの〕家に打ちつけるときにつまずいて倒れる」人々について語られました(教義と聖約90:5)。

低俗な娯楽から遠ざかってください。魅力的に見えるかもしれませんが、あらゆる場合において、それは皆さんの品位を落とします。しかし、娯楽に関して、必要以上に控え目であることは望みません。楽しみを奪っていると思わないでください。若人とその問題について何も分かっていない老人だと思われることのないように願っています。これらの事柄について多少は理解しているつもりです。そのうえで心から愛を込めて、気高い道にとどまるように皆さんにお願いしているのです。善い友人と楽しみを作り出してください。歌ったりダンスをしたり、泳いだり、ハイキングをしたり、一緒にプロジェクトに参加したりして、熱意と楽しみをもって人生を過ごしてください。

体を大切にしてください。主は人の体を神殿という言葉で表現しておられます。最近あまりにも多くの人々が入れ墨によって体を傷つけています。何と先見性のない行為でしょう。これらのしるしは生涯残ります。一度入ると、面倒で費用のかかる方法によらなければ取り除くことができません。若い女性がそのようなものに身をさらす理由がわたしには理解できません。皆さんにお願いします。このよ

うなたぐいの自らを醜くする行為を避けてください。

避けるべきものについて話すこの機会に、もう一度薬物についても話しましょう。それらを試さないでください。ひどい病気に対するように、それらを遠ざけてください。実際に薬物は憎むべき病だからです。

決して独りでできるとは思わないでください。主の助けが必要です。人目に触れない場所でひざまずいて主と話すことを、決してためらわないでください。祈りは何と驚くべき、そしてすばらしいことでしょう。考えてみてください。実際に天の御父と話することができるのです。御父は確かに聞いてこたえてくださいますが、わたしたちはその答えに耳を傾ける必要があります。天の御父に話すのに深刻すぎる内容などもなければ、取るに足りない内容などありません。主は次のように言っておられます。「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。」(マタイ11:28)またこうも言っておられます。「わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」(30節)

つまり、結局は、主の道は耐えやすく、歩きやすいのです。パウロはローマ人にあてて次のように書いています。「神の国は飲食ではなく、義と、平和と、聖霊における喜びとである。」(ローマ14:17)

主イエス・キリストを信じる信仰は皆さんを導く光、皆さんの空の北極星でなければなりません。

かつてジョージ・アルバート・スミス大管長は、主の側にとどまることについて話しました。それは何と重要なことでしょうか。

何年も前に大会で話した物語をもう一度話したいと思います。ある野球選手についての物語です。世界の様々な地域にいる皆さんの中には、野球についてあまり知らない人もいます。興味すらないかもしれません。しかしこの物語には非常に重要な教訓があるのです。

それは1912年の出来事でした。ワールドシリーズが行われていて、シリーズの勝者を決める最終戦でのことでした。得

点は2対1でした。ニューヨーク・ジャイアンツが守備に就き、ボストン・レッドソックスが攻撃していました。バッターは高いフライを打ち上げました。ニューヨークの二人の選手が追いました。センターのフレッド・スノッドグラスは、自分が捕るとチームメートに合図しました。彼は完全に落下点に入り、ボールは彼のグローブの中に落ちました。しかし彼はそこでボールをつかみませんでした。ボールは彼の手をすり抜けて、地面に落ちました。スタンドには怒号がわき起こりました。ファンにはスノッドグラスがボールを落としたことが信じられませんでした。彼はそれまで何百ものフライを捕ってきました。しかし今、この最も決定的な瞬間に、彼はボールをつかみ損ねたのです。こうして、レッドソックスが優勝しました。

スノッドグラスは次のシーズンに戻って来て、さらに9年にわたってすばらしいプレーを見せました。彼は86歳まで生き、1974年に世を去りました。しかしあの一度のエラー以来、62年もの間、だれかに紹介される度に、決まって次のような返事が返ってきました。「ああ、あのボールを落とした人ですね。」

残念ながら、わたしたちは人々がボールを落とすのを絶えず目にします。自分は十分にやっていると思っている生徒がいます。しかし期末試験のストレスの中で、彼女は試験に落ちてしまいます。非常に注意深いドライバーがいます。しかしわずかに一瞬の不注意で、彼は痛ましい事故に巻き込まれます。信頼を受けている成績の良い従業員がいます。しかし瞬時にして、彼は抵抗できない誘惑に直面します。彼には刻印が押され、それは決して完全に消えることがないように思われます。

長く続いてきた友情を瞬時に壊してしまう爆発的な怒りがあります。どういうわけか大きくなって、ついには教会を離れるまでに至ってしまう小さな罪があります。

良識にかなって送ってきた人生があります。そして破壊的な、永遠に頭を離れることのない、たった一度の道徳的な挫折が訪れます。その記憶は永遠に消え去ることがないように思われます。



それらはすべて、だれかがボールを落とした瞬間です。十分に自信があったかもしれません。少しだけ思い上がっていて、「それほど努力する必要はない」と考えていたのかもしれません。しかしボールを捕ろうとしたときに、ボールはグローブをすり抜けて地面に落ちてしまいました。悔い改めがあります。そのとおりで、赦しがあります。もちろんです。忘れたという望みがあります。しかしどういうわけか、ボールを落としたときのことがいつまでも思い出されるのです。

さて、愛するすばらしい若い女性の皆さん、わたしは皆さんに対する父親の愛をもって語ります。わたしは皆さんがこれまでしっかりと歩んできてくれたことに感謝します。皆さんをお願いします。決して力を抜くことなく、目標と決意をもって前進し、途中で出くわすいかなる誘惑や敵対する力にもくじけないでください。

皆さんの人生が無駄になることがなく、大いなる永遠の良い実を結ぶものとなるように祈っています。時は流れ、皆さんが人生で成し遂げる事柄をわたしが目にす

ることはないでしょう。しかしそこには皆さんを頼みとする人が大勢、実に大勢いることでしょう。その人たちの平安と幸福が皆さんの行いにかかっているのです。そして何より、そこには皆さんを御自分の娘としていつまでも愛してくださる、皆さんの天の御父がおられることでしょう。

もし間違いを犯したなら、赦しを得ることができ、克服することができ、正すことができることを強調しておきたいと思います。続けて成功と幸福に向かって進むことができます。しかしわたしはそのような経験が皆さんの人生に訪れることのないように願っています。もし皆さんが固く決意して、気高い道を歩む強さを求めて祈るならば、そのような経験が訪れることはない確信しています。孤独なときもあるかもしれませんが、その道はこの生涯における、そしてその後永遠に続く、平安と幸福と究極の喜びへと続いているのです。

以上のことを、わたしたちが永遠に生きられるように御自分の命を与えてくださった主イエス・キリストの聖なる御名によって祈ります。アーメン。

指導者の言葉

大会の教えを生活に取り入れるために

2004年4月の総大会で聞いた教えを、自分自身または家族の生活に取り入れるために、以下のアイデアを個人での研究や家庭の夕べで用いるとよいでしょう。質問や活動、話し合いのアイデアを自分で考えてもよいでしょう。(ページ番号は、お話の最初のページを表しています。)

子供たちのために

1. ゴードン・B・ヒンクレー大管長の副管長はだれでしょう。二人はヒンクレー大管長の副管長を何年務めてきたでしょう(ヒント——ジェームズ・E・ファウスト副管長のお話を見ましょう。61ページ)。

2. トーマス・S・モンソン副管長が、十二使徒定員会の一員として召されたのは何年前でしょう。モンソン副管長を十二使徒に召したのはだれでしょう(ヒント——モンソン副管長のお話を調べましょう。20ページ)。

3. 十二使徒定員会の会員一人一人の名前を挙げてください。七十人会長会では、何人の兄弟たちが奉仕しているでしょう。七十人第一定員会と第二定員会では、それぞれ何人の兄弟たちが奉仕しているでしょう(ヒント——中央幹部の表を見ましょう。64-65ページ)。

4. 教会には約何人の会員がいるでしょう。大会を見たり、聞いたりできるのは、そのうちの何パーセントでしょう(ヒント——ヒンクレー大管長のお話を調べましょう。4ページ)。

5. 2003年にバプテスマを受けた8歳の子供は何人いるでしょう(ヒント——「統計報告」を見ましょう。26ページ)。

6. 「わたしは御座の周りに、聖なる天使たちと天の軍勢と」で始まる詩を書いたのはだれでしょう(ヒント——キース・B・マクマリン監督のお話から答えを探しましょう。33ページ)。

青少年のために

7. 救い主が明日来られると分かっているのなら、主とお会いするために、今日のどのような備えをしますか。「靈的に備えるための24時間キット」には何を入れますか(ダリン・H・オクス長老のお話を参照してください。7ページ)。

8. 愛する人を失ったときに、どのように平安を得ることができますか。人生で愛する人を失ったとき、M・ラッセル・バラード長老はどのように対処したでしょうか(84ページ)。

問5を参照してください。



マービン・B・アーノルド長老は、あきらめずあまり教会に来ていない青少年に働きかけた神権指導者について話した。

9. アルゼンチンのある若い女性は伝道資金を得るために、とても大切にしていたバイオリンを売りました(ジェフリー・R・ホルランド長老のお話を参照してください。30ページ)。さらに忠実になるために、どのような犠牲を払うことができますか。例えば、もっと多くの時間を奉仕や聖文研究に割けるよう、セミナーに時間どおりに行ったり、テレビを見る時間を少なくしたりできるかもしれません。

10. ブラジルのある神権指導者は、一人の若い男性が教会に活発に集えるよう

に二マイルの精神を示しました(マービン・B・アーノルド長老のお話を参照してください。46ページ)。教会に時々しか集わない友達がありますか。その友達を励ますために何ができるでしょうか。

11. クレイト・W・マスク・ジュニア長老はこう言いました。「神の王国に救われるためには、財産も背の高さも、やせていることも、また聡明さや美しさも必要ありません。ただ清くあればいいのです。」(92ページを参照してください)世の汚れを避け、または取り除き、個人の清さを保つにはどうしたらよいでしょうか。

12. 『神への務めを果たす』または『成長するわたし』の条件で、まだ達成していないものがありますか。物事を最後まで成し遂げた人々の例を挙げた、ゲール・M・クレグ姉妹のお話を読んでください(14ページ

を参照してください)。この話は、まだ終わっていないことを完成させ、最後まで堪え忍べるようわたしたちを鼓舞してくれます。

家庭の夕べまたは個人の研究のために

13. ヒンクレー大管長はこう言いました。「若い人たちの信仰や忠実さを見ると、とても力づけられます。彼らは地上に悪が



問12を参照してください。

はびこる時代に生活しています。……しかし文字どおり何十万人もの若人が、福音の高い標準に添って生活しているのです。」(4ページ)家庭の夕べで小冊子『若人の強さのために』の幾つかの項目を読んでください。幼い子供たちがいる場合は、『神への信仰』の裏面にある「わたしの福

音の標準」を読んでください。

14. 子供たちが生を受けるこの邪悪な世の中に不安を抱くことはありませんか。この世にはびこる霊的な病から子供たちを守るにはどうしたらよいでしょうか (ボイド・K・パッカー十二使徒定員会会長代理のお話を参照してください。77ページ)。

15. 父親としての務めは何でしょうか (L・トム・ベリー長老のお話を参照してください。69ページ)。「母の心」とは何でしょうか。どうしたら「母の心」をはぐくむことができるでしょうか (ジュリー・B・ベック姉妹のお話を参照してください。75ページ)。

16. ニール・A・マックスウェル長老はこう言いました。「神はずっと昔から皆さん一人一人を御存じで……皆さんを愛してこられました。神は……皆さんの名前、そして喜びや悲しみもすべて御存じです。」(44ページ) 今日祈るとき、天の御父が皆さんのことをどれほどよく知り、愛しておられるか思い出してください。

17. ジョセフ・B・ワースリン長老は「負債は一種の束縛である」と言いました(40ページ)。自分が抱えているこの世の負債について考え、ワースリン長老が語った、財政的な自由を得るための5項目を読んでください。また、天の負債と感謝を伝える方法について考えてください。

18. デニス・E・シモンズ長老はこう説明しました。「信仰とは、人の力には限界があっても、神の力には限界がないのを知ることです。イエス・キリストを信じる信仰とは、主に対する完全な信頼なのです。」(73ページ)自分が直面しているチャレンジについて考えてください。イ

エス・キリストへの信仰をさらに示すにはどうしたらよいでしょうか。◆

問15を参照してください。

読んで分かち合えるお話

お話やレッスンの準備をする必要がありますか。次に挙げる大会のお話には、レッスンなどで活用できる物語が含まれています。

書き始めてから数年後に物語を完成させた少年。14ページ。

ユタ州まで歩いた開拓者。14ページ。

青少年に影響を与える日曜学校の教師。20ページ。

人々を気にかけるスペンサー・W・キンボール。20ページ。

あまり教会に来ていない家族を見つけ、フェロウシップする。20ページ。

負債を返済する男性。40ページ。

教会に活発に集うようになったブラジルの若い男性。46ページ。

北極星を見詰める若いころのゴードン・B・ヒンクレイ。49ページ。

アルコール飲料を拒む軍隊の将校。51ページ。

オリンピックの聖火を運んだ多発性硬化症の男性。54ページ。

息子の帰りを待つ、夫に先立たれた女性。54ページ。

甜菜畑で働くボランティア。58ページ。

ガーナで奉仕する夫婦宣教師。58ページ。

連絡経路を再び得た「失われた大隊」。61ページ。

子供たちを天然痘の危険にさらした母親。77ページ。

泥流の中を進んだ宣教師たち。92ページ。

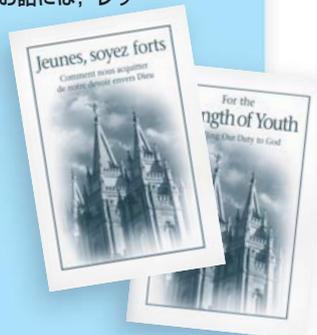
父親から訓練を受けた盲目のハードル選手。94ページ。

家族の中で仕え合う「秘密の友達」94ページ。

福音によって人生が変わったポリビア・キリサの人々。100ページ。

手話で若い女性のテーマを学んだ少女たち。104ページ。

ボールを落とした野球選手。112ページ。



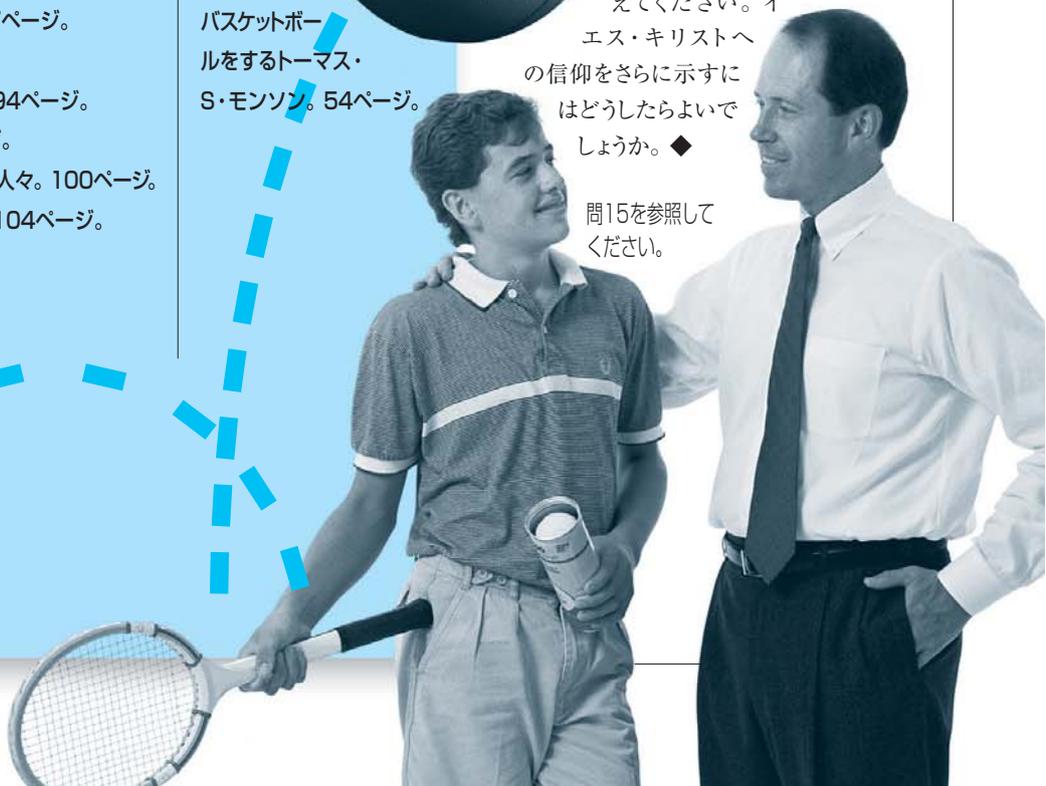
『若人の強さのために』を受け取ったアフリカの高官。49ページ。



バスケットボールをするトーマス・S・モンソン。54ページ。



問15を参照してください。



わたしたちの時代のための教え、 2004年度

毎月の第4日曜日のメルキゼデク神権者と扶助協会の集会は、「わたしたちの時代のための教え」を学ぶ時間となっています。大管長会は毎年、これらの集会で使用するために、10のテーマを指定の資料とともに決定します。以下は2004年度のためのテーマと資料です。残り2回分のテーマは、ステーキ会長または地方部長会によって選定されます。

第4日曜日の話し合いは、定員会またはグループのメンバーの必要と状況に合わせて、指定の資料の一つ、または二つを中心にして行うとよいでしょう。教師は必ずしもすべての資料を使用する必要はありません。指導者と教師は、この時間に講義や発表よりむしろ、話し合いを行うよう努めてください。また、定員会またはクラスのメンバーが話し合った福音の原則を実践するよう鼓舞していくにはどうしたらよいか、検討してください。定員会やグループでの話し合いを準備し、導くための提案は、『教師、その大いなる召し』(36123 300)と『教師ガイドブック』(34595 300)に掲載されています。

1. 家族は創造主の計画の中心を成す

出エジプト20:12; マラキ4:6; モーサヤ27:14; 教義と聖約93:36-40; モーセ5:4-5, 9-12

ゴードン・B・ヒンクレー「家庭の夕べ」『リアホナ』2003年3月号, 2-5

ジェームズ・E・ファウスト「家庭の夕べによって生活を豊かにする」『リアホナ』2003年6月号, 2-6

ボイド・K・パッカー「齢を重ねた男女」『リアホナ』2003年5月号, 82-84

L・トム・ベリー「家族の大切さ」『リアホナ』2003年5月号, 40-43

「家族は永遠に」『福音の原則』第36章

2. 感謝をささげる

ルカ17:11-19; モーサヤ26:38-39; アルマ37:37; 教義と聖約78:19; 98:1-3

デビッド・B・ヘイト「清められたのは、10人ではなかったか」『リアホナ』2002年11月号, 24-26

ダリン・H・オークス「すべてについて感謝をささげる」『リアホナ』2003年5月号, 95-98

「感謝」『若人の強さのために』
「感謝の心」『末日聖徒の女性B』第35課

3. 主のぶどう園で働く

マタイ16:24-26; ヨハネ12:26; 1ニーファイ3:7; モーサヤ2:17; 4:27; 教義と聖約123:17

トーマス・S・モンソン「任命された職にしっかりと立つ」『リアホナ』2003年5月号, 54-57

ジェフリー・R・ホランド「奉仕の召し」『リアホナ』2002年11月号, 36-38

ヘンリー・B・アイリング「神からの召し」『リアホナ』2002年11月号, 75-78

「犠牲」『福音の原則』第26章,
「奉仕」『福音の原則』第28章

4. 精神面および物質面での自立

マラキ3:8-10; マタイ6:5-13; アルマ37:37; 教義と聖約88:119

ゴードン・B・ヒンクレー「神権を持つ男性たちへ」『リアホナ』2002年11月号, 56-59

ラッセル・M・ネルソン「祈りがもたらす穏やかな力」『リアホナ』2003年5月号, 7-9

ロバート・D・ヘイルズ「自分の一——永遠の祝福を伴う信仰の試し」『リアホナ』2002年11月号, 26-29

「労働と個人の責任」『福音の原則』第27章

5. 神権を通してもたらされる祝福

教義と聖約13:27; 12:107; 39:110; 11:16; 128:20; ジョセ

フ・スミス—歴史1:68-74

ボイド・K・パッカー「ステーキ祝福」『リアホナ』2002年11月号, 42-45

L・トム・ベリー「神から召され」『リアホナ』2002年11月号, 7-10

デビッド・B・ヘイト「神権者として一歩ずつ成長する」『リアホナ』2003年5月号, 43-45

「神権」『福音の原則』第13章,
「神権組織」『福音の原則』第14章

6. 不確かな時代に信仰を行使する

ヘブル11; ヤコブの手紙1:3-6; ヒラマン12:1; エテル12:6; 教義と聖約6:20; 59:21

ゴードン・B・ヒンクレー「戦争と平和」『リアホナ』2003年5月号, 78-81

ジョセフ・B・ワースリン「地上に信仰が見られるであろうか」『リアホナ』2002年11月号, 82-85

リチャード・G・スコット「不確かである時代に支えとなる信仰の力」『リアホナ』2003年5月号, 75-78

ロバート・D・ヘイルズ「苦難の中で信仰により得る平安と喜び」『リアホナ』2003年5月号, 15-18

「イエス・キリストを信じる信仰」『福音の原則』第18章, 「従順」『福音の原則』第35章

7. 子供たちを教える

エレミヤ31:15-16; ルカ15:11-32; ヨハネ1:43; 3ニーファイ17:11-24; 教義と聖約68:25, 28

トーマス・S・モンソン「傲うべき模範」『リアホナ』2002年11月号, 60-67

ジェームズ・E・ファウスト「荒野にさまよう一つの羊」『リアホナ』2003年5月号, 61-68

ジェフリー・R・ホランド「子供たちのための祈り」『リアホナ』2003年5月号, 85-87

「家族の責任」『福音の原則』第37章

8. 伝道活動を成功させる

ヨハネ21:15-17; 1ヨハネ4:18-19; モーサヤ28:3; 教義と聖約4:5; 88:81

ダリン・H・オークス「み旨のまま行かん」『リアホナ』2002年11月号, 67-70

M・ラッセル・バラード「会員伝道のきわめて重要な役割」『リアホナ』2003年5月号, 37-40

M・ラッセル・バラード「最高の宣教師を輩出する時代に生きる若者たち」『リアホナ』2002年11月号, 46-49

ヘンリー・B・アイリング「子供および弟子として」『リアホナ』2003年5月号, 29-32

「伝道活動」『福音の原則』第33章
9. 聖餐と聖餐会

このテーマは、10月から12月の第4日曜日に教えるよう勧められています。

マタイ26:26-29; 3ニーファイ18:1-12; モロナイ4, 5; 教義と聖約59:9-14

ゴードン・B・ヒンクレー「神権を持つ男性たちへ」『リアホナ』2002年11月号, 56-59

ラッセル・M・ネルソン「聖餐会での礼拝」(仮題)『リアホナ』2004年8月号

ダリン・H・オークス「生活の中の福音」『リアホナ』2002年7月号, 36-39

ダリン・H・オークス「キリストの特別な証人」『リアホナ』2001年4月号, 14

「聖餐」『福音の原則』第23章

10. キリストの弟子となる

マタイ11:28-30; ガラテヤ6:8; アルマ38:8-9; 教義と聖約64:34; 101:36-38

トーマス・S・モンソン「静まれ、黙れ」『リアホナ』2002年11月号, 53-56

ジェームズ・E・ファウスト「内なる自己を強くする」『リアホナ』2003年2月号, 2-7

ニール・A・マックスウェル「霊の命……を心にかけなさい」『リアホナ』2003年5月号, 68-70

リチャード・G・スコット「重荷から解放される」『リアホナ』2002年11月号, 86-88

「悔い改め」『福音の原則』第19章, 「才能を伸ばす」『福音の原則』第34章

『アロン神権2』用リソースガイド

2004年度用、第26課～第50課用。以下は『アロン神権2』第26課から第50課のレッスンを補足するための参考資料であり、同レッスンに代わるものではありません。参照記事の中にある『神への務め』は、小冊子『アロン神権——神への務めを果たす』を表しています。『神への務め』からの引用をレッスンの中で幾つか使用してもよいでしょう。あるいは、家庭でそれらのチャレンジを達成するよう定員会の会員を励ましてもよいでしょう。教えるためのそのほかのアイデアは『『リアホナ』の活用方法』を参照してください。

レッスンはテキストに掲載されている順番に教えてください。教師用手引きには、クリスマスのための特別なレッスンは掲載されていません。クリスマスのための特別なレッスンを教える場合は、救い主の生涯と使命に焦点を絞った聖句や大会説教、教会機関誌の記事、絵、賛美歌を活用することを検討してみてください。

インターネットを使用して、英語以外の幾つかの言語でこのリソースガイドを探す場合は、www.lds.orgを開き、ホームページの画面右上にある世界地図のアイコンを選んでください。それから希望の言語を選択し、『リアホナ』表紙の横の文字列に設定されたハイパーリンク部分をクリックしてください。そして、2004年5月号を選択してください。(訳注—日本語版はサイト上に掲載されていません。)

今後のリソースガイドは『リアホナ』5月号と11月号に掲載されます。幾つかの言語では、www.lds.orgにアクセスすれば、『リアホナ』をインターネット上で閲覧することができます。

第26課——清い思い

ゴードン・B・シンクレイ「若人への預言者の勧告と祈り」『リアホナ』2001年4月号、30。「清い人になりましょう」の部分は、レッスンのフィルムストリップに関する話し合いを補足するために使うことができます。

ボイド・K・パッカー「真理の標準は確立された」『リアホナ』2003年11月号、24。この説教を用いて、教会にはなぜ道徳的に高い標準があるのかについて話し合います。

『神への務め——教師』「家族活動」の6

第27課——主の健康の律法

ボイド・K・パッカー「あなたがたは神の宮である」『リアホナ』2001年1月号、85。パッカー会長代理の祝福師の祝福についての話を紹介し、従順の祝福について話し合います。

ハロルド・G・ヒラム「体のためにならず」『聖徒の道』1996年6月号、26。高名な歯科医の話を紹介して、テキストに提案されている「知恵の言葉を支持する最近の記事を紹介する」の代わりにします。

『神への務め——執事』「学業、人格、職業への備えの面での成長」の12

第28課——安息日

H・オールドリッジ・ギレスピー「安息日を神聖に保つことによってもたらされる祝福」『リアホナ』2001年1月号、93。現代の預言者たちの言葉を話し合いの中で引用します。

デビッド・オズカー・サルミエント「主の日を尊ぶ」『リアホナ』2003年6月号、41。テキストに掲載されているクック長老の経験を補足するためにこの話を紹介します。

「賛歌を捧げん」『賛美歌』84番

『神への務め——教師』「霊的な面での成長」の2

第29課——人生の目的

W・クレーグ・ズウィック「主なる神はあなたの手をとり」『リアホナ』2003年11月号、34。信仰の大切さについて話し合う際、この記事に紹介されている家族の物語を紹介し、

第30課——キリストの愛

ジーン・R・クック「慈愛——完全な永遠の愛」『リアホナ』2002年7月号、91。さらに愛にあふれた者となるためにどうすればよいか話し合う

際、慈愛のきずなを外套のように身にまとうためにクック長老が提案している3つの提案を紹介し、

エマニュエル・フレッキンジャー「父の勇気のメダル」『リアホナ』2003年9月号、40。この物語を紹介して、慈愛は「恨みをいだかない」という教えの例とします。

第31課——救し

セシル・O・サミュエルソン・ジュニア「救し」『リアホナ』2003年2月号、26。テキストの最後の物語を補足するために、イエスの生涯に見られる救しを例として使います。

ジェーン・マックブライド・シューエート「ゆるしの小石」『リアホナ』2003年2月号、F6。この物語の中に出てくる、救しの原則を示す実物を使ったレッスンを、テキストの3つの事例研究について話し合うときに用います。

『神への務め——執事』「社会の一員としての社会的な面での成長」の8

第32課——みたまの賜を養う

ジョセフ・B・ワースリン「言い尽くせない賜物」『リアホナ』2003年5月号、26。霊的な賜物を受けたり行使したりする際の聖霊の役割について話し合います。

「質疑応答」『リアホナ』2003年4月号、44。証の賜物について話し合う際、この記事に掲載されているアイデアを使うことを考慮に入れます。

「みたまはわれに」『賛美歌』82番

第33課——学問を求むべし

ゴードン・B・シンクレイ「若人への預言者の勧告と祈り」『リアホナ』2001年4月号、30。「知性を備えた人になりましょう」の部分は、主がわたしたちに何を学ぶよう期待しておられるかを説明するのに役立ちます。

ジョン・K・カーマック「永代教育基金——希望に満ちた明るい光」『リアホナ』2004年1月号、32。永代教育基金プログラムから学べる教育を受けることに関する原則について話し合います。

『神への務め——祭司』「学業、人格、職業への備えの面での成長」の1と2

第34課——模範の力

ゴードン・B・シンクレイ「国民の旗、世の光」『リアホナ』2003年11月号、82。レッスンのまとめとして、この説教の中で触れられている誘惑について話し合います。

ガブリエル・ゴンザレス「栄光ある卒業」『リアホナ』2003年7月号、34。この物語をテキストの最初の物語に付け加えることを検討します。

『神への務め——執事』「霊的な面での成長」の12

第35課——律法を守り、敬い、支える

ゴードン・B・シンクレイ「戦争と平和」『リアホナ』2003年5月号、78。レッスンの最後の話し合いで、戦争に対する教会の立場を紹介することもできます。

『神への務め——執事』「社会の一員としての社会的な面での成長」の5；『神への務め——教師』「社会の一員としての社会的な面での成長」の6；『神への務め——祭司』「家族の活動」の8

第36課——すべてのことに感謝する

ダリン・H・オークス「すべてについて感謝をささげる」『リアホナ』2003年5月号、95。天の御父に感謝を示す方法について話し合う際、この説教で述べられている考えについて触れます。

フアン・カルロス・ロドリゲス「待ち望まれていた雨」『リアホナ』2003年6月号、40。テキストの話を補足するためにこの話を使います。

『神への務め——教師』「霊的な面での成長」の10

第37課——女性の役割を理解する

M・ラッセル・バラード「義にかなった女性たち」『リアホナ』2002年12月号、34。テキストの最後にある活動とチャレンジに多様性を持たせるためにこの記事の考えを使うことができます。

第38課——不義の世に正しく生きる

ジェームス・E・ファウスト「悪魔のど」『リアホナ』2003年5月号、51。この説教で用いられた滝と誘惑の比較を使ってレッスンを始めます。

ジョン・B・デイクソン「試練のときに」

『リアホナ』2002年5月号, 28。レッスンのまとめで信仰に忠実なることを説明する際、この記事の中の4つの原則を紹介します。

『神への務め——執事、教師、祭司』『家族の活動』の2

第39課——信仰を守りぬく勇氣

トーマス・S・モンソン「倣うべき模範」『リアホナ』2002年11月号, 60。レッスンの最後の部分に多様性を持たせるため、この説教に含まれている古代と現代の勇氣の模範を幾つか使います。

リチャード・J・メインズ「とどまる力」『リアホナ』2003年10月号, 6。この精神的な勇氣に関する物語でレッスンを始めます。

第40課——誘惑を避け、克服する

ボイド・K・バック「靈の『わに』」『リアホナ』2002年10月号, 8。レッスンの最初の物語を話す際にこの記事の絵を使います。

「誘惑と戦う備え」『リアホナ』2003年7月号, 25。レッスンのまとめとして、このメッセージの中の聖句が引用文の一つを使うことを考慮に入れます。

創世39章;ダニエル3章;マタイ4:2-11参照

第41課——聖餐——主の記念

ラッセル・M・ネルソン「聖餐会における礼拝」〔仮題〕『リアホナ』2004年8月号, 10。レッスンのまとめで、どのように聖餐を執行し、聖餐式に臨めばよいかに関するネルソン長老の勧告について検討します。

ピーター・B・ガードナー「言葉以上に」『リアホナ』2002年2月号, 28。レッスンに多様性を持たせるためにこの物語を紹介します。

「十字架を覚え」『賛美歌』111番
『神への務め——執事』『定員会活動』の7

第42課——教会幹部に従う

L・トム・ペリー「神がこれまでに啓示されたすべてのことを信じる」『リアホナ』2003年11月号, 85。レッスンで教会に啓示がもたらされる方法について教える際、この説教を検討します。

シェルドン・F・チャイルド「堅固な基」『リアホナ』2003年11月号, 8。レッス

ンの始めに2番目の項目にある実話を紹介することを考慮に入れます。

「来たれ、予言者よ」『賛美歌』13番
第43課——伝道のための靈的な備え
リチャード・G・スコット「無限の可能性を認識する」『リアホナ』2003年11月号, 41。レッスンの始めにスコット長老の勧告を若い男性に読み聞かせます。

モンティ・J・ブラフ「若い男性——^{かぎ}鍵を持つ者たち」『リアホナ』2003年11月号, 47。レッスンのまとめで、若い男性が専任宣教師を助けている話を使います。

『神への務め——執事、教師、祭司』『家族の活動』の1

第44課——神殿結婚に備える

ゴードン・B・ヒンクレ「永遠に続く結婚」『リアホナ』2003年7月号, 3。この記事の中の架空の人物ジョニーとメアリーの話を読み、神殿結婚の祝福について話し合います。

リチャード・G・スコット「正しかれ」『リアホナ』2001年3月号, 10。日の栄えの結婚に備えるために必要な個人的努力について話し合う際、境界線を超えないための提案を使います。

教義と聖約132:15-17と教義と聖約131:1-4を使います。

『神への務め——祭司』『社会の一員としての社会的な面での成長』の2

第45課——効果的なホームティーチング

デビット・ヘッド「あきらめなかったホームティーチャー」『リアホナ』2002年9月号, 36。どうすれば良いホームティーチャーになれるか話し合う際、この記事を紹介します。

ジョン・L・ハウター「後輩同僚」『リアホナ』2001年11月号, 28。若い男性に、より効果的なホームティーチャーになるよう勧める際にこの記事を使います。

教義と聖約107:99とモルモン書ヤコブ1:19を使います。

『神への務め——教師』『定員会活動』の1

第46課——メディアの低俗な影響力を避ける

トーマス・S・モンソン「魔の運び屋——ボルノグラフィー」『リアホナ』2001年11月号, 2。低俗なメディアの影響について話し合う際、木食い虫の習性について紹介します。

「前方に危険あり!」ボルノグラフィーの落とし穴を避ける『リアホナ』2002年10月号, 12。ベンソン大管長の言葉を紹介する際、ボルノグラフィーを避ける5つの方法を提示することを考慮に入れます。

『神への務め——教師』『社会の一員としての社会的な面での成長』の9
第47課——清い言葉遣い

H・デビット・バートン「雄々しく立つ」『リアホナ』2002年1月号, 75。どんな言葉がわたしたちの心を表すのかについて話し合う際、バートン監督の二つ目の例を使います。

「み旨のまま行かん」『賛美歌』172番, 第2節

第48課——世にあって、世のものとならず

デビット・E・ソレンセン「毒蛇と戯れてはならない」『リアホナ』2001年7月号, 48。世にあって、世のもの

ならないとはどういう意味か話し合う際、ガラガラヘビと誘惑との比較を使います。

「分かりやすい簡明な真理」若い男性と若い女性, 6つのBに従う『リアホナ』2002年9月号, 16。レッスンのまとめとしてこの記事に掲載されている青少年の証を使います。

第49課——正直と高潔さ

クエンティン・L・クック「あなたは聖徒ですか」『リアホナ』2003年11月号, 95。不正直になるような誘惑について話し合う際、説教の中で述べられている自己評価のための3つの質問を使います。

『神への務め——祭司』『靈的な面での成長』の1

第50課——障害者を尊重し、励ます

エリザベス・クワッケンブッシュ「彼女が祈り求めたのはわたしの助けでした」『リアホナ』1999年6月号, 36。キリストのような哀れみについて話し合う際、この記事を補足として使います。

『神への務め——祭司』『肉体的な面での成長』の11

『若い女性2』用リソースガイド

2004年度用, 第26課-第49課用。以下は『若い女性2』第26課から第49課のレッスンを補足するための参考資料であり、同レッスンに代わるものではありません。参照記事の中にある『成長するわたし』は、小冊子『若い女性「成長するわたし」』を表しています。『成長するわたし』からの引用をレッスンの中で幾つか使用してもよいでしょう。あるいは、家庭でそれらのチャレンジを達成するようクラスの少女を励ましてもよいでしょう。教えるためのそのほかのアイデアは『リアホナの活用法』を参照してください。

レッスンはテキストに掲載されている順番に教えてください。教師用引きには、クリスマスのための特別なレッスンは掲載されていません。クリスマスのための特別なレッスンを教え

たい場合は、救い主の生涯と使命に焦点を絞った聖句や大会説教、教会機関誌の記事、絵、賛美歌を活用することを検討してみてください。

インターネットを使用して、英語以外の幾つかの言語でこのリソースガイドを探す場合は、www.lds.orgを開き、ホームページの画面右上にある世界地図のアイコンを選んでください。それから希望の言語を選択し、『リアホナ』表紙の横の文字列に設定されたハイパーリンク部分をクリックしてください。そして、2004年5月号を選択してください。(訳注—日本語版はサイト上に掲載されていません。)

今後のリソースガイドは『リアホナ』5月号と11月号に掲載されます。幾つかの言語では、www.lds.orgにアクセスすれば、『リアホナ』をインターネット上で閲覧することができます。

第26課——聖餐

ラッセル・M・ネルソン「聖餐会における礼拝」〔仮題〕『リアホナ』2004年8月号, 10。レッスンのまとめで、どのように聖餐式に出席すればよいかに関するネルソン長老の勧告について検討します。

デニス・B・ノイエンスワンダー「儀式と聖約」『リアホナ』2001年11月号, 16。聖約について話し合う際、バプテスマと聖餐の関係について説明します。

「十字架を覚え」『賛美歌』111番
『成長するわたし』「徳質の体験——『信仰』」の4;「徳質の体験——『神から受け継いだ特質』」の4

第27課——従順になることによって証を強める

ゴードン・B・ヒンクレー「確信をもって生活する」『リアホナ』2001年9月号, 2。この記事を使って、従順になる勇氣を持つとどうして証が強まるかについて話し合います。

ジェームス・E・ファウスト「信じます。不信仰なわたしを、お助けください」『リアホナ』2003年11月号, 19。この説教の最後の方にある棒と福音との比較を使って、どのように証が得られるかについて説明します。

第28課——自由意志

ジョセフ・B・ワースリン「3つの選び」『リアホナ』2003年11月号, 78。この説教の中で述べられている3つの選択について、レッスンのまとめとして話し合います。

「ポスター——奴隷にならないで」『リアホナ』2003年2月号, 33。選択の結果についての話し合いを始める際、このポスターを見せて、そのメッセージについて話し合います。

「選べ、正義を」『賛美歌』152番
『成長するわたし』「徳質の体験——『選択と責任』」の3

2ニーファイ2:26-27; モーサヤ4:30; ヒラマン14:30-31参照

第29課——昇栄

デビッド・E・ソレンセン「神殿の業に関する教義」『リアホナ』2002年8月号, 30。神殿の儀式について話し合う際、この記事に掲載さ



れている考えを使います。

第30課——奉仕を通して証を強める

トーマス・S・モンソン「主の道」『リアホナ』2003年1月号, 3。人々への奉仕について話し合う際、この記事の物語を含めます。

ダリン・H・オークス「み旨のまま行かん」『リアホナ』2002年11月号, 67。レッスンのまとめで、この説教の中に含まれている奉仕に関する説明を読んで話し合います。

『成長するわたし』「徳質の体験——『善い行い』」の1, 2, 5

第31課——国の律法

ゴードン・B・ヒンクレー「戦争と平和」『リアホナ』2003年5月号, 78。信仰箇条第12条について話し合う際、戦争に対する教会の立場を含めることもできます。

ラッセル・M・ネルソン「平和をつくり出す人たちは、さいわいである」『リアホナ』2002年11月号, 39。愛国心について話し合う際、この説教の「市民としての義務」の項を使います。

国歌、またはそのほかの愛国心を示すふさわしい歌を歌うことを考慮に入れます。

第32課——生命の大切さ

ダリン・H・オークス「もっと重要な事柄」『リアホナ』2000年3月号, 15。命の尊さについて話し合う際、この記事の「選びまたは選択の自由」の項を使います。

リカルド・ロバス・デ・メンドンサ「天のお父様の愛」『リアホナ』2003年8月号, 44。レッスンの始めにこの記事を使うことを考慮に入れます。

第33課——神聖な創造の力

ニール・A・マックスウェル「清くあるべき理由」『リアホナ』2003年3月号,

6。純潔について話し合う際、この記事の10の警告を使います。

「質疑応答」『リアホナ』2003年2月号, 22。純潔がどのように幸福をもたらすかについて話し合う際、この記事の提案をいくつか紹介します。

第34課——主の標準を忠実に守る

ゴードン・B・ヒンクレー「若人への預言者の勧告と祈り」『リアホナ』2001年4月号, 30。主の標準について話し合う際、6つのBについて含めます。

ボイド・K・パッカー「真理の標準は確立された」『リアホナ』2003年11月号, 24。この説教の中で述べられている、誘惑を識別し克服するための方法について話し合います。

『成長するわたし』「徳質の体験——『誠実』」の1

第35課——賢明な選択

リチャード・G・スコット「知識と強さを得て、賢明に用いる」『リアホナ』2002年8月号, 12。タナー副管長の引用と二人の若い男性の話を使うことを考慮に入れます。

『成長するわたし』「徳質の体験——『選択と責任』」の1と2

2ニーファイ2:26-27; モーサヤ4:30; ヒラマン14:30-31参照

第36課——正直

クエンティン・L・クック「あなたは聖徒ですか」『リアホナ』2003年11月号, 95。真に正直な人を定義する際、説教の中で述べられている自己評価のための3つの質問を使います。

D・レックス・ジェレット「大金を見つけました」『リアホナ』2003年9月号, 8。レッスンのまとめで、この記事を紹介します。

第37課——正しい生活を通して清さを保つ

ジェームス・E・ファウスト「義にかなった神の娘の持つ徳」『リアホナ』2003年5月号, 108。純潔を保つ方法について話し合う際、この説教で述べられている10の徳のいくつかについても話し合います。

『成長するわたし』「徳質のプロジェクト——『誠実』」の黒丸5

第38課——健康

ボイド・K・パッカー「あなたがたは神の宮である」『リアホナ』2001年1月号, 85。パッカー会長代理の祝福師の祝福についての話を紹介し、自分の肉体を大切にすることから得られる祝福について話し合います。

『成長するわたし』「徳質のプロジェクト——『知識』」の黒丸3

第39課——病気の予防

ハロルド・G・ヒラム「体のためにならず」『聖徒の道』1996年6月号, 26。レッスンの始めに、この記事で述べられている歯科医の話を紹介し、

コリー・ホイットリー「だれも傷つけてはいないよ」『リアホナ』2000年3月号, 40。健康な体を保つことがいかに有益であるか話し合う際、この記事を使います。

1コリント3:16-17参照

第40課——自制

ジェームス・E・ファウスト「内なる自己を強くする」『リアホナ』2003年2月号, 2。この記事の中で述べられている5つの提案を自制の鍵として使います。

『成長するわたし』「徳質の体験——『神から受け継いだ特質』」の3と7

第41課——楽観的な態度

ジョー・J・クリスチャンセン「ほほえむべき理由」『聖徒の道』1998年9月

号, 28. レッソンのまとめとして「ほほえみリスト」を作るようクラスの生徒たちを励まします。

ジョン・B・デイクソン「試練のときに」『リアホナ』2002年5月号, 28. マリーの物語の補足としてこの記事の最初の話を使います。

「心に光あり」『賛美歌』139番
モーサヤ2:41; 24:13-15参照

第42課——感謝

ダリン・H・オークス「すべてについて感謝をささげる」『リアホナ』2003年5月号, 95. 感謝を示す方法について話し合う際, この説教の中の考えについて触れます。

フアン・カルロス・ロドリゲス「待ち望まれていた雨」『リアホナ』2003年6月号, 40. この記事を使ってテキストの話の補足します。

第43課——余暇の上手な活用

ジョセフ・B・ワースリン「人生という旅の中で学んだ教訓」『リアホナ』2001年5月号, 35. バランスの取れた余暇の過ごし方について話し合う際, この記事の中の考えを使います。

教義と聖約58:27; 88:118, 124参照

第44課——才能を伸ばす

ロナルド・A・ラズバンド「タラントのたとえ」『リアホナ』2003年8月号, 34. このたとえについて話し合う際, この記事の中の考えを使います。

メリッサ・D・トンブソン, ジャナ・ニールセン「才能を見だし, 伸ばす」『リアホナ』1999年5月号, 40. この記事の提案をレッスンに盛り込みます。

『成長するわたし』「徳質の体験——『知識』の2

第45課——芸術に親しむ

シャンナ・カズナビ「一小節ずつ, こつこつと」『リアホナ』2003年9月号, 18. 芸術に親しむ方法について話す際, この記事を使います。

『成長するわたし』「徳質の体験——『個人の価値』の4; 「徳質の体験——『知識』の6

教義と聖約25:12; 88:78-80参照

第46課——金銭上の責任

マービン・J・アシュトン「家庭における財政管理の指針」『リアホナ』2000年4月号, 42. 自立について話し合う際, この記事の中の10の提案の幾つかを使います。

「賢明に生活し, 什分の一とささげ物とを納めることにより, 備える」『リアホナ』2003年12月号, 25. レッソンを補足するために, 幾つかの引用や聖句を使うことを考慮に入れます。

『成長するわたし』「徳質の体験——『選択と責任』の7

第47課——よい環境

トーマス・S・モンソン「魔の運び屋——ボルノグラフィー」『リアホナ』2001年11月号, 2. 木食い虫がニレの木をどのように倒したかを紹介して, そのことと不健全な環境の中にあることとを比較します。

アニヤ・ベイトマン「すばらしい……その1か所を除けば」『リアホナ』1999年6月号, 22. 不健全な環境を克服することについて話し合う際, この記事の話を使うことを考慮に入れます。

『成長するわたし』「徳質の体験——『神から受け継いだ特質』の3

モロナイ7:14-19; 教義と聖約45:31-32; 88:119参照

第48課——指導者としてのコミュニケーション技術

ブラッド・ウィルコック「若人に帰属感を持たせる」『リアホナ』1999年6月号, 42. レッソンの中で愛について話し合う際, この記事の10の提案から幾つかを使います。

「同世代の青少年を導く」『リアホナ』2003年1月号, 24. 指導者の特質について話し合う際, この記事の提案の幾つかを使います。

「み旨のまま行かん」『賛美歌』172番 第2節

第49課——障害ある人々を大切に励まします

ピーター・B・ガードナー「言葉以上に」『リアホナ』2002年2月号, 28. レッソンのまとめの一部としてこの記事を使います。

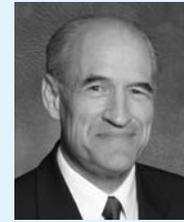
『成長するわたし』「徳質の体験——『個人の価値』の3

中央補助組織会長会

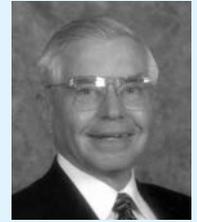
日曜学校



第一副会長
ダニエル・K・ジャッド



会長
A・ロジャー・メリル



第二副会長
ウィリアム・D・オズワルド

若い男性



第一副会長
ディーン・リード・バージェス



会長
チャールズ・W・ダールクvist



第二副会長
マイケル・アントン・ナイダー

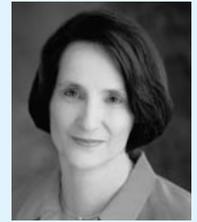
扶助協会



第一副会長
キャスリーン・H・ヒューズ



会長
ボニー・D・パーキン



第二副会長
アン・C・ビングリー

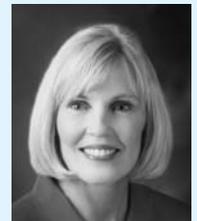
若い女性



第一副会長
ジュリー・B・ベック



会長
スーザン・W・タナー



第二副会長
イレイン・S・ダルトン

初等協会



第一副会長
シドニー・S・レイノルズ



会長
コリーン・K・メンラブ



第二副会長
ゲール・M・クレグ



カンファレンスセンターで行われた総大会土曜日午後の部会で教会指導者を支持する会員たち。

補助組織会長会の異動、 総大会の様子がさらに多くの地域に届けられる

第174回年次総大会土曜午後の部会で教会指導者が発表したところによれば、今後中央日曜学校と中央若い男性の会長会は、七十人定員会会員から選ばれることはなくなる（支持と解任を受けた指導者の氏名は24ページを参照。新しく会長会に召された指導者については、別ページの略歴を参照）。

1979年10月以来、中央日曜学校と中央若い男性の会長会

は、七十人定員会会員を専任で務める中央幹部で構成されていた。新たに召される補助組織指導者は、中央幹部として奉仕するのではなく、従来の仕事を続けながら、時間の一部をささげて補助組織の会長会の務めを果たす。

そのほかの異動では、ジョン・H・グローバーク長老が七十人会長会に召された。解任を受けたデニス・B・ノイエンスワンダー長老は、2004年8月15日からヨーロッ

パ東地域の会長を務める。

さらに、35人の地域幹部七十人が新たに召され、11人が解任された。

総大会の5つの部会には、10万人以上の会員がテンプルスクウェアのカンファレンスセンターに詰めかけた。ほかに数百万の会員が、テレビ、衛星放送、ラジオ、インターネットを通じて教会指導者の勧告に耳を傾けた。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、大会を始めるに当

たって次のように語った。「わたしたちは今、……国際色豊かな大家族になっています。〔大会の様子が、教会の95パーセントの会員に届くということは、〕わたしにしてみれば驚くような、すばらしいことです。」

約1,200万人に達する会員のできるだけ多くが大会を視聴できるよう、大会の様子は66の言語に通訳された。通訳には今回から、新しくアラビア語と複数のマイクロネシアの言語が加わった。◆

神権回復の 記念行事

神権の回復175周年を記念する行事が、2004年5月16日日曜日の午後6時（山地標準時）からカンファレンスセンターで行われる。この行事は、80か国に向けて66の言語で放送される。12歳以上のすべての兄弟は、放送が行われる最寄りのステーキセンターに出席するよう奨励されている。

十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長代理は、教会指導者にあてた手紙の中で、ワードや支部に対し、2004年5月16日から6月13日の間にこの記念日を祝う特別な聖餐^{せいさん}を聞くよう勧めている。◆

総大会をインターネットで

第174回年次総大会に関する記事は、インターネットwww.lds.orgから次の言語で現在、また間もなく閲覧できる。デンマーク語、オランダ語、英語、フィンランド

語、フランス語、ドイツ語、インドネシア語、イタリア語、ノルウェー語、ポルトガル語、スペイン語、スウェーデン語、タガログ語。

総大会の4つの部会については、現在インターネットを通

じて、英語とスペイン語で映像または音声視聴できる。部会の音声は、さらに35の言語で配信される予定である。利用可能な言語に関する情報は、www.lds.orgにアクセスして、画面右上端の世界地図をクリックする。◆

マージョリー・ペイ・ヒンクレー姉妹、 92歳で死去

夫であるゴードン・B・ヒンクレー大管長とともに67年間にわたって世界各地を訪れてきたマージョリー・ペイ・ヒンクレー姉妹は、2004年4月6日にこの世の旅を終えた。ヒンクレー姉妹は家族と愛する人々に見守られながら、静かにこの世に別れを告げて次の世界へ旅立った。老衰のためであった。1911年11月23日生まれのヒンクレー姉妹は92歳だった。

愛する預言者の最愛の夫人であるヒンクレー姉妹は、恐らく過去のどの大管長夫人よりも多くの会員に親しまれていたであろう。その理由には、会員が

急増を続けていること(ヒンクレー大管長が大管長会に召された時点から約3倍に達している)と、夫とともに遠くの地域に住む会員を頻繁に訪れ、夫が管理する集会でしばしば説教壇に立ったことが挙げられる。

人生の中で驚くような出来事を度々経験してきたヒンクレー姉妹は、よく冗談交じりにこう言っていた。「わたしのようにすてきな女性がどうして大変な目に遭わなければならないのでしょうか。」他界する数か月前に行われた教会機関誌のインタビューの中では「期待していた以上の成果でした。すばらしい人生です」と語った。心配りとウ



ヒンクレー姉妹のひつぎに続いてタバナクルに入るゴードン・B・ヒンクレー大管長。



2004年4月6日に亡くなった
マージョリー・ペイ・ヒンクレー姉妹。

イトで知られるヒンクレー姉妹は、こうも言っている。「笑って過ごせていないとしたら、それは大きな問題を抱えているということです。」(「ヒンクレー夫妻が歩んできた道」『リアホナ』2003年10月号, 32-37) 葬儀の席では、「慈愛を具現した人」と称賛されていた。

多くの人に影響を与えてきた証として、故人との対面には大勢が訪れた。初春の強い風の中を3時間以上も屋外で並んでいた人々もいた。4月10日にタバナクルで行われた葬儀には数千人が参列し、さらに数万の人々がテレビと衛星放送を通じて葬儀に参加した。

あらゆる階層の人と心を通わせるヒンクレー姉妹の能力について、トーマス・S・モンソン第一副管長はこう語った。「ヒンクレー姉妹は王や女王と言葉を交わし、幼い子供たちを愛しました。また、姉妹の人格には欠点がありませんでした。……救い主のように、マージョリーはよい働きをしながら、各地を巡りました。」

ジェームズ・E・ファウスト第二副管長はこのように語った。「ヒンクレー姉妹はすばらしい

人生を送りました。彼女の信仰、決意、献身を模範とするならば、わたしたちは皆祝福を受けることでしょう。」

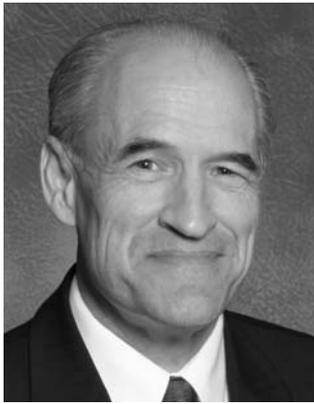
葬儀において、ヒンクレー夫妻の5人の子供たち、キャサリン、リチャード、バージニア、クラーク、ジューンはヒンクレー姉妹の語った言葉を紹介し、母親に対する感謝の言葉を述べた。クラーク・ヒンクレーは、結婚から約60年後にヒンクレー大管長が妻にあてた手紙を読んだ。「愛する妻へ、……長い間あなたと暮らしてきました。……それはわたしが望んでいた生活でした。……今は二人とも年老いています。……そして、いつの日か、死の手がわたししかあなたに優しく触れるとき、きっと涙があふれることでしょう。けれどもそのときに、わたしたちは再び結ばれて、永遠の伴侶となることについて、穏やかながらはっきりとした確信を抱くでしょう。」

その日が来るまで、ヒンクレー大管長は力強く発展する教会の指導者を務める。ファウスト副管長はこう語った。「わたしたちは引き続き大管長の導きを必要としています。わたしたちは大管長を愛し、支持しています。そして大管長のために祈っています。」

元中央扶助協会会長会の一員であり、ヒンクレー大管長の伝記を執筆したシェリー・L・デューは、1,200万の会員が力を合わせてもヒンクレー姉妹の代わりを務めることはできないが、ヒンクレー大管長が前進し続ける力を得られるようそれぞれが祈っていると語った。また、預言者の重荷を軽くするために一人一人がもう少し努力すると語った。◆

A・ロジャー・メルル

中央日曜学校会長



アリエル・ロジャー・メルルが、「人々に正しい原則を教えて、…自らを治めさせる」という預言者ジョセフ・スミスの指導理念を最初に学んだのは若い宣教師のときでした。「それは人生を方向づける決定的瞬間でした」とメルル兄弟は語ります。この言葉は40年にわたり、教え、学び、指導する際のテーマとして、メルル兄弟の生活や職業の中心となってきました。

メルル兄弟はこのように言います。「世の中で起きることのほとんどは、善悪を問わず、指導者の影響を受けています。人の魂をかけた戦いの中心には、救い主と、その義にかなった影響が見られます。わたしたちの最大の武器の一つは、真理の原則と選択の力を教えることです。」この概念は、家族の中で最も重要な役割を果たし、家族は、教え、学び、導く最も素晴らしい機会を提供してくれるとメルル兄弟は考えます。

また、メルル兄弟はこう語っています。「素晴らしい家

族は偉大な社会を築き、偉大な社会はすばらしい家族を育てます。実りある家族を築く最も大切な要素の一つは、両親による指導です。その意味で、家族生活は人類にとって最も大切な経験です。」

メルル兄弟は、レベッカ夫人をその良い例として挙げます。「わたしに関する最も大切なことの一つは、すばらしい妻がいるという点です。わたしたちは、信仰や互いへの愛、主への愛、家族への愛においても一致しています。」

59歳のメルル兄弟は、1945年5月2日にユタ州ソルトレーク・シティーで、アリエル・カーデン・メルルとエディス・ホースリー・メルルの間に生まれました。カリフォルニア州カーメルで育ち、テキサス伝道部で伝道しました。また、ブリガム・ヤング大学を卒業しています。メルル兄弟は、指導訓練会社の上級コンサルタントであり、自身が務めるコンサルタント会社の共同経営者です。

メルル兄弟は、1967年6月7日にレベッカ・リッピーとソルトレーク神殿で結婚しました。二人には7人の子供と16人の孫がいます。◆

ダニエル・K・ジャッド

中央日曜学校第一副会長



ダニエル・K・ジャッドは、これまで霊的な訓練と学術的な訓練が織り成す非凡な人生を送ってきました。カリフォルニア州サンディエゴ伝道部から帰還したジャッド兄弟は、南ユタ大学(SUU)で動物学の理学士号を取得し、ブリガム・ヤング大学(BYU)で家族科学の理学修士号とカウンセリング心理学の博士号を取得しました。学生時代には、教会教育システムでセミナーおよびインスティテュートの教師としても働きました。

ジャッド兄弟はこう語ります。「専門家として、また監督やステーキ会長として家族のカウンセリングをすることにより、人を癒すう^いえでどれほど福音が大切か、わたしは目^まの当り^ありにしてきました。日曜学校を通じて、末日聖徒が預言者や聖文の教えを学ぶことでキリストのもとに来て、そこで得られる力を理解できるようになることを望んでいます。」

1956年9月17日、ユタ州カナブでリロイ・P・ジャッドとフィ

リス・ファーンズワース・ジャッドの間に生まれたジャッド兄弟は、4人きょうだいの末っ子です。南ユタ大学在学中にケイ・シーグミラーと知り合い、二人はユタ州セントジョージ神殿で結婚しました。夫妻は4人の子供の親として、個人および家族生活において救い主に重点を置いています。

ジャッド兄弟はこう語ります。「救いとは、わたしたちに関する事柄と言うよりも、はるかに主を中心としたものです。キリストとその福音を土台にしていれば、悪い状況がいつまでも続くことはないと思いました。」

ジャッド兄弟は、ユタ州オレム・キャニオンビューステークの会長およびブリガム・ヤング大学の古代聖文学部の部長を務めていたときに、中央日曜学校会長会に召されました。47歳のジャッド兄弟は、これまでの経験を生かして、神聖な事柄と学術的な事柄の両面において人の役に立ちたいと願っています。

「わたしが日曜学校に望むことは、イエス・キリストとその贖^{あがな}いの犠牲を強調することです。それはニーファイ第二書第32章3節に記されているように、もしわたしたちが『キリストの言葉をよく味わう[なら、それら]はあなたがたがなすべきことをすべて告げるからで[す。]』」◆

ウィリアム・D・オズワルド

中央日曜学校会長会第二副会長



ウィリアム・ダンカン・オズワルドは、「聖文に時間を割く」という習慣が自分の人生に計り知れないほどの良い影響を与えたと語っています。

オズワルド兄弟は福音の教義クラス教師の召しを異なる時期に4回にわたって果たしたことを、教会で最も楽しかった経験の一つとらえています。福音を教えること、教会で働くことに対する熱意が、オズワルド兄弟を今回の新しい召しに備えました。この召しを受けるのは、今年の7月に、ロシア・ウラジオストック伝道部での部長の任期を終えてからということになっています。

1970年代に、オズワルド兄弟は中央日曜学校管理会で、また後に、現在十二使徒定員会会員のラッセル・M・ネルソン長老が会長を務めた時代の中央日曜学校会長会第一副会長として働きました。新たに中央日曜学校会長会で働く召しを受けることになったオズワルド兄弟は、25年以上

前から始めた事柄に再び着手し、やり遂げられるこの機会に胸を躍らせています。

中央日曜学校会長会における最初の召しと今回の召しの間に、オズワルド兄弟はスペンサー・W・キンボール大管長とカミラ・キンボール姉妹の集うワードを管理する監督として働く特権にあずかったこともあります。そのときの経験をオズワルド兄弟は、人々を愛することを学ぶ「すばらしい訓練の場」と表現しています。

「それはスペンサー・W・キンボール大管長の卓越したひととなりに関して生涯忘れ得ぬ印象を心に焼きつける、かけがえのない経験となりました。人々に愛を示すキンボール長老の能力に、とても感化されました。そのような経験があったからこそ、わたしは周囲の人々に愛と感謝を示すように努めてきました。そうでなければ、それほどの努力はしなかったかもしれません。」

オズワルド兄弟（68歳）は、ユタ州ソルトレーク・シティで生まれ育ちました。ユタ大学を卒業後、大学院に進んで法学の学位を取得しました。イギリスとスコットランドで専任宣教師として働いた後、1961年にメービス・モリス姉妹とソルトレーク神殿で結婚し、6人の子供がいます。



チャールズ・W・ダークウィスト2世

中央若い男性会長



チャールズ・ウィンストン・ダークウィスト2世は、自分の証は「主が自分に望んでおられることを一つ一つ実行することによって、例えば、セミナーに出席したり、教会の召しにこたえたりしていく中で、少しずつ」強くなったと語っています。

ダークウィスト兄弟は、自分が中央若い男性会長の任にある間に、青少年にも同じような経験をしてほしいと願っています。「自分が一体何者かを知っているだけでなく、この地上に送られてきた理由や救いの計画の中で自分の果たせる役割を多少なりとも理解している世代を育成するために働きたいと思っています。」

ダークウィスト兄弟は、忠実であればこれまでの自分と同じような祝福を現代の若人も受けることができると信じています。さらにこうも語っています。「わたしたちは邪悪な世に住んでいるので、「いまだかつてないほどたくましい若人を必要としています。そして、世界史に登場したどの世代よ

りも偉大だとは言わないまでも、現代は実に偉大な世代に恵まれています。わたしはそう確信しています。」

ダークウィスト兄弟は教会の若い男性と働きを共にした経験があります。シルバー・ビーバー章の受章者であるダークウィスト兄弟は、人生の大半にわたりスカウト活動に関与し、ワード若い男性会長の務めたこともあります。このほか、ドイツ・ハンブルク伝道部部长、スイス伝道部専任宣教師、ステーキ会長、ステーキ副会長、高等評議員などの召しを歴任しています。弁護士を職業とするダークウィスト兄弟は、地域での奉仕活動にも積極的に参加しています。

ユタ州プロボでC・ウィンストン・ダークウィスト、アフトン・アーランダー・ダークウィスト夫妻の間に生まれたダークウィスト兄弟（56歳）は、子供時代をアイダホ州ボイシで過ごしました。伝道が終わると、ゼラ・B・ダーリー姉妹と1969年6月2日にソルトレーク神殿で結婚しました。二人は現在ユタ州サンディに住み、5人の娘と7人の孫がいます。

「わたしは高校時代の恋人と結婚しました」とダークウィスト兄弟は語っています。「わたしたちはボイシにある同じワードの会員でした。わたしが日曜学校の指揮者で、彼女は日曜学校の伴奏者でした。それ以来わたしたちは、人生の音楽もともに奏でてきました。」◆

ディーン・R・バージェス

中央若い男性第一副会長



「わたしの未熟な証が初めて真の試しを受けたのは、伝道に出るか、バスケットボールを取るかという選択を迫られたときです」とディーン・リード・バージェス兄弟は語ります。彼は南ユタ大学の1年生のとき、奨学金を受けてバスケットボールの選手として活躍しました。

それは1965年、ベトナム戦争の真っ最中のことでした。徴兵のため、伝道に出る機会のない若者もいました。しかしバージェス兄弟はその機会に恵まれ、どちらを選ぶのも自分次第でした。「決断するためによく祈り、よく断食しました」と彼は語ります。「しかし、わたしは伝道に出るのはほんとうに特権だということを知っていました。それで、休学して伝道に出ることにしたのです。」専任宣教師としてブラジルで働く間、バージェス兄弟は回復された福音に対する証を強めていきました。

帰国後、バージェス兄弟はブリガム・ヤング大学で経営管

理学の勉強を終え、1970年に卒業しました。しばらくして、BYU学生ワードでアネッテ・クリステンセンと出会いました。「当時彼女は扶助協会会長で、わたしは長老定員会会長でした。彼女はいつも何かしら奉仕をしていました。しかも価値ある、建設的な奉仕でした。」交際を始めた二人は、1973年12月27日、ユタ州プロボ神殿において結婚しました。現在、5人の子供とともに、ユタ州サンディーに住んでいます。

現在57歳のバージェス兄弟は、1946年5月24日、ユタ州アルパインにおいて、リード・バージェスとエテル・キング・バージェス夫妻の間に生まれ、家族が経営する商店と8ヘクタールの農場を手伝いながら育ちました。家族の大切さや勤勉に働くこと、福音の原則を両親から学んだバージェス兄弟は、自分の子供にも同じ価値観を教えようと努力してきました。

1997年、バージェス兄弟は、ブラジル、ベロ・ホリゾンテ東伝道部の部長として奉仕するために再びブラジルに戻りました。教会のそのほかの召しとしては、ステーキ副会長、ステーキ若い男性会長、監督、高等評議員などの責任を果たしてきました。これまで受けた責任を通算すると、24年以上にわたって教会の若人のために奉仕してきたことになりました。◆

マイケル・A・ナイダー

中央若い男性第二副会長



父親のゴルフボールをなくしてしまい、それを探そうとしたことは、マイケル・アントン・ナイダー兄弟にとって信仰を強める初めての経験でした。

アイダホ州のタイヒーという小さな農村で育ったナイダー兄弟は、ある日、車庫から父親のゴルフクラブをこっそり持ち出すと、ゴルフボールを全部、馬の放牧地に向かって打ってしまいました。「草の生い茂った中からボールを見つけるのが、あれほど大変なことだとは思ってもみませんでした。どうしても神の助けが必要だと感じ、祈り求めてからもう一度探すと、一つを抜かしてすべてのボールを見つけることができました。神から愛されていることを知り、それは忘れられない貴重な経験となりました。」

ナイダー兄弟は、今同じことが起こったとしても、主がボールを見つけさせてくださるかどうかは分からないと語ります。「学び、成長するにつれて、主からの期待もさら

に大きくなることを知っています。御自身に近づくようにもっと知恵と信仰を使うよう、主が教えてくださっていると感じています。」

ナイダー兄弟は、御霊の導きを感じ取ることを、タイヒーの小さな集会所において母親から学びました。「教会で座っているとき、折に触れて母が感動しているのが分かりました。そのようなときにわたしも救い主についての証を注意して聞くようになり、特別なものを感じるようになりました。」

現在55歳のナイダー兄弟は、アイダホ州ボカテロでH・ボイド・ナイダーとドナ・ナイダーの間に6人きょうだいの3番目として生まれました。ブリガム・ヤング大学で学び、学士号を取得し、さらに大学院で法学の学位を取得しました。中央大西洋沿岸諸州伝道部で伝道した後、1971年、ソルトレーク神殿でローズマリー・カーティスと結婚しました。二人には8人の子供と6人の孫がいます。ユタ州サンディー在住のナイダー兄弟は、建築資材製造業を営んでいます。これまで、ユタ州ソルトレーク・シティー南伝道部の副部長、ステーキ会長、ステーキ若い男性会長、監督、ワード伝道主任、ボーイスカウト隊長として奉仕してきました。◆



預言者に見てもらおうと、上演に向けて準備するガーナの青少年たち。
この式典は、ガーナ・アクラ神殿の奉獻式に先行して行われた。

写真/リンダ・リーパー

世界中で福音を祝う

アダム・C・オーソン、教会機関誌

歌

やダンス、スピーチや演劇など、様々な分野の文化芸術は、長い間、教会歴史の中で重要な位置を占めてきた。また、合唱、ダンス、演劇などの文化的、芸術的な催しは、会員を一致させ、神への献身を表現する独自の手段を提供してきた。

こうした目的を踏まえて、教会の指導者は世界中のステーク、地方部、ワード、支部に、文化芸術が未来の教会においても重要な位置を占めるものとなるよう、文化芸術活動の計画への参加を奨励している。

大管長会は次のような手紙を全教会の指導者に送っている。「わたしたちは地元の指導者に、特に青少年が一体感や友情をはぐくむ機会を得られるように、ステークおよび合同ステークによる文化的行事や活動を行うよう奨励します。このような行事には音楽やダンス、演劇、スピーチ、スポーツ、視覚芸術が含まれるでしょう。」

今後、適切な演劇やミュージカルを求める声が高まるのを予想して、教会の音楽・文化芸術部門は台本、朗読劇、オラトリオ(宗教音楽劇)、そのほか文化芸術に関する投稿を随時受け付けている。(投稿の際の

要項を含む詳しい情報は、『エンサイン』(Ensign)6月号および『リアホナ』7月号に掲載される予定である。)

中央幹部の文化芸術活動奨励の一環として、教会では神殿の奉獻式と並行して大小様々な規模の文化芸術関連の式典を計画中である。第1回の式典はガーナ・アクラ神殿の奉獻式に先行する形で1月に開催された。同様の催しがアラスカのアンカレジ、ブラジルのサンパウロでも開かれた。デンマークのコペンハーゲン、そしてニューヨーク・シティーの聖徒は、それぞれ5月23日と6月13日に予定されている式典に向け、最後の仕上げに入っている。

ガーナのサンシャイン

ガーナで開かれた特別式典の一環として、地元の競技場が2,000人近い青少年で埋め尽くされた。これは、アフリカにおける過去最大規模の青少年の活



式典の中で、ブラジルの歴史上の場面を演じる会員たち。

写真/サミール・バプティスタ

動となり、夏の太陽の下、青少年たちは歌とダンスを披露した。

式典は、西アフリカの民話と踊りを基に構成された。世界中の「善なるもの」をすべて探し出し、自分だけのものにしようとした雄グモ、クワク・アナンシの物語の筋書きに做ったのだ。それぞれのステークと地方部の青少年が歌と踊りを交えて、クワク・アナンシに勇気、愛、あるいは家族といった「善なるもの」を与えていった。しかし、アナンシはガーナ・アクラ神殿を目の当たりにしたときに、その美しさに心を打たれ、自分がこれまで集めてきたすべての「善なるもの」を人々と分かち合うべきだと悟るのである。

アラスカで開かれたショー

アラスカの聖徒は2月6日に行われた文化祝典中、「山の影で」(In the Shadow of the Mountains)と題するミュージカルを上演した。総勢600人の出演者が出演するこの公演は、合衆国のアラスカ先住民、辺境開拓時代の入植者、初期のモルモン開拓者の文化遺産を描いたものである。

この作品は、アラスカ先住民の踊り、辺境開拓時代の結婚を祝う活気ある踊り、300人の子供たちから成る初等協会聖



アラスカ・アンカレジ神殿の再奉獻を祝う式典で歌うアラスカの会員たち。

写真/リン・ホーレット、Church Newsの厚意により掲載。

歌隊、そのほかストーリーの一部として挿入される歌などで構成されている。この真冬の催しは地元の高校の建物を使って、屋内で開催された。

ブラジルの雨

報告によるとペカエンブ競技場を6万人の会員が埋め尽くし、さらに全国でも大勢の会員がテレビの衛星放送に見入った。8,000人を超える地元の聖徒と1,200人の宣教師が2月21日に行われたブラジル・サンパウロ神殿の再奉獻を祝って歌い、踊ったのである。

絶え間なく降り続く雨も群衆の熱気を冷ますことはなく、民族衣装を身にまとった踊り手、60のステークから集まった1,200人から成る聖歌隊、動物やサッカー選手などをかたどった巨大な張りぼて、操り人形などが登場した。

この1時間半のショーは、制作に数か月を費やし、計画、警備、清掃、医療看護に携わる数百人のボランティアを要した。◆



「スプリングヒルすなわちアダム・オンダイ・アーマンから眼下を臨む」 パロイ・イートン画

アダムは義になかった子孫をアダム・オンダイ・アーマンの谷に呼び集め、そこで「彼らに最後の祝福」を授けた(教義と聖約107:53-57参照)。

ダニエルは、アダムが再臨の前にこの場所に戻って来ると預言している(ダニエル7:9-14参照)。

預言者ジョセフ・スミスは、ミズーリ州デイベーズ郡のスパリングヒルが、主によってアダム・オンダイ・アーマンと名付けられたという啓示を受けた(教義と聖約116章参照)。



「この世代に生きるわたしたちは、すでに過ぎ去った全人類の最後の収穫です。ただ単にこの教会の会員として名を連ねるだけでは不十分です。厳粛な義務が課せられています。この義務を正面から受け入れ、取り組もうではありませんか。すべての人を慈しみ、キリストに真に従う者として生活し、悪に対して善で報い、模範によって主の道を教え、主が指し示された広範囲にわたる奉仕の業を達成しなければなりません。」
2004年4月3, 4日の両日に開かれた、第174回年次総大会でゴードン・B・ヒンクレイ大管長はそう語った。